東京科学大学全学科共通科目

内容

人文社会科学概論Ⅰ 8
人文社会科学概論Ⅱ 10
国際地域文化入門 13
国際地域文化入門（1 講） 15
国際地域文化入門（2 講） 20
哲学 24
倫理学 26
心理学 28
宗教学 30
芸術（美術） 32
芸術（音楽） 34
歴史学（イスラームの歴史と文化） 36
歴史学（近代ヨーロッパ史） 38
科学史 40
文学 42
法学 44
政治学 47
経済学 51
社会学 53
社会思想史 55
文化人類学 57
Japanese Culture and Society 59
グローバル教養科目・Invitation to Cultural Anthropology 61
人文社会科学特論（コミュニケーションとメディア） 64
人文社会科学特論（ジェンダー・セクシュアリティ） 67
人文社会科学特論（グローバル社会と多文化教育） 69
文学 76
人文社会科学特論（科学主義と「社会」） 78
人文社会科学特論（高齢者福祉論） 80
フィジカルウェルビーイング 85
フィットネスマネジメント 90
ドイツ語Ⅰ 94
ドイツ語Ⅰ 96
ドイツ語Ⅰ 98
ドイツ語Ⅰ 100
ドイツ語Ⅰ 102
ドイツ語Ⅱ 104
フランス語Ⅰ 106
フランス語Ⅰ 108
フランス語Ⅱ 110
中国語Ⅰ 112
中国語Ⅰ 114
中国語Ⅰ 118

中国語Ⅰ 122
中国語Ⅰ 125
中国語Ⅱ 128
スペイン語Ⅰ 132
スペイン語Ⅰ 134
スペイン語Ⅰ 136
スペイン語Ⅰ 138
スペイン語Ⅰ 140
スペイン語Ⅱ 142
日本語Ⅰ 144
日本語Ⅱ 146
英語ⅠA 148
英語ⅠA 151
英語ⅠA 154
英語ⅠA 157
英語ⅠA 160
英語ⅠA 163
英語ⅠA 166
英語ⅠA 169
英語ⅠA 172
英語ⅠA 175
英語ⅠA 177
英語ⅠA 180
英語ⅠB 183
英語ⅠB 187
英語ⅠA 190
英語ⅠB 193
英語ⅠB 197
英語ⅠA 200
英語ⅠB 203
英語ⅠB 206
英語ⅠB 210
英語ⅠB 213
英語ⅠB 215
英語ⅠB 218
英語ⅠB 222
英語ⅠB 225
英語ⅠC 227
英語ⅠC 230
英語ⅠC 233
英語ⅠC 237
英語ⅠC 240
英語ⅠC 243
英語ⅠC 245
英語ⅠC 248

英語ＩC..... 251
英語ＩC..... 254
英語ＩC..... 257
英語ＩC..... 259
英語ＩC..... 262
英語ＩC..... 265
英語ＩC..... 269
英語ＩC..... 272
英語ＩB..... 275
英語ＩB..... 278
物理学入門..... 281
生物学入門..... 283
化学入門..... 285
数学Ⅰ..... 287
数学ⅠM..... 289
数学ⅠD..... 291
数学ⅠT..... 293
物理学ⅠM..... 295
物理学ⅠD・T..... 297
数学Ⅱ..... 299
数学Ⅱ（α）..... 301
数学Ⅱ（β）..... 303
数学Ⅱ（γ）..... 305
物理学ⅡM..... 306
物理学ⅡD・T..... 308
統計学..... 310
統計学（α）..... 312
統計学（β）..... 314
化学M..... 316
化学DT..... 319
化学基礎..... 321
生物学M..... 323
生物学DT..... 325
生物学基礎..... 327
サイエンスPBL入門..... 330
科学基礎実験T..... 333
科学基礎実験N・O・K..... 335
自然科学実験（物理学実験）..... 338
自然科学実験（化学実験）..... 340
自然科学実験（生物学実験）..... 343
S・水の科学..... 345
S・数理生物学入門..... 347
S・実用統計学..... 349
S・生命分子スペクトル解析学演習..... 351
S・海洋生物学実習..... 353

S・江戸市川文学散歩 355
S・彫刻（塑像） 357
S・タンパク質の科学 358
S・社会福祉概論 360
S・糖の科学 363
S・現代パフォーミングアーツ入門 365
S・サイエンスフロンティア概論 367
S・分子分光学演習：基礎編 369
S・生命医学研究リテラシー入門 371
S・ミシェル・フーコー『臨床医学の誕生』を読む 374
S・国際・グローバル研究入門 376
S・イギリス文学講読 378
S・日本人移民の歴史 381
S・Premedical 人体生物学入門ゼミナール 382
S・ソーシャルウェルビーイング・コミュニケーション実践 385
S・言語学概論 388
S・英語文学と社会 390
S・宇宙地球科学 392
S・やってみようバイオインフォマティクス 394
S・生成 AI 活用 CG キャラクターによる解説動画制作 395
S・バクテリアコロニーパターンとその数理モデルを作ろう 398
教養基礎セミナー(心理療法の理論)前半 1 講 399
教養基礎セミナー(心理療法の理論)前半 2 講 401
教養基礎セミナー(心理支援の理論)後半 1 講 403
教養基礎セミナー(心理支援の理論)後半 2 講 405
教養基礎セミナー(倫理学を現実に照らして考える)前半 1 講　大賀 407
教養基礎セミナー(倫理学を現実に照らして考える)前半 2 講　大賀 409
教養基礎セミナー（哲学の原典を直接読む)後半 1 講　大賀 411
教養基礎セミナー（哲学の原典を直接読む)後半 2 講　大賀 412
教養基礎セミナー(現代社会と科学主義)前半 1 講　徳久 413
教養基礎セミナー(現代社会と科学主義)前半 2 講　徳久 415
教養基礎セミナー(平和な「社会」と科学主義)後半 1 講　徳久 417
教養基礎セミナー(平和な「社会」と科学主義)後半 2 講　徳久 419
教養基礎セミナー（愛から考える現代社会）前半 1 講　面 421
教養基礎セミナー（愛から考える現代社会）前半 2 講　面 423
教養基礎セミナー(G・オーウェル『動物農場』を通してデモクラシーを考える)後半 1 講　面 425
教養基礎セミナー(G・オーウェル『動物農場』を通してデモクラシーを考える)後半２講　面 427
教養基礎セミナー(憲法と人権)前半１講　飛田 429
教養基礎セミナー(憲法と人権）前半２講　飛田 431
教養基礎セミナー(憲法と政治）制度後半１講　飛田 433
教養基礎セミナー(憲法と政治）制度後半２講　飛田 435
教養基礎セミナー(子どもの権利：水と衛生)前半 1 講　三谷 437
教養基礎セミナー(子どもの権利：水と衛生)前半 2 講　三谷 439
教養基礎セミナー（映像ストーリー構成分析）前半 1 講　辻 441
教養基礎セミナー（映像ストーリー構成分析）前半 2 講　辻 443

教養基礎セミナー（近代の社会学）前半1講　大倉 445
教養基礎セミナー（近代の社会学）前半2講　大倉 447
教養基礎セミナー（現代の社会学）後半1講　大倉 449
教養基礎セミナー（現代の社会学）後半2講　大倉 451
教養基礎セミナー(言語科学とドイツ語)前半1講　藤井（俊） 453
教養基礎セミナー(言語科学とドイツ語)前半2講　藤井（俊） 455
教養基礎セミナー(生成文法研究におけるドイツ語)後半1講　藤井（俊） 457
教養基礎セミナー(生成文法研究におけるドイツ語)後半2講　藤井（俊） 459
教養基礎セミナー(中国語と中国文化)前半1講　包 461
教養基礎セミナー(中国語と中国文化)前半2講　包 464
教養基礎セミナー(中国社会の現在)後半1講　包 467
教養基礎セミナー(中国社会の現在)後半2講　包 470
教養基礎セミナー(『人新世の「資本論」』を手掛かりに、環境問題について考える)前半1講　藤井 473
教養基礎セミナー(『人新世の「資本論」』を手掛かりに、環境問題について考える)前半2講　藤井 476
教養基礎セミナー(クーン『科学革命の構造』を手掛かりに、ポスト・トゥルースの時代の科学について考える)後半1講　藤井 479
教養基礎セミナー(クーン『科学革命の構造』を手掛かりに、ポスト・トゥルースの時代の科学について考える)後半2講　藤井 482
教養基礎セミナー(科学と疑似科学の境界)前半1講　奈良 485
教養基礎セミナー(科学と疑似科学の境界)前半2講　奈良 487
教養基礎セミナー(生命科学の光と影)後半1講　奈良 489
教養基礎セミナー(生命科学の光と影)後半2講　奈良 491
教養基礎セミナー(医歯系の物理)前半2講　檜枝 493
教養基礎セミナー(人体・医療の物理)後半2講　檜枝 495
教養基礎セミナー(生活の中の化学)前半1講　勝又 497
教養基礎セミナー(化学実験と生活)後半１講　勝又 499
教養基礎セミナー（食の科学）前半2講　澤野 501
教養基礎セミナー（食の科学）後半2講　澤野 503
教養基礎セミナー(生命現象の制御機構)前半1講　伊藤 505
教養基礎セミナー(医療の基盤となる生物学)後半1講　伊藤 507
教養基礎セミナー(生物由来の薬と毒)前半2講　松本 509
教養基礎セミナー(バイオミメティクスの世界)後半2講　松本 511
教養基礎セミナー(生命科学における数理モデリング技法)前半1講　中林 513
教養基礎セミナー(様々な生命現象を記述する数理モデル技法)後半１講　中林 514
教養基礎セミナー(離散構造Ⅰ)前半2講　徳永 515
教養基礎セミナー(離散構造Ⅱ)後半2講　徳永 517
教養基礎セミナー（インターネット動画リテラシー）後半１講　辻 519
教養基礎セミナー（インターネット動画リテラシー）後半2講　辻 521
教養基礎セミナー（生命現象をとらえるための数理解析学)前半1講　中山 523
教養基礎セミナー（生命現象をとらえるための数理解析学)前半2講　中山 524
教養基礎セミナー(生物学と社会科学の現象数理解析)後半1講　中山 525
教養基礎セミナー（生物学と社会科学の現象数理解析)後半2講　中山 526
教養基礎セミナー（社会活動としての科学 － 生命科学研究の実際）前半１講　栗田 527
教養基礎セミナー（社会活動としての科学 － 生命科学研究の実際）前半2講　栗田 530
教養基礎セミナー（科学的な正しさとは何か － 生命医科学研究の事例から考える）後半１講　栗田 533

教養基礎セミナー（科学的な正しさとは何か－生命医科学研究の事例から考える）後半2講　栗田..... 536
教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの歴史」)前半1講　高木..... 539
教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの歴史」)前半2講　高木..... 541
教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの社会と文化」)後半1講　高木..... 543
教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの社会と文化」)後半2講　高木..... 545
立志プロジェクト..... 547
立志プロジェクトA..... 549
立志プロジェクトB..... 552
情報科学（α）..... 555
情報科学（β）..... 557
情報処理α..... 559
情報処理β..... 561

時間割番号	001003				
科目名	人文社会科学概論 I			**科目 ID**	
担当教員	藤井 達夫, 辻 泰明[FUJII Tatsuo, TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

対象学科: 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表 1-7)人間の心への理解を深める

別表 1-9)市民としての倫理観を養う

主な講義場所

大岡山キャンパス 70 年記念講堂

授業の目的、概要等

人文社会科学概論 I の目的は、1)人文社会科学の諸領域における現代社会の問題に接し、多彩な知見を得ること、2)人文社会科学の基本的な概念とタームを理解し、人と社会が関わる問題を考える能力を身につけること、3)理工学、医歯学に援用しうる人文社会科学の方法論を修得し、コンバージェンス・サイエンスの基盤を形成することです。

全 7 回にわたり、政治学、哲学、文学、歴史社会学、文化人類学、人文社会情報学などの諸領域における興味深いテーマを学ぶことにより、人と社会の関わりを考えるための「知」の基盤を築きます。

医歯学系(国府台)と理工学系(大岡山)の教員によるオムニバス講義となります。

授業の到達目標

・講義の内容を理解した上で、自らの言葉で説明できる。

・講義の内容について、自らの考えや意見を論理的に説明できる。

・自らの知的関心を拡張したり、深化させたりする手掛かりを得ることができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容
1-2	4/13	13:30-15:10	その他	イントロダクション:「知への扉」を開く (討論者:中島岳志、藤井達夫モデレーター :辻泰明)	ポスト・トゥルース時代の『知』のあり方について討論を行う。
3-4	4/20	13:30-15:10	その他	生成 AI フェイク原論(担当 辻泰明)	生成 AI の普及に伴い高度なフェイク動画が出現している。この講義では、動画生成 AI の現状とフェイク動画を見破るさまざまな方法を解説し、メディアにおいてフェイクが生じる原理を分析する。その上で、コミュニケーションにおけるフェイクとは何かを考察する。
5-6	4/27	13:30-15:10	その他	遊びの社会学―利他論から遊具と身体の関係を考える(担当 北村匡平)	本講義では「利他」という視点から、日本や外国にある遊び場における遊具と人間の遊びに着目する。どのような場所であれば「利他的な遊び場」となりうるのかを、日本/海外のフィールドワークをもとにした調査を紹介しつつ、利他的な遊びが生まれる空間・環境について考える。
7-8	5/11	13:30-15:10	その他	小説とは何か?(担当 磯崎憲一郎)	受講者の皆さんが中学・高校で学んで来た「国語」「現代文」と、小説家・実作者が考える「小説」の間には、大きな

					隔たりがある。小説家でもある担当教員が、自身の考える「小説とは何か？」について講義する。
9-10	5/18	13:30-15:10	その他	哲学(担当　山本貴光)	世の中にはいろいろな学術(学問と技芸術)がある。その多くは「物理学」「医学」「文学」「歴史学」のように、名前にその研究対象が示されている。そういう目で見ると「哲学」とは不思議な名前だ。一体これは何をする学問なのか。哲学をしてみよう。
11-12	5/25	13:30-15:10	その他	死に立ち会うということ-心に残る言葉とは何か(担当　磯野真穂)	2019 年に哲学者の宮野真生子さんとの共著「急に具合が悪くなる」を上梓しました。本講義はこちらの本に基づくものとなります。死に立ち会うこと、残される者の役割、偶然を掴んで再び実社会に戻ること、心に残る言葉について話します。
13-14	6/1	13:30-15:10	その他	科学技術と社会(担当　藤井達夫)	ポスト・トゥルースという時代状況を見据え、現代の科学技術と民主主義との望ましい関係について歴史を振り返りながら考える。

授業方法

講義形式で実施します。

授業内容

詳細については、授業明細を参照してください。

担当教員：磯﨑憲一郎、磯野真穂、北村匡平、辻泰明、中島岳志、藤井達夫、山本貴光

成績評価の方法

各講義のリアクションペーパー(70%)＋まとめのレポート(30%)

再評価：有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

初回授業において具体的な指示をします。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

履修上の注意事項

当授業での生成系 AI の使用については、初回授業で説明を行います。

連絡先(メールアドレス)

藤井　達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

辻　泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井　達夫:毎週月曜日 12:00―13:00(管理棟 2 階)

辻　泰明:前期：金　14:30～15:00　後期：水　12:30～13:00

時間割番号	001004				
科目名	人文社会科学概論Ⅱ			科目ID	
担当教員	藤井 達夫, 柳下 和慶, 辻 泰明, 木谷 真紀子[FUJII Tatsuo, YAGISHITA Kazuyoshi, TSUJI Yasuaki, KITANI Makiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 月曜 3 講(6/15,6/22,6/29)、木曜 1・2 講(6/25,7/2,7/9,7/16,7/23)

対象学科: 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

別表 1-8)自己の心と体を管理する能力を獲得する

主な講義場所

1 番教室(1 番教室以外を使用する場合があるので、注意すること)

授業の目的、概要等

この授業では、全 1 年生を対象に、複数の教員がそれぞれの専門分野から人文社会科学に関する導入的な講義を行います。

授業の到達目標

・講義の内容を理解した上で、自らの言葉で説明できる。

・講義の内容について、自らの考えや意見を論理的に説明できる。

・自らの知的関心を拡張したり、深化させたりする手掛かりを得ることができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	6/15	13:30-15:10	1 番教室	利他とケア(担当 中島岳志)	自分のことよりも他者の利益を優先して行動する利他やケアには、「偽善」や「うさん臭さ」、「支配」、「エゴイズム」といった厄介な問題が付きまといます。この利他・ケアの困難に対して、どう向き合えばいいのか。じっくりと考えてみたいと思います。	藤井 達夫
3-4	6/22	13:30-15:10	1 番教室	クーンによる革命と科学技術社会論の誕生(担当 藤井達夫)	トマス・クーン『科学革命の構造』の内容とその意義を検討する。そこから、どのようにして科学技術社会論(STS)が誕生したのかについて論じる。その際、さらにはロバート・マートンンやマイケル・ポランニーらの 20 世紀を代表する科学社会学にも触れる。	藤井 達夫
5-6	6/25	08:50-10:30	1 番教室	オリンピアンのことば 谷本歩実先生(担当 柳下和慶)	オリンピック金メダリストによるオリンピックや競技への向き合い方を聞き、困難への向き合いや克服の方法など、オリンピアンの生き方を学ぶ。(非常勤講師 オリンピック金メダリスト 谷本歩実先生担当)	藤井 達夫
7-8	6/25	10:45-12:25	1 番教室	オリンピアンのことば 谷本歩実先生(担当 柳下和慶)	オリンピック金メダリストによるオリンピックや競技への向き合い方を聞き、困難への向き合いや克服の方法など、オリンピアンの生き方を学ぶ。(非常勤講師 オリンピック金メダリスト 谷本歩実先生担当)	藤井 達夫

9-10	6/29	13:30-15:10	1 番教室	近代科学に対峙する反逆者たち(担当 藤井達夫)	ミシェル・フーコーやウルリッヒ・ベック、ブリュノ・ラトゥールらを取り上げることで、ポスト近代社会と科学技術との関係について論じる。	藤井 達夫
11-12	7/2	08:50-10:30	1 番教室	オリンピックでのメディカル活動(担当 柳下和慶)	スポーツ現場でのメディカル活動を概説し、トップアスリートが集結するオリンピックなど国際大会での医療活動を知る。	藤井 達夫
13-14	7/2	10:45-12:25	1 番教室	オリンピックでのメディカル活動(担当 柳下和慶)	スポーツ現場でのメディカル活動を概説し、トップアスリートが集結するオリンピックなど国際大会での医療活動を知る。	藤井 達夫
15-16	7/9	08:50-10:30	1 番教室	メディアとインターネット(担当 辻泰明)	・新聞とテレビからインターネットへの転換 ・マスメディアとは異なるインターネットの特性(Web2.0 とロングテール) ・SNS による情報拡散の功罪	藤井 達夫
17-18	7/9	10:45-12:25	1 番教室	メディアとインターネット(担当 辻泰明)	・新聞とテレビからインターネットへの転換 ・マスメディアとは異なるインターネットの特性(Web2.1 とロングテール) ・SNS による情報拡散の功罪	藤井 達夫
19-20	7/16	08:50-10:30	1 番教室	メディアと政治(担当 辻泰明)	・メディアがもたらす社会変動 ・マスメディアとインターネットが選挙に及ぼす影響 ・政治とメディアの触接と相反	藤井 達夫
21-22	7/16	10:45-12:25	1 番教室	メディアと政治(担当 辻泰明)	・メディアがもたらす社会変動 ・マスメディアとインターネットが選挙に及ぼす影響 ・政治とメディアの触接と相反	藤井 達夫
23-24	7/23	08:50-10:30	1 番教室	「文学」の描いた源為朝～『保元物語』・『椿説弓張月』・三島由紀夫～(担当 木谷真紀子)	源為朝は、保元の乱で崇徳上皇について敗れた伝説の英雄である。授業では、『保元物語』、曲亭馬琴作『椿説弓張月』、三島由紀夫作『椿説弓張月』に、為朝がどのように描かれたかを分析する。「文学」が、時代や社会とどのように接続し、何を表してきたかを明らかにしたい。	藤井 達夫
25-26	7/23	10:45-12:25	1 番教室	「文学」の描いた源為朝～『保元物語』・『椿説弓張月』・三島由紀夫～(担当 木谷真紀子)	源為朝は、保元の乱で崇徳上皇について敗れた伝説の英雄である。授業では、『保元物語』、曲亭馬琴作『椿説弓張月』、三島由紀夫作『椿説弓張月』に、為朝がどのように描かれたかを分析する。「文学」が、時代や社会とどのように接続し、何を表してきたかを明らかにしたい。	藤井 達夫

授業方法

アクティブラーニングを活用した、講義形式で実施されます。

授業内容

授業明細を参照。

担当教員:中島岳志(第 1 回)、藤井達夫(第 2 回、第 4 回)、柳下和慶(第 3 回、第 5 回)、辻泰明(第 6 回、第 7 回)、木谷真紀子(第 8 回)

成績評価の方法

各教員の評点が 60 点以上であることを合格の条件とします。

最終的な成績評価は各教員の評点を合算して行います。

なお、各授業の成績評価の詳細については、担当教員が授業の冒頭で説明をします。

再評価:有(レポートなど)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

各教員が授業内で具体的な指示をします。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

教科書

使用しない。

参考書

:金剛出版

各教員が授業内で適宜指示します。

他科目との関連

人文社会科学概論Ⅰ、人文社会科学/フィジカルウェルビーイング選択必修科目群、 教養基礎セミナーなど

履修上の注意事項

第 1 回、第 2 回、第 4 回(6/15,6/22,6/29)については、対面＋オンラインのハイブリッド形式で実施されます。 第 3 回、第 5 回～第 8 回(6/25,7/2,7/9,7/16,7/23)については、対面形式で実施されます。 授業日や教室が変則的であるため、教務からの連絡をしっかり確認してください。 当授業での生成系 AI の使用については、各担当教員から説明を行います。

連絡先(メールアドレス)

藤井 達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

柳下 和慶:yagishita.k.226c@m.isct.ac.jp

木谷 真紀子:makiko.las@tmd.ac.jp

辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井 達夫:毎週月曜日 12:00―13:00(管理棟 2 階)

柳下 和慶:毎週木曜日 12:30-13:00 管理研究棟 2 階 研究室

木谷 真紀子:月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階

※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	00110				
科目名	国際地域文化入門			**科目ID**	
担当教員	BAO MIN, 高木 佳奈, 藤井 俊吾[BAO MIN, TAKAKI Kana, FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜 1・2 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-4)外国文化を理解する

別表 3-5)国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

英語圏とは別の 3 つの国・地域(中国、ドイツ、ラテンアメリカ・スペイン)の地域文化と社会を紹介する講義である。各 5 回のオムニバス形式で講義を行う。各国・地域の行政区分や気候等に関する地理、食文化や世界遺産等の文化、政治形態や人口動態等に関する社会情勢などについて主に扱う。グローバル化の時代において異文化理解に資する内容である。該当する国・地域の言語を履修していない学生にも問題なく理解できる授業である。

授業の到達目標

世界には、グローバル化によって平準化することのできない多様な文化・社会が存在している。講義を通じ、日本以外の国や地域の文化と接し、異文化理解力の基礎を築く。

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。授業内容に対し、課題発表やミニ討論をすることがある。

授業内容

第1回 中国の基礎データ①
第2回 中国の基礎データ②
第3回 中国の基礎データ③
第4回 中国の歴史と世界遺産
第5回 中国の民俗
第6回 スペインの地理・歴史・言語
第7回 スペインの文化
第8回 ラテンアメリカの地理・歴史・言語
第9回 ラテンアメリカの文化
第10回 スペインの植民地主義とラテンアメリカ
第11回 ドイツ連邦共和国の概要とドイツの歴史①
第12回 ドイツの歴史②とドイツの都市・地方
第13回 ドイツの産業、政治、移民政策
第14回 ドイツの音楽、美術、世界遺産
第15回 ドイツの言語、方言、少数言語

成績評価の方法

3 名の教員が授業を担当する。成績(100 点満点)は 3 名の教員の評価を合算する形で最終評価になる。

各回の授業内容をふまえたコメント(300 字以上)90%、その他(授業態度)10%で評価する。

2/3以上出席した者を評価の対象とする。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業スライドを整理して復習に活かすこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

教科書は用いない。授業内容のパワーポイントを提示する。

他科目との関連

時間の制限により前期の講義では 3 つの国・地域（中国、ドイツ、ラテンアメリカ・スペイン）の地域文化と社会を 5 回ずつ紹介することになっているが、後期の教養基礎セミナーでは上記の国・地域の地域文化と社会に関連する内容をより詳細に紹介する講義を用意している。興味のある学生には履修を勧めたい。

履修上の注意事項

1. いかなる理由があっても、期限を過ぎたコメントは減点する。ネットワークエラーや送信ミスに注意し、必ず送信できたことを確認すること。万が一コメントを送信できなかった場合は、紙のコメントシートに記入し、授業中に担当教員に提出すること。 2. 生成 AI の使用や他者の文章からの剽窃は一切禁止する。発覚した場合は、不合格とする。

連絡先（メールアドレス）

BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp
藤井 俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
高木 佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室
藤井 俊吾:木曜日 12:30～13:00 管理研究棟 2 階 研究室
高木 佳奈:毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	001101				
科目名	国際地域文化入門(1 講)			**科目 ID**	
担当教員	BAO MIN, 高木 佳奈, 藤井 俊吾[BAO MIN, TAKAKI Kana, FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜 1・2 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-4)外国文化を理解する

別表 3-5)国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

英語圏とは別の 3 つの国・地域(中国、ドイツ、ラテンアメリカ・スペイン)の地域文化と社会を紹介する講義である。各 5 回のオムニバス形式で講義を行う。各国・地域の行政区分や気候等に関する地理、食文化や世界遺産等の文化、政治形態や人口動態等に関する社会情勢などについて主に扱う。グローバル化の時代において異文化理解に資する内容である。該当する国・地域の言語を履修していない学生にも問題なく理解できる授業である。

授業の到達目標

世界には、グローバル化によって平準化することのできない多様な文化・社会が存在している。講義を通じ、日本以外の国や地域の文化と接し、異文化理解力の基礎を築く。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	1 番教室	第1回 中国の基礎データ①	中国の国土と自然を学ぶ	BAO MIN	中国の地理と行政区画を認識し、理解する。 グループワーク(中国のイメージに関するディスカッション)、リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/22	08:50-10:30	1 番教室	第2回 中国の基礎データ②	中国における人口問題と人口政策の推移を紹介する	BAO MIN	中国における人口の概要と人口政策の変遷を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	5/13	08:50-10:30	1 番教室	第3回 中国の基礎データ③	中国の仕組みについて学ぶ	BAO MIN	中国共産党、国家機構、政治制度と法制度を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/20	08:50-10:30	1 番教室	第4回 中国の歴史と世界遺産	中国の歴史を振り返り、代表的な世界遺産を紹介する。	BAO MIN	中国の歴史の変遷を理解し、代表

							的な世界遺産の説明ができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	5/27	08:50-10:30	1番教室	第5回 中国の民俗	中国の節句・伝統行事、中国の干支と十二支、食文化を学ぶ	BAO MIN	中国の節句・伝統行事、二十四節気が説明でき、食文化に関して各地の違いを述べることができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
11-12	6/3	08:50-10:30	1番教室	第6回 スペインの地理・歴史・言語	スペインの大まかな歴史、地理、言語状況について学ぶ。	高木 佳奈	スペインの言語的・文化的多様性について歴史的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	6/10	08:50-10:30	1番教室	第7回 スペインの文化	宗教、文学、美術、建築などを中心に、スペインの文化的特徴について学ぶ。	高木 佳奈	スペインの様々な芸術作品に触れ、第11回で学んだ歴史的背景に対する理解を深める。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	6/17	08:50-10:30	1番教室	第8回 ラテンアメリカの地理・歴史・言語	ラテンアメリカの大まかな歴史、地理、言語状況について学ぶ。	高木 佳奈	先コロンブス期及び植民地化以後のラテンアメリカの歴史を学び、言語的・文化的多様性を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/24	08:50-10:30	1番教室	第9回 ラテンアメリカの文化	宗教、文学、美術、建築などを中心に、ラテンアメリカの文化的特徴について学ぶ。る。	高木 佳奈	ラテンアメリカの様々な芸術作品に触れ、第13回で学んだ歴史的背景に対する理解を深める。リアクションペーパーを用いた質疑応答
19-20	7/1	08:50-10:30	1番教室	第10回 スペインの植	ラテンアメリカが現在抱えている	高木 佳奈	植民地主義という

				民地主義とラテンアメリカ	様々な問題について、スペインによる植民地化の影響から考える。		観点から、スペインとラテンアメリカを横断的・連続的に捉えることができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	7/8	08:50-10:30	1 番教室	第 11 回 ドイツ連邦共和国の概要とドイツの歴史①	ドイツの大まかな歴史と地理を概観する。高校の世界史未履修者向けの内容である。	藤井 俊吾	現代ドイツの社会的文化的情勢を理解する基礎を身につける。リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	7/15	08:50-10:30	1 番教室	第 12 回 ドイツの歴史②とドイツの都市・地方	宗教、文学、美術、建築などを中心に、スペインの文化的特徴について学ぶ。	藤井 俊吾	ドイツの地方や都市の文化的特徴を歴史的観点を交えて有機的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/22	08:50-10:30	1 番教室	第 13 回 ドイツの産業、政治、移民政策	ドイツの産業構造や政治形態、及び移民政策の変遷等を概観する。特に西ドイツ時代の移民政策と現代の移民政策の違いについて重点的に学ぶ。	藤井 俊吾	現代ドイツの社会的特徴を歴史的観点を交えて有機的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/29	08:50-10:30	1 番教室	第 14 回 ドイツの音楽、美術、世界遺産	歴史的背景を踏まえた上でドイツの音楽や美術、世界遺産について学び、ドイツの文化的特徴を把握す	藤井 俊吾	ドイツの文化的特徴を歴史的・社会的観点を交えて有機的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/31	08:50-10:30	1 番教室	第 15 回 ドイツの言語、方言、少数言語	現代ドイツ語の特徴や成立過程、ドイツに於ける方言、及び少数言語について学ぶ。	藤井 俊吾	ドイツ語を含め、ドイツに於いて話されている、もしくは話されていた言語についての基礎的知識を習得する。リアクションペーパーを用いた質疑応答

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。授業内容に対し、課題発表やミニ討論をすることがある。

授業内容

第1回　中国の基礎データ①
第2回　中国の基礎データ②
第3回　中国の基礎データ③
第4回　中国の歴史と世界遺産
第5回　中国の民俗
第6回　スペインの地理・歴史・言語
第7回　スペインの文化
第8回　ラテンアメリカの地理・歴史・言語
第9回　ラテンアメリカの文化
第10回　スペインの植民地主義とラテンアメリカ
第11回　ドイツ連邦共和国の概要とドイツの歴史①
第12回　ドイツの歴史②とドイツの都市・地方
第13回　ドイツの産業、政治、移民政策
第14回　ドイツの音楽、美術、世界遺産
第15回　ドイツの言語、方言、少数言語

成績評価の方法

3 名の教員が授業を担当する。成績(100 点満点)は 3 名の教員の評価を合算する形で最終評価になる。
各回の授業内容をふまえたコメント(300 字以上)90%、その他(授業態度)10%で評価する。
2/3以上出席した者を評価の対象とする。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業スライドを整理して復習に活かすこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

教科書は用いない。授業内容のパワーポイントを提示する。

他科目との関連

時間の制限により前期の講義では 3 つの国・地域(中国、ドイツ、ラテンアメリカ・スペイン)の地域文化と社会を 5 回ずつ紹介することになっているが、後期の教養基礎セミナーでは上記の国・地域の地域文化と社会に関連する内容をより詳細に紹介する講義を用意している。興味のある学生には履修を勧めたい。

履修上の注意事項

1. いかなる理由があっても、期限を過ぎたコメントは減点する。ネットワークエラーや送信ミスに注意し、必ず送信できたことを確認すること。万が一コメントを送信できなかった場合は、紙のコメントシートに記入し、授業中に担当教員に提出すること。　2. 生成 AI の使用や他者の文章からの剽窃は一切禁止する。発覚した場合は、不合格とする。

連絡先(メールアドレス)

BAO　MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp
藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO　MIN:水曜日　12:30～13:00　管理研究棟 3 階　研究室
藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室
高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00–PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	001102				
科目名	国際地域文化入門(2 講)			**科目 ID**	
担当教員	BAO MIN, 高木 佳奈, 藤井 俊吾[BAO MIN, TAKAKI Kana, FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜 1・2 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-4)外国文化を理解する

別表 3-5)国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

英語圏とは別の 3 つの国・地域(中国、ドイツ、ラテンアメリカ・スペイン)の地域文化と社会を紹介する講義である。各 5 回のオムニバス形式で講義を行う。各国・地域の行政区分や気候等に関する地理、食文化や世界遺産等の文化、政治形態や人口動態等に関する社会情勢などについて主に扱う。グローバル化の時代において異文化理解に資する内容である。該当する国・地域の言語を履修していない学生にも問題なく理解できる授業である。

授業の到達目標

世界には、グローバル化によって平準化することのできない多様な文化・社会が存在している。講義を通じ、日本以外の国や地域の文化と接し、異文化理解力の基礎を築く。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	1 番教室	第1回 中国の基礎データ①	中国の国土と自然を学ぶ	BAO MIN	中国の地理と行政区画を認識し、理解する。 グループワーク(中国のイメージに関するディスカッション)、リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/22	10:45-12:25	1 番教室	第2回 中国の基礎データ②	中国における人口問題と人口政策の推移を紹介する	BAO MIN	中国における人口の概要と人口政策の変遷を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	5/13	10:45-12:25	1 番教室	第3回 中国の基礎データ③	中国の仕組みについて学ぶ	BAO MIN	中国共産党、国家機構、政治制度と法制度を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/20	10:45-12:25	1 番教室	第4回 中国の歴史と世界遺産	中国の歴史を振り返り、代表的な世界遺産を紹介する。	BAO MIN	中国の歴史の変遷を理解し、代表

							的な世界遺産の説明ができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	5/27	10:45-12:25	1 番教室	第5回 中国の民俗	中国の節句・伝統行事、中国の干支と十二支、食文化を学ぶ	BAO MIN	中国の節句・伝統行事、二十四節気が説明でき、食文化に関して各地の違いを述べることができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
11-12	6/3	10:45-12:25	1 番教室	第 6 回 スペインの地理・歴史・言語	スペインの大まかな歴史、地理、言語状況について学ぶ。	高木 佳奈	スペインの言語的・文化的多様性について歴史的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	6/10	10:45-12:25	1 番教室	第 7 回 スペインの文化	宗教、文学、美術、建築などを中心に、スペインの文化的特徴について学ぶ。	高木 佳奈	スペインの様々な芸術作品に触れ、第 11 回で学んだ歴史的背景に対する理解を深める。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	6/17	10:45-12:25	1 番教室	第 8 回 ラテンアメリカの地理・歴史・言語	ラテンアメリカの大まかな歴史、地理、言語状況について学ぶ。	高木 佳奈	先コロンブス期及び植民地化以後のラテンアメリカの歴史を学び、言語的・文化的多様性を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/24	10:45-12:25	1 番教室	第 9 回 ラテンアメリカの文化	宗教、文学、美術、建築などを中心に、ラテンアメリカの文化的特徴について学ぶ。る。	高木 佳奈	ラテンアメリカの様々な芸術作品に触れ、第 13 回で学んだ歴史的背景に対する理解を深める。リアクションペーパーを用いた質疑応答
19-20	7/1	10:45-12:25	1 番教室	第 10 回 スペインの植	ラテンアメリカが現在抱えている	高木 佳奈	植民地主義という

				民地主義とラテンアメリカ	様々な問題について、スペインによる植民地化の影響から考える。		観点から、スペインとラテンアメリカを横断的・連続的に捉えることができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	7/8	10:45-12:25	1 番教室	第 11 回 ドイツ連邦共和国の概要とドイツの歴史①	ドイツの大まかな歴史と地理を概観する。高校の世界史未履修者向けの内容である。	藤井 俊吾	現代ドイツの社会的文化的情勢を理解する基礎を身につける。リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	7/15	10:45-12:25	1 番教室	第 12 回 ドイツの歴史②とドイツの都市・地方	宗教、文学、美術、建築などを中心に、スペインの文化的特徴について学ぶ。	藤井 俊吾	ドイツの地方や都市の文化的特徴を歴史的観点を交えて有機的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/22	10:45-12:25	1 番教室	第 13 回 ドイツの産業、政治、移民政策	ドイツの産業構造や政治形態、及び移民政策の変遷等を概観する。特に西ドイツ時代の移民政策と現代の移民政策の違いについて重点的に学ぶ。	藤井 俊吾	現代ドイツの社会的特徴を歴史的観点を交えて有機的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/29	10:45-12:25	1 番教室	第 14 回 ドイツの音楽、美術、世界遺産	歴史的背景を踏まえた上でドイツの音楽や美術、世界遺産について学び、ドイツの文化的特徴を把握す	藤井 俊吾	ドイツの文化的特徴を歴史的・社会的観点を交えて有機的に理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/31	10:45-12:25	1 番教室	第 15 回 ドイツの言語、方言、少数言語	現代ドイツ語の特徴や成立過程、ドイツに於ける方言、及び少数言語について学ぶ。	藤井 俊吾	ドイツ語を含め、ドイツに於いて話されている、もしくは話されていた言語についての基礎的知識を習得する。リアクションペーパーを用いた質疑応答

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。授業内容に対し、課題発表やミニ討論をすることがある。

授業内容

第1回　中国の基礎データ①
第2回　中国の基礎データ②
第3回　中国の基礎データ③
第4回　中国の歴史と世界遺産
第5回　中国の民俗
第6回　スペインの地理・歴史・言語
第7回　スペインの文化
第8回　ラテンアメリカの地理・歴史・言語
第9回　ラテンアメリカの文化
第10回　スペインの植民地主義とラテンアメリカ
第11回　ドイツ連邦共和国の概要とドイツの歴史①
第12回　ドイツの歴史②とドイツの都市・地方
第13回　ドイツの産業、政治、移民政策
第14回　ドイツの音楽、美術、世界遺産
第15回　ドイツの言語、方言、少数言語

成績評価の方法

3 名の教員が授業を担当する。成績(100 点満点)は 3 名の教員の評価を合算する形で最終評価になる。
各回の授業内容をふまえたコメント(300 字以上)90%、その他(授業態度)10%で評価する。
2/3以上出席した者を評価の対象とする。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業スライドを整理して復習に活かすこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

教科書は用いない。授業内容のパワーポイントを提示する。

他科目との関連

時間の制限により前期の講義では 3 つの国・地域(中国、ドイツ、ラテンアメリカ・スペイン)の地域文化と社会を 5 回ずつ紹介することになっているが、後期の教養基礎セミナーでは上記の国・地域の地域文化と社会に関連する内容をより詳細に紹介する講義を用意している。興味のある学生には履修を勧めたい。

履修上の注意事項

1. いかなる理由があっても、期限を過ぎたコメントは減点する。ネットワークエラーや送信ミスに注意し、必ず送信できたことを確認すること。万が一コメントを送信できなかった場合は、紙のコメントシートに記入し、授業中に担当教員に提出すること。　2. 生成 AI の使用や他者の文章からの剽窃は一切禁止する。発覚した場合は、不合格とする。

連絡先(メールアドレス)

BAO　MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp
藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO　MIN:水曜日　12:30～13:00　管理研究棟 3 階　研究室
藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室
高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00–PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	00120				
科目名	哲学			**科目ID**	
担当教員	大賀　祐樹[OGA Yuki]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:　金曜　3講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

別表 2-1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

別表 2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

『哲学がわかる 科学哲学 新版』サミール・オカーシャ著、岩波書店(2023 年)を教科書として、発表と討論を行う講読形式で毎回読み進めながら、「科学哲学」について学ぶ。哲学と科学は、もともと研究を通して正しい知識を探究する一体のものだったが、現代では科学が実際の研究を担い、哲学がそのための方法論を提供するように役割を分担している。科学を本格的に学ぶためには、そもそも科学とは何か、なぜ科学が導いた答えが正しいと保証できるのかといった点を理解する必要がある。この授業では、そのための哲学における考え方を学ぶ。

授業の到達目標

科学を学ぶ際に、日頃ほとんど意識しない問題(そもそも科学とは何か、科学的に正しいとはどういうことか等)について理解できるようになる。今後の科学の学習や研究における基礎的な思考力としての科学的思考を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	大賀　祐樹, 藤井　達夫
3-4	4/17	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
5-6	4/24	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
7-8	5/1	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
9-10	5/8	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
11-12	5/15	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
13-14	5/22	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
15-16	5/29	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
17-18	6/5	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
19-20	6/12	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
21-22	6/19	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
23-24	6/26	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
25-26	7/3	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
27-28	7/10	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
29-30	7/17	13:30-15:10	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫

授業方法

教科書を講読する。概ね 1 章分を 2 回の授業で読み進める。毎回、受講者の中から担当者を決めて発表を行い、それをもとに受講者の間で討論する。

授業内容

1、ガイダンス

2、哲学と科学哲学についての説明(講義形式)

3、第1章

4、第2章前半
5、第2章後半
6、第3章前半
7、第3章後半
8、第4章前半
9、第4章後半
10、第5章前半
11、第5章後半
12、第6章前半
13、第6章後半
14、第7章前半
15、第7章後半

成績評価の方法

評価 ： 発表と討論の内容 60% レポート 30% ・ その他(授業参加度) 10%
再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:事前に必ず教科書の各回該当範囲を読んでおくこと。

復習:教科書を読み返して理解を深める。わからなかったことを調べる。関心を持った論点について他の本を読み理解を深める。

教科書

『哲学がわかる 科学哲学 新版』サミール・オカーシャ著、岩波書店(2023 年)

参考書

各回に関連する参考書を授業時に紹介する

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上の出席が必要。 出欠管理システムだけでなく、授業時の点呼での確認を行い、後者を優先させる。 教科書は必ず各自で用意すること。

備考

キーワード:科学哲学、論理的推論

時間割番号	00130				
科目名	倫理学			科目ID	
担当教員	大賀　祐樹[OGA Yuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　金曜　4講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表)1-2 社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表)1-5 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表)1-7 人間の心への理解を深める

別表)1-9 市民としての倫理観を養う

別表)1-10 現代社会における科学の責任を意識できるようになる

別表)5-2ELSI を分析・評価する視座・方法論を獲得する

授業の目的、概要等

絶対に正しいことなど存在せず、価値観は人それぞれであるとされる現代において、「正義」や「善」とは何であるのかを主張するのは難しいように思えるかもしれない。しかし、人々の間に倫理や道徳が共有されなければ、秩序は乱れ、人間は生きていくことさえ困難であろう。では何故、正しいことは正しく、善いことは善いとされるのか。倫理学とは、論理的にその答えを出す学問である。西洋の倫理学の歴史を順に理解することによって、その様々な根拠を知り、また現代において、いかにして倫理を論じることが可能になるのかを理解できるようになるだろう。

授業の到達目標

倫理学を初めて学ぶ者を対象とする。倫理学の成り立ちから、発展、様々な考え方の成立の経緯を、思想史の順を追って説明し、基本的な知識を習得することを一つの目標とする。できるだけ理解しやすいように、PowerPoint のスライドで図解を多用し、日常的な出来事や事例に置き換えて説明する。倫理学の議論において、様々な思想家がどのような問いを立て、答えを見つけるために試行錯誤したのか。その道筋を追うことによって、日常生活や、今後の社会生活においても直面するであろう様々な倫理的な問題に対して、自分なりに考えを整理し、答えを出せるようになるための思考力を養うことを大きな目標とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	大賀　祐樹, 藤井　達夫
3-4	4/17	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
5-6	4/24	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
7-8	5/1	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
9-10	5/8	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
11-12	5/15	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
13-14	5/22	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
15-16	5/29	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
17-18	6/5	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
19-20	6/12	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
21-22	6/19	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
23-24	6/26	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
25-26	7/3	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
27-28	7/10	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫
29-30	7/17	15:25-17:05	7 番教室	大賀　祐樹, 藤井　達夫

授業方法

講義形式で授業を行う。QR コードを利用したアンケートなど、アクティブラーニングを採り入れ、毎回授業終了後に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことを小レポートとして提出し、次回にフィードバックを行う。

授業内容

1、ガイダンス
2、倫理学とはどのようなものか
3、ソクラテスの裁判とプラトンの正義論
4、アリストテレスの倫理学
5、ストア派、快楽主義、懐疑主義
6、利己主義～ヒューム、スミス
7、カントの道徳哲学
8、功利主義(1)
9、功利主義(2)
10、ロールズの正義論
11、リバタリアニズム
12、現代の徳倫理学
13、ケアの倫理
14、授業全体のまとめと補足
15、試験

成績評価の方法

評価 : 試験 60% ・ その他(授業参加度) 40%
再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回配布する PowerPoint の資料を事前に予習、事後に復習、紹介した参考文献の中から気になったものを読む、次回に取り上げる論点やキーワード、時代背景を事前に調べ予習するなど。

教科書

なし
毎回配布する PowerPoint の資料を教科書代わりとする。

参考書

各回に関連する参考書を授業時に紹介する

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上の出席が必要。 出欠管理システムだけでなく、授業時の点呼での確認を行い、後者を優先させる。

備考

キーワード:倫理学史、モラルジレンマ、正義論

時間割番号	00140				
科目名	心理学			科目ID	
担当教員	門地　里絵[MONCHI Rie]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　木曜　4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1―7)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

心理学は実証科学的方法によって人の心の法則やメカニズムを解き明かそうとする学問です。

日常の心の動きをはじめとして、心がかかわるすべての領域が対象になります。

このため、扱う領域は多岐にわたり、複数の分野に細分化されています。

この科目は、これまでに集積されてきた知の体系にできるだけ幅広く触れることで、自分自身も含めた人間への理解を深め、心を科学的に研究する方法について理解することを目的とします。

授業の到達目標

心理学の基本的な原理を理解し、心にまつわるさまざまな問題を科学的に捉える考え方を身につけることを目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1	4/10	14:25-15:10	オンデマンド	門地　里絵
2-3	4/16	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
4-5	4/23	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
6-7	4/30	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
8-9	5/7	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
10-11	5/14	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
12-13	5/21	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
14-15	5/28	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
16-17	6/4	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
18-19	6/11	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
20-21	6/18	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
22-23	6/25	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
24-25	7/2	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
26-27	7/9	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
28-29	7/16	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫
30-31	7/23	13:30-15:10	7 番教室	門地　里絵　藤井　達夫

授業方法

講義形式ですが、アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、簡単な実験、小課題へのフィードバック、グループ・ディスカッションを行うときがあります。

授業内容

第 1 回:ガイダンス

（講義の進め方、学問としての心理学の考え方や歴史を概説します）

第 2 回:感覚と知覚

（世界を体験する土台となる、感覚と知覚のメカニズムと諸現象について講義します）

第 3 回:記憶

（記憶の種類や忘却の特徴について講義します）

第 4 回:学習

（行動が形作られる学習の種類や影響因について講義します）

第 5 回:思考・認知
（言語の影響や認知バイアスなどについて講義します）
第 6 回:動機づけ
（行動の開始や継続に影響する動機づけについて講義します）
第 7 回:感情
（日々を彩る喜怒哀楽の感情について理論や表出の特徴を講義します）
第 8 回:パーソナリティ
（人を特徴づける人格について理論や測定方法を講義します）
第 9—10 回:発達
（人生のステージの心の面から見た進み方、そこで出会う課題について概説します）
第 11—13 回:臨床
（心理支援の基礎理論や実践者に必要な態度・スキルについて講義します）
第 14 回:社会
（社会集団から人が受ける影響力などを講義します）
第 15 回:まとめ
（各回の要約や重要なポイントの振り返りを行います）

成績評価の方法

評価 ： ・試験 70%
・授業への参加度 10％
・その他(授業中の小課題)20%知識の確実な習得を重視します。

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は求めません。適宜必要に応じて復習してください。

教科書

特に指定しません。必要な資料は配布します。

参考書

講義の中で随時紹介します。

履修上の注意事項

・原則として、授業回数の 2/3 の出席を満たさなければ期末試験の受験資格を得られません。 ・レポート作成時、データ解析手法や先行研究調査について生成 AI を使用することは許可します。生成 AI が作成した文章を自身の回答としてレポートに転記することは許可しません。転記が疑われた場合には回答内容に関わらず不合格とし、再試を受験するものとします。

参照ホームページ

特に指定しません。講義内で適宜紹介します。

時間割番号	00150				
科目名	宗教学			科目ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-3)人間の歴史的営みを知る

1-4)異なる空間の文化を理解する

1-7)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

日本では、「宗教」と聞くと特定の教団をイメージしたり、「危ない」、あるいは自分とは関係ないと思う場合が多いと言われています。しかし実際には、私たちはさまざまな場面で「宗教」とかかわってきています。本講義では、その「かかわり方」について、身近な宗教体験や、現代社会における諸問題などを取り上げながら考えます。

授業の到達目標

宗教は人々とどうかかわっているかについて、宗教学の観点から多面的に理解し、論じられようになることを目指します。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	
3-4	4/17	15:25-17:05	6 番教室	
5-6	4/24	15:25-17:05	6 番教室	
7-8	5/1	15:25-17:05	6 番教室	
9-10	5/8	15:25-17:05	6 番教室	
11-12	5/15	15:25-17:05	6 番教室	
13-14	5/22	15:25-17:05	6 番教室	
15-16	5/29	15:25-17:05	6 番教室	
17-18	6/5	15:25-17:05	6 番教室	
19-20	6/12	15:25-17:05	6 番教室	
21-22	6/19	15:25-17:05	6 番教室	
23-24	6/26	15:25-17:05	6 番教室	
25-26	7/3	15:25-17:05	6 番教室	
27-28	7/10	15:25-17:05	6 番教室	
29-30	7/17	15:25-17:05	6 番教室	

授業方法

基本的には板書と資料配布による講義形式で行いますが、ワークシート・リアクションペーパーの記述や、意見を聞いたり議論したりする場合もあります。

授業内容

1, ガイダンス—宗教とはなにか

2, 宗教と社会のかかわり①—「日本人」は「無宗教」か?

3, 宗教と社会のかかわり②—「宗教団体」とはなにか?

4, 身近な宗教体験①—なぜ正月に初詣でに行くのか?

5, 身近な宗教体験②—なぜお盆に墓参りするのか?

6, 身近な宗教体験③—お祭りとはなにか?

7, 現代宗教の問題①—「女人禁制」とはなにか?

8, 現代宗教の問題②—「カルト」問題を考える

9, 現代宗教の問題③—靖国神社問題を考える
10, 宗教とスピリチュアリティ—現代社会におけるスピリチュアリティ文化を考える
11, 宗教と移民—現代日本における移民について考える
12, 宗教とケア—「心のケア」について考える
13, 宗教とナショナリズム①—近代日本の宗教運動と国家について考える①
14, 宗教とナショナリズム②—近代日本の宗教運動と国家について考える②
15, まとめ

成績評価の方法

評価:レポート試験 60%・受講態度・ワークシート:40%
再評価:有(再評価方法:レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

教科書

なし。板書を中心として進めつつ、適宜、レジュメを配布します。

参考書

適宜紹介します。

履修上の注意事項

・原則としては 2/3 以上の出席が必要ですが、これは講義内容を理解するための基準と考えてください。 ・ワークシート・レポート等に関し、生成 AI に丸投げしたものを提出した場合はその時点で失格とします。部分的に使用した場合は、どこからどこまでが AI によるものであるかを、第三者に分かるように明確にしてください。その注記なしに使用が発覚した場合も失格としますので注意してください。

時間割番号	00160				
科目名	芸術(美術)			科目ID	
担当教員	笹野井 もも, 伊藤 寛人, 椎名 勇, 伊藤 将和, 石原 孟[SASANOI Momo, ITO Hiroto, SHIINA Isamu, ITO Masakazu, ISHIHARA Tsutomu]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 金曜 3 講(5 限・6 限)

対象学科:医学科・歯学科

募集人数: 20 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1–6)

授業の目的、概要等

絵画、彫刻、工芸、デザイン、映像メディア等の芸術における様々な分野の美術表現について講義と実習を通して学ぶ。芸術の視点から、人間、社会、歴史、分野、表現等について幅広く捉え、特に人間と美術の関わりについて探求する。

授業の到達目標

人間活動としての芸術とその歴史、表現について理解する。人間と美術の関わりについて理解する。特定分野の表現を実習で実現できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1–2	4/10	13:30–15:10	遠隔授業(同期型)	笹野井 もも
3–4	4/17	13:30–15:10	9 番教室	笹野井 もも
5–6	4/24	13:30–15:10	9 番教室	笹野井 もも
7–8	5/1	13:30–15:10	9 番教室	椎名 勇
9–10	5/8	13:30–15:10	9 番教室	椎名 勇
11–12	5/15	13:30–15:10	9 番教室	石原 孟
13–14	5/22	13:30–15:10	9 番教室	石原 孟
15–16	5/29	13:30–15:10	9 番教室	伊藤 将和
17–18	6/5	13:30–15:10	9 番教室	伊藤 将和
19–20	6/12	13:30–15:10	13 番教室	伊藤 寛人
21–22	6/19	13:30–15:10	13 番教室	伊藤 寛人
23–24	6/26	13:30–15:10	13 番教室	伊藤 寛人
25–26	7/3	13:30–15:10	13 番教室	伊藤 寛人
27–28	7/10	13:30–15:10	13 番教室	伊藤 寛人
29–30	7/17	13:30–15:10	13 番教室	伊藤 寛人

授業方法

初回にガイダンスを行う。全 15 回の授業うち、1–9 回は各専門分野の講師による講義。10–15 回はデッサン実習とする。

授業内容

第 1 回:ガイダンス、彫刻論

第 2・3 回:デザイン論

第 4・5 回:工芸論

第 6・7 回:絵画論

第 8・9 回:映像メディア論

第 10～15 回:デッサン実習

※2 回～9 回の内容が入れ替わる場合がある。

成績評価の方法

評価 ： レポート　60% ・ その他(デッサン実習) 40% オムニバス形式の授業であるため、授業への参加度を重視する。 再評価:　無
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 各回、美術の専門分野をもった教員による講義や実習となる。自主的に美術館や博物館等で興味のある美術・工芸に関わる作品を幅広く鑑賞しておく事が望ましい。
履修上の注意事項 レポート提出には 3 分の 2 以上の出席が必要。
備考 キーワード:芸術、美術

時間割番号	00770				
科目名	芸術(音楽)			**科目ID**	
担当教員	室田　尚子[MUROTA Naoko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:金曜4講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1−4)、1−6)、1−7)、3−4)

授業の目的、概要等

目的:オペラの魅力と芸術的価値を知る。

概要:現在でも欧米では、オペラに精通しているかどうかがその人の教養を測る一つの物差しとなるケースがある。本講義では、西洋芸術音楽の中でも特別な位置を占めているオペラの作品の鑑賞を通して、そこに描かれた人間像に触れ、オペラの多角的な魅力を理解するとともに、「音楽」「美術」「文学」「演劇」が一つになった「総合芸術」であるオペラの芸術的価値について考察する。

授業の到達目標

1)オペラの成り立ちや歴史を知ること。

2)オペラ作品の中に登場する男女の姿を通して、人間の様々な感情や生き方を知ること。

3)各作品における音楽的特徴を知ると共に、他芸術との関係の中から歴史の中に位置付けることで、オペラの芸術的価値について学ぶこと。

4)現代社会においてオペラがどのような位置付けにあるのかを知ること。

5)作品鑑賞を通して感じたり考えたりしたことを、他者に的確に伝えられるように言語化すること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1−2	4/10	15:25−17:05	遠隔授業(同期型)	室田　尚子, 藤井　達夫
3−4	4/17	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
5−6	4/24	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
7−8	5/1	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
9−10	5/8	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
11−12	5/15	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
13−14	5/22	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
15−16	5/29	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
17−18	6/5	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
19−20	6/12	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
21−22	6/19	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
23−24	6/26	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
25−26	7/3	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
27−28	7/10	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫
29−30	7/17	15:25−17:05	1 番教室	室田　尚子, 藤井　達夫

授業方法

CD や DVD を鑑賞しながらの講義。アクティブラーニングの方法を取り入れ、毎回、作品の感想や考察を提出してもらう予定。

授業内容

1. 授業内容についてのガイダンス
2. バロック・オペラ～ヘンデル『ジュリアス・シーザー』
3. 声とドラマの一体化～モーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』
4. ベルカント・オペラ～ドニゼッティ『愛の妙薬』
5. イタリア・オペラの改革者～ヴェルディ『椿姫』
6. 西洋音楽史の転換点～ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』

7. 19 世紀フランス・オペラの世界～ビゼー『カルメン』
8. オペラとジャポニスム～プッチーニ『蝶々夫人』
9. 世紀末芸術とオペラ～リヒャルト・シュトラウス『サロメ』
10. ヴェリズモ・オペラ～レオンカヴァッロ『道化師』
11. オペラの革新～ドビュッシー『ペレアスとメリザンド』
12. オペラの解体～ヴァイル『三文オペラ』
13. 20 世紀オペラ～ベルク『ルル』
14. オペレッタとミュージカル
15. 学期末試験

成績評価の方法

評価 : 試験 70% ・ その他(授業への参加度)30%

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は特に必要なし。復習については、授業で鑑賞した作品を自分でもう一度鑑賞し直すことを勧める。授業内容について自筆でノートにまとめておくこと。

教科書

特になし。

参考書

『オペラの館がお待ちかね』室田尚子著(清流出版、2012 年)
『新国立劇場 名作オペラ 50 鑑賞入門』(世界文化社、2012 年)
『オペラがわかる 101 の質問』ザビーネ・ヘンツェ＝デーリング／ジークハルト・デーリング著、長木誠司訳(アルテスパブリッシング、2020 年)

履修上の注意事項

・出欠は教員が調査票によって取るものを優先させる。 ・鑑賞が中心の授業なので、きちんと出席し授業を受けることが何よりも重要である。 ・授業はパワーポイントによって行う。印刷物を配布することはしないので各自ノートをとること。 ・授業中パワーポイントの画面を撮影することは禁止する。 ・授業の録音・録画は禁止する。 ・原則として授業開始 30 分を過ぎてからの遅刻は認めない。 ・出席日数が授業日数の 3 分の 2 に満たない場合は期末試験の受験を認めない。

備考

キーワード:音楽、クラシック、オペラ、オペレッタ、ミュージカル、声楽、舞台

時間割番号	00780				
科目名	歴史学(イスラームの歴史と文化)			科目ID	
担当教員	後藤　敦子[GOTO Atsuko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　金曜　4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

1-3) 人間の歴史的営みを理解する

1-4) 異なる空間の文化を理解する

3-4) 外国文化を理解する

3-5) 国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

″ イスラームは、キリスト教、ユダヤ教とならぶ世界三大宗教の一つであり、全世界人口の約四分の一を占める。日本はイスラームとは無縁なようにみえるが、歴史的にみるとその関係は深い。日本に最初に建立されたモスクは、戦間期の 1935 年に開堂した神戸モスクである。その当時の日本においては、大東亜共栄圏構想のもとでイスラーム(当時は回教と呼ばれた)について学ぶことも戦略として重要視されていた。現在、日本国内においては滞日ムスリム人口は約 20 万人、彼らが礼拝に訪れるモスク(イスラームの寺院)も年々増加している。

本講義においては、まずイスラームの基本的知識について理解を深め、次にイスラームの生誕から時代順にイスラームの王朝と首都、支配のシステム、そこで発展した文化や科学についてとりあげる。イスラームの王朝が勃興し発展した地域においては、古代ギリシアやインドの知識をアラビア語に翻訳する活動が盛んであったために、イスラーム科学(医学、薬学、天文学)が栄え、それが西洋にもたらされた。アラビア半島に端を発したイスラームは、征服や交易をつうじて、徐々に中東地域からインド、中央アジア、南アジア、東南アジア、中国、アフリカへ拡大し、多様な地域で受容され、その土地の文化と融合した。

多文化共生の観点から、イスラームの歴史と文化を世界史的な枠組の中で考察し、グローバル化する世界を正しく把握し、現在直面する国際情勢を理解することを目的とする。″

授業の到達目標

1. イスラームの歴史を世界史の枠組に位置づけて考察できるようにする。

2. 多文化が共生するイスラーム世界の歴史と文化をとおして、グローバル化がすすむ現代国際社会における問題点を理解できるようにする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	後藤　敦子, 藤井　達夫
3-4	4/17	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
5-6	4/24	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
7-8	5/1	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
9-10	5/8	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
11-12	5/15	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
13-14	5/22	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
15-16	5/29	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
17-18	6/5	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
19-20	6/12	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
21-22	6/19	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
23-24	6/26	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
25-26	7/3	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
27-28	7/10	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫
29-30	7/17	15:25-17:05	4 番教室	後藤　敦子, 藤井　達夫

授業方法

講義形式。ただし自分の興味に沿ったテーマでの報告会の準備や報告会などアクティブラーニングの方法を適宜取り入れます。毎回講義に対する質問・感想などをリアクションペーパーにまとめて提出する。

授業内容

1. ガイダンス
2. イスラームの基礎知識
3. 預言者ムハンマドとその時代、ウマイヤ朝、アッバース朝
4. ガズナ朝、ブワイフ朝、セルジューク朝:非アラブ民族の流入と台頭
5. モンゴル民族の到来とイル・ハン朝、マムルーク朝
6. イスラームと医学・薬学・食文化
7. 三大帝国(1):オスマン朝
8. 三大帝国(2):サファヴィー朝、ムガル朝
9. 世界拡大するイスラーム:中央アジア、南アジア、東南アジア、中国
10. アクティブラーニング
11. イスラームの建築・美術工芸
12. イスラームにおける近代～現代へ
13. イスラーム科学史:天文学・技術・数学
14. 日本・イスラーム関係史と日本に暮らすムスリム
15. 最終報告会とレポート提出

成績評価の方法

評価 : レポート 50% ・ その他(毎授業でのリアクションペーパー 30%、講義内の発表など 20%)合計 50%・ 知識の確実な習得を重視する。

再評価: 有(再レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

本シラバスに「参考書」として挙げた文献, 授業中に配布するプリントに挙げる参考文献などを読んで授業後に復習し、理解を深めることが望ましい。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席していること。

20 分以内の遅刻、早退は、3 回で 1 回分の欠席としてカウントする。

教科書

特になし。授業当日にプリントを配布します。

参考書

小杉泰・江川ひかり編『イスラーム 社会生活・思想・歴史』 (新曜社, 2006)

小杉泰ほか編『大学生・社会人のためのイスラーム講座』(ナカニシヤ出版, 2018)

末近浩太, 松尾昌樹編『中東を学ぶ人のために』(世界思想社, 2024)

椿原敦子・黒田賢治『『サトコとナダ』から考えるイスラム入門』(星海社新書, 2018)

林佳世子編著『西アジアの歴史(放送大学教材)』(放送大学教育振興会, 2024)

三浦徹編著『イスラーム世界の歴史的展開』 (放送大学教材, 2011)

『世界の転換期(ターニングポイント)を知る 11 章』(山川出版社, 2024)

この他, 参考書などは授業中に指示します。

履修上の注意事項

出欠は毎回取るが、出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。出欠そのものよりも、リアクションペーパーの内容を重要視する。 本講義では、生成系 AI の使用を認めます。ただし、課題等の作成において、AI が生成した文章や回答をそのまま流用することは禁止します。

備考

キーワード:

イスラーム、中東、ムスリム、イスラーム文化・科学、宗教と国家、多文化共生

時間割番号	00170				
科目名	歴史学(近代ヨーロッパ史)			**科目ID**	
担当教員	太田　岳人[OTA Taketo]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:金曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-3) 人間の歴史的営みを理解する

3-4) 外国文化を理解する

3-5) 国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

【近代とファシズム:イタリアを中心に】

「ファシズム」という政治運動・支配体制・イデオロギーは、20 世紀の西欧にはじめて出現したものであり、現在なおその影響・復活が(時に現実的に、時に不毛なレッテル的に)語られる現象である。

本講義では、ベニート・ムッソリーニ(1883－1945)率いる国民ファシスト党のもとに成立した、イタリアのファシズム政権(1922－1945)の歴史的展開をいくつかのテーマ(政権奪取の過程、社会・文化政策、指導者グループ、人種主義など)を中心に概観する。それとともに、イタリアにこうした現象が誕生するに至った前史(西欧諸国における近代、イタリアの統一)、あるいは第二次世界大戦後に、ファシズム期の支配がどのように表象されてきたか、「現代」に至る歴史的記憶の変遷についても考察したい。

授業の到達目標

・ファシズム政権期のイタリアを中心に、西欧の近代史を学ぶことを通じて、現在の国際社会の形成過程を把握する。

・社会・政治・文化面における比較史的な観点を踏まえつつ、「ファシズム」を掲げる体制のの特質を理解する。

・現代にも続いている、国内／国際政治の諸問題に対する、歴史感覚と洞察力を身に着ける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	太田 岳人, 藤井 達夫
3-4	4/17	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
5-6	4/24	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
7-8	5/1	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
9-10	5/8	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
11-12	5/15	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
13-14	5/22	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
15-16	5/29	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
17-18	6/5	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
19-20	6/12	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
21-22	6/19	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
23-24	6/26	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
25-26	7/3	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
27-28	7/10	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫
29-30	7/17	13:30-15:10	6 番教室	太田 岳人, 藤井 達夫

授業方法

・パワーポイントを使った講義。リアクション・ペーパーの提出をもって出席とする。

・課題発表など、アクティヴ・ラーニングの方法も適宜取り入れる。

授業内容

1)ガイダンス
2)世界史における「近代」
3)「ファシズム」とその定義
4)イタリアの近代(1):イタリア王国の成立から第一次世界大戦まで
5)イタリアの近代(2):「ローマ進軍」からの「20 年」
6)ファシズム政権下の社会(1):大衆組織による「国民のファシスト化」
7)ファシズム政権下の社会(2):ファシスト党の幹部たちの政策と行動
8)ファシズム政権下の文化(1):ファシストの「芸術支援」
9)ファシズム政権下の文化(2):子供向け漫画とファシズム政権
10)ファシズム政権と人種主義(1):医学と反ユダヤ政策――ドイツ、日本との比較
11)ファシズム政権と人種主義(2):アフリカの植民地戦争
12)反ファシズムとその記憶(1):レジスタンス戦争とその記憶
13)反ファシズムとその記憶(2):ファシズム期を描いた文学・映画
14)反ファシズムの危機(1):冷戦期の国際社会の中で
15)反ファシズムの危機(2) :現代のイタリア政治の中で

成績評価の方法

評価: レポート 50% ・ その他(リアクション・ペーパーと授業参加:40%、中間課題:10%) 50%
再評価: 有(再評価方法:レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

教科書

特に指定しないが、各回の配布プリントで参考文献などを適宜紹介する。

参考書

比較的安価で手に取りやすいものとして、まずは以下の三冊を挙げておく。
【平易なもの】
・田之倉稔『ファシズムと文化』(山川ブックレット、2004 年)
・高橋進『ムッソリーニ:帝国を夢見た政治家』(山川ブックレット、2020 年)
【歯ごたえのあるもの】
・山口定『ファシズム』(岩波現代文庫、2006 年)

履修上の注意事項

・最終レポート提出には、3 分の 2 以上の授業に出席している必要がある。生成AIの活用については、講義中に指示する。 ・出席の確認は管理システムではなく、教員へのリアクションペーパーで行う。

備考

キーワード:ヨーロッパ／イタリア／近代／現代／ファシズム／歴史認識

時間割番号	00190				
科目名	科学史			科目ID	
担当教員	田中　丹史[TANAKA Akashi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1－3:　人間の歴史的営みを理解する

1－10:現代社会における科学の責任を意識できるようになる

授業の目的、概要等

現代社会において科学技術が重要な役割を担っているのは言うまでもない。本講義では、歴史学のアプローチから科学や技術が過去にどのような意義を持っていたのかを分析する。その上で現代社会における科学技術の特徴や科学技術と市民社会との関係を考察することを目標としている。

授業の到達目標

1. 科学史・技術史の基礎を理解する。
2. 現代社会における科学技術の意義を考察できる。
3. 医療の概史を知ることができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	田中 丹史, 藤井 達夫
3-4	4/17	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
5-6	4/24	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
7-8	5/1	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
9-10	5/8	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
11-12	5/15	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
13-14	5/22	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
15-16	5/29	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
17-18	6/5	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
19-20	6/12	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
21-22	6/19	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
23-24	6/26	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
25-26	7/3	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
27-28	7/10	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫
29-30	7/17	15:25-17:05	8 番教室	田中 丹史, 藤井 達夫

授業方法

板書を中心とする講義形式をとる。ただし適宜リアクションペーパーを配布し、アクティブラーニングの形式を取り入れる。

授業内容

第 1 回:ガイダンス(本講義の目的)

第 2 回:古代ギリシャ・ローマと科学・技術

第 3 回:古代ギリシャ・ローマ医学史:ヒポクラテスとガレノス

第 4 回:病院と医学史

第 5 回:中世の産業革命と 12 世紀ルネサンス

第 6 回:疾病史:ペストとコレラ

第 7 回:ルネサンスと科学・技術

第 8 回:科学革命

第 9 回:産業革命と科学・技術、19 世紀以降のエンジニア
第 10 回:科学の職業化と専門化
第 11 回:20 世紀以降の科学技術政策
第 12 回:医療政策の展開
第 13 回:日本の公害
第 14 回:日本の科学技術の歴史
第 15 回:日本の薬害

成績評価の方法

評価 : レポート 70% ・ その他(授業への参加度)30% 授業で得た知識を用いて発展的に思考することを求める。
再評価: 有(再評価方法 レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業中に指示した文献等を使い、各自で予習・復習してください。

教科書

なし

参考書

橋本毅彦『〈科学の発想〉をたずねて:自然哲学から現代科学まで』左右社, 2010.

履修上の注意事項

レポートの提出資格:欠席 4 回以下 出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先します。

参照ホームページ

なし

時間割番号	00200				
科目名	文学			**科目ID**	
担当教員	木谷　真紀子[KITANI Makiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:　木曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表 1-6)優れた芸術作品に触れて完成を高める

別表 1-7)人間の心への理解を高める

別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的名文章表現能力を身につける

主な講義場所

国府台キャンパス

授業の目的、概要等

三島由紀夫『近代能楽集』は、その名のとおり「能楽」を、発表当時の「現代」を舞台に描いた作品である。合計八作品の中から、本講義では,「綾の鼓」を扱う。

『近代能楽集』の「綾の鼓」は、謡曲「綾鼓」を基にし、謡曲「綾鼓」は、高齢の男性が若く美しい女性に恋をするという内容で、いくつかの類型的なパターンを持つ。本講義では、同系統の三島作品を精読、比較分析する。文学の中で繰り返されてきた物語を学ぶことで、文学史の流れに沿って文学や芸術を味わいたい。

授業の到達目標

授業開始前に作品を精読し、課題を提出する。授業は、アクティブラーニングの形式を取り入れて行うので、担当者の講義を一方的に聞くだけではなく、ディスカッションなどを通して積極的に参加すること。毎回リアクションペーパーの提出を課す。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	オンデマンド	木谷　真紀子
3-4	4/16	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
5-6	4/23	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
7-8	4/30	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
9-10	5/7	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
11-12	5/14	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
13-14	5/21	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
15-16	5/28	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
17-18	6/4	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
19-20	6/11	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
21-22	6/18	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
23-24	6/25	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
25-26	7/2	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
27-28	7/9	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
29-30	7/16	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
31-32	7/23	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子

授業方法

授業開始前に作品を精読し、課題を提出する。授業は、アクティブラーニングの形式を取り入れて行うので、担当者の講義を一方的に聞くだけではなく、ディスカッションなどを通して積極的に参加すること。毎回リアクションペーパーの提出を課す。

授業内容

1)ガイダンス。本授業で読む作品の紹介
2) 伝説とは
3) 謡曲「綾鼓」1
4) 謡曲「綾鼓」2
5) 謡曲「恋重荷」1
6) 謡曲「恋重荷」2
7) 三島由紀夫について 1
8) 三島由紀夫について 2
9) 『近代能楽集』について
10)『近代能楽集』「綾の鼓」1
11) 『近代能楽集』「綾の鼓」2
12) 『近代能楽集』「綾の鼓」3
13) 三島由紀夫「恋重荷」
14) 三島由紀夫「志賀寺上人の恋」
15)総括 「高齢の男性から若く美しい女性への恋」の物語

成績評価の方法

評価 : レポート 50% ・ その他(毎授業でのリアクションペーパー 15%、提出物 30%、講義内の発表など 5%)合計 50%
再評価: 有(再レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内で扱う作品は、必ず読破し、テキストを用意したうえで講義に臨むこと。それらの作品に関する意見や作品解釈を書く課題も、作品ごとに提出を課す。また授業内でディスカッションのテーマは、主に履修生の意見を取り入れて行うため、積極的に臨むこと。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席していること。
20 分以内の遅刻、早退は、3 回で 1 回分の欠席とする。

教科書

近代能楽集／三島由紀夫:新潮社, 1968
岬にての物語／三島由紀夫:新潮社

履修上の注意事項

課題は期日を守り提出すること。授業内にディスカッションなどを行うので、積極的な参加を求める。

連絡先(メールアドレス)

makiko.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階
※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	00210				
科目名	法学			**科目ID**	
担当教員	飛田　綾子[TOBITA Ayako]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:　木曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1.市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と感性

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する。

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る。

授業の目的、概要等

社会に生きる限り、人は法と無関係ではいられません。法によって自分の自由が制限されたり、反対に自由が守られたりと様々な形で法は私たちに関わっています。法的な争い事は裁判所で法を適用して結論が出されますが、時に理不尽に思われるような結論もあります。例えば、あの人は絶対に犯人ではないか、と一部からは見られる人でも無罪判決が下される場合があります。民事裁判でも、何か被害を被った人に対して損害賠償額が低すぎるのではないか、といった判決をニュースで見たことがあると思います。こうした出来事は法的にはどのように説明されるのでしょうか。

この授業では、「法とは何か」「道徳や慣習といった社会規範との相違点」といった話から始めます。そして「刑法」「民法」「行政法」などの概要を、具体的な裁判を挙げながら、説明していきます。また、適宜、外国の法制度にも言及し、日本との比較を行いたいと思います。

授業の到達目標

① 法の定義を理解し、法規範の意味を自分で説明できるようになる。同時に、民法、刑法、行政法などそれぞれの法律の役割分担を理解する。

② 授業で取り上げた判例の理解を通じて、実際のニュースの法律上の問題を考察できるようになる。

③ 比較法的視点を踏まえて、日本の法の望ましいあり方を考察し、自分の考えを説明できるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	オンデマンド	飛田 綾子, 藤井 達夫
3-4	4/16	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
5-6	4/23	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
7-8	4/30	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
9-10	5/7	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
11-12	5/14	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
13-14	5/21	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
15-16	5/28	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
17-18	6/4	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
19-20	6/11	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
21-22	6/18	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
23-24	6/25	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
25-26	7/2	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
27-28	7/9	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
29-30	7/16	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫
31-32	7/23	15:25-17:05	7 番教室	飛田 綾子, 藤井 達夫

授業方法

教員が作成したレジュメをもとに、講義形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、具体的問題をグループでディスカッ

ションし、ワークシートに記入する機会を適宜設ける予定です。

授業内容

第 1 回 法とは何か①法とその他の社会規範の違いや、法の目的などについて説明します。

第 2 回 法とは何か②法の歴史や形式、解釈方法について説明します。刑法①:刑法の存在意義や刑罰の種類などについて説明します。

第 3 回 刑法②罪刑法定主義など刑法の大原則について説明します。刑罰が科される「犯罪」とは如何なるものなのか、具体例を挙げながら説明します。

第 4 回 刑法③暗闇で人に襲いかかられて反撃したら、相手が怪我を負ってしまった。この場合、怪我を負わせた側は罪に問われるでしょうか。こうした事例を題材に、犯罪の「違法性」の内容を説明します。

第 5 回 刑法④小学生が犯罪を起こした場合、成年とは異なる扱いになります。それはなぜでしょうか。また刑法の話に続けて、刑事訴訟法の基礎をお話しします。捜査や取り調べで保障されている権利についてお話しします。

第 6 回 民法の基礎①民法総則:民法の大原則についてお話しします。民法上の「人」や「権利」「法律行為」などの言葉を説明します。

第 7 回 民法の基礎②物権(所有権、占有、物権変動):物を使ったり、処分したり、貸したりすることをめぐる法律のあり方について説明します。物の売買についての契約が成立したのちに、金銭の支払いや受け渡しが期日通りに行われなかった場合や、物が引き渡される前に台風で壊れてしまった場合、法律はどのように規定しているのでしょうか。

第 8 回 民法の基礎③(財産法①)債権総論:債務不履行、履行請求、損害賠償など):物権と債権の違いや、「契約自由の原則」について説明します。また契約の成立要件について学びます。契約の相手方が間違った情報を伝えていた場合や、自分が間違って理解していた場合、その契約は有効になるか否かなどを説明します。

第 9 回 民法の基礎④(財産法②)契約総論・典型契約①:私的自治の原則を説明した上で、契約が成立する条件について学びます。また、「契約」をめぐるトラブルなど、具体例を挙げながら説明します。また契約の中でも特に「売買契約」に注目します。

第 10 回 民法の基礎⑤(財産法③)典型契約②賃貸借・請負:契約にも種類があります。結果まで責任を求められる場合と、そうでない場合の違いについて説明します。また、「労働契約」についても話します。職場に求められる「安全配慮義務」や、職場でのパワーハラスメントなどについて考えてみます。

第 11 回 民法の基礎⑥(財産法④)(不法行為:安全配慮義務や加害被害の構造、因果関係など):不法行為の成立要件を説明します。そのなかで「過失」や「因果関係」について説明します。その中で「医療事故」についても触れます。

第 12 回 民法の基礎⑦(家族法①)(親族、夫婦、親子):家族関係と法のつながりについて説明します。婚姻や相続などについて説明します。近年特に話題になっているや、DV や児童虐待などについても考えます。

第 13 回 民法の基礎⑧(家族法②)(相続:法定相続分、遺留分など):そもそも相続の意味について説明し、法律の具体的規定や実際の裁判についてみていきます。

第 14 回 行政法の基礎:行政法の存在意義である、行政活動の確保の必要性と、個人の権利の保護についていかなる法律や裁判例があるかみていきます。

第 15 回 国際法の基礎:国際法は「法」なのか？という問いからはじめ、国家の三要素や、そうした主権国家間の争いの決着のつけ方をみていきます。

成績評価の方法

評価 :レポート 30% ・ その他(知識確認テスト、リアクションペーパー、ミニレポート) 70%

再評価:有(再評価方法:レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習・復習として、レジュメを読み直し、授業内容を確認すること。特に復習に重点をおくこと。国内国外とわず、政治・社会問題も含めたあらゆるニュースに敏感になり、そうしたニュースと憲法や法律全般との関係を考える習慣を身につけて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

松井 茂記・松宮 孝明・曽野 裕夫『はじめての法律学―H と J の物語(第 7 版)』(有斐閣、2025 年) 有斐閣ストゥディアシリーズ 参考書は適宜、紹介します。

履修上の注意事項

① 出欠管理システムの記録より教員の出欠調査を優先します。 ② 原則として出席回数が3分の2以上を満たさないと、レポート提

出資格を得られません。　③ 遅刻 3 回で欠席 1 回とカウントします。長時間の離席や、他の授業の課題を行なっている等、教員が「授業を受けていない」と判断した学生は欠席扱いにします。 ④ 授業中の教員の発言は積極的にメモを取ってください。 ⑤ AI の使用は禁止しません。ただし使用した場合は、プロンプトも併せて使用情報を必ず伝えること。
備考 キーワード:リーガル・マインド、正義、権利、社会秩序

時間割番号	00220				
科目名	政治学			科目ID	
担当教員	藤井　達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　金曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-1) 言語を通した人間の創造的営みを理解する

1-2) 社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-3) 人間の歴史的営みを理解する

2-3) 言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

私たちは、民主主義を政治における根源的な価値として掲げ、その価値にもとづいて作られた制度の下で日々の生活を送っています。その民主主義は現在、1930 年代以来の深刻な危機にあります。この授業では、民主主義の現在の危機の本質を理解し、未来の来るべき民主主義を構想するために、民主主義の過去と現在そして未来について考察します。

この考察に際して、キーワードとなるのが「代表制度」、「新自由主義」、「ポスト・トゥルース」、「暴政」です。これらを補助線としながら、私たちの生活と不可分な民主主義についてじっくりと論じます。

授業の到達目標

民主主義とはどのような政治なのか説明できる。

民主主義を歴史的な視点から説明できる。

民主主義の抱える問題点や課題について説明できる。

これからの日本そして世界がどうあるべきか、政治学の視点から自分の言葉で説明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/10	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	イントロダクション	授業の概要の説明	藤井　達夫	【到達目標】:授業の概要を理解できる。【その他】:オンライン形式でのお試し授業
3-4	4/17	13:30-15:10	10 番教室	民主主義の現状(1)	海外の動向から民主主義の現状を検討する。	藤井　達夫	【到達目標】:民主主義の現状について理解し、説明できる。【学習の方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
5-6	4/24	13:30-15:10	10 番教室	民主主義の現状(2)	国内の動向から民主主義の現状を検討する。	藤井　達夫	【到達目標】:民主主義の現状について理解し、説明できる。【学習の方法】:授業内でのディスカッションとリアクション

							ペーパーを用いた質疑応答。
7-8	5/1	13:30-15:10	10 番教室	民主主義って何だ？(1)	民主主義とはどのような政治なのか、古代アテナイの民主主義から考える。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を歴史的な視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
9-10	5/8	13:30-15:10	10 番教室	民主主義って何だ？(2)	近代の民主主義とはどのような政治なのか、ルソーやシェイエスらの政治思想から考える。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治思想の視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
11-12	5/15	13:30-15:10	10 番教室	民主主義って何だ？(3)	近代の民主主義とはどのような政治なのか、政治制度の視座から考える。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
13-14	5/22	13:30-15:10	10 番教室	近代の民主主義の歴史(1)	代表制民主主義の黄金期を支えた工業化社会という条件について考える。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を社会学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
15-16	5/29	13:30-15:10	10 番教室	近代の民主主義の歴史(2)	代表制民主主義の衰退の背景となったポスト工業化社会について考える。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を社会学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
17-18	6/5	13:30-15:10	10 番教	現代の民主主義(1)	現代の民主主義における選挙と	藤井 達夫	【到達目標】:民主

			室		政党について考察する。		主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
19-20	6/12	13:30-15:10	10 番教室	現代の民主主義(2)	現代の民主主義と市場(古典的自由主義および新自由主義)との関係について考察する。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を社会思想史的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
21-22	6/19	13:30-15:10	10 番教室	現代の民主主義(3)	現代の民主主義におけるアイデンティティの問題について考察する。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
23-24	6/26	13:30-15:10	10 番教室	現代の民主主義(4)	現代の民主主義における専門家の問題につてい考察する。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
25-26	7/3	13:30-15:10	10 番教室	現代の民主主義(5)	現代の民主主義におけるポピュリズムについて考察する。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
27-28	7/10	13:30-15:10	10 番教室	代表制民主主義の改革(1)	代表制民主主義の近視眼的性格と熟議的転回について考察する。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学

							習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。
29-30	7/17	13:30-15:10	10 番教室	代表制民主主義の改革(2)	熟議的民主主義の具体例について検討する。	藤井 達夫	【到達目標】:民主主義を政治学的視点から理解し、説明できる。【学習方法】:授業内でのディスカッションとリアクションペーパーを用いた質疑応答。

授業方法

スライドを教材とする講義形式。

リアクションペーパーを用いた授業内での質疑応答、および受講生間のディスカッション。

授業内容

授業明細を参照。

成績評価の方法

毎回の授業内で行う課題 70%(リアクションペーパーと授業内での発言)+レポート 30%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

スライドの予習、授業内で指示された課題。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

教科書

代表制民主主義はなぜ失敗したのか／藤井, 達夫, 1973-,藤井達夫 著:集英社, 2021.11

参考書

くじ引き民主主義 : 政治にイノヴェーションを起こす／吉田, 徹, 1975-,吉田徹 著:光文社, 2021.11

日本が壊れる前に : 「貧困」の現場から見えるネオリベの構造／中村, 淳彦, 1972-,藤井, 達夫, 1973-,中村淳彦, 藤井達夫 著:亜紀書房, 2020.12

その他の参考書は、随時授業内で紹介します。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先します。 授業への積極的な参加を重視します。 当授業での生成系 AI の使用については、初回授業の冒頭で説明を行います。

連絡先(メールアドレス)

fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	00230				
科目名	経済学			科目ID	
担当教員	田原 慎二[TAHARA Shinji]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目

曜日・時間:金曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-3)

授業の目的、概要等

経済は一見すると私たちの生活に直接関係していないように思えるが、賃金、失業、物価などの様々な側面で実は深い関わりを持っている。私たちが社会生活を行ううえで、経済との関わりは避けられない。

経済活動によって生じる失業、不景気、貧困などの問題を解消するため、学問としての経済学は発展してきた。現代では、かつての世界大恐慌のような長期かつ非常に深刻な不況は見られなくなり、「100 年に一度の不況」と呼ばれた 2000 年代末の経済危機や、2020 年代初頭の新型コロナウイルス流行による不況からも数年程度で回復することができている。これらは経済学の成果が政策に取り入れられ、不況の早い段階でそれなりに有効な対策が打てるようになったことが背景にある。

経済を専門としない大学生であっても、経済学について基本的な内容を学んでおくことは、今後の社会人生活において有用であると考えられる。

この授業では、まず「トレードオフ」「機会費用」「インセンティブ」「比較優位」「限界原理」などの経済学の基本的な概念について学び、続いて経済学の主要な分野であるミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な内容について学んでいく。ミクロ経済学は、経済における最小の単位(ミクロ)の主体である家計や企業がどのように行動し、その結果として市場における取引量や価格がどのように決定されるかについて分析する学問である。マクロ経済学は 1920 年代末の世界大恐慌をきっかけとして生まれたもので、経済全体を分析対象として失業や不景気などの問題の解決や、長期的な経済成長がどのようにすれば実現するか分析する分野である。

これらの学習を通じて、経済における諸要素とその関係について基本的な知識を習得し、学生が今後社会生活を送っていくにあたり有用であると思われる経済に関するリテラシーや経済学の知識を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

授業の到達目標

経済学の基本的な考え方、概念、モデルについて理解し、これに基づいて現実の経済現象を解釈できるようになることを到達目標とする。具体的には、新聞・雑誌などの経済ニュースや主要な経済指標の動きを理解して適切に解釈できるようになることが想定される。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	田原 慎二, 藤井 達夫
3-4	4/17	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
5-6	4/24	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
7-8	5/1	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
9-10	5/8	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
11-12	5/15	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
13-14	5/22	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
15-16	5/29	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
17-18	6/5	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
19-20	6/12	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
21-22	6/19	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
23-24	6/26	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
25-26	7/3	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
27-28	7/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫
29-30	7/17	15:25-17:05	遠隔授業(同期型), 10 番教室	田原 慎二, 藤井 達夫

授業方法

基本的には講義形式で行うが、授業時間内に練習問題(用語や計算など基本的な知識を問う問題)や演習問題(事例・事案に対する自分の考えを自由記述するなど応用的な内容の問題)を解くことと、それに対するフィードバックを行うことで、アクティブ・ラーニングの要素を確保しつつ行う。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:授業の概要
第 2 回 経済学の基本概念:トレードオフ、機会費用、比較優位等
第 3 回 資本主義の成立と発展
第 4 回 市場の役割と「市場の失敗」
第 5 回 家計と企業の行動
第 6 回 政府の役割と社会保障
第 7 回 経済成長と景気循環
第 8 回 GDP と国民所得の測定
第 9 回 有効需要の原理とケインズ経済学
第 10 回 金融市場:貨幣、物価、金融政策
第 11 回 経済社会の変化と経済思想
第 12 回 インフレーションとデフレーション
第 13 回 労働市場:賃金、雇用、失業
第 14 回 国際経済の基礎:為替レート、貿易収支、経常収支
第 15 回 授業のまとめ

成績評価の方法

評価:試験 60%、授業の課題 40%。過度に難解な出題はできるだけ避け、知識の確実な習得を重視する。
再評価:有(再評価方法)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は特に必要ないが、授業で配布した資料や参考書を確認して復習を行い、その都度理解を深めること。

教科書

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍等に依拠して授業内容を作成している。

参考書

神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
神取道宏(2018)『ミクロ経済学の技』日本評論社
福田慎一・照山博司(2023)『マクロ経済学・入門(第6版)』有斐閣アルマ
中谷巌・下井直毅・塚田裕昭(2021)『入門マクロ経済学 第 6 版』日本評論社
N.G.マンキュー(2025)『マンキュー経済学Ⅰミクロ編(第5版)』東京化学同人
N.G.マンキュー(2025)『マンキュー経済学Ⅱマクロ編(第5版)』東京化学同人
ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト(2020)『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』東洋経済新報社
ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト(2019)『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』東洋経済新報社

時間割番号	00240				
科目名	社会学			科目ID	
担当教員	大倉 韻[OKURA Hibiki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

4-4)情報についての基本技能を身につける

授業の目的、概要等

人々の考えやわれわれの生きる社会について客観的なデータを得るために、アンケートやインタビューなどの手法を用いておこなう調査のことを、一般に社会調査と呼ぶ。かつてなく急速に変化し続ける現代社会において、社会調査の必要性はこれまで以上に高まっているといえる。また、専門家のみが調査を実施していた時代はすでに過ぎ、インターネットやスマートフォンの普及により個人でも容易に調査を実施できる環境が整ってきている。実際にアンケートを受けた経験のある人や、調査データを用いたニュース記事を目にしたことのある人も多いだろう。

しかしそうした調査の中には、データの収集方法・分析方法・結果の解釈などが適切でないために、誤った結論を導いてしまっているものも少なくない。中には自らの主張に沿った結果を得るために、意図的に不適切なデータ収集や分析をおこなう事例も散見される。そうした誤った分析に惑わされず、また自らが誤った調査をおこなわないためには、社会調査に関する正しい知識と方法論を身につけることが重要である。

この授業では、社会調査に関する基本的事項を体系的に学習する。具体的には、社会調査の歴史と意義、各種調査方法の特徴とメリット・デメリット、調査の企画・設計・仮説構築、調査倫理、実査、データ分析の基礎、などを扱う。また質の高い社会調査を丁寧に検討することで、そうした調査がどのように設計・実施・分析されているのかを理解する。

そうした学習を通じて、必要に応じて適切な社会調査を実施できるようになるための基礎知識を習得するとともに、誤った統計を見抜き正しい情報を批判的に読み解く能力、すなわちリサーチ・リテラシーを習得することが本授業の目的である。

授業の到達目標

〇社会調査の基本的な知識を習得し、既存の調査を正しく読み解けるようになること。

〇社会調査をおこなうために必要な、問題設定・調査設計・実施・分析・記述などの基本的な考え方を習得すること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	大倉 韻 藤井 達夫
3-4	4/17	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
5-6	4/24	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
7-8	5/1	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
9-10	5/8	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
11-12	5/15	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
13-14	5/22	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
15-16	5/29	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
17-18	6/5	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
19-20	6/12	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
21-22	6/19	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
23-24	6/26	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
25-26	7/3	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
27-28	7/10	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫
29-30	7/17	13:30-15:10	8 番教室	大倉 韻 藤井 達夫

授業方法

第 1 回～第 11 回の授業は講義形式でおこなう。資料は毎回配布する。第 12 回～第 15 回の授業では社会調査を用いた文献を講読し、議論をおこなう。

リアクションペーパーの内容について、次回授業時に言及することがある。

アクティブラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションやプレゼンテーションなども行う予定である。

授業内容

第 1 回:ガイダンス

第 2 回:社会調査とは何か／社会調査の用途と歴史

第 3 回:調査テーマと調査事項の設定／調査票の作成①

第 4 回:調査票の作成②／標本調査の方法①

第 5 回:標本調査の方法②／サンプリング分布と統計的推測

第 6 回:実査と調査員／調査票の点検とデータ作成

第 7 回:基本統計量／聞き取り調査の方法

第 8 回:因果分析／調査報告をまとめる

第 9 回:さまざまな社会調査／SPSS の基本操作

第 10 回:統計分析の基礎／クロス集計と独立性の検定

第 11 回:平均値の差の検定と分散分析／単回帰分析

第 12 回:文献講読 1

第 13 回:文献講読 2

第 14 回:文献講読 3

第 15 回:文献講読 4

成績評価の方法

講義形式だが、受講者の積極的な授業参加を高く評価する。そのため、成績評価は次のようにおこなう。

評価:レポート 40%、授業への参加度 60%(リアクションペーパー、文献講読への参加など)

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は特に必要ないが、疑問点があればリアクションペーパー等で質問すること。また日常生活で目にする統計データが信用できるものかどうか注意深く観察し、リサーチ・リテラシーを養うことをすすめる。

文献講読については事前に文献を読み込み、疑問点や議論したい点を整理しておくこと。

教科書

なし。授業中に資料を配布する。

参考書

原純輔『社会調査 しくみと考えかた』左右社、2016 年。

村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士『SPSS による多変量解析』オーム社、2007 年。

それ以外にも授業内で適宜紹介する。

履修上の注意事項

原則的に授業回数の 3 分の 2 以上の出席を学期末レポートの提出要件とする。 生成系 AI の使用は禁止しないが、課題などに取り組む際に AI が出力した文章や回答をそのまま使用することは認めない。

時間割番号	00260				
科目名	社会思想史			科目ID	
担当教員	面　一也[OMOTE Kazuya]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-2), 1-9), 3-5)

授業の目的、概要等

自然環境の破壊、資本主義の暴走、テロや虐待といった暴力の横行など、近代社会がさまざまな領域で行き詰まりの様相を呈している。どうしてこのような世界になったのか。どうすれば(またはそもそも)これらの問題を乗り越えることができるのか。 社会のあり方を考えるためには、意思決定や政策実現に関わる国家や権力のあり方を問うことが、重要であり必要である。本授業では、1) 古代社会の一つの思想的到達点であるアリストテレス、2) その全面的な批判とともに近代社会思想を開始したホッブズ、3) 両者を含む古代から近代までのヨーロッパ社会全体と思想的に対決したニーチェの三名を主に取り上げ、人間はいかに生きるべきか、私たちが生きる社会や国家はいかにあるべきか、といった問いをめぐり批判的に考察を進める。

授業の到達目標

1 古代から近代に至る社会思想史の主要な論点を理解する。

2 近代社会が抱える諸問題について理解する。

3 現在および未来の社会的諸課題に対する批判的な考察力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	オンデマンド	面　一也, 藤井　達夫
3-4	4/16	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
5-6	4/23	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
7-8	4/30	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
9-10	5/7	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
11-12	5/14	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
13-14	5/21	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
15-16	5/28	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
17-18	6/4	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
19-20	6/11	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
21-22	6/18	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
23-24	6/25	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
25-26	7/2	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
27-28	7/9	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
29-30	7/16	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫
31-32	7/23	15:25-17:05	1 番教室	面　一也, 藤井　達夫

授業方法

講義形式。アクティヴ・ラーニングとして、授業中の確認作業と、授業後のリアクション・ペーパーの提出を課す。

授業内容

1 ガイダンス　本授業の概要(Zoom:オンデマンド授業)

2 アリストテレス1　目的論的自然観:自然における人間の位置

3 アリストテレス 2　学問体系の整序:古代社会思想の確立

4 アリストテレス 3　人間:幸福としての最高善、政治的動物

5 アリストテレス 4　国家①:善く生きるための共同体、現実国家

6 アリストテレス 5　国家②:プラトン批判、理想国家

7 トマス・ホッブズ 1 アリストテレスからホッブズまで、機械論的自然観
8 ホッブズ 2 人間:善＝快楽、悪＝苦痛
9 ホッブズ 3 自然状態:飽くなき欲望追求から戦争状態へ
10 ホッブズ 4 国家:死の恐怖に基づく絶対支配
11 フリードリヒ・ニーチェ 1 ホッブズからニーチェまで、古代から近代まで
12 ニーチェ 2 文体の技法
13 ニーチェ 3 キリスト教道徳への批判
14 ニーチェ 4 近代デモクラシーへの批判
15 ニーチェ 5 大いなる正午、永遠回帰、大いなる政治

成績評価の方法

評価 : 試験 50% ・ その他(リアクション・ペーパー) 50%
再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

復習は次回授業の土台になるため、予習の意味も兼ねて、次回授業までに復習を済ませることを求める。その際には、ノートや配布資料を見返しながら、授業の全体的な流れをまず把握して、総論から各論の確認へ向かうとよい。

教科書

特定の教科書は用いず、授業時に配布する引用資料を主に用いる。

参考書

藤原保信、飯島昇藏編著『西洋政治思想史Ⅰ・Ⅱ』新評論、1995 年。杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014 年。

履修上の注意事項

出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先させる 。

時間割番号	00270				
科目名	文化人類学			科目ID	
担当教員	三谷　純子[MITANI Junko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜3講

募集人数:20人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-4)異なる空間の文化を理解する

1-9)市民としての倫理観を養う

2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

難民や庇護申請者、移民とその子ども、無国籍者、複数国籍の人々は増え続け、各国の政策も変化を続けている。このようなラベルで呼ばれる人々に関する基礎知識を得、法や制度、経済、文化、歴史的背景等様々な状況により、一律的な唯一絶対に正しい即座の解決策がない課題について、複数の視点から分析し、自分なりに考える能力を養うことを目的とする。

支援する立場からだけでなく、当事者の多様性やエージェンシーにも注目する。

授業の到達目標

目標1:難民・庇護申請者・移民・無国籍・複数国籍のラベルの曖昧さ・世界の現状及び関係する国際法や国際社会の対応の枠組み、課題と限界、当事者の多様性について基本的な事実を説明できる。

目標2:上記に関し、日本の現状を多角的な視点から説明できる。

目標3:学術的発表に必要とされる基本的な技術を身に着け、建設的批判を含むディスカッション能力を向上させる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	オンデマンド	三谷　純子, 藤井　達夫
3-4	4/16	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
5-6	4/23	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
7-8	4/30	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
9-10	5/7	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
11-12	5/14	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
13-14	5/21	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
15-16	5/28	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
17-18	6/4	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
19-20	6/11	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
21-22	6/18	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
23-24	6/25	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
25-26	7/2	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
27-28	7/9	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
29-30	7/16	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫
31-32	7/23	13:30-15:10	2番教室	三谷　純子, 藤井　達夫

授業方法

アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションや発表(1回)などを行う。主に国連諸機関の最新の報告書、学術論文を基にした講義をし、教師の UNTAC, UNHCR、UNICEF 職員としての8か国での経験も適宜シェアする。

関連テーマに関するゲストスピーカーを招き、日本での経験について直接語ってもらい、学生と対話する(1回)、授業後、要点やミニ調査、意見・質問を含むフィードバックシートをウェッブクラスに提出する(毎回)ディスカッションの時間を確保するため、受講人数により

内容を調整することがある。

授業内容

1 回目:イントロダクション:授業の目的・評価基準等・難民の定義とその拡大
2 回目:アイスブレーキング:発表の説明・グループ決定 & 難民の権利
3 回目:国際社会による難民への解決と課題
4 回目:世界の難民
5 回目:日本の難民
6 回目:移民の曖昧な概念と国際法と移民のグローバルコンパクト
7 回目:世界の移民
8 回目:日本と「移民」
9 回目:出生登録と 生体認証・人工知能
10 回目:無国籍者の定義と発生原因
11 回目:無国籍の影響と無国籍を無くす取り組み＆無国籍や国籍が定かでないままを望む人々
12 回目:複数国籍
13 回目:招聘者の出身国情報
14 回目:招聘者との対話
15 回目:まとめ・ディスカッション:ラベルの曖昧さ、誰にとって何が解決なのか、自分や若者にできること/期末ペーパーの説明˝

成績評価の方法

評価 : レポート 40% ・ その他(発表と回答 30%) ・ フィードバックとディスカッションへの参加＆ニュースモニタリング 30%
再評価: 有(再評価方法) レポート

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、指定されたテーマのニュースや漫画・映画・TED 等を紹介しあい、実際に起きていることと学んだことを結び付けて考える。
フィードバックで復習・ミニ調査・考察を行う。

教科書

法や制度、統計に関しては、主にUN, UNHCR、ILO、IOM、OECD、EU、OAU、MPI、Stateless and Inclusion、政府の資料を使う。
基礎情報は日本語でパワポにまとめたものを配布する。グラフ等は英語資料も使う

参考書

アレキサンダー・ベッツ『難民 : 行き詰まる国際難民制度を超えて』、橋本直子『なぜ難民を受け入れるのか:人道と国益の交差点』永吉, 希久子『日本の移民統合——全国調査から見る現況と障壁』佐々木てる他『複数国籍——日本の社会・制度的課題と世界の動向』

履修上の注意事項

原則毎回出席。欠席者には、その回の加点なし。 4回以上の欠席者はレポートの提出資格を失う。 世界地理をよく知らない人は、国名付の世界地図を要常備。 受講者の人数や受講者の関心により、内容を多少変更することがある。

時間割番号	00280				
科目名	Japanese Culture and Society			**科目ID**	
担当教員	LUKMINAITE ANAND S[LUKMINAITE ANAND S]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～	**単位数**	2
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	メディア利用科目

前期:金曜4講

受講者に望まれる英語能力
CEFR B1(TOEIC500/TOEFLiBT50/英検二級)以上。
スコアは目安です。最初の授業で相談に応じるので、申し出てください。

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):3-6):日本の文化・社会を国際社会の中で理解し、発信できる力を身につける

授業の目的、概要等

students to be able to access more theoretical sources and be able to discuss and debate them. Materials from mediums such as social media, television or film will be provided to generate more discussion on specific topics.
Japanese Culture and Society では、外国から見た日本の文化・社会の様々な側面を議論します。本授業は基本的に英語で行い、学生に英語の発言による積極的な参加が認められます。分かりにくい点や質問には、補助的に日本語による説明を加えます。受講者に望まれる英語能力を確認ください。

授業の到達目標

1.日本文化社会に対する新しい洞察を獲得する。
2.批判的思考力や分析能力を育成する。
3.日本文化社会に関するディスカッションやプレゼンテーションを通じて英語によるコミュニケーション能力を強化する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
3-4	4/17	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
5-6	4/24	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
7-8	5/1	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
9-10	5/8	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
11-12	5/15	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
13-14	5/22	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
15-16	5/29	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
17-18	6/5	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
19-20	6/12	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
21-22	6/19	15:25-17:05	遠隔授業	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫

			(同期型)	
23-24	6/26	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
25-26	7/3	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
27-28	7/10	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫
29-30	7/17	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	LUKMINAITE ANAND S, 藤井 達夫

授業方法

課題発表、グループディスカッション、反転授業、個人または小グループによる研究

授業内容

1. Orientation
2. “Uchi to Soto.”
3. “Shūdan Ishiki.”
4. “Sempai-Kōhai.”
5. “Giri” & “Gamabari.”
6. “Amae.”
7. “Danjyo Kankei” & “Omiai.”
8. “Ryōsaikenbo” & “Ikuji.” Choosing a presentation topic.
9. “Aimai.” Narrowing the presentation topic.
10. “Bushidō” & “The Dō Spirit of Japan.” Basic presentation skills.
11. “Wabi-Sabi” & “Kisetsu.” Preparation.
12. “Itoko-Dori.” Practicing presenting in groups and peer review.
13. Final Presentation (1)
14. Final Presentation (2)
15. Feedback and conclusions˝

成績評価の方法

評価 :授業参加度 35％ 課題・クイズ 35％ プレゼンテーション 30%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

As a rule, each time students are expected to organize and review their notes, read the text of the next lesson in advance, check the new words and mark any difficult notions they find. 基本的には毎回ノートを整理し復習すること。 テキストを事前に読んで、新しい言葉や解りにくかったところを把握しておくこと。

教科書

Roger Davies, Osamu Ikeno. The Japanese mind: understanding contemporary culture.Tuttle Publishing, 2002 年 4 月

参考書

Joy Hendry. Understanding Japanese Society. RoutledgeCurzon, 2019 年 7 月

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上出席。

時間割番号	000048				
科目名	グローバル教養科目・Invitation to Cultural Anthropology			科目 ID	
担当教員	芝宮　尚樹[SHIBAMIYA Naoki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間：木曜4講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1−1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

1−4)異なる空間の文化を理解する

1−5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

2−3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

2−4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

3−1)国際的に活躍するための語学力を養う

3−4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

Cultural anthropology invites us to "take others seriously." Through "ethnographic fieldwork"—long-term immersion within a community—anthropologists explore the diversity of human ways of being. By living in unfamiliar places, mastering local languages, and participating in the daily lives of others, we seek to decenter our own perspectives and see the world through new eyes. In this course, students will learn to develop an anthropological lens, broadening the ways they understand themselves and the world around them.

This course is structured into three parts:

1. Fieldwork and Ethnography: Students will be introduced to the unique methodologies of cultural anthropology, including an example of the instructor's extensive year-and-a-half field research in the Philippines.

2. Reconsidering the Concept of "Culture": What do we mean when we say "culture"? While the idea of culture helps us appreciate diversity, it can also create fixed images of others, obscuring the political and ecological contexts in which human lives are embedded. Through selected readings from The Spirit Catches You and You Fall Down, a foundational text in medical anthropology, we will explore how this concept has evolved and why it remains a site of debate.

3. Applying Anthropological Knowledge: By engaging with ethnographic texts, students will learn to apply anthropological insights to pressing modern issues, including race and colonization.

This course aims to instill the anthropological ethos of "taking others seriously." Anthropologists learn from others, regardless of how unfamiliar their ways of life may initially appear. Rather than judging others through our own perspectives, we use these encounters to reflect on our own assumptions and imagine alternative possibilities for living. In today's crisis-ridden world, the ability to collaborate across differences for a more livable future is more essential than ever. Through active engagement with foundational anthropological concepts—via literature review and classroom dialogue—students will develop the critical skills to apply anthropological insights to contemporary global challenges.

授業の到達目標

At the end of the course, students are expected to be able:

-to articulate the foundational methods and attitudes of cultural anthropology in their own words.

-to critically evaluate the historical significance and modern-day limitations of cultural relativism.

-to analyze ethnographic texts, recognize their genre-specific characteristics, and effectively summarize and communicate key points to others.

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	オンデマンド	芝宮　尚樹, 藤井　達夫
3-4	4/16	15:25-17:05	12 番教室	芝宮　尚樹, 藤井　達夫

5-6	4/23	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
7-8	4/30	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
9-10	5/7	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
11-12	5/14	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
13-14	5/21	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
15-16	5/28	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
17-18	6/4	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
19-20	6/11	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
21-22	6/18	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
23-24	6/25	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
25-26	7/2	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
27-28	7/9	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
29-30	7/16	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫
31-32	7/23	15:25-17:05	12 番教室	芝宮 尚樹, 藤井 達夫

授業方法

In addition to regular lectures, students are expected to actively engage in class activities such as close reading, discussions, and presentations.

授業内容

1. General Guidance

Day 1 Introduction

Day 2 Overview: Why Study Anthropology?

2. Methodology

Day 3 Fieldwork: Transforming Yourself in the Unfamiliar

Day 4 Ethnography: Showing Unseeable Things

3.Rethinking "Culture": How to Take Others Seriously?

Day 5 Cultural Relativism

Day 6 Globalization

Day 7 Nature and Culture

Day 8 Beyond "Culture"?

Day 9 (De)colonization

4. Break

Day 10 Short Quiz & Film Screening

Day 11 How to Read an Academic Text

5. Special Topic: (De)colonization

Day 12 Black Skin, White Masks (Frantz Fanon, 1952)

Day 13 Continued.

Day 14 Continued.

6. Round-Up

Day 15 Round-Up: "Anthropology, Why it Matters?"

成績評価の方法

評価:Class Participation 50%・Mini Quiz 20%・Presentation 30%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

As part of the assignments, students will be required to read a short article every two to three weeks in preparation for class.

参考書

里見龍樹 2024『入門講義――現代人類学の冒険』平凡社

ティム・インゴルド 2020『人類学とは何か』亜紀書房

アン・ファディマン 2021『精霊に捕まって倒れる――医療者とモン族の患者、二つの文化の衝突』みすず書房

履修上の注意事項

Although this course is conducted in English, everyone is welcome regardless of language proficiency. Most of the reading materials are available in both the original English and Japanese translations. Additionally, discussions will be guided by the lecturer with necessary assistance in Japanese. Use of AI tools is permitted in this course. However, students must not use AI to summarize texts required for close reading, and must not incorporate AI-generated wording verbatim into presentations.

備考

キーワード：Cultural Anthropology, Social Anthropology, Fieldwork, Ethnography, Cultural Relativism, Globalization, Nature and Culture, Science and Technology, (De)Colonization, Orientalism, Race

参照ホームページ

https://www.sapiens.org/culture/what-is-cultural-anthropology/

時間割番号	007901				
科目名	人文社会科学特論(コミュニケーションとメディア)			科目ID	
担当教員	辻　泰明[TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　金曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-3)人間の歴史的営みを理解する

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

授業の目的、概要等

SNS や生成 AI など、コミュニケーションとメディアの領域には、次々に新しいサービスやコンテンツが出現しています。この授業では、さまざまな実例に触れながら、コミュニケーションとメディアに関する理論と実践を身につけます。

授業の到達目標

・コミュニケーションとメディアにおける拡散、炎上、誤報、歪曲、捏造、拡散などの現象について原理を踏まえて説明できる。

・SNS、推しとアイドル、キャラクター、ストーリー、フェイク動画、生成 AI など、コミュニケーションとメディアの現状について自らの観点で述べることができる。

・インタビュー、二段階ブレインストーミング、二項構成、グループワークとスライド発表、学術的質疑応答など、コミュニケーションとメディアに関わるアカデミック・スキルを使いこなせる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	第 1 回 ガイダンス コミュニケーションとメディアの現状(拡散、炎上、誤報、歪曲、推し、キャラクター、フェイク動画、生成 AI など)	ガイダンス コミュニケーションとメディアの現状(誤報、歪曲、拡散、炎上、推し、キャラクター、フェイク動画、生成 AI など) コミュニケーションとメディアの概観／誤報、歪曲、拡散、炎上、推し、キャラクター、フェイク動画などの実例／授業の進め方	辻　泰明	現代社会におけるコミュニケーションとメディアの状況について概略を説明できる。
3-4	4/17	15:25-17:05		第 2 回 好きなコンテンツは何? (映画、テレビ番組、アニメーション、SNS 動画など)	映画、テレビ番組、アニメーション、SNS 動画など好きなコンテンツの調査／グループ内で見知らぬ人とコミュニケーションを取るためにはどうするか／半構造化インタビューのやり方	辻　泰明	自分を取り巻くメディアとコンテンツの状況について説明できる。
5-6	4/24	15:25-17:05		第 3 回 マスメディアとインターネットはどこが違うのか	一方向マスコミュニケーションと双方向(ピア・トゥ・ピア)コミュニケーション／メディアにおける普遍性と多様性をどう考えるか／二段階ブレインストーミングの方法	辻　泰明	メディアの方向性の観点からマスメディアとインターネットを比較し、論点を明確にして説明できる。
7-8	5/1	15:25-17:05		第 4 回 生成 AI と人間の創造性	生成 AI によるコンテンツ制作の「民主化」／知的財産権と生成 AI／機械は人間よりも優れた芸術作品を創ることができるか	辻　泰明	生成 AI の特質について、具体的な事象に基づいて説明できる。

9–10	5/8	15:25–17:05		第 5 回 共有型文化としての「推し」とアイドル	これまでになかったコミュニケーションの型としての共有型文化／「推し」とアイドルとは何かについて考える／スライド発表におけるタイムキープの技法	辻 泰明	「推し」とアイドルの観点から、メディアにおける共有型文化について説明できる。
11–12	5/15	15:25–17:05		第 6 回 コミュニケーションにおける「推し」	自分の「推し」を「推す」(語る)にはどうするか／効果的なプレゼンテーションの技法／他者を知り他者から学ぶことの重要性	辻 泰明	自分の「推し」について、特徴を他者に説明できる。
13–14	5/22	15:25–17:05		第 7 回 メディアにおけるキャラクター 主人公とはどのような存在か	メディアにおけるキャラクターの特性／物語と主人公(キャラクター)の関係／主人公に共感し、感情移入できるのはなぜか	辻 泰明	メディアにおけるキャラクターの意義について説明できる。
15–16	5/29	15:25–17:05		第 8 回 メディアにおけるストーリーの構造	物語はどういう構造を持っているのか／感情を揺さぶるストーリーの秘密／何気ないコンテンツに潜むストーリー	辻 泰明	メディアにおけるストーリーの構造について説明できる。
17–18	6/5	15:25–17:05		第 9 回 フェイク動画を見破るためのリテラシー	生成 AI の発達によるフェイク動画の進化／フェイク動画の類別／映像に現れた手がかりからフェイク動画を見分ける方法	辻 泰明	フェイク動画の見分け方について説明できる。
19–20	6/12	15:25–17:05		第 10 回 ドキュメンタリーの本質 「注意深く再構成された虚構」とは何か	純粋な現実と完全な虚構／注意深く再構成された虚構／出来事が操作されていたと知った場合、自分にとって、そのコンテンツの価値は揺らぐか	辻 泰明	「注意深く再構成された虚構」とは何かについて説明できる。
21–22	6/19	15:25–17:05		第 11 回 誤報、歪曲、捏造——「事実」と「真実」の違い	メディアにおける誤報、歪曲、捏造／「事実」と「真実」の違い／学術的質疑応答のプロトコル(質問をする技法と回答をする技法)	辻 泰明	誤報、歪曲、捏造などの観点から、事実と真実について考察できる。
23–24	6/26	15:25–17:05		第 12 回 メディアにおける真実とは何か	メディアは真実を伝えるとは限らない／事実の集積が必ずしも真実とはならない／情報伝達における署名と匿名	辻 泰明	メディアにおける真実とは何かについて自分の意見を述べることができる。
25–26	7/3	15:25–17:05		第 13 回 拡散と炎上——なぜ過激な投稿が行われるのか	インフルエンサーと拡散の仕組み／拡散におけるメディアの連携と操作／予期せぬ炎上と意図的な炎上	辻 泰明	メディアにおける拡散と炎上について説明できる。
27–28	7/10	15:25–17:05		第 14 回 表現の自由と法規制はどちらを優先すべきか	匿名によるコミュニケーションの利点と欠点／表現の自由 vs.法規制／グループワークにおけるロール(役割)の機能	辻 泰明	表現の自由と法規制について、他者の意見を踏まえた上で、自分の意見を述べることができる。
29–30	7/17	15:25–17:05		第 15 回 総括——メディアとコミュニケーションの未来について、どう考	これまでの講義の振り返り／正解がない問題に対して、どう向き合えばよいのか／二項構成による	辻 泰明	メディアの未来について論じることができる。

				えるか	発表の方法		

授業方法

授業は、実際に映像を視聴したり資料を閲覧したりして、具体的な実例を参照しながら進めます。アクティブラーニングとして、授業中に発表やディスカッションを行っていただきます。

授業内容

第 1 回 ガイダンス コミュニケーションとメディアの現状(拡散、炎上、誤報、歪曲、推し、キャラクター、フェイク動画、生成 AI など)

第 2 回 好きなコンテンツは何?(映画、テレビ番組、アニメーション、SNS 動画など)

第 3 回 マスメディアとインターネットはどこが違うのか

第 4 回 生成 AI と人間の創造性

第 5 回 共有型文化としての「推し」とアイドル

第 6 回 コミュニケーションにおける「推し」

第 7 回 メディアにおけるキャラクター 主人公とはどのような存在か

第 8 回 メディアにおけるストーリーの構造

第 9 回 フェイク動画を見破るためのリテラシー

第 10 回 ドキュメンタリーの本質 「注意深く再構成された虚構」とは何か

第 11 回 誤報、歪曲、捏造——「事実」と「真実」の違い

第 12 回 メディアにおける真実とは何か

第 13 回 拡散と炎上——なぜ過激な投稿が行われるのか

第 14 回 表現の自由と法規制はどちらを優先すべきか

第 15 回 総括——コミュニケーションとメディアの未来について、どう考えるか

成績評価の方法

評価 : 小レポート 40% ・ その他(グループワーク、課題、ディスカッション) 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内で、予習すべきポイントや課題を提示します。

参考書

映像メディア論 : 映画からテレビへ、そして、インターネットへ／辻 泰明:和泉書院, 2016.9

インターネット動画メディア論 : 映像コミュニケーション革命の現状分析／辻 泰明:大学教育出版, 2019.10

履修上の注意事項

三分の二以上の出席が必要です。 出欠管理システムよりも、教員自身が取る出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	007902				
科目名	人文社会科学特論(ジェンダー・セクシュアリティ)			科目ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):社会制度や仕組みについての基本を理解する・人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る、市民としての倫理観を養う

授業の目的、概要等

社会の重要な構成要素の一つであるジェンダー・セクシュアリティに関する基礎的な知識をおさえる授業です。「今日的な課題」とみなされやすいジェンダーやセクシュアリティをめぐる観念がいかに歴史的に構築されてきたのか、現代の視点のみならず幅広い時間軸を踏まえて理解することを目指します。

授業の到達目標

ジェンダー・セクシュアリティにまつわる基礎知識を正しく理解し、説明できるようになる。関連する社会・文化をめぐる事象についてジェンダー論、女性学、男性学、クィアスタディーズの視点を踏まえて批判的に思考できるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室
1-2	4/10	13:30-15:10	オンデマンド
3-4	4/16	13:30-15:10	5 番教室
5-6	4/23	13:30-15:10	5 番教室
7-8	4/30	13:30-15:10	5 番教室
9-10	5/7	13:30-15:10	5 番教室
11-12	5/14	13:30-15:10	5 番教室
13-14	5/21	13:30-15:10	5 番教室
15-16	5/28	13:30-15:10	5 番教室
17-18	6/4	13:30-15:10	5 番教室
19-20	6/11	13:30-15:10	5 番教室
21-22	6/18	13:30-15:10	5 番教室
23-24	6/25	13:30-15:10	5 番教室
25-26	7/2	13:30-15:10	5 番教室
27-28	7/9	13:30-15:10	5 番教室
29-30	7/16	13:30-15:10	5 番教室
31-32	7/23	13:30-15:10	5 番教室

授業方法

授業内でリアクションペーパーを積極的に用いることによる、講師との擬似的な対話を重視した講義形式で行う。

授業内容

第 1 回:ガイダンスと導入

第 2 回:セックスとジェンダー

第 3 回:クィアスタディーズ①(用語とクィアアクティヴィズム)

第 4 回:クィアスタディーズ②(規範と「逸脱」、制度と差別)

第 5 回:フェミニズム①(フェミニズムの波)

第 6 回:フェミニズム②(多様な立場)

第 7 回:男性学

第 8 回:性暴力とハラスメント

第 9 回:家族・結婚・リプロダクティブヘルス／ライツ
第 10 回:売買春とセックスワーク
第 11 回:ポルノグラフィとわいせつ
第 12 回:ジェンダー・セクシュアリティとマスメディア
第 13 回:ジェンダー・セクシュアリティと表象文化
第 14 回:まとめ
第 15 回:教場試験

成績評価の方法

評価 : 試験 40% ・ 授業への参加度 60 %
再評価: 有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は特に求めませんが、授業内容を復習し試験に備えてください。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を求めます。

教科書

特になし

参考書

加藤秀一(2025)『はじめてのジェンダー論』竹村和子(2024)『フェミニズム』周司あきら・高井ゆと里(2023)『トランスジェンダー入門』森山至貴(2017)『LGBT を読みとく』松浦優(2025)『アセクシュアルアロマンティック入門』ほか

履修上の注意事項

・毎回の授業内でのリアクションペーパーへの記入をもって参加度とみなし、これを評価のうえで重視します。・ポルノグラフィやエロティックな表象についても重要な議論の対象として取り上げます。露骨な資料の利用は控えますが、事前にご注意ください。・ポルノグラフィや性暴力等の講義において、強い不快感を抱いた場合や過去のトラウマのフラッシュバックがある場合には、講師に無許可での退出を認めます。その場合の出席等の扱いについては、個別に対応します。・私語、特にヘイトスピーチや差別にあたる言動を慎み、全ての受講生が安心して学べる環境を保つよう努めること。

時間割番号	007903				
科目名	人文社会科学特論(グローバル社会と多文化教育)			科目ID	
担当教員	PINILLOS MATSUDA[PINILLOS Matsuda]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 4 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2) 社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-4) 異なる空間の文化を理解する

1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

1-9) 市民としての倫理観を養う

2-4) 自己問題提起・カイケル型の学習方法を身につける

3-6) 日本の文化・社会を国際社会の中で理解し、発信できる力を身につける

授業の目的、概要等

本授業は、グローバル化が進展する現代社会において生起する移動・越境・多文化共生の課題を、人文社会科学の理論的枠組みを用いて多角的に検討することを目的とする。

特に、日本社会の多文化化を具体的事例として取り上げ、移民・外国につながる子ども・言語・アイデンティティ・教育実践を軸に、構造と個人の語りの両側面から分析を行う。

理論的には、

・グローバル化論

・トランスナショナリズム

・ディアスポラ研究

・アイデンティティ論

・第二言語習得論

・多文化教育論

などを参照しながら、現代社会における「多文化共生」の理念とその実践の可能性・限界を批判的に検討する。

最終的には、理論理解にとどまらず、教育支援の具体的提案を構想できる実践的・批判的思考力を養うことを目指す。

授業の到達目標

本授業の到達目標は以下の通りである。

1. グローバル社会における移動・越境・多文化化の現象を、人文社会科学の理論を用いて説明できる。
2. 日本社会の多文化化の歴史的背景と構造的要因を理解し、現代的課題を分析できる。
3. 外国につながる子どもたちの教育課題を、言語・文化・アイデンティティの観点から多層的に捉えることができる。
4. 「多文化共生」という概念の可能性と限界を批判的に検討できる。
5. 理論的知見を踏まえた教育実践(教案・支援プログラム)を構想し、具体的に提案できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	15:25-17:05	オンデマンド	PINILLOS MATSUDA
3-4	4/16	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
5-6	4/23	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
7-8	4/30	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
9-10	5/7	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
11-12	5/14	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
13-14	5/21	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
15-16	5/28	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
17-18	6/4	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
19-20	6/11	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫

21-22	6/18	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
23-24	6/25	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
25-26	7/2	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
27-28	7/9	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
29-30	7/16	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫
31-32	7/23	15:25-17:05	5 番教室	PINILLOS MATSUDA, 藤井 達夫

授業方法

本授業は講義・文献講読・ディスカッション・ケーススタディ・実践課題を組み合わせて実施する。

1. 理論と事例の往還

毎回、理論的枠組みと具体的事例(統計データ、ナラティブ、政策事例など)を往還しながら理解を深める。

2. ディスカッション中心

受講生の問題提起・批判的検討を重視する。

リアクションペーパーや小課題を通じて、毎回の学びを言語化する。

3. ナラティブ分析

外国につながる子どもやディアスポラの語りを読み解き、「データ」ではなく「語り」として分析する視点を養う。

4. 実践的アウトプット

後半ではグループワークを通じて得られた課題について取り組み、発表する。

理論と実践を接続することを重視する。

授業内容

授業内容(予定)

■ 第 1 回 ガイダンス — グローバル社会と多文化教育の視点

授業内容

本科目の理論的枠組みの提示(グローバル化論・トランスナショナリズム・アイデンティティ論)

「多文化共生」という言葉の問題設定

受講生の問題関心の共有と研究テーマの言語化

本科目で扱う「構造と語り」の視点の説明

予習

・ シラバスを熟読し、以下を書いてくる(A4 半頁)

1. 今の自分にとって「多文化共生」とは何か

2. なぜこの科目を履修したのか

3. 自分の問題関心(研究テーマ候補)

復習

・ キーワード(グローバル化／アイデンティティ／トランスナショナリズム)を用いて「この科目で自分は何を問い直したいのか」を 300 字でまとめる。

■ 第 2 回 多文化化する日本社会① データから見る現状

授業内容

外国籍住民数・在留資格別構成・年齢構成の分析

就学状況・不就学問題の検討

技能実習制度・特定技能制度の社会的位置づけ

「統計が語らないもの」についての批判的読解

ディスカッション:

データは誰の視点で作られているのか

予習

・ 総務省・法務省などの統計データを 1 つ選び、

1. 何が増減しているか

2. そこから何が言えるか

を A4 半頁に整理。
復習
・ 授業で扱ったデータのうち 1 つを選び、
「見えていること」と「見えていないこと」を対比的に書く（400 字）。

■ 第 3 回 多文化化する日本社会② 歴史的背景と移民の系譜
授業内容
明治期の移民政策（海外移民）
戦後の在日コリアン問題
1990 年入管法改正と日系人労働者
ニューカマーの増加
国際結婚と家族の変容
歴史と現在の教育課題の接続
予習
・ 明治期以降の移民政策の転換点を 3 つ整理し、
それぞれの背景を調べる。
復習
・ 歴史的転換が現在の教育課題にどう接続しているかを
図式化し、200 字で説明。

■ 第 4 回 多文化化する日本社会③ 現代の課題と展望
授業内容
教育・医療・福祉・労働の制度的課題
「共生」概念の政策的使用
同化主義・統合主義・多文化主義の比較
多文化共生政策の限界と可能性
予習
・ 自治体の「多文化共生プラン」を 1 つ読み、
その目的と前提を要約。
復習
・「共生」という言葉の利点と限界を、授業議論を踏まえて 500 字で論じる。

■ 第 5 回 外国につながる子どもたちの現実
授業内容
教室内の課題（言語・進路・孤立）
不就学問題
ヤングケアラー問題
「困難」の構造化
事例分析ワーク
予習
・ 事例記事を 1 つ選び、
①個人の課題
②構造的要因
を区別して整理。
復習
・「困難の個人化」という視点から事例を再分析（400 字）。

■ 第 6 回 子どもと言語① 母語発達と第二言語習得
授業内容
第二言語習得理論の基礎
母語保持の教育的意義
言語とアイデンティティの関係
言語ヒエラルキーと権力
予習
・第二言語習得理論の基本概念を整理(定義を書く)。
復習
・母語保持がなぜ教育的に重要か、
言語・アイデンティティの関係から説明(500 字)。

■ 第 7 回 子どもと言語② 教科学習と日本語の壁
授業内容
BICS と CALP の理論
学習言語能力の形成
教科書分析
「日本語ができる」の再定義
学力評価の問題
予習
・教科書を非母語話者の立場で読んで、
難しい箇所を具体的に抜き出す。
復習
・BICS／CALP の概念を用いて、
その難しさを理論的に説明(400 字)。

■ 第 8 回 子どもと文化① 学校文化と文化的葛藤
授業内容
日本の学校文化(同調・規律・暗黙の規範)
文化的衝突の具体事例
「普通」の構築と排除
学校文化の社会学的分析
予習
・自分の学校経験で「当たり前」とされていた規範を 3 つ挙げる。
復習
・その規範が誰を排除しうるのかを分析(500 字)。

■ 第 9 回 子どもと文化② 家庭と学校のはざまで
授業内容
移民家庭の教育観
世代間ギャップ
通訳・翻訳の役割を担う子ども
文化仲介者としての子ども
アイデンティティの揺らぎ

予習
・移民家庭の教育観に関する文献を 1 本読み、要約。
復習
・世代間の教育観のズレが子どものアイデンティティに与える影響を論じる(500 字)。

■ 第 10 回 母語・母文化とアイデンティティの交錯
授業内容
ディアスポラ研究の視点
トランスナショナリズム
ハイブリディティ
ナラティブ分析演習
「交錯」という概念の理論化
予習
・ディアスポラ研究の基礎概念を整理(ハイブリディティ等)。
復習
・授業で扱ったナラティブを理論概念で分析(800 字)。

■ 第 11 回 学校・地域社会の役割① 地域支援の取り組み
授業内容
NPO・行政の支援モデル
日本語教室の役割
支援の制度化と課題
ネットワーク形成の重要性
予習
・地域支援団体の活動内容を調査し、目的・対象・課題を整理。
復習
・その支援が「アイデンティティ支援」になっているかを批判的に検討(500 字)。

■ 第 12 回 学校・地域社会の役割② 学校と地域の連携
授業内容
協働モデルの分析
ケーススタディ検討
学校単独主義の限界
連携の構造的条件
予習
・学校と地域の協働事例を 1 つ要約。
復習
・成功要因と構造的限界を整理(500 字)。

■ 第 13 回 理論から実践へ ― 多文化共生の再構想
授業内容
これまでの理論の整理
「共生」を再定義するグループ討議
支援を「アイデンティティ支援」として位置づける視点
最終発表構想の共有

予習
・これまでの資料を振り返り、自分の立場を文章化(600 字)。
復習
・発表構成案を提出(問題設定・理論枠組み・事例・提案)。

■ 第 14 回 最終発表①
授業内容
研究発表形式プレゼンテーション
問題設定
理論的枠組み
事例分析
再定義・提案
質疑応答
予習
・プレゼン資料完成、参考文献リスト添付。
復習
・他者の発表から得た理論的示唆を整理(300 字)。

■ 第 15 回 まとめ ― アイデンティティ研究から見る多文化共生の未来
授業内容
発表の総括
理論的貢献の確認
「多文化共生」をどう再概念化したか
最終レポートへの接続
研究者としての立場表明
予習
・自分の立場の最終整理。
復習
・最終レポート提出(3000～4000 字)
テーマ:「グローバル社会における多文化共生の再構想」

成績評価の方法
・レポート:30%
・授業への積極的な参加:20%
・リアクションペーパー:30%
・実践課題(教案作成・模擬授業):20%
・再評価:有(特別レポート提出による)

成績評価の基準
「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

参考書
・清水睦美、児島明、角替弘規、額賀美紗子、三浦綾希子、坪田光平(編)(2021)『日本社会の移民第 2 世代 : エスニシティ間比較でとらえるニューカマーの子どもたちの今』明石書店。
・樋口直人、稲葉奈々子(編)(2023)『ニューカマーの世代交代ー日本における移民 2 世の時代』明石書店。
・荒牧重人、榎井縁、江原裕美、小島祥美、志水宏吉、南野奈津子、宮島喬、山野良一(編)(2022)『外国人の子ども白書[第二版]ー権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から』明石書店。

・西川朋美(2022)『外国につながる子どもの日本語教育』くろしお出版。
・佐藤郡衛、菅原雅枝、小林聡子(2024)『子どもの日本語教育を問い直す―外国につながる子どもたちの学びを支えるために』明石書店。

履修上の注意事項

・出席は授業の理解に不可欠であり、4 回以上の欠席は評価の対象外とする。 ・遅刻は 2 回で 1 回の欠席とカウントする。30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・授業では Google Classroom を用いるため、初回授業でクラスキーを配布する。

時間割番号	00200				
科目名	文学			科目ID	
担当教員	木谷　真紀子[KITANI Makiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する
別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する
別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る
別表 1-6)優れた芸術作品に触れて完成を高める
別表 1-7)人間の心への理解を高める
別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる
別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的名文章表現能力を身につける

主な講義場所

国府台キャンパス

授業の目的、概要等

三島由紀夫『近代能楽集』は、その名のとおり「能楽」を、発表当時の「現代」を舞台に描いた作品である。合計八作品の中から、本講義では,「綾の鼓」を扱う。
『近代能楽集』の「綾の鼓」は、謡曲「綾鼓」を基にし、謡曲「綾鼓」は、高齢の男性が若く美しい女性に恋をするという内容で、いくつかの類型的なパターンを持つ。本講義では、同系統の三島作品を精読、比較分析する。文学の中で繰り返されてきた物語を学ぶことで、文学史の流れに沿って文学や芸術を味わいたい。

授業の到達目標

授業開始前に作品を精読し、課題を提出する。授業は、アクティブラーニングの形式を取り入れて行うので、担当者の講義を一方的に聞くだけではなく、ディスカッションなどを通して積極的に参加すること。毎回リアクションペーパーの提出を課す。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	オンデマンド	木谷　真紀子
3-4	4/16	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
5-6	4/23	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
7-8	4/30	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
9-10	5/7	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
11-12	5/14	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
13-14	5/21	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
15-16	5/28	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
17-18	6/4	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
19-20	6/11	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
21-22	6/18	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
23-24	6/25	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
25-26	7/2	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
27-28	7/9	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
29-30	7/16	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子
31-32	7/23	13:30-15:10	4 番教室	木谷　真紀子

授業方法

授業開始前に作品を精読し、課題を提出する。授業は、アクティブラーニングの形式を取り入れて行うので、担当者の講義を一方的に聞くだけではなく、ディスカッションなどを通して積極的に参加すること。毎回リアクションペーパーの提出を課す。

授業内容

1)ガイダンス。本授業で読む作品の紹介

2) 伝説とは

3) 謡曲「綾鼓」1

4) 謡曲「綾鼓」2

5) 謡曲「恋重荷」1

6) 謡曲「恋重荷」2

7) 三島由紀夫について 1

8) 三島由紀夫について 2

9) 『近代能楽集』について

10)『近代能楽集』「綾の鼓」1

11) 『近代能楽集』「綾の鼓」2

12) 『近代能楽集』「綾の鼓」3

13) 三島由紀夫「恋重荷」

14) 三島由紀夫「志賀寺上人の恋」

15)総括 「高齢の男性から若く美しい女性への恋」の物語

成績評価の方法

評価 : レポート 50% ・ その他(毎授業でのリアクションペーパー 15%、提出物 30%、講義内の発表など 5%)合計 50%

再評価: 有(再レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内で扱う作品は、必ず読破し、テキストを用意したうえで講義に臨むこと。それらの作品に関する意見や作品解釈を書く課題も、作品ごとに提出を課す。また授業内でディスカッションのテーマは、主に履修生の意見を取り入れて行うため、積極的に臨むこと。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席していること。

20 分以内の遅刻、早退は、3 回で 1 回分の欠席とする。

教科書

近代能楽集／三島由紀夫:新潮社, 1968

岬にての物語／三島由紀夫:新潮社

履修上の注意事項

課題は期日を守り提出すること。授業内にディスカッションなどを行うので、積極的な参加を求める。

連絡先(メールアドレス)

makiko.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階

※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	000035				
科目名	人文社会科学特論(科学主義と「社会」)			科目ID	
担当教員	徳久　美生子[TOKUHISA Mioko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜　3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

授業の目的、概要等

私たちは、現在、すぐには役に立たない科学的な知見の意義が見失われ、専門的な知識や分析よりも施政者たちが呟く科学的な根拠のない言葉が受け入れられ、事実そのものが揺らいでいるかに見える「社会」に生きています。

そこでこの授業では、科学的な知見、さらには科学的な知見を用いて「社会」を分析することの意味と意義を検討します。

この授業では、はじめに科学に対する盲目的な信頼(このことを広い意味での科学主義と定義しておきます)が広がり、「社会」の分析にも科学的な分析が必要とされていった過程を紹介します。次に科学技術の追求が招いた原爆の開発とその実相を学び、科学への信頼がどのように失われていったのかを検討します。その上で、科学的な知見や分析方法が現代社会、そして未来の「社会」に対してどのような意義を持ちうるのかを、受講生の皆さんと一緒に考えます。

授業の到達目標

① 科学的な知見や分析手法とはどのようなものであり、それらが近代社会に拡大した過程、拡大過程で生じた問題について理解できるようになる(知識の取得)

② 科学的な知見や分析方法への信頼がなぜ失われたのかについて自分の言葉で考えることができるようになる(思考力の取得)

③ 科学的な知見や分析方法が、現代社会や未来の「社会」のあり方を構想する上でどのような意義を持ちうるのかを提案できるようになる(提案力の取得)

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	徳久　美生子, 藤井　達夫
3-4	4/17	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
5-6	4/24	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
7-8	5/1	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
9-10	5/8	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
11-12	5/15	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
13-14	5/22	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
15-16	5/29	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
17-18	6/5	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
19-20	6/12	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
21-22	6/19	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
23-24	6/26	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
25-26	7/3	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
27-28	7/10	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫
29-30	7/17	13:30-15:10	1 番教室	徳久　美生子, 藤井　達夫

授業方法

講義形式にて行いますが、アクティブラーニングの形式を取り入れます。授業終了時にコメントペーパーを提出してもらう時間を設け、翌週フィードバックすることで質問、意見に対応します。また授業中に、随時意見を出し話し合う予定です。

授業内容

1. ガイダンス:科学と科学主義
2. 近代社会と「科学」1:近代社会が「科学」を科学技術に変えた
3. 近代社会と「科学」2:科学の分析手法は近代社会の分析にも取り入れられた
4. 近代社会と科学3:科学の分析手法は社会問題の分析にも取り入れられた
5. 科学技術の陥穽1:科学技術は戦争を変えた
6. 科学技術の陥穽2:科学者はナチズムにも加担した
7. 科学技術の陥穽3:科学技術の帰結としてみた原子爆弾
8. 科学技術の陥穽と「社会」1:原子爆弾はふつうの生活をどう破壊したのか
9. 科学技術の陥穽と「社会」2:原子爆弾は現在もふつうの生活に陰を落としている(広島からのオンライン授業を予定)
10. 科学技術の社会的課題1:原子力発電と放射線被害を考える
11. 科学技術の社会的課題2: 科学技術によって地球環境問題は解決可能かを考える
12. 科学技術の社会的課題3:兵器の開発による科学技術の発展について考える
13. 現代社会と科学主義1:科学への信頼はなぜ揺らいでいるのかを考える
14. 現代社会と科学主義2:科学的知見や科学的手法が現代社会に持つ意義を考える
15. まとめ:未来社会への科学的貢献について考える

成績評価の方法

評価 : レポート 60% ・ その他(コメントペーパーの提出などの平常点) 40%

再評価: 再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は特に必要ありません。興味を持った内容について、授業内で紹介する文献を読むなどして思考を深めてください。

教科書

指定なし

毎回プリントを配布します

参考書

佐倉統『科学とはなにか』講談社ブルーバックス(2020)

P.ブルデュー『科学の科学』藤原書店(2010)

山本義隆『近代日本 150 年―科学技術総力戦体制の破綻』岩波新書(2018)

他授業内で随時紹介していきます

履修上の注意事項

単位取得には、3 分の 2 以上の出席が必要です。学外講師の都合により日程が変更になることがあります。本講義では、生成系 AI の使用を認めます。ただし、課題等の作成において、AI が生成した文章や回答をそのまま流用することは禁止します。

備考

キーワード

近代社会・科学技術・原爆

時間割番号	000040				
科目名	人文社会科学特論(高齢者福祉論)			科目ID	
担当教員	BAO MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 4講
対象学科: 全学科
募集人数:30人
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-2)

授業の目的、概要等

少子高齢社会の到来により、「高齢化」は今日の社会生活にとって不可避な課題となっている。「高齢化」への取り組みは、現在、そして今後も社会のあり方を左右する重要な社会的・国家的な課題となっている。少子高齢社会は、高齢者のみならず、すべての世代に関係するテーマである。本講義では、すべての世代が支え合う社会づくりを目指す視点から、若い世代が取り組むべき課題と対応について検討することを目的としている。

授業の到達目標

日本における少子高齢化の状況を学び、また、高齢者の実像を知るとともに高齢者福祉の制度・政策の意義と課題を理解することができるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/10	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	第1回 高齢者理解の視点①	高齢者の社会的理解 高齢者の身体的理解	BAO MIN	高齢者の社会的、身体的特徴について説明ができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答,グループディスカッション
3-4	4/17	13:30-15:10	計算機実習室	第2回 高齢者理解の視点②	高齢者の精神的理解 高齢者の総合的理解	BAO MIN	高齢者の精神な特徴及び総合的理解について説明ができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答,グループディスカッション
5-6	4/24	13:30-15:10	計算機実習室	第3回 少子高齢社会と高齢者①	少子高齢社会と社会問題	BAO MIN	戦後日本における少子高齢化の推移について説明できる。 地元の高齢化状況に関する発表、リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/1	13:30-15:10	計算機実	第4回 少子高齢社会と	高齢者を取り巻く諸問題	BAO MIN	具体的に高齢者

			習室	高齢者②			を取り巻く問題が説明できるようになる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	5/8	13:30-15:10	計算機実習室	第5回 高齢者保健福祉の発展と法体系	高齢者保健福祉制度の発展 高齢者保健福祉の法体系	BAO MIN	戦後高齢者保健福祉制度の発展の経過及び高齢者保健福祉の法体系を理解し、説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
11-12	5/15	13:30-15:10	計算機実習室	第6回 高齢者支援の関係法規①	老人福祉法	BAO MIN	老人福祉法の主な内容が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	5/22	13:30-15:10	計算機実習室	第7回 高齢者支援の関係法規②	高齢者の医療の確保に関する法律	BAO MIN	後期高齢者医療制度が説明できる。具体的な法改正の最新内容が理解でいる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	5/29	13:30-15:10	計算機実習室	第8回 高齢者支援の関係法規③	高齢者虐待防止法、その他の関係法規(バリアフリー新法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度、社会参加と生涯学習)	BAO MIN	高齢者虐待の実態を知り、高齢者虐待防止法の内容が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/5	13:30-15:10	計算機実習室	第9回 介護保険法の概要①	介護保険法制度の全体像、介護保険制度の目的、保険財政	BAO MIN	介護保険法制定の経緯を知り、介護保険法の全体像が理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答、地元の介護保険のパンフレットを入手し、学習する。
19-20	6/12	13:30-15:10	計算機実習室	第10回 介護保険法の概要②	保険者と被保険者要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業	BAO MIN	地元の介護保険の実態に照らし、保険者と被保険者要介護認定の仕組みとプロセ

							ス、保険給付、介護報酬、地域支援事業が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答。
21-22	6/19	13:30-15:10	計算機実習室	第 11 回 介護保険法の概要③	介護保険事業計画、苦情処理、審査請求 介護保険の最近の動向	BAO MIN	介護保険事業計画、苦情処理、審査請求 介護保険の最近の動向を把握し、説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	6/26	13:30-15:10	計算機実習室	第 12 回 介護保険のサービス体系①	介護保険サービスにおける専門職の役割と実際 居宅サービス	BAO MIN	地元の介護保険の実態に照らし、介護保険サービスにおける専門職の役割と実際、居宅サービスの具体的な内容が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答。
25-26	7/3	13:30-15:10	計算機実習室	第 13 回 介護保険のサービス体系②	施設サービス	BAO MIN	施設サービスの種類が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/10	13:30-15:10	計算機実習室	第 14 回 介護保険のサービス体系③	地域密着型サービス、介護予防サービス	BAO MIN	地元の実情に照らし、地域密着型サービス、介護予防の内容が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/17	13:30-15:10	計算機実習室	第 15 回 まとめ	近未来の高齢者福祉課題	BAO MIN	今後高齢者福祉の課題が説明できる。 教場レポート作成

授業方法

講義形式で授業を行い、毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーとして提出し、フィードバックする。授業内容に対し、課題発表やミニ討論をすることがある。

授業内容

第 1 回 高齢者理解の視点①

高齢者の社会的理解

高齢者の身体的理解
第 2 回　高齢者理解の視点②
高齢者の精神的理解
高齢者の総合的理解
第 3 回　少子高齢社会と高齢者①
少子高齢社会と社会問題
第 4 回　少子高齢社会と高齢者②
高齢者を取り巻く諸問題
第 5 回　高齢者保健福祉の発展と法体系
高齢者保健福祉制度の発展
高齢者保健福祉の法体系
第6回　高齢者支援の関係法規①
老人福祉法
第 7 回　高齢者支援の関係法規②
高齢者の医療の確保に関する法律
第 8 回　高齢者支援の関係法規③
高齢者虐待防止法、その他の関係法規(バリアフリー新法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度、社会参加と生涯学習)
第 9 回　介護保険法の概要①
介護保険法制度の全体像、介護保険制度の目的、保険財政
第 10 回　介護保険法の概要②
保険者と被保険者要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護報酬、地域支援事業
第 11 回　介護保険法の概要③
介護保険事業計画、苦情処理、審査請求　介護保険の最近の動向
第 12 回　介護保険のサービス体系①
介護保険サービスにおける専門職の役割と実際　居宅サービス
第 13 回　介護保険のサービス体系②
施設サービス
第 14 回　介護保険のサービス体系③
地域密着型サービス、介護予防サービス
第 15 回　まとめ
近未来の高齢者福祉課題

成績評価の方法

レポート:60% ・ その他(授業参加、授業中課題)40%
再評価:　有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は特に必要ありませんが、復習をしっかり行ってください。その際、授業中配布した資料と教科書の内容を確認し理解を深めてください。

試験の受験資格

①原則3分の2以上出席、②授業中の課題を提出すること。

教科書

最新社会福祉士養成講座『 高齢者福祉』(第 2 版)／一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集:中央法規出版, 2025 年

参考書

高齢社会白書(令和 7 年版)／内閣府 [編集]:サンワ, 2025.7
福祉小六法 2026／中央法規出版編集部 (編集):中央法規出版, 2025.12
開講中、随時提示する。

履修上の注意事項
出欠は、出欠管理システムの記録と教員が取る出欠を併用して管理します。
連絡先（メールアドレス）
min.b.8dae@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
水曜日　12:30～13:00　管理研究棟 3 階　研究室

時間割番号	00290				
科目名	フィジカルウェルビーイング			科目ID	
担当教員	柳下 和慶, 髙木 俊輔, 大見 武弘, 竹内 康雄, 渡邊 洋子, 内山 麻夕美, 内藤 省太郎, 井原 拓哉, 星野 傑[YAGISHITA Kazuyoshi, TAKAGI Shunsuke, OMI Takehiro, TAKEUCHI Yasuo, WATANABE Yoko, UCHIYAMA Mayumi, NAITO Shotaro, IBARA Takuya, HOSHINO Takashi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 4 講

対象学科:全学科(選択)

募集人数:40 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-4)異なる空間の文化を理解する

1-7)人間の心への理解を深める

1-8)自己の心と体を管理する能力を獲得する

2-1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

主な講義場所

ILA 国府台

授業の目的、概要等

本授業のキーワードは、「wellbeing:ウェルビーイング」と「運動」である。

「ウェルビーイング」は「幸福」「健康」とも訳され、ひとびとの目指す根源的なものである。WHO 憲章では"Health is a state of complete physical, mental and social wellbeing."としており、身体的・精神的・社会的ウェルビーイングは健康における重要な要素となる。医療従事者を目指す学生が健康の基本的概念であるウェルビーイングを知ることはとても大切である。特にウェルビーイングの中でもフィジカルウェルビーイングは身体的健康とも訳され、医療や医学に直結する。

日本は高齢化社会を迎え健康寿命の延伸が求められる中、健康を保つには身体機能の維持が重要であり、特に運動と身体的健康との関連性の重要性が言われている。例えば糖尿病等代謝疾患や認知症の予防に運動は大きく寄与し、また運動は骨代謝やメンタルヘルスにも大きく影響する。また歯科疾患とフィジカルウェルビーイングとの関連性を知ることも大切である。

本授業の目的は、フィジカルウェルビーイングと運動の関連性と重要性の理解を通じて、健康ウェルビーイングのために身体機能が重要なことを知ることである。

さらに本授業ではスポーツ医・科学を紹介し、運動やスポーツと医療・医学との関係性を知り、運動やスポーツの重要性を知ることも目的となる。

授業の到達目標

1)フィジカルウェルビーイングと運動の関係性や重要性を理解し、健康ウェルビーイングのために身体機能が重要であることを理解すること

・運動が好影響を与える疾患や病態と、そのメカニズムを概説できること

・ウェルビーイングの構成要素を、概説できること

2)運動評価法を学ぶことにより、運動機能の一端について理解が及ぶこと

・ロコモティブシンドロームとフレイルが概説できること

3)運動やスポーツと医療・医学との関係性を知り、運動やスポーツの重要性を知ること

・スポーツ医学が対象とする事項を、複数挙げられること

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/10	15:25-17:05	遠隔授業(同期型)	フィジカルウェルビーイングと運動 オリエンテ	授業全体のオリエンテーション	柳下 和慶	

				ーション			
3-4	4/17	15:25-17:05	9 番教室	筋肉と運動器	運動の基本となる筋肉、運動生理学、トレーニングについて。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶	運動器と運動生理学とは何かを答えられる。有酸素運動とレジスタンストレーニングの違いを理解すること。リアクションペーパー
5-6	4/24	15:25-17:05	9 番教室	運動器の疾患:サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル	『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶	サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイルを概説できること。リアクションペーパー
7-8	5/1	15:25-17:05	9 番教室	運動と糖尿病・心血管系疾患・透析患者・発症予防のメカニズム	糖尿病や心血管系疾患の予防や治療、透析患者における運動の効果を知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 内藤 省太郎	運動による糖尿病・心血管系疾患の予防と治療の効果を知ること。運動と透析患者の関係性を知ること リアクションペーパー
9-10	5/8	15:25-17:05	9 番教室	歯周病と全身疾患との関係	口腔が全身の一器官として全身状態・健康に連環があることを知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 竹内 康雄	全身の一臓器としての口腔の役割を理解し、口腔疾患が全身の健康に影響を与える可能性や考えられる機序についてしること。リアクションペーパー
11-12	5/15	15:25-17:05	9 番教室	ストレスマネジメント	『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 渡邊 洋子	ストレスマネジメントの構成の概要を説明できるようになること。自分のストレス対処法を知り、実践すること。 授業中の複数回の質疑応答・グループワーク
13-14	5/22	15:25-17:05	9 番教室	高気圧酸素とスポーツ	高気圧酸素治療の概要を知り、スポーツ医学への活用の可能性を知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり。	柳下 和慶	高気圧酸素治療とは何かを知る。スポーツ外傷の治療との関連性を知る。リアクションペーパー

15-16	5/29	15:25-17:05	9 番教室	運動評価法:バイオメカニクス	バイオメカニクスを用いた運動・動作の評価方法を知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 井原 拓哉	身近な動作について、バイオメカニクスの考え方を用いて説明できること。リアクションペーパー
17-18	6/5	15:25-17:05	9 番教室	コンディショニング:姿勢	姿勢と運動機能障害との関係性、理想的な姿勢の基準とその評価、姿勢の修正方法について講義・実演する。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 大見 武弘	理想的な姿勢の基準を説明できる。力学的観点による簡便な姿勢評価とその修正方法を理解できる。リアクションペーパー
19-20	6/12	15:25-17:05	9 番教室	スポーツ医学概論・アンチドーピング	スポーツ医学とアンチドーピングの概要を知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり。	柳下 和慶	運動やスポーツと医療・医学との関係性を知り、アンチドーピングは何かを知る。リアクションペーパー
21-22	6/19	15:25-17:05	9 番教室	スポーツ医学:ミラノコルティナオリンピックでのスピードスケートメディカルサポート	ミラノコルティナオリンピックでのスピードスケート競技におけるメディカルサポートを知る。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料予定	柳下 和慶 星野 傑	トップアスリートの最高の舞台オリンピックでのメディカルサポートを知る。リアクションペーパー
23-24	6/26	15:25-17:05	9 番教室	スポーツ精神医学	スポーツ世界、アスリートにおいて起こる精神的な問題について知ること。また、精神科治療でのスポーツの効力について知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料予定	柳下 和慶 髙木 俊輔	アスリートに頻度が高く起こる独特の精神疾患について、数種類を答えられるようになる。また、その原因となるアスリートの独特の心性や傾向を答えられるようになる。リアクションペーパー、授業中の質疑応答
25-26	7/3	15:25-17:05	9 番教室	メンタルヘルスケアと睡眠・運動	スポーツのパフォーマンスにも影響を与えるメンタルヘルスについて知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 平井 伸英	学生時代に問題となりやすいメンタルヘルスについて学び、スポーツや日常生活に生かすためのヒントとすること。リアクションペー

							パー
27-28	7/10	15:25-17:05	9 番教室	ウェルビーイング / フィジカルウェルビーイング 概論	ウェルビーイング/フィジカルウェルビーイングの概要を知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料予定	柳下 和慶	リアクションペーパー
29-30	7/17	15:25-17:05	9 番教室	歯科からの健康	『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶 内山 麻夕美	歯科からの健康の概要を知ること。リアクションペーパー

授業方法

授業は講義形式で行う。一部意見交換なども行われる。
基本的には対面授業となる。
一部授業では、専門家の外部講師により講義を行う。
リアクションペーパー:授業開始時に配布し、自由記載をして、授業終了後に回収する。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

評価:
授業中の回答・姿勢等 20%
リアクションペーパー 45%、最終レポート 35%
再評価:有り(試験もしくはレポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程」の第 6 条による。

準備学習等についての具体的な指示

各授業の項目について、事前学習が望まれる。

試験の受験資格

原則、全授業の 2/3 以上の出席をすること。

参考書

筋:機能とテスト 姿勢と痛み／ケンダル他:西村書店, 2006 年
3訂版・運動生理学の基礎と発展／春日規克:フリースペース, 2018 年
わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために ーその思想、実践、技術／渡邊淳司ほか:BNN, 2020 年
歯周病と全身の健康 https://www.perio.jp/publication/upload_file/guideline_perio_body.pdf／日本歯周病学会 編:医歯薬出版株式会社, 2015
マインドフルネスそして ACT へ 二十一世紀の自分探しプロジェクト／熊野宏昭:星和書店, 2011 年
スポーツ医学研修ハンドブック 基礎科目 第2版／日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会:文光堂, 2011 年
スポーツ医学研修ハンドブック 応用科目 第2版／日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会:文光堂, 2012 年

他科目との関連

「フィットネスマネジメント」「S 科目:ソーシャルウェルビーイング・コミュニケーション実践」「人文社会科学Ⅱ」と関連する。

履修上の注意事項

講義中にスクリーンの撮影を禁止する。講義資料、ストリーミングなどは著作権の問題があるので、受講登録者以外に公開することを禁ずる。

備考

看護学専攻においては、保健師免許取得後の申請により「養護教諭二種免許状」を取得することが可能である。取得に当たっては、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目「体育」(2単位)を取得することが必須だが、本科目「フィジカルウェルビーイング」は「体育」(2単位)に相当する。

連絡先(メールアドレス)

柳下 和慶:yagishita.k.226c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

柳下　和慶:毎週木曜日 12:30-13:00 管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	00300				
科目名	フィットネスマネジメント			科目ID	
担当教員	柳下 和慶, 山口 大輔, 大見 武弘, 加地 真也, 内藤 省太郎, 名嘉 友梨, 井上 ねね, 角山 貴之, 島野 愛友利, 桑原 真澄[YAGISHITA Kazuyoshi, YAMAGUCHI Daisuke, OMI Takehiro, KAJI Shinya, NAITO Shotaro, NAKA Yuri, INOUE Nene, TSUNOYAMA Takayuki, SHIMANO Ayuri, KUWAHARA Masumi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:[前期]火曜日 1 講
対象学科:看護学専攻
募集人数:50 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー) :
1-1) 言語を通した人間の創造的営みを理解する
1-4) 異なる空間の文化を理解する
1-7) 人間の心への理解を深める
1-8) 自己の心と体を管理する能力を獲得する
2-4) 自己問題提起・解決型の学習方法を身につける
3-3) チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける

主な講義場所

座学:国府台地区 管理研究棟 9 番教室
実習系:国府台地区 キャンパスグラウンド、体育館のいずれかを使用予定です。
天候などにより室外・室内の変更があります。

授業の目的、概要等

本授業では様々な運動・アクティビティ・スポーツなどを通して各々の個性に合ったコミュニケーションのあり方について学ぶ事を第一の目的とします。

医療の世界では患者の健康の維持・獲得という目標に向かって沢山の専門家と”チーム”として動いていく必要が多く出てきます。そのためにはまず各々が自分自身の個性について理解し、表現できるようになること。その上で仲間の個性を知り、それぞれの長所を活かし、それぞれの短所を補い合えるためのコミュニケーションが大切です。チーム全体の状況を把握しながら時にはチームを引っ張り(リード)、時には指示に従い(フォロー)ながらサポート役となる必要も出てきます。

様々なアクティビティを通じ、様々な状況に適応しながらそれぞれが”自分らしさ”を発揮するためにどうするのが良いか考えれる機会を作っていければと思います。

授業の到達目標

- 自分自身の長所・短所について考え、知る。
- 仲間の長所・短所を知り、個性の活かし方について考える。
- 自分の意見・考えを伝えられる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/21	08:50-10:30	9 番教室, その他	フィットネスマネジメント オリエンテーション	【屋内】オリエンテーション 【屋外】フィットネスマネジメントのオリエンテーション。 屋外での運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 名嘉 友梨, 山口 大輔, 角山 貴之	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める

3-4	4/28	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 名嘉 友梨, 山口 大輔, 桑原 真澄	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
5-6	5/12	08:50-10:30	9番教室	マインドフルネス・ストレスマネジメント	マインドフルネスの概要を知り、ストレスマネジメントやマインドフルネスを得るための自分自身の具体的対処方法を知る。	柳下 和慶, 渡邊 洋子	ストレスマネジメントの構成の概要を説明できるようになること。自分のストレスに向かう対処法を知り、実践すること。 授業中の複数回の質疑応答・グループワーク
7-8	5/19	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 山口 大輔, 桑原 真澄	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
9-10	5/26	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 角山 貴之, 井上 ねね	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
11-12	6/2	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 井上 ねね, 島野 愛友利, 名嘉 友梨	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
13-14	6/9	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 島野 愛友利, 山口 大輔	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
15-16	6/16	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 角山 貴之, 桑原 真澄	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
17-18	6/23	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 名嘉 友梨, 島野 愛友利, 井上 ねね	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
19-20	6/30	08:50-10:30	その他	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 角山 貴之,	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コ

						桑原 真澄	ミュニケーション能力を高める
21-22	7/7	08:50-10:30	9 番教室	フィットネスマネジメント	【屋外】運動・スポーツアクティビティ	柳下 和慶, 加地 真也, 山口 大輔, 桑原 真澄, 井上 ねね	屋外での運動に参加することにより、自己を知り、コミュニケーション能力を高める
23-24	7/14	08:50-10:30	9 番教室	筋肉と運動器・運動と健康	筋と運動器を知り、健康に対する運動の重要性について整理する。『フィットネスマネジメント』LMS に資料あり	柳下 和慶	運動が健康に重要であることを理解する。
25-26	7/21	08:50-10:30	9 番教室	運動と糖尿病・心血管系疾患・透析患者	糖尿病や心血管系疾患の予防や治療、透析患者における運動の効果を知ること。『フィットネスマネジメント』LMS に資料あり	柳下 和慶, 内藤 省太郎	運動による糖尿病・心血管系疾患の予防と治療の効果を知ること。運動と透析患者の関係性を知ること リアクションペーパー
27-28	7/24	08:50-10:30	9 番教室	コンディショニング・姿勢	姿勢と運動機能障害との関係性、理想的な姿勢の基準とその評価、姿勢の修正方法について講義・実演する。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり	柳下 和慶, 大見 武弘	理想的な姿勢の基準を説明できる。力学的観点による簡便な姿勢評価とその修正方法を理解できる。 リアクションペーパー
29-30	7/28	08:50-10:30	9 番教室	スポーツ医学・アンチドーピング	スポーツ医学とアンチドーピングの概要を知ること。『フィジカルウェルビーイング』LMS に資料あり。	柳下 和慶	運動やスポーツと医療・医学との関係性を知り、アンチドーピングは何かを知る。 リアクションペーパー

授業方法

実習は、様々な運動指導の専門を持つ 7 名ほどの講師による実習形式で行われます。

授業内容

実習授業の主な目標:

- 自身の身体特性について知る
- 様々なリーダーシップ・フォロワーシップのあり方を知る
- 自身や仲間の特徴を活かしてチームの全体の成長について考える
- 各アクティビティにおけるチーム力の向上のために自己を主張し、且つ他の意見を取り入れ、活かせるバランス感覚を養う

成績評価の方法

評価:出席・参加度 60%、レポート 40%

再評価: 有 (レポート等による)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程」の第 6 条による

準備学習等についての具体的な指示

単に授業に参加して運動等を実践するだけでなく、今後自身の生活や仕事のあり方に本授業で経験する事をどう繋げていけるかイメージを持ちながら授業に参加する事が大切になります。「勝ち・負け」「上手・下手」などの”他との比較による評価”にとらわれず、自身やクラスメイトが成長少しずつでも良い方向に変わっていけるように「挑戦・トライ」していけるかどうかが鍵となります。
失敗や他と違う事を恐れずに、自分が出来ること、出来そうなことにチャレンジできる空間づくりを参加者全員で目指していきましょう。

試験の受験資格

本授業は座学と実習系科目である。原則全授業の 2/3 以上の出席を評価対象の資格とします。また、最終レポートが授業目的達成度の評価となりますので、レポート提出は単位認定の最低条件です。

他科目との関連

「フィジカルウェルビーイング」「S 科目：ソーシャルウェルビーイング・コミュニケーション実践」「人文社会科学概論Ⅱ」と関連します。

履修上の注意事項

実習では、動きやすい服装を用意する事をお勧めします。 また、天候悪化の際に急遽室内に場所を変更する可能性もあるので室内運動靴は常備しておくのがよいです。

備考

看護学専攻においては、保健師免許取得後の申請により「養護教諭二種免許状」を取得することが可能である。取得に当たっては、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目「体育」(2単位)を取得することが必須だが、本科目「フィットネスマネジメント」は「体育」(2単位)に相当する。

参照ホームページ

身体診断セルフチェック
(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/jsa_00040.html#001)

連絡先(メールアドレス)

柳下　和慶:yagishita.k.226c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

柳下　和慶:毎週木曜日 12:30-13:00 管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	00310				
科目名	ドイツ語 I			科目 ID	
担当教員	藤井 俊吾, 栗田 圭子[FUJII Shungo, KURITA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

時間・曜日:木曜3・4講 教員ごとに2クラスに分かれます。
対象学科 : 全学科
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-4, 3-1, 3-4, 3-6

授業の目的、概要等

ドイツ語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。文字や発音の紹介から始め、基礎的なドイツ語の運用能力の修得を目指します。比較的自由な語順や 4 つの格を有するドイツ語を学ぶことは他の言語を学ぶ足掛かりとなるだけではなく、変化を続けるドイツ・ヨーロッパ社会を学ぶ手掛かりになります。

授業の到達目標

①標準ドイツ語を正しく発音し、簡単な文章を音読できるようになります。
②基礎的な文法を理解し、単純な構造の文を作ったり解釈したりできるようになります。
③目安として、ドイツ語技能検定試験5級合格レベルの到達を目標とします。

授業方法

講義形式で各課の項目ごとに文法事項を説明→問題演習→解答解説の手順で進めます。
学習内容の整理や各自の理解度のチェックのために授業内でグループワークを行うこともあります。また、日本語や英語など他の言語とのしくみの違い、文化的背景などについて意見交換を行います。学習の際の疑問には随時応えます。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション、ドイツ語の文字と発音
第 2 回 動詞の人称変化
第 3 回 haben の sein の人称変化、名詞の性と冠詞
第 4 回 冠詞と名詞の格変化
第 5 回 所有冠詞、否定冠詞
第 6 回 不規則な人称変化
第 7 回 命令・依頼の表現
第 8 回 定冠詞類、人称代名詞の格変化
第 9 回 wer と was の格変化
第 10 回 前置詞①
第 11 回 前置詞②、曜日、月季節の名称
第 12 回 話法の助動詞、分離動詞①
第 13 回 分離動詞②、現在完了①
第 14 回 現在完了②、まとめと復習
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価 :試験 60% ・ 小テスト 10% ・ 平常点 30%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、宿題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。
試験の受験資格 3 分の 2 以上の授業に出席した者にのみ期末試験の受験資格を与えます。
教科書 シュトラーセ・ノイ／立教大学ドイツ語教育研究室 監修:朝日出版社, 2017.3
他科目との関連 ドイツ語Ⅱではドイツ語の会話・聞き取り・読解を中心に学びます。ドイツ語能力を磨きたい受講者はこちらも受講すると実践的なドイツ語力が身に付きます。
履修上の注意事項 語学の習得には授業外での自主学習も重要であるため、ある程度は学習時間を確保するようにして下さい。
備考 期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須のため、注意して下さい。
連絡先(メールアドレス) 藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー 藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	003101				
科目名	ドイツ語 I			科目 ID	
担当教員	藤井 俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

時間・曜日：木曜3講 教員ごとに2クラスに分かれます。

対象学科 ： 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：1-1, 1-4, 3-1, 3-4, 3-6

授業の目的、概要等

ドイツ語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。文字や発音の紹介から始め、基礎的なドイツ語の運用能力の修得を目指します。比較的自由な語順や 4 つの格を有するドイツ語を学ぶことは他の言語を学ぶ足掛かりとなるだけではなく、変化を続けるドイツ・ヨーロッパ社会を学ぶ手掛かりになります。

授業の到達目標

①標準ドイツ語を正しく発音し、簡単な文章を音読できるようになります。

②基礎的な文法を理解し、単純な構造の文を作ったり解釈したりできるようになります。

③目安として、ドイツ語技能検定試験5級合格レベルの到達を目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
3-4	4/23	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
5-6	4/30	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
7-8	5/7	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
9-10	5/14	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
11-12	5/21	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
13-14	5/28	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
15-16	6/4	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
17-18	6/11	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
19-20	6/18	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
21-22	6/25	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
23-24	7/2	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
25-26	7/9	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
27-28	7/16	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾
29-30	7/23	13:30-15:10	8 番教室	藤井 俊吾

授業方法

講義形式で各課の項目ごとに文法事項を説明→問題演習→解答解説の手順で進めます。

学習内容の整理や各自の理解度のチェックのために授業内でグループワークを行うこともあります。また、日本語や英語など他の言語とのしくみの違い、文化的背景などについて意見交換を行います。学習の際の疑問には随時応えます。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション、ドイツ語の文字と発音

第 2 回 動詞の人称変化

第 3 回 haben の sein の人称変化、名詞の性と冠詞

第 4 回 冠詞と名詞の格変化
第 5 回 所有冠詞、否定冠詞
第 6 回 不規則な人称変化
第 7 回 命令・依頼の表現
第 8 回 定冠詞類、人称代名詞の格変化
第 9 回 wer と was の格変化
第 10 回 前置詞①
第 11 回 前置詞②、曜日、月季節の名称
第 12 回 話法の助動詞、分離動詞①
第 13 回 分離動詞②、現在完了①
第 14 回 現在完了②、まとめと復習
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価 :試験 60% ・ 小テスト 10% ・ 平常点 30%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、宿題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席した者にのみ期末試験の受験資格を与えます。

教科書

シュトラーセ・ノイ／立教大学ドイツ語教育研究室 監修:朝日出版社, 2017.3

他科目との関連

ドイツ語Ⅱではドイツ語の会話・聞き取り・読解を中心に学びます。ドイツ語能力を磨きたい受講者はこちらも受講すると実践的なドイツ語力が身に付きます。

履修上の注意事項

語学の習得には授業外での自主学習も重要であるため、ある程度は学習時間を確保するようにして下さい。

備考

期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須のため、注意して下さい。

連絡先(メールアドレス)

fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00 管理研究棟 2 階 研究室

時間割番号	003102				
科目名	ドイツ語 I			科目 ID	
担当教員	藤井 俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

時間・曜日：木曜4講 教員ごとに2クラスに分かれます。

対象学科 ： 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：1-1, 1-4, 3-1, 3-4, 3-6

授業の目的、概要等

ドイツ語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。文字や発音の紹介から始め、基礎的なドイツ語の運用能力の修得を目指します。比較的自由な語順や 4 つの格を有するドイツ語を学ぶことは他の言語を学ぶ足掛かりとなるだけではなく、変化を続けるドイツ・ヨーロッパ社会を学ぶ手掛かりになります。

授業の到達目標

①標準ドイツ語を正しく発音し、簡単な文章を音読できるようになります。

②基礎的な文法を理解し、単純な構造の文を作ったり解釈したりできるようになります。

③目安として、ドイツ語技能検定試験5級合格レベルの到達を目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
3-4	4/23	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
5-6	4/30	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
7-8	5/7	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
9-10	5/14	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
11-12	5/21	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
13-14	5/28	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
15-16	6/4	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
17-18	6/11	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
19-20	6/18	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
21-22	6/25	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
23-24	7/2	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
25-26	7/9	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
27-28	7/16	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾
29-30	7/23	15:25-17:05	8 番教室	藤井 俊吾

授業方法

講義形式で各課の項目ごとに文法事項を説明→問題演習→解答解説の手順で進めます。

学習内容の整理や各自の理解度のチェックのために授業内でグループワークを行うこともあります。また、日本語や英語など他の言語とのしくみの違い、文化的背景などについて意見交換を行います。学習の際の疑問には随時応えます。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション、ドイツ語の文字と発音

第 2 回 動詞の人称変化

第 3 回 haben の sein の人称変化、名詞の性と冠詞

第 4 回 冠詞と名詞の格変化
第 5 回 所有冠詞、否定冠詞
第 6 回 不規則な人称変化
第 7 回 命令・依頼の表現
第 8 回 定冠詞類、人称代名詞の格変化
第 9 回 wer と was の格変化
第 10 回 前置詞①
第 11 回 前置詞②、曜日、月季節の名称
第 12 回 話法の助動詞、分離動詞①
第 13 回 分離動詞②、現在完了①
第 14 回 現在完了②、まとめと復習
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価 :試験 60% ・ 小テスト 10% ・ 平常点 30%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、宿題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席した者にのみ期末試験の受験資格を与えます。

教科書

シュトラーセ・ノイ／立教大学ドイツ語教育研究室 監修:朝日出版社, 2017.3

他科目との関連

ドイツ語Ⅱではドイツ語の会話・聞き取り・読解を中心に学びます。ドイツ語能力を磨きたい受講者はこちらも受講すると実践的なドイツ語力が身に付きます。

履修上の注意事項

語学の習得には授業外での自主学習も重要であるため、ある程度は学習時間を確保するようにして下さい。

備考

期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須のため、注意して下さい。

連絡先(メールアドレス)

fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00 管理研究棟 2 階 研究室

時間割番号	003103				
科目名	ドイツ語 I			**科目 ID**	
担当教員	栗田　圭子[KURITA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

時間・曜日：木曜3講　教員ごとに2クラスに分かれます。

対象学科　：　全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：1-1, 1-4, 3-1, 3-4, 3-6

授業の目的、概要等

ドイツ語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。文字や発音の紹介から始め、基礎的なドイツ語の運用能力の修得を目指します。比較的自由な語順や 4 つの格を有するドイツ語を学ぶことは他の言語を学ぶ足掛かりとなるだけではなく、変化を続けるドイツ・ヨーロッパ社会を学ぶ手掛かりになります。

授業の到達目標

①標準ドイツ語を正しく発音し、簡単な文章を音読できるようになります。

②基礎的な文法を理解し、単純な構造の文を作ったり解釈したりできるようになります。

③目安として、ドイツ語技能検定試験5級合格レベルの到達を目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
3-4	4/23	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
5-6	4/30	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
7-8	5/7	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
9-10	5/14	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
11-12	5/21	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
13-14	5/28	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
15-16	6/4	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
17-18	6/11	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
19-20	6/18	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
21-22	6/25	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
23-24	7/2	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
25-26	7/9	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
27-28	7/16	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
29-30	7/23	13:30-15:10	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾

授業方法

講義形式で各課の項目ごとに文法事項を説明→問題演習→解答解説の手順で進めます。

学習内容の整理や各自の理解度のチェックのために授業内でグループワークを行うこともあります。また、日本語や英語など他の言語とのしくみの違い、文化的背景などについて意見交換を行います。学習の際の疑問には随時応えます。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション、ドイツ語の文字と発音

第 2 回 動詞の人称変化

第 3 回 haben の sein の人称変化、名詞の性と冠詞

第 4 回 冠詞と名詞の格変化
第 5 回 所有冠詞、否定冠詞
第 6 回 不規則な人称変化
第 7 回 命令･依頼の表現
第 8 回 定冠詞類、人称代名詞の格変化
第 9 回 wer と was の格変化
第 10 回 前置詞①
第 11 回 前置詞②、曜日、月季節の名称
第 12 回 話法の助動詞、分離動詞①
第 13 回 分離動詞②、現在完了①
第 14 回 現在完了②、まとめと復習
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価 :試験 60% ・ 小テスト 10% ・ 平常点 30%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、宿題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席した者にのみ期末試験の受験資格を与えます。

教科書

シュトラーセ･ノイ／立教大学ドイツ語教育研究室 監修:朝日出版社, 2017.3

他科目との関連

ドイツ語Ⅱではドイツ語の会話･聞き取り･読解を中心に学びます。ドイツ語能力を磨きたい受講者はこちらも受講すると実践的なドイツ語力が身に付きます。

履修上の注意事項

語学の習得には授業外での自主学習も重要であるため、ある程度は学習時間を確保するようにして下さい。

備考

期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須のため、注意して下さい。

時間割番号	003104				
科目名	ドイツ語 I			**科目 ID**	
担当教員	栗田　圭子[KURITA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

時間・曜日：木曜4講　教員ごとに2クラスに分かれます。

対象学科　：　全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：1-1, 1-4, 3-1, 3-4, 3-6

授業の目的、概要等

ドイツ語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。文字や発音の紹介から始め、基礎的なドイツ語の運用能力の修得を目指します。比較的自由な語順や 4 つの格を有するドイツ語を学ぶことは他の言語を学ぶ足掛かりとなるだけではなく、変化を続けるドイツ・ヨーロッパ社会を学ぶ手掛かりになります。

授業の到達目標

①標準ドイツ語を正しく発音し、簡単な文章を音読できるようになります。

②基礎的な文法を理解し、単純な構造の文を作ったり解釈したりできるようになります。

③目安として、ドイツ語技能検定試験5級合格レベルの到達を目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
3-4	4/23	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
5-6	4/30	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
7-8	5/7	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
9-10	5/14	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
11-12	5/21	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
13-14	5/28	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
15-16	6/4	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
17-18	6/11	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
19-20	6/18	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
21-22	6/25	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
23-24	7/2	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
25-26	7/9	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
27-28	7/16	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾
29-30	7/23	15:25-17:05	6 番教室	栗田　圭子, 藤井　俊吾

授業方法

講義形式で各課の項目ごとに文法事項を説明→問題演習→解答解説の手順で進めます。

学習内容の整理や各自の理解度のチェックのために授業内でグループワークを行うこともあります。また、日本語や英語など他の言語とのしくみの違い、文化的背景などについて意見交換を行います。学習の際の疑問には随時応えます。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション、ドイツ語の文字と発音

第 2 回 動詞の人称変化

第 3 回 haben の sein の人称変化、名詞の性と冠詞

第 4 回 冠詞と名詞の格変化
第 5 回 所有冠詞、否定冠詞
第 6 回 不規則な人称変化
第 7 回 命令・依頼の表現
第 8 回 定冠詞類、人称代名詞の格変化
第 9 回 wer と was の格変化
第 10 回 前置詞①
第 11 回 前置詞②、曜日、月季節の名称
第 12 回 話法の助動詞、分離動詞①
第 13 回 分離動詞②、現在完了①
第 14 回 現在完了②、まとめと復習
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価 :試験 60% ・ 小テスト 10% ・ 平常点 30%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、宿題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席した者にのみ期末試験の受験資格を与えます。

教科書

シュトラーセ・ノイ／立教大学ドイツ語教育研究室 監修:朝日出版社, 2017.3

他科目との関連

ドイツ語Ⅱではドイツ語の会話・聞き取り・読解を中心に学びます。ドイツ語能力を磨きたい受講者はこちらも受講すると実践的なドイツ語力が身に付きます。

履修上の注意事項

語学の習得には授業外での自主学習も重要であるため、ある程度は学習時間を確保するようにして下さい。

備考

期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須のため、注意して下さい。

時間割番号	00320				
科目名	ドイツ語Ⅱ			科目ID	
担当教員	藤井　俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜3講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-4, 3-1, 3-4, 3-6

授業の目的、概要等

ドイツ語を初めて学ぶ人を対象にした授業です。

基礎的な語彙と文法を学びながら、自己紹介や買い物といった日常的な生活場面において必要とされるドイツ語の運用能力を身につけます。

ドイツ語圏の地域・文化に関する知識の修得も同時に目指します。

ドイツ語圏の文化的特色や習慣について、日本のそれと比較しながら理解を深めることを期待しています。

授業の到達目標

①基礎的な文法・語彙を用いて、比較的単純な表現や文を理解し、自ら運用できるようになります。

②名前や出身、職業や家族構成等に関しての自己紹介、食習慣や買い物などの身近な話題に関する会話ができるようになります。

③ドイツ語圏の地域・文化に関する知識を深めることで、国際社会で活躍するための異文化間コミュニケーション能力を養います。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
3-4	4/17	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
5-6	4/24	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
7-8	5/1	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
9-10	5/8	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
11-12	5/15	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
13-14	5/22	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
15-16	5/29	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
17-18	6/5	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
19-20	6/12	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
21-22	6/19	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
23-24	6/26	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
25-26	7/3	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
27-28	7/10	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾
29-30	7/17	13:30-15:10	2 番教室	藤井　俊吾

授業方法

テーマごとに日常でよく使用される表現を取り上げます。

語彙・文型を導入後、ペア・ワークやグループ・ワークを行って会話練習をしながら、実際の会話場面で役立つコミュニケーション力をつけていきます。

教科書の課ごとに用意された題材に関し、聞き取りや簡単な作文、読解演習も行います。

ドイツ語圏の地域・文化に関する文章や資料に触れ、グループまたはクラス全体で意見交換を行います。

学習の際の疑問には随時応えます。

授業内容

第 1 回　オリエンテーション、ドイツ語の挨拶

第 2 回　自己紹介①

第 3 回　自己紹介②、疑問文と応答詞

第 4 回 他者紹介
第 5 回 持ち物、家族①
第 6 回 持ち物、家族②
第 7 回 食事と注文①
第 8 回 食事と注文②
第 9 回 ドイツとその隣国について
第 10 回 趣味と余暇①
第 11 回 趣味と余暇②
第 12 回 予定と約束①
第 13 回 予定と約束②
第 14 回 まとめと復習
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価 :試験 70% ・ レポート0% ・ その他(中間試験、平常点)30%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、宿題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須である。

教科書

シュトラーセ・ノイ／立教大学ドイツ語教育研究室 監修:朝日出版社, 2017.3

他科目との関連

ドイツ語Ⅰではドイツ語の文法や基本的な発音を学びます。ドイツ語Ⅱで学ぶ聞き取りや会話の練習のため、ドイツ語Ⅰで学んだ内容もしっかり復習するようにして下さい。

履修上の注意事項

語学の習得には授業外での自主学習が非常に重要ですので、ある程度の学習時間を確保するようにして下さい。

備考

期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が必須である点に注意して下さい。

連絡先(メールアドレス)

fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00 管理研究棟 2 階 研究室

時間割番号	003301				
科目名	フランス語 I			科目 ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 木曜 3 講

募集人数: 20 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 3-1

授業の目的、概要等

フランス語の基礎文法を習得する。

授業の到達目標

フランス語の文章読解に必要な発音と文法を一通り学ぶこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	13:30-15:10		
3-4	4/23	13:30-15:10		
5-6	4/30	13:30-15:10		
7-8	5/7	13:30-15:10		
9-10	5/14	13:30-15:10		
11-12	5/21	13:30-15:10		
13-14	5/28	13:30-15:10		
15-16	6/4	13:30-15:10		
17-18	6/11	13:30-15:10		
19-20	6/18	13:30-15:10		
21-22	6/25	13:30-15:10		
23-24	7/2	13:30-15:10		
25-26	7/9	13:30-15:10		
27-28	7/16	13:30-15:10		
29-30	7/23	13:30-15:10		

授業方法

講義と演習

授業内容

第1回 : Leçon 0 : 発音と綴り

第2回 : Leçon 1 : 名詞の性と数、冠詞、提示表現

第3回 : Leçon 2 : 主語人称代名詞、動詞 être と avoir の直説法現在形、指示代名詞、oui と non

第4回 : Leçon 3 : 第 1 群規則動詞の直説法現在、形容詞

第5回 : Leçon 4 : 第 2 群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、強勢形人称代名詞

第6回 : Leçon 5 : 否定文、疑問文 Leçon 6 : 不規則動詞 aller と venir の直説法現在、近接未来と近接過去、前置詞 à/de と定冠詞の縮約、疑問副詞

第7回 : Leçon 7 : 命令法、疑問形容詞、非人称構文 ; Leçon 8 : 疑問代名詞

第8回 : Leçon 9 : 比較級、最上級、性数変化する指示代名詞 ; Leçon 10 : 補語人称代名詞、補語人称代名詞の位置

第9回 : Leçon 11 : 直説法複合過去、複合過去の用法 ; Leçon 12 : 代名動詞

第10回 : Leçon 13 : 中性代名詞 ; Leçon 14 : 関係代名詞

第11回 : Leçon 15 : 受動態、所有代名詞、使役・放任・知覚動詞 ; Leçon 16 : 直説法半過去、直説法大過去

第12回 : Leçon 17: 直説法単純未来、直説法前未来 ; Leçon 18 : 現在分詞、ジェロンディフ

第13回 : Leçon 19 : 条件法、条件法の用法 ; Leçon 20 : 接続法、接続法の用法

第14回：直説法単純過去・前過去、直接話法・間接話法
第15回：期末試験

成績評価の方法

評価 ： 試験　 50% ・ 課題　20% ・ その他(平常点)　 30%
再評価:　有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習：教科書を読んでおく
復習：練習問題を解く

教科書

アトリエ・フランセ(2 訂版)/石上亜希子他/朝日出版社/2022.1

履修上の注意事項

毎回休まず出席し、課題をこなすこと。

備考

フランス語初級文法

時間割番号	003302				
科目名	フランス語 I			科目 ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 木曜 4 講

募集人数: 20 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 3-1

授業の目的、概要等

フランス語の基礎文法を習得する。

授業の到達目標

フランス語の文章読解に必要な発音と文法を一通り学ぶこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	15:25-17:05		
3-4	4/23	15:25-17:05		
5-6	4/30	15:25-17:05		
7-8	5/7	15:25-17:05		
9-10	5/14	15:25-17:05		
11-12	5/21	15:25-17:05		
13-14	5/28	15:25-17:05		
15-16	6/4	15:25-17:05		
17-18	6/11	15:25-17:05		
19-20	6/18	15:25-17:05		
21-22	6/25	15:25-17:05		
23-24	7/2	15:25-17:05		
25-26	7/9	15:25-17:05		
27-28	7/16	15:25-17:05		
29-30	7/23	15:25-17:05		

授業方法

講義と演習

授業内容

第1回 : Leçon 0 : 発音と綴り

第2回 : Leçon 1 : 名詞の性と数、冠詞、提示表現

第3回 : Leçon 2 : 主語人称代名詞、動詞 être と avoir の直説法現在形、指示代名詞、oui と non

第4回 : Leçon 3 : 第 1 群規則動詞の直説法現在、形容詞

第5回 : Leçon 4 : 第 2 群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、強勢形人称代名詞

第6回 : Leçon 5 : 否定文、疑問文 Leçon 6 : 不規則動詞 aller と venir の直説法現在、近接未来と近接過去、前置詞 à/de と定冠詞の縮約、疑問副詞

第7回 : Leçon 7 : 命令法、疑問形容詞、非人称構文 ; Leçon 8 : 疑問代名詞

第8回 : Leçon 9 : 比較級、最上級、性数変化する指示代名詞 ; Leçon 10 : 補語人称代名詞、補語人称代名詞の位置

第9回 : Leçon 11 : 直説法複合過去、複合過去の用法 ; Leçon 12 : 代名動詞

第10回 : Leçon 13 : 中性代名詞 ; Leçon 14 : 関係代名詞

第11回 : Leçon 15 : 受動態、所有代名詞、使役・放任・知覚動詞 ; Leçon 16 : 直説法半過去、直説法大過去

第12回 : Leçon 17: 直説法単純未来、直説法前未来 ; Leçon 18 : 現在分詞、ジェロンディフ

第13回 : Leçon 19 : 条件法、条件法の用法 ; Leçon 20 : 接続法、接続法の用法

第14回：直説法単純過去・前過去、直接話法・間接話法
第15回：期末試験

成績評価の方法

評価 ： 試験　 50% ・ 課題　20% ・ その他(平常点)　 30%
再評価:　有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習：教科書を読んでおく
復習：練習問題を解く

教科書

アトリエ・フランセ(2 訂版)/石上亜希子他/朝日出版社/2022.1

履修上の注意事項

毎回休まず出席し、課題をこなすこと。

備考

フランス語初級文法

時間割番号	00340				
科目名	フランス語Ⅱ			科目ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 金曜 3 講

募集人数: 10 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー) : 1-1, 1-3

授業の目的、概要等

フランス語の基礎的な会話を習得する。

授業の到達目標

フランス語会話に必要な発音と文法知識をもとに、基礎的な会話能力を養成すること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10		
3-4	4/17	13:30-15:10		
5-6	4/24	13:30-15:10		
7-8	5/1	13:30-15:10		
9-10	5/8	13:30-15:10		
11-12	5/15	13:30-15:10		
13-14	5/22	13:30-15:10		
15-16	5/29	13:30-15:10		
17-18	6/5	13:30-15:10		
19-20	6/12	13:30-15:10		
21-22	6/19	13:30-15:10		
23-24	6/26	13:30-15:10		
25-26	7/3	13:30-15:10		
27-28	7/10	13:30-15:10		
29-30	7/17	13:30-15:10		

授業方法

講義と演習

授業内容

第1回 : Initiation 1, 2

第2回 : 自分や相手、人について尋ねる

第3回 : 職業・国籍・言語について話す

第4回 : 人について尋ねる、もの・ことを示す、何語を話すか言う

第5回 : 好き嫌いについて話す

第6回 : 好きなことを言う、好き嫌いの程度を言い表す、したいことについて話す

第7回 : 好みを説明する、どちらが好きか理由を述べる、人を描写する

第8回 : 自分・科目・時間の使い方・時間割について話す

第9回 : 所有について話す、ものを借りる

第 10 回 : 場所について話す

第 11 回 : 何をするか尋ねる・答える、詳しく聞く

第 12 回 : 趣味・余暇について話す、頻度を示す、習慣について話す

第 13 回 : 家族について話す、過去の出来事について語る

第 14 回 : どこに行くか尋ねる・答える、時間を尋ねる・答える、どこにいったのか詳しく話す

第 15 回：期末試験
成績評価の方法 評価 ： 試験　 50% ・ 課題　 20% ・ その他(平常点)　 30% 再評価:　有
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 予習：教科書を読んでおく 復習：練習問題を解く 動詞の活用の練習をする
教科書 Spirale (Nouvelle édition) /Gaël Crépieux et al. / Hachette / 2015
履修上の注意事項 毎回休まず出席し、課題をこなすこと。
備考 フランス語基礎会話

時間割番号	00350				
科目名	中国語Ⅰ			科目ID	
担当教員	BAO MIN, YAN JIAQI[BAO MIN, YAN JIAQI]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りをすることにあります。前半は発音を中心とする授業を予定しています。発音段階が終われば、文章で中国語の構造に慣れながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていきます。

授業の到達目標

1)中国語の発音をマスターする。

2)中国語の基礎的な文法構造を理解したうえ、基本的な文章の意味がわかるようになる。

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第 1 回 中国語ガイダンス

第 2 回 声調・軽声・単母音

第 3 回 複母音

第 4 回 子音①、子音②

第 5 回 鼻母音

第 6 回 単語を増やそう

第 7 回 自己紹介①

第 8 回 自己紹介①

第 9 回 自己紹介②

第 10 回 自己紹介②

第 11 回 自己紹介③

第 12 回 自己紹介③

第 13 回 お誘い①

第 14 回 お誘い②

第 15 回 まとめ

成績評価の方法

評価:期末試験 70%・小テスト等 20%・その他(平常点)10%

再評価:有(再評価方法 再試験を実施する)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

新出単語の意味を事前に辞書で調べておくこと。

授業で習った文法項目をしっかり復習し、新出単語とピンインを暗記する。
習熟度を確認するため小テストを頻繁に行う。テスト範囲は多くの場合授業内で事前に指示する。
中国語の発音練習を実践すること。耳と口の訓練は必要なので、繰り返して声を出して会話をする。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
　原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

中国語でコミュニケーション／沈国威:朝日出版社, 2020

参考書

完全マスター中国語の文法／瀬戸口律子 著,:語研, 2015
中日辞典／北京・商務印書館, 小学館共同編集,商務印書館,小学館,:小学館, 2016
ベーシッククラウン中日・日中辞典 = The Basic Crown Dictionary of Chinese／千葉謙悟, 熊進 監修,三省堂編修所 編,千葉, 謙悟,熊, 進,三省堂,:三省堂, 2019
辞書について初回の授業中、紹介します。

履修上の注意事項

期末考査・再試験の受験資格 : 原則3分の2以上出席

連絡先(メールアドレス)

BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	003501				
科目名	中国語Ⅰ			科目ID	
担当教員	BAO MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りをすることにあります。前半は発音を中心とする授業を予定しています。発音段階が終われば、文章で中国語の構造に慣れながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていきます。

授業の到達目標

1)中国語の発音をマスターする。

2)中国語の基礎的な文法構造を理解したうえ、基本的な文章の意味がわかるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	計算機実習室	第1回 中国語ガイダンス	イントロダクション、発音①	BAO MIN	中国の概要が理解できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/23	10:45-12:25	計算機実習室	第2回 発音②	声調・軽声・単母音	BAO MIN	声調が理解できる。軽声・単母音が発音できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	4/30	10:45-12:25	計算機実習室	第3回 発音③	複母音	BAO MIN	複母音が発音できる。小テスト 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/7	10:45-12:25	計算機実習室	第4回 発音④	子音①、子音②	BAO MIN	子音が発音できる。 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答発音練習
9-10	5/14	10:45-12:25	計算機実習室	第5回 発音⑤	鼻母音	BAO MIN	鼻母音が発音できる。 発音練習 リアクションペー

							パーを用いた質疑応答発音練習
11-12	5/21	10:45-12:25	計算機実習室	第 6 回 発音⑥	単語を増やそう	BAO MIN	第教室用語が発音できる。小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	5/28	10:45-12:25	計算機実習室	第 7 回 自己紹介①	人称代名詞、名前の聞き方・名乗り方	BAO MIN	名前を言ったり尋ねたりできる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	6/4	10:45-12:25	計算機実習室	第 8 回 自己紹介①	動詞“是”、副詞“也・都”	BAO MIN	国籍や出身地を言ったり、尋ねたりできる。自己紹介発表① リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/11	10:45-12:25	計算機実習室	第 9 回 自己紹介②	動詞述語文、指示代名詞	BAO MIN	動詞述語文、指示代名詞 所属を言うことができる。小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
19-20	6/18	10:45-12:25	計算機実習室	第 10 回 自己紹介②	場所代名詞、疑問詞疑問文、連帯修飾語を作る“的”	BAO MIN	専攻を言うことができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	6/25	10:45-12:25	計算機実習室	第 11 回 自己紹介③	所在を表す動詞“在”、所有と存在を表す動詞“有”、方位詞①	BAO MIN	自分の家族や友達について紹介することができる所属を言うことができる。小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	7/2	10:45-12:25	計算機実習室	第 12 回 自己紹介③	名詞述語文、文末助詞の“了”	BAO MIN	年齢を尋ねたり、言うことができるリアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/9	10:45-12:25	計算機実習室	第 13 回 お誘い①	前置詞“在”、連動文	BAO MIN	友達と待ち合わせをすることができる。小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答

27-28	7/16	10:45-12:25	計算機実習室	第 14 回 お誘い②	反復疑問文、年月日・曜日・時刻	BAO MIN	年月日・曜日・時刻の中国語表ができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/23	10:45-12:25	計算機実習室	第 15 回 まとめ	期末試験	BAO MIN	これまでの内容を試験範囲とする。

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第 1 回 中国語ガイダンス
第 2 回 声調・軽声・単母音
第 3 回 複母音
第 4 回 子音①、子音②
第 5 回 鼻母音
第 6 回 単語を増やそう
第 7 回 自己紹介①
第 8 回 自己紹介①
第 9 回 自己紹介②
第 10 回 自己紹介②
第 11 回 自己紹介③
第 12 回 自己紹介③
第 13 回 お誘い①
第 14 回 お誘い②
第 15 回 まとめ

成績評価の方法

評価:期末試験 70%・小テスト等 20%・その他(平常点)10%

再評価:有(再評価方法 再試験を実施する)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

新出単語の意味を事前に辞書で調べておくこと。

授業で習った文法項目をしっかり復習し、新出単語とピンインを暗記する。

習熟度を確認するため小テストを頻繁に行う。テスト範囲は多くの場合授業内で事前に指示する。

中国語の発音練習を実践すること。耳と口の訓練は必要なので、繰り返して声を出して会話をする。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格

原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

中国語でコミュニケーション／沈国威:朝日出版社, 2020

参考書

完全マスター中国語の文法／瀬戸口律子 著,:語研, 2015

中日辞典／北京・商務印書館, 小学館共同編集,商務印書館,小学館,:小学館, 2016

ベーシッククラウン中日・日中辞典 = The Basic Crown Dictionary of Chinese／千葉謙悟, 熊進 監修,三省堂編修所 編,千葉, 謙悟,熊,

進,三省堂,:三省堂, 2019 辞書について初回の授業中、紹介します。
履修上の注意事項 期末考査・再試験の受験資格 : 原則3分の2以上出席
連絡先(メールアドレス) min.b.8dae@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	003502				
科目名	中国語 I			**科目 ID**	
担当教員	BAO MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:木曜 4 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りをすることにあります。前半は発音を中心とする授業を予定しています。発音段階が終われば、文章で中国語の構造に慣れながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていきます。

授業の到達目標

1)中国語の発音をマスターする。

2)中国語の基礎的な文法構造を理解したうえ、基本的な文章の意味がわかるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	15:25-17:05	計算機実習室	第 1 回 中国語ガイダンス	イントロダクション、発音①	BAO MIN	中国の概要が理解できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/23	15:25-17:05	計算機実習室	第 2 回 発音②	声調・軽声・単母音	BAO MIN	声調が理解できる。軽声・単母音が発音できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	4/30	15:25-17:05	計算機実習室	第 3 回 発音③	複母音	BAO MIN	複母音が発音できる。小テスト 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/7	15:25-17:05	計算機実習室	第 4 回 発音④	子音①、子音②	BAO MIN	子音が発音できる。 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答発音練習
9-10	5/14	15:25-17:05	計算機実習室	第 5 回 発音⑤	鼻母音	BAO MIN	鼻母音が発音できる。 発音練習 リアクションペー

							パーを用いた質疑応答発音練習
11-12	5/21	15:25-17:05	計算機実習室	第 6 回 発音⑥	単語を増やそう	BAO MIN	教室用語が発音できる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	5/28	15:25-17:05	計算機実習室	第 7 回 自己紹介①	人称代名詞、名前の聞き方・名乗り方	BAO MIN	名前を言ったり尋ねたりできる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	6/4	15:25-17:05	計算機実習室	第 8 回 自己紹介①	動詞“是”、副詞“也・都”	BAO MIN	国籍や出身地を言ったり、尋ねたりできる。自己紹介発表① リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/11	15:25-17:05	計算機実習室	第 9 回 自己紹介②	動詞述語文、指示代名詞	BAO MIN	所属を言うことができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
19-20	6/18	15:25-17:05	計算機実習室	第 10 回 自己紹介②	場所代名詞、疑問詞疑問文、連帯修飾語を作る“的”	BAO MIN	専攻を言うことができる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	6/25	15:25-17:05	計算機実習室	第 11 回 自己紹介③	所在を表す動詞“在”、所有と存在を表す動詞“有”、方位詞①	BAO MIN	自分の家族や友達について紹介することができる所属を言うことができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	7/2	15:25-17:05	計算機実習室	第 12 回 自己紹介③	名詞述語文、文末助詞の“了”	BAO MIN	年齢を尋ねたり、言うことができるリアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/9	15:25-17:05	計算機実習室	第 13 回 お誘い①	前置詞“在”、連動文	BAO MIN	友達と待ち合わせをすることができる。 小テストリアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/16	15:25-17:05	計算機実習室	第 14 回 お誘い②	反復疑問文、年月日・曜日・時刻	BAO MIN	年月日・曜日・時刻の中国語表が

							できる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/23	15:25-17:05	計算機実習室	第 15 回 まとめ	期末試験	BAO MIN	これまでの内容を試験範囲とする。

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第 1 回 中国語ガイダンス
第 2 回 声調・軽声・単母音
第 3 回 複母音
第 4 回 子音①、子音②
第 5 回 鼻母音
第 6 回 単語を増やそう
第 7 回 自己紹介①
第 8 回 自己紹介①
第 9 回 自己紹介②
第 10 回 自己紹介②
第 11 回 自己紹介③
第 12 回 自己紹介③
第 13 回 お誘い①
第 14 回 お誘い②
第 15 回 まとめ

成績評価の方法

評価:期末試験 70%・小テスト等 20%・その他(平常点)10%

再評価:有(再評価方法 再試験を実施する)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

新出単語の意味を事前に辞書で調べておくこと。

授業で習った文法項目をしっかり復習し、新出単語とピンインを暗記する。

習熟度を確認するため小テストを頻繁に行う。テスト範囲は多くの場合授業内で事前に指示する。

中国語の発音練習を実践すること。耳と口の訓練は必要なので、繰り返して声を出して会話をする。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格

原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

中国語でコミュニケーション／沈国威:朝日出版社, 2020

参考書

完全マスター中国語の文法／瀬戸口律子 著,:語研, 2015

中日辞典／北京・商務印書館, 小学館共同編集,商務印書館,小学館,:小学館, 2016

ベーシッククラウン中日・日中辞典 = The Basic Crown Dictionary of Chinese／千葉謙悟, 熊進 監修,三省堂編修所 編,千葉, 謙悟,熊, 進,三省堂,:三省堂, 2019

辞書について初回の授業中、紹介します。

履修上の注意事項
期末考査・再試験の受験資格：原則3分の2以上出席
連絡先（メールアドレス）
min.b.8dae@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
水曜日　12:30～13:00　管理研究棟 3 階　研究室

時間割番号	003503				
科目名	中国語Ⅰ			科目ID	
担当教員	YAN JIAQI[YAN JIAQI]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りをすることにあります。前半は発音を中心とする授業を予定しています。発音段階が終われば、文章で中国語の構造に慣れながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていきます。

授業の到達目標

1)中国語の発音をマスターする。

2)中国語の基礎的な文法構造を理解したうえ、基本的な文章の意味がわかるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	9番教室	第1回 中国語ガイダンス	イントロダクション、発音①	YAN JIAQI BAO MIN	中国の概要が理解できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/23	10:45-12:25	9番教室	第2回 発音②	声調・軽声・単母音	YAN JIAQI BAO MIN	声調が理解できる。軽声・単母音が発音できる。 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	4/30	10:45-12:25	9番教室	第3回 発音③	複母音	YAN JIAQIBAO MIN	複母音が発音できる。小テスト 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/7	10:45-12:25	9番教室	第4回 発音④	子音①、子音②	YAN JIAQI BAO MIN	子音が発音できる。 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答発音練習
9-10	5/14	10:45-12:25	9番教室	第5回 発音⑤	鼻母音	YAN JIAQI BAO MIN	鼻母音が発音できる。 発音練習 リアクションペーパ

							ーを用いた質疑応答発音練習
11-12	5/21	10:45-12:25	9番教室	第6回 発音⑥	単語を増やそう	YAN JIAQI BAO MIN	教室用語が発音できる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	5/28	10:45-12:25	9番教室	第7回 自己紹介①	人称代名詞、名前の聞き方・名乗り方	YAN JIAQI BAO MIN	名前を言ったり尋ねたりできる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	6/4	10:45-12:25	9番教室	第8回 自己紹介①	動詞"是"、副詞"也・都"	YAN JIAQI BAO MIN	国籍や出身地を言ったり、尋ねたりできる。自己紹介発表① リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/11	10:45-12:25	9番教室	第9回 自己紹介②	動詞述語文、指示代名詞	YAN JIAQI BAO MIN	所属を言うことができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
19-20	6/18	10:45-12:25	9番教室	第10回 自己紹介②	場所代名詞、疑問詞疑問文、連帯修飾語を作る"的"	YAN JIAQI BAO MIN	専攻を言うことができる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	6/25	10:45-12:25	9番教室	第11回 自己紹介③	所在を表す動詞"在"、所有と存在を表す動詞"有"、方位詞①	YAN JIAQIBAO MIN	自分の家族や友達について紹介することができる 所属を言うことができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	7/2	10:45-12:25	9番教室	第12回 自己紹介③	名詞述語文、文末助詞の"了"	YAN JIAQI BAO MIN	年齢を尋ねたり、言うことができるリアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/9	10:45-12:25	9番教室	第13回 お誘い①	前置詞"在"、連動文	YAN JIAQI BAO MIN	友達と待ち合わせをすることができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/16	10:45-12:25	9番教室	第14回 お誘い②	反復疑問文、年月日・曜日・時刻	YAN JIAQI BAO MIN	年月日・曜日・時刻の中国語表ができ

							る。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/23	10:45-12:25	9 番教室	第 15 回 まとめ	期末試験	YAN JIAQI BAO MIN	これまでの内容を試験範囲とする。

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第 1 回 中国語ガイダンス
第 2 回 声調・軽声・単母音
第 3 回 複母音
第 4 回 子音①、子音②
第 5 回 鼻母音
第 6 回 単語を増やそう
第 7 回 自己紹介①
第 8 回 自己紹介①
第 9 回 自己紹介②
第 10 回 自己紹介②
第 11 回 自己紹介③
第 12 回 自己紹介③
第 13 回 お誘い①
第 14 回 お誘い②
第 15 回 まとめ

成績評価の方法

評価:期末試験 70%・小テスト等 20%・その他(平常点)10%

再評価:有(再評価方法 再試験を実施する)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

新出単語の意味を事前に辞書で調べておくこと。

授業で習った文法項目をしっかり復習し、新出単語とピンインを暗記する。

習熟度を確認するため小テストを頻繁に行う。テスト範囲は多くの場合授業内で事前に指示する。

中国語の発音練習を実践すること。耳と口の訓練は必要なので、繰り返して声を出して会話をする。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格

原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

中国語でコミュニケーション／沈国威:朝日出版社, 2020

参考書

完全マスター中国語の文法／瀬戸口律子 著,:語研, 2015

中日辞典／北京・商務印書館, 小学館共同編集,商務印書館,小学館,:小学館, 2016

ベーシッククラウン中日・日中辞典 = The Basic Crown Dictionary of Chinese／千葉謙悟, 熊進 監修,三省堂編修所 編,千葉, 謙悟,熊, 進,三省堂,:三省堂, 2019

辞書について初回の授業中、紹介します。

履修上の注意事項

期末考査・再試験の受験資格 : 原則3分の2以上出席

時間割番号	003504				
科目名	中国語Ⅰ			科目ID	
担当教員	YAN JIAQI[YAN JIAQI]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 4講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした現代中国語の文法知識を学びながら、中国語の基礎作りをすることにあります。前半は発音を中心とする授業を予定しています。発音段階が終われば、文章で中国語の構造に慣れながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていきます。

授業の到達目標

1)中国語の発音をマスターする。

2)中国語の基礎的な文法構造を理解したうえ、基本的な文章の意味がわかるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	15:25-17:05	9番教室	第1回 中国語ガイダンス	イントロダクション、発音①	YAN JIAQI BAO MIN	中国の概要が理解できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/23	15:25-17:05	9番教室	第14回 お誘い②	反復疑問文、年月日・曜日・時刻	YAN JIAQI BAO MIN	年月日・曜日・時刻の中国語表ができる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	4/30	15:25-17:05	9番教室	第2回 発音②	声調・軽声・単母音	YAN JIAQI BAO MIN	声調が理解できる。軽声・単母音が発音できる。発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/7	15:25-17:05	9番教室	第3回 発音③	複母音	YAN JIAQI BAO MIN	複母音が発音できる。小テスト 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	5/14	15:25-17:05	9番教室	第4回 発音④	子音①、子音②	YAN JIAQI BAO MIN	子音が発音できる。 発音練習 リアクションペー

							パーを用いた質疑応答発音練習
11-12	5/21	15:25-17:05	9番教室	第5回 発音⑤	鼻母音	YAN JIAQI BAO MIN	鼻母音が発音できる。 発音練習 リアクションペーパーを用いた質疑応答発音練習
13-14	5/28	15:25-17:05	9番教室	第6回 発音⑥	単語を増やそう	YAN JIAQI BAO MIN	教室用語が発音できる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	6/4	15:25-17:05	9番教室	第7回 自己紹介①	人称代名詞、名前の聞き方・名乗り方	YAN JIAQI BAO MIN	名前を言ったり尋ねたりできる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/11	15:25-17:05	9番教室	第8回 自己紹介①	動詞“是”、副詞“也・都”	YAN JIAQI BAO MIN	国籍や出身地を言ったり、尋ねたりできる。自己紹介発表① リアクションペーパーを用いた質疑応答
19-20	6/18	15:25-17:05	9番教室	第9回 自己紹介②	動詞述語文、指示代名詞	YAN JIAQI BAO MIN	所属を言うことができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	6/25	15:25-17:05	9番教室	第10回 自己紹介②	場所代名詞、疑問詞疑問文、連帯修飾語を作る“的”	YAN JIAQI BAO MIN	専攻を言うことができる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	7/2	15:25-17:05	9番教室	第11回 自己紹介③	所在を表す動詞“在”、所有と存在を表す動詞“有”、方位詞①	YAN JIAQI BAO MIN	自分の家族や友達について紹介することができる 所属を言うことができる。 小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/9	15:25-17:05	9番教室	第12回 自己紹介③	名詞述語文、文末助詞の“了”	YAN JIAQI BAO MIN	年齢を尋ねたり、言うことができる リアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/16	15:25-17:05	9番教室	第13回 お誘い①	前置詞“在”、連動文	YAN JIAQI BAO MIN	友達と待ち合わせをすることができる。 小テスト

							リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/23	15:25-17:05	9 番教室	第 15 回 まとめ	期末試験	YAN JIAQI BAO MIN	これまでの内容を試験範囲とする。

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第 1 回 中国語ガイダンス
第 2 回 声調・軽声・単母音
第 3 回 複母音
第 4 回 子音①、子音②
第 5 回 鼻母音
第 6 回 単語を増やそう
第 7 回 自己紹介①
第 8 回 自己紹介①
第 9 回 自己紹介②
第 10 回 自己紹介②
第 11 回 自己紹介③
第 12 回 自己紹介③
第 13 回 お誘い①
第 14 回 お誘い②
第 15 回 まとめ

成績評価の方法

評価:期末試験 70%・小テスト等 20%・その他(平常点)10%

再評価:有(再評価方法 再試験を実施する)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

新出単語の意味を事前に辞書で調べておくこと。

授業で習った文法項目をしっかり復習し、新出単語とピンインを暗記する。

習熟度を確認するため小テストを頻繁に行う。テスト範囲は多くの場合授業内で事前に指示する。

中国語の発音練習を実践すること。耳と口の訓練は必要なので、繰り返して声を出して会話をする。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格

原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

中国語でコミュニケーション／沈国威:朝日出版社, 2020

参考書

完全マスター中国語の文法／瀬戸口律子 著,:語研, 2015

中日辞典／北京・商務印書館, 小学館共同編集,商務印書館,小学館,:小学館, 2016

ベーシッククラウン中日・日中辞典 = The Basic Crown Dictionary of Chinese／千葉謙悟, 熊進 監修,三省堂編修所 編,千葉, 謙悟,熊, 進,三省堂,:三省堂, 2019

辞書について初回の授業中、紹介します。

履修上の注意事項

期末考査・再試験の受験資格 : 原則3分の2以上出席

時間割番号	00360				
科目名	中国語Ⅱ			科目ID	
担当教員	BAO MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 4講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

グローバル化の波に押されて日本の医療現場も変わりつつあります。海外からの観光客、日本在住の中国語系の人が急増しています。医療現場において医療スタッフのための中国語教育のニーズが高まっています。本授業では、医療現場における常用表現を 13 の話題に分けて、病院を訪れる中国語系患者と基本的な意思疎通ができるよう、中国語の聞く・話す・読む・書く・訳すというような実践的な表現力と応用力を身につけることを目標としています。

授業では、主に病院案内、問診確認、既往病歴、診断治療、処方、予約通院、急診、入院生活等の実践的場面の会話文によって生きた中国語を身につけます。

授業の到達目標

1)中国語の発音をマスターする。

2)中国語の医療用語の習得と医療スタッフとして運用できる中国語の習得を目指す。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/10	15:25-17:05	計算機実習室	第1回 発音入門①	発音の表記、声調記号、記号の位置、単母音、子音	BAO MIN	発音の表記、声調記号、記号の位置が理解でき、単母音、子音が発音できる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	4/17	15:25-17:05	計算機実習室	第2回 発音入門②③	複母音、特殊母音、軽声、声調の変化、隔音記号、	BAO MIN	複母音、特殊母音、軽声の発音ができる。声調変化と隔音記号ルールがわかる。小テスト リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	4/24	15:25-17:05	計算機実習室	第3回 自己紹介①	職業に関する常用単語、人称代詞、指示代詞(1)、名詞述語文	BAO MIN	職業に関する常用単語が暗記できる。人称代詞、

							指示代詞、名詞述語文の使い方がわかる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	5/1	15:25-17:05	計算機実習室	第4回 自己紹介②	構造助詞“的”(1)、普通疑問文、会話文、常用表現(日常挨拶)	BAO MIN	到達目標 構造助詞“的”、普通疑問文の使い方がわかる。自己紹介ができる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	5/8	15:25-17:05	計算機実習室	第5回 病院案内①	数詞、指示代詞(2)、方位詞、存在文	BAO MIN	数詞が読める。指示代詞(2)、方位詞と存在文が使える。小テスト、リアクションペーパーを用いた質疑応答
11-12	5/15	15:25-17:05	計算機実習室	第6回 病院案内②	疑問代詞疑問文(1)、選択疑問文、会話文、常用表現(院内施設)	BAO MIN	疑問代詞“誰”などの使い方がマスターでき、選択疑問文の作り方がわかる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	5/22	15:25-17:05	計算機実習室	第７回 問診確認①	所有文、量詞、正反疑問文	BAO MIN	所有文、量詞と正反疑問文の使い方が説明できる。小テスト、リアクションペー パーを用いた質疑応答
15-16	5/29	15:25-17:05	計算機実習室	第8回 問診確認②	疑問代詞疑問文(2)、“多”の用法、会話文、常用表現(受付待合)	BAO MIN	疑問代詞“多少”などの使い方、“多”の使い方が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
17-18	6/5	15:25-17:05	計算機実習室	第9回 既往病歴①	動詞述語文、動態助詞“过”、動態助詞“了”	BAO MIN	動詞述語文と動態助詞“过”、“了”の使い方がわかる。 小テスト、リアクションペ

							ーパーを用いた質疑応答
19-20	6/12	15:25-17:05	計算機実習室	第10回 既往病歴②	構造助詞"的"(2)、疑問代詞の特殊用法、会話文、常用表現(体の各部)	BAO MIN	構造助詞"的"の、使い方と疑問代詞の特殊用法がわかる。会話文が暗記できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-22	6/19	15:25-17:05	計算機実習室	第11回 診断治療①	形容詞述語文、副詞の用法	BAO MIN	形容詞述語文と副詞の用法が説明でき、文が作れる。 小テスト、リアクションペーパーを用いた質疑応答
23-24	6/26	15:25-17:05	計算機実習室	第12回 診断治療②	構造助詞"的"(3)、構造助詞"地"、主述述語文、会話文、常用表現(病名症状)	BAO MIN	構造助詞"的"と"地"が使える。主述述語文が説明できる。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
25-26	7/3	15:25-17:05	計算機実習室	第13回 骨折療養①	助動詞、形容詞の重ね型、"呢"の用法	BAO MIN	助動詞、形容詞の重ね型と"呢"の用法が説明できる。小テスト、リアクションペーパーを用いた質疑応答
27-28	7/10	15:25-17:05	計算機実習室	第14回 骨折療養②	会話文、常用表現(問診治療)、復習	BAO MIN	会話文が暗記できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
29-30	7/17	15:25-17:05	計算機実習室	第15回 まとめ	期末試験	BAO MIN	これまでの内容を範囲とする。全体の理解度チェック

授業方法

講義と演習による。

毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第1回 発音入門①

第2回 発音入門②③

第3回 自己紹介①

第4回 自己紹介②

第5回 病院案内①

第6回 病院案内②

第7回　問診確認①
第8回　問診確認②
第9回　既往病歴①
第10回　既往病歴②
第11回　診断治療①
第12回　診断治療②
第13回　骨折療養①
第14回　骨折療養②
第15回　まとめ

成績評価の方法

評価:期末試験 60%・小テスト等 30%・その他(平常点)10%
再評価:有(再評価方法　再試験を実施する)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

新出単語の意味を事前に辞書で調べておくこと。
授業で習った文法項目をしっかり復習し、新出単語とピンインを暗記する。
習熟度を確認するため小テストを頻繁に行う。テスト範囲は多くの場合授業内で事前に指示する。
中国語の発音練習を実践すること。耳と口の訓練は必要なので、繰り返して声を出して会話をする。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
　原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

メディカル基礎中国語／劉建著,劉, 建,:白帝社, 2017

参考書

Why?にこたえるはじめての中国語の文法書／相原茂, 石田知子, 戸沼市子 共著,:同学社, 2016
ベーシッククラウン中日・日中辞典／三省堂編修所編,千葉, 謙悟,熊, 進,三省堂編修所,:三省堂, 2019
中日辞典／北京・商務印書館, 小学館共同編集,商務印書館,小学館,:小学館, 2016
辞書について初回の授業中、紹介します。

他科目との関連

中国語Ⅰを必ず履修すること。

履修上の注意事項

期末考査・再試験の受験資格 : 原則3分の2以上出席

連絡先(メールアドレス)

min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

水曜日　12:30～13:00　管理研究棟 3 階　研究室

時間割番号	00370				
科目名	スペイン語 I			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜　3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象とした、文法中心の授業です。スペイン語の正しい発音と基礎的な文法知識を身につけ、簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

スペイン語はスペインの他、ラテンアメリカとアフリカの一部の国・地域でも話されている、世界的に話者数の多い言語です。スペイン語を学ぶことで、スペイン語圏の多様な文化の一端を知ることがこの授業の目的です。

授業の到達目標

・スペイン語を正しく発音し、平易な文章を音読できる。

・スペイン語の初級文法(現在形まで)の基本的な知識を身につける。

・スペイン語で簡単な自己紹介や質問ができる。

授業方法

講義形式で文法の説明を行った後、練習問題に取り組んで知識の定着を図ります。発音練習、会話練習を中心としたペア／グループワークも行います。

授業内容

第 1 回　授業の説明、あいさつ、アルファベット

第 2 回　Unidad 1:　発音、アクセント、数字(0-10)

第 3 回　Unidad 1:名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞

第 3 回　Unidad 2:　主語になる人称代名詞、動詞 ser、国籍を表す語の性と数

第 4 回　Unidad 2-3:　職業、疑問詞1、指示詞

第 5 回　Unidad 3:　定冠詞と不定冠詞、所有詞 1、形容詞

第 6 回　Unidad 3-4:　動詞 ser と存在・位置を表す estar、動詞の現在形

第 7 回　Unidad 4:　疑問詞 2、数字(11-30)、時刻、曜日

第 8 回　Unidad 5:　指示詞 2、所有詞 2、数字(30-100)

第 9 回　Unidad 5-6:　動詞 tener、人の記述、hay と estar の用法

第 10 回　Unidad 6:　動詞 ir、月と季節、不定詞を伴う動詞、理由と目的

第 11 回　Unidad 7:前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar

第 12 回　Unidad 7-8:　好みの一致と不一致、動詞 encantar, interesar、動詞＋不定詞

第 13 回　Unidad 8:　不規則活用する動詞、直接目的人称代名詞、不定語

第 14 回　Unidad 9:　不規則活用する動詞 2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞

第 15 回　期末試験

成績評価の方法

評価:試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%

再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。毎回文法事項や動詞の活用の小テストを実施するため、教科書の例文や活用を暗記してください。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格

原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

いいね！スペイン語 コンパクト版 1 (¡Muy bien! : curso de Español)／Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu [著]:朝日出版社, 2022.1

参考書

プログレッシブスペイン語辞典／鼓, 直, 1930-2019,橘川, 慶二, -1998,秦, 隆昌, 1935-,鼓直, 橘川慶二, 秦隆昌, 丹羽光男, 佐々木孝, 橋本定久 編:小学館, 2016.2

デイリーコンサイス西和・和西辞典／寺崎, 英樹, 1941-,Contreras, Enrique, 1937-,寺崎英樹, Enrique Contreras 編:三省堂, 2019.7

辞書については初回授業で指示します。

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	003701				
科目名	スペイン語 I			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜　3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象とした、文法中心の授業です。スペイン語の正しい発音と基礎的な文法知識を身につけ、簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

スペイン語はスペインの他、ラテンアメリカとアフリカの一部の国・地域でも話されている、世界的に話者数の多い言語です。スペイン語を学ぶことで、スペイン語圏の多様な文化の一端を知ることがこの授業の目的です。

授業の到達目標

・スペイン語を正しく発音し、平易な文章を音読できる。

・スペイン語の初級文法(現在形まで)の基本的な知識を身につける。

・スペイン語で簡単な自己紹介や質問ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
3-4	4/23	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
5-6	4/30	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
7-8	5/7	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
9-10	5/14	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
11-12	5/21	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
13-14	5/28	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
15-16	6/4	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
17-18	6/11	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
19-20	6/18	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
21-22	6/25	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
23-24	7/2	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
25-26	7/9	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
27-28	7/16	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈
29-30	7/23	10:45-12:25	3 番教室	高木　佳奈

授業方法

講義形式で文法の説明を行った後、練習問題に取り組んで知識の定着を図ります。発音練習、会話練習を中心としたペア／グループワークも行います。

授業内容

第 1 回　授業の説明、あいさつ、アルファベット

第 2 回　Unidad 1: 発音、アクセント、数字(0-10)

第 3 回　Unidad 1:名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞

第 3 回 Unidad 2: 主語になる人称代名詞、動詞 ser、国籍を表す語の性と数
第 4 回 Unidad 2-3: 職業、疑問詞1、指示詞
第 5 回 Unidad 3: 定冠詞と不定冠詞、所有詞 1、形容詞
第 6 回 Unidad 3-4: 動詞 ser と存在・位置を表す estar、動詞の現在形
第 7 回 Unidad 4: 疑問詞 2、数字(11-30)、時刻、曜日
第 8 回 Unidad 5: 指示詞 2、所有詞 2、数字(30-100)
第 9 回 Unidad 5-6: 動詞 tener、人の記述、hay と estar の用法
第 10 回 Unidad 6: 動詞 ir、月と季節、不定詞を伴う動詞、理由と目的
第 11 回 Unidad 7:前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar
第 12 回 Unidad 7-8: 好みの一致と不一致、動詞 encantar, interesar、動詞＋不定詞
第 13 回 Unidad 8: 不規則活用する動詞、直接目的人称代名詞、不定語
第 14 回 Unidad 9: 不規則活用する動詞 2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価:試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。毎回文法事項や動詞の活用の小テストを実施するため、教科書の例文や活用を暗記してください。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

いいね！スペイン語 コンパクト版 1 (¡Muy bien! : curso de Español)／Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu [著]:朝日出版社, 2022.1

参考書

プログレッシブスペイン語辞典／鼓, 直, 1930-2019,橘川, 慶二, -1998,秦, 隆昌, 1935-,鼓直, 橘川慶二, 秦隆昌, 丹羽光男, 佐々木孝, 橋本定久 編:小学館, 2016.2
デイリーコンサイス西和・和西辞典／寺崎, 英樹, 1941-,Contreras, Enrique, 1937-,寺崎英樹, Enrique Contreras 編:三省堂, 2019.7
辞書については初回授業で指示します。

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	003702				
科目名	スペイン語 I			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜　3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象とした、文法中心の授業です。スペイン語の正しい発音と基礎的な文法知識を身につけ、簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

スペイン語はスペインの他、ラテンアメリカとアフリカの一部の国・地域でも話されている、世界的に話者数の多い言語です。スペイン語を学ぶことで、スペイン語圏の多様な文化の一端を知ることがこの授業の目的です。

授業の到達目標

・スペイン語を正しく発音し、平易な文章を音読できる。

・スペイン語の初級文法(現在形まで)の基本的な知識を身につける。

・スペイン語で簡単な自己紹介や質問ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
3-4	4/23	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
5-6	4/30	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
7-8	5/7	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
9-10	5/14	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
11-12	5/21	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
13-14	5/28	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
15-16	6/4	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
17-18	6/11	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
19-20	6/18	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
21-22	6/25	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
23-24	7/2	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
25-26	7/9	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
27-28	7/16	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈
29-30	7/23	15:25-17:05	3 番教室	高木　佳奈

授業方法

講義形式で文法の説明を行った後、練習問題に取り組んで知識の定着を図ります。発音練習、会話練習を中心としたペア／グループワークも行います。

授業内容

第 1 回　授業の説明、あいさつ、アルファベット

第 2 回　Unidad 1: 発音、アクセント、数字(0-10)

第 3 回　Unidad 1:名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞

第 3 回 Unidad 2: 主語になる人称代名詞、動詞 ser、国籍を表す語の性と数
第 4 回 Unidad 2-3: 職業、疑問詞1、指示詞
第 5 回 Unidad 3: 定冠詞と不定冠詞、所有詞 1、形容詞
第 6 回 Unidad 3-4: 動詞 ser と存在・位置を表す estar、動詞の現在形
第 7 回 Unidad 4: 疑問詞 2、数字(11-30)、時刻、曜日
第 8 回 Unidad 5: 指示詞 2、所有詞 2、数字(30-100)
第 9 回 Unidad 5-6: 動詞 tener、人の記述、hay と estar の用法
第 10 回 Unidad 6: 動詞 ir、月と季節、不定詞を伴う動詞、理由と目的
第 11 回 Unidad 7:前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar
第 12 回 Unidad 7-8: 好みの一致と不一致、動詞 encantar, interesar、動詞＋不定詞
第 13 回 Unidad 8: 不規則活用する動詞、直接目的人称代名詞、不定語
第 14 回 Unidad 9: 不規則活用する動詞 2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価:試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。毎回文法事項や動詞の活用の小テストを実施するため、教科書の例文や活用を暗記してください。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

いいね！スペイン語 コンパクト版 1 (¡Muy bien! : curso de Español)／Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu [著]:朝日出版社, 2022.1

参考書

プログレッシブスペイン語辞典／鼓, 直, 1930-2019,橘川, 慶二, -1998,秦, 隆昌, 1935-,鼓直, 橘川慶二, 秦隆昌, 丹羽光男, 佐々木孝, 橋本定久 編:小学館, 2016.2
デイリーコンサイス西和・和西辞典／寺崎, 英樹, 1941-,Contreras, Enrique, 1937-,寺崎英樹, Enrique Contreras 編:三省堂, 2019.7
辞書については初回授業で指示します。

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	003703				
科目名	スペイン語 I			科目 ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象とした、文法中心の授業です。スペイン語の正しい発音と基礎的な文法知識を身につけ、簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

スペイン語はスペインの他、ラテンアメリカとアフリカの一部の国・地域でも話されている、世界的に話者数の多い言語です。スペイン語を学ぶことで、スペイン語圏の多様な文化の一端を知ることがこの授業の目的です。

授業の到達目標

・スペイン語を正しく発音し、平易な文章を音読できる。

・スペイン語の初級文法(現在形まで)の基本的な知識を身につける。

・スペイン語で簡単な自己紹介や質問ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
3-4	4/23	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
5-6	4/30	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
7-8	5/7	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
9-10	5/14	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
11-12	5/21	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
13-14	5/28	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
15-16	6/4	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
17-18	6/11	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
19-20	6/18	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
21-22	6/25	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
23-24	7/2	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
25-26	7/9	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
27-28	7/16	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈
29-30	7/23	13:30-15:10	11 番教室	高木 佳奈

授業方法

講義形式で文法の説明を行った後、練習問題に取り組んで知識の定着を図ります。発音練習、会話練習を中心としたペア/グループワークも行います。

授業内容

第 1 回 授業の説明、あいさつ、アルファベット

第 2 回 Unidad 1: 発音、アクセント、数字(0-10)

第 3 回 Unidad 1:名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞

第 3 回 Unidad 2: 主語になる人称代名詞、動詞 ser、国籍を表す語の性と数
第 4 回 Unidad 2-3: 職業、疑問詞1、指示詞
第 5 回 Unidad 3: 定冠詞と不定冠詞、所有詞 1、形容詞
第 6 回 Unidad 3-4: 動詞 ser と存在・位置を表す estar、動詞の現在形
第 7 回 Unidad 4: 疑問詞 2、数字(11-30)、時刻、曜日
第 8 回 Unidad 5: 指示詞 2、所有詞 2、数字(30-100)
第 9 回 Unidad 5-6: 動詞 tener、人の記述、hay と estar の用法
第 10 回 Unidad 6: 動詞 ir、月と季節、不定詞を伴う動詞、理由と目的
第 11 回 Unidad 7:前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar
第 12 回 Unidad 7-8: 好みの一致と不一致、動詞 encantar, interesar、動詞＋不定詞
第 13 回 Unidad 8: 不規則活用する動詞、直接目的人称代名詞、不定語
第 14 回 Unidad 9: 不規則活用する動詞 2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価:試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。毎回文法事項や動詞の活用の小テストを実施するため、教科書の例文や活用を暗記してください。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

いいね！スペイン語 コンパクト版 1 (¡Muy bien! : curso de Español)／Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu [著]:朝日出版社, 2022.1

参考書

プログレッシブスペイン語辞典／鼓, 直, 1930-2019,橘川, 慶二, -1998,秦, 隆昌, 1935-,鼓直, 橘川慶二, 秦隆昌, 丹羽光男, 佐々木孝, 橋本定久 編:小学館, 2016.2
デイリーコンサイス西和・和西辞典／寺崎, 英樹, 1941-,Contreras, Enrique, 1937-,寺崎英樹, Enrique Contreras 編:三省堂, 2019.7
辞書については初回授業で指示します。

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	003704				
科目名	スペイン語 I			科目 ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象とした、文法中心の授業です。スペイン語の正しい発音と基礎的な文法知識を身につけ、簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

スペイン語はスペインの他、ラテンアメリカとアフリカの一部の国・地域でも話されている、世界的に話者数の多い言語です。スペイン語を学ぶことで、スペイン語圏の多様な文化の一端を知ることがこの授業の目的です。

授業の到達目標

・スペイン語を正しく発音し、平易な文章を音読できる。

・スペイン語の初級文法(現在形まで)の基本的な知識を身につける。

・スペイン語で簡単な自己紹介や質問ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
3-4	4/23	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
5-6	4/30	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
7-8	5/7	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
9-10	5/14	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
11-12	5/21	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
13-14	5/28	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
15-16	6/4	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
17-18	6/11	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
19-20	6/18	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
21-22	6/25	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
23-24	7/2	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
25-26	7/9	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
27-28	7/16	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈
29-30	7/23	15:25-17:05	11 番教室	高木 佳奈

授業方法

講義形式で文法の説明を行った後、練習問題に取り組んで知識の定着を図ります。発音練習、会話練習を中心としたペア／グループワークも行います。

授業内容

第 1 回 授業の説明、あいさつ、アルファベット

第 2 回 Unidad 1: 発音、アクセント、数字(0-10)

第 3 回 Unidad 1:名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞

第 3 回 Unidad 2: 主語になる人称代名詞、動詞 ser、国籍を表す語の性と数
第 4 回 Unidad 2-3: 職業、疑問詞1、指示詞
第 5 回 Unidad 3: 定冠詞と不定冠詞、所有詞 1、形容詞
第 6 回 Unidad 3-4: 動詞 ser と存在・位置を表す estar、動詞の現在形
第 7 回 Unidad 4: 疑問詞 2、数字(11-30)、時刻、曜日
第 8 回 Unidad 5: 指示詞 2、所有詞 2、数字(30-100)
第 9 回 Unidad 5-6: 動詞 tener、人の記述、hay と estar の用法
第 10 回 Unidad 6: 動詞 ir、月と季節、不定詞を伴う動詞、理由と目的
第 11 回 Unidad 7:前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar
第 12 回 Unidad 7-8: 好みの一致と不一致、動詞 encantar, interesar、動詞＋不定詞
第 13 回 Unidad 8: 不規則活用する動詞、直接目的人称代名詞、不定語
第 14 回 Unidad 9: 不規則活用する動詞 2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価:試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。毎回文法事項や動詞の活用の小テストを実施するため、教科書の例文や活用を暗記してください。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

いいね！スペイン語 コンパクト版 1 (¡Muy bien! : curso de Español)／Juan Carlos Moyano López, Carlos García Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu [著]:朝日出版社, 2022.1

参考書

プログレッシブスペイン語辞典／鼓, 直, 1930-2019,橘川, 慶二, -1998,秦, 隆昌, 1935-,鼓直, 橘川慶二, 秦隆昌, 丹羽光男, 佐々木孝, 橋本定久 編:小学館, 2016.2
デイリーコンサイス西和・和西辞典／寺崎, 英樹, 1941-,Contreras, Enrique, 1937-,寺崎英樹, Enrique Contreras 編:三省堂, 2019.7
辞書については初回授業で指示します。

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	00380				
科目名	スペイン語Ⅱ			科目ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜　3 講

対象学科:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-4)異なる空間の文化を理解する

別表 3-1)国際的に活躍するための語学力を養う

別表 3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

スペイン語を初めて学ぶ学生を対象とした、コミュニケーション中心の授業です。初級文法を学びながら、会話文、聞き取り、読解の演習を行い、総合的なスペイン語運用能力を身につけることを目指します。

スペイン語はスペインの他、ラテンアメリカとアフリカの一部の国・地域でも話されている、世界的に話者数の多い言語です。スペイン語を学ぶことで、スペイン語圏の多様な文化の一端を知ることがこの授業の目的です。

授業の到達目標

・スペイン語の平易な文章を聞き取ることができる。

・辞書を使って、スペイン語の平易な文章が理解できるようになる。

・スペイン語で簡単なコミュニケーションを取ることができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
3-4	4/17	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
5-6	4/24	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
7-8	5/1	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
9-10	5/8	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
11-12	5/15	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
13-14	5/22	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
15-16	5/29	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
17-18	6/5	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
19-20	6/12	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
21-22	6/19	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
23-24	6/26	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
25-26	7/3	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
27-28	7/10	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈
29-30	7/17	13:30-15:10	3 番教室	高木　佳奈

授業方法

講義形式による文法説明と、グループワークを中心とした演習形式(発音練習、会話文、聞き取り、読解)を組み合わせて行います。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション、あいさつ、アルファベット

第 2 回 クラスで使う表現、自己紹介

第 3 回 男性名詞と女性名詞

第 4 回 出身地を説明する

第 5 回 友人を紹介する

第 6 回 病院にあるもの
第 7 回 日常生活について話す
第 8 回 曜日と時刻の表現
第 9 回 人を描写する
第 10 回 家族を紹介する
第 11 回 予定を話す
第 12 回 好きなものについて話す
第 13 回 痛みを表現する
第 14 回 買い物をする
第 15 回 期末試験

成績評価の方法

評価:試験 60%、課題・小テスト 30%、平常点 10%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題や予習範囲は授業中に適宜指示します。

試験の受験資格

定期試験・再試験受験資格
原則として試験を除く授業回数の3分の2以上出席

教科書

スペイン語 I の教科書『いいね！スペイン語 コンパクト版 1』を使用します。

参考書

プログレッシブスペイン語辞典／鼓, 直, 1930-2019,橘川, 慶二, -1998,秦, 隆昌, 1935-,鼓直, 橘川慶二, 秦隆昌, 丹羽光男, 佐々木孝, 橋本定久 編:小学館, 2016.2
デイリーコンサイス西和・和西辞典／寺崎, 英樹, 1941-,Contreras, Enrique, 1937-,寺崎英樹, Enrique Contreras 編:三省堂, 2019.7
辞書については初回授業で指示します。

他科目との関連

スペイン語 I を必ず履修すること。

履修上の注意事項

期末考査・再試験の受験資格 : 原則3分の2以上出席

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	00390				
科目名	日本語Ⅰ			科目ID	
担当教員	住吉　尚子[SUMIYOSHI Naoko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-1、1-4、3-1、3-2、3-6

授業の目的、概要等

日本語で書かれた様々なジャンル・スタイルの本を読み議論する。これを通じて、日本の文化や社会について理解を深めるとともに、読解力の向上を目指す。

また、口頭および小論文演習を通じて論理的な表現力の獲得も目指す。

授業の到達目標

大学における 4/6 年間の勉学に必要な読解力、口頭表現能力、文章表現能力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
3-4	4/23	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
5-6	4/30	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
7-8	5/7	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
9-10	5/14	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
11-12	5/21	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
13-14	5/28	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
15-16	6/4	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
17-18	6/11	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
19-20	6/18	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
21-22	6/25	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
23-24	7/2	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
25-26	7/9	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
27-28	7/16	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
29-30	7/23	10:45-12:25	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN

授業方法

講義の他、アクティブラーニングの形式を取り入れ、読解、ディスカッション、口頭発表、小論文演習を行う。

授業内容

初回の授業で学生の日本語能力を図った上で決める。

成績評価の方法

評価 :　レポート 60% ・ その他(授業への参加度)40%

再評価:　有(再評価方法)「日本語Ⅰ」としての学年末課題

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題は必ず提出する。

再提出の指導があった場合は再提出する。

試験の受験資格

期末試験は実施しない。

教科書 特になし
参考書 初回の授業で学生の日本語能力を図った上で提示する。
履修上の注意事項 遅刻3回で1回の欠席とする。出席管理システムより、教員自身がとる出席を優先させる。

時間割番号	00400				
科目名	日本語Ⅱ			科目ID	
担当教員	住吉　尚子[SUMIYOSHI Naoko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 3 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-1、1-4、3-1、3-2、3-6

授業の目的、概要等

現代日本社会や文化に関する映像を見ながら、ディスカッションを行う。これを通じて、日本・自国を中心に文化や社会について理解を深めるとともに、聴解力の向上を目指す。

また、小論文演習およびプレゼンテーションを通じて論理的な表現力の獲得を目指す。

授業の到達目標

大学における 4/6 年間の勉学に必要な聴解力、口頭表現能力、文章表現能力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/10	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
3-4	4/17	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
5-6	4/24	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
7-8	5/1	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
9-10	5/8	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
11-12	5/15	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
13-14	5/22	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
15-16	5/29	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
17-18	6/5	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
19-20	6/12	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
21-22	6/19	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
23-24	6/26	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
25-26	7/3	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
27-28	7/10	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN
29-30	7/17	13:30-15:10	12 番教室	住吉 尚子, BAO MIN

授業方法

ビデオ(聴解)の他、アクティブラーニングの形式を取り入れディスカッションや発表を行う。

授業内容

初回の授業で学生の日本語能力を図った上で決める。

成績評価の方法

評価 :　レポート 60% ・ その他(授業への参加度)40%

再評価:　有(再評価方法)「日本語Ⅱ」としての学年末課題

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

宿題は必ず提出する。

再提出の指導があった場合は再提出する。

試験の受験資格

期末試験は実施しない。

教科書 特になし
参考書 初回の授業で学生の日本語能力を図った上で提示する。
履修上の注意事項 遅刻3回で1回の欠席とする。出席管理システムより、教員自身がとる出席を優先させる。

時間割番号	004101				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	5 番教室	Class 1	Intro to Discussion	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	08:50-10:30	5 番教室	Class 2	Intro to Presentations	REED JESS	Active Learning,

						E RYAN	Seminar
5-6	5/13	08:50-10:30	5 番教室	Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	08:50-10:30	5 番教室	Class 4	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	08:50-10:30	5 番教室	Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	08:50-10:30	5 番教室	Class 6	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	08:50-10:30	5 番教室	Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
15-16	6/17	08:50-10:30	5 番教室	Class 8	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	08:50-10:30	5 番教室	Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	08:50-10:30	5 番教室	Class 10	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	08:50-10:30	5 番教室	Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	08:50-10:30	5 番教室	Class 12	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	08:50-10:30	5 番教室	Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	08:50-10:30	5 番教室	Class 14	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	08:50-10:30	5 番教室	Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 40% presentation 15% discussion test 25% homework 20%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004102				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	MIYA MARUTSUKA[MIYA MARUTSUKA]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	4 番教室	Orientation	Course Introduction	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	08:50-10:30	4 番教室	Topic 1	Discussion 1	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar

5-6	5/13	08:50-10:30	4 番教室	Topic 2	Discussion 2	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	08:50-10:30	4 番教室	Topic 3	Discussion 3	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	08:50-10:30	4 番教室	Topic 4	Discussion 4	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
15-16	6/17	08:50-10:30	4 番教室	Topic 5	Discussion 5	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	08:50-10:30	4 番教室	Topic 6	Discussion 6	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	08:50-10:30	4 番教室	Topic 7	Discussion 7	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation/homework 30% group assignments 20% quizzes 25% discussion test 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。

ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004104				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	KNOBBS RICHARD LEE[KNOBBS RICHARD LEE]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	08:50-10:30	6 番教室	Orientation	Course Introduction	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
3-4	4/23	08:50-10:30	6 番教室	Topic 1	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	08:50-10:30	6 番教室	Topic 2	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI	Active Learning,

						CHARD LEE	Seminar
7-8	5/7	08:50-10:30	6 番教室	Topic 3	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	08:50-10:30	6 番教室	Topic 4	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	08:50-10:30	6 番教室	Topic 5	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	08:50-10:30	6 番教室	Topic 6	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	08:50-10:30	6 番教室	Topic 7	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	08:50-10:30	6 番教室	Topic 8	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	08:50-10:30	6 番教室	Topic 9	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	08:50-10:30	6 番教室	Topic 10	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	08:50-10:30	6 番教室	Topic 11	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	08:50-10:30	6 番教室	Topic 12	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	08:50-10:30	6 番教室	Topic 13	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	08:50-10:30	6 番教室	Wrap-up	Discussion Test	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Quizzes/assignments: 25%

Final discussion test: 25%

Participation: 50%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004105				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	5 番教室	Class 1	Intro to Discussion	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	10:45-12:25	5 番教室	Class 2	Intro to Presentations	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar

5-6	5/13	10:45-12:25	5 番教室	Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	10:45-12:25	5 番教室	Class 4	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	10:45-12:25	5 番教室	Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	10:45-12:25	5 番教室	Class 6	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	10:45-12:25	5 番教室	Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
15-16	6/17	10:45-12:25	5 番教室	Class 8	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	10:45-12:25	5 番教室	Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	10:45-12:25	5 番教室	Class 10	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	10:45-12:25	5 番教室	Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	10:45-12:25	5 番教室	Class 12	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	10:45-12:25	5 番教室	Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	10:45-12:25	5 番教室	Class 14	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	10:45-12:25	5 番教室	Class 15	Discussion Test	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 40% presentation 15% discussion test 25% homework 20%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。

ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004106				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	MIYA MARUTSUKA[MIYA MARUTSUKA]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	4 番教室	Orientation	Course Introduction	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	10:45-12:25	4 番教室	Topic 1	Discussion 1	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar

5-6	5/13	10:45-12:25	4 番教室	Topic 2	Discussion 2	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	10:45-12:25	4 番教室	Topic 3	Discussion 3	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	10:45-12:25	4 番教室	Topic 4	Discussion 4	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
15-16	6/17	10:45-12:25	4 番教室	Topic 5	Discussion 5	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	10:45-12:25	4 番教室	Topic 6	Discussion 6	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	10:45-12:25	4 番教室	Topic 7	Discussion 7	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation/homework 30% group assignments 20% quizzes 25% discussion test 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。

ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004108				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	KNOBBS RICHARD LEE[KNOBBS RICHARD LEE]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	6 番教室	Orientation	Course Introduction	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
3-4	4/23	10:45-12:25	6 番教室	Topic 1	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	10:45-12:25	6 番教室	Topic 2	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI	Active Learning,

						CHARD LEE	Seminar
7-8	5/7	10:45-12:25	6 番教室	Topic 3	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	10:45-12:25	6 番教室	Topic 4	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	10:45-12:25	6 番教室	Topic 5	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	10:45-12:25	6 番教室	Topic 6	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	10:45-12:25	6 番教室	Topic 7	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	10:45-12:25	6 番教室	Topic 8	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	10:45-12:25	6 番教室	Topic 9	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	10:45-12:25	6 番教室	Topic 10	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	10:45-12:25	6 番教室	Topic 11	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	10:45-12:25	6 番教室	Topic 12	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	10:45-12:25	6 番教室	Topic 13	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	10:45-12:25	6 番教室	Wrap-up	Discussion Test	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Quizzes/assignments: 25%

Final discussion test: 25%

Participation: 50%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004109				
科目名	英語ＩA			科目ID	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will participate in a variety of discussion activities in pairs and small groups to improve their comprehension and use of spoken English in an academic setting. Students will learn key phrases and strategies to improve their communicative competencies, especially formulaic, interactional, and strategic competence. Each lesson will follow the same standard format but with a different topic and target language introduced each week. Short readings to prepare students for each weekly topic will be provided. At the end of the course, students will be able to competently communicate about a range of topics in English.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics.

To express opinions and reasons for holding them and ask about the opinions of others.

To successfully repair communication breakdowns in English.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	5 番教室	Class 1	Course Introduction & Comprehension	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	08:50-10:30	5 番教室	Class 2	Sharing Opinions	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar
5-6	5/13	08:50-10:30	5 番教室	Class 3	Supporting Opinions	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	08:50-10:30	5 番教室	Class 4	Connecting Ideas	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	08:50-10:30	5 番教室	Class 5	Joining a Discussion	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	08:50-10:30	5 番教室	Class 6	Review	YOUNG DAVID CHRISTOP	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	08:50-10:30	5 番教室	Class 7	Discussion Test 1	YOUNG DA	Active Learning,

						VID CHRIST OP	Seminar
15-16	6/17	08:50-10:30	5 番教室	Class 8	Different Viewpoints	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	08:50-10:30	5 番教室	Class 9	Balancing Opinions	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	08:50-10:30	5 番教室	Class 10	Sources of Information	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	08:50-10:30	5 番教室	Class 11	Changing Topics	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	08:50-10:30	5 番教室	Class 12	Review	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	08:50-10:30	5 番教室	Class 13	Discussion Test 2	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	08:50-10:30	5 番教室	Class 14	Course review 1	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	08:50-10:30	5 番教室	Class 15	Course review 2 (students being topics)	YOUNG DA VID CHRIST OP	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Course introduction and getting to know each other

Weeks 2-5: Skills instruction and discussion of selected topics.

Week 6: Review of weeks 2-5 and test preparation.

Week 7: Discussion test 1.

Week 8-11: Skills instruction and discussion of selected topics.

Week 12: Review of weeks 8-11 and test preparation.

Week 13: Discussion test 2.

Week 14: Course review (review of all skills)

Week 15: Course review　(students bring their own topics and questions)

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Reading quizzes: 20%

Discussion tests: 30%

Participation: 50%

再評価:有(再評価方法「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期 2 クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期 1 クラス（英語 IC）の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。 3 クラスすべての履 修は必須です。なお、 再評価の対象となるのは、 英語 I の ABC の各クラスに原則として 3 分の 2 以上出席した者です。ただし、3 クラスのうち 2 クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

教科書

Materials will be provided by the instructor.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

備考

オフィスアワー

水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階

連絡先(メールアドレス)

christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

YOUNG DAVID CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

YOUNG DAVID CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004110				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	MIYA MARUTSUKA[MIYA MARUTSUKA]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	08:50-10:30	4 番教室	Orientation	Course Introduction	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
3-4	4/23	08:50-10:30	4 番教室	Topic 1	Discussion 1	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	08:50-10:30	4 番教室	Topic 2	Discussion 2	MIYA MARU	Active Learning,

						TSUKA	Seminar
7-8	5/7	08:50-10:30	4 番教室	Topic 3	Discussion 3	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	08:50-10:30	4 番教室	Topic 4	Discussion 4	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	08:50-10:30	4 番教室	Topic 5	Discussion 5	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	08:50-10:30	4 番教室	Topic 6	Discussion 6	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	08:50-10:30	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	08:50-10:30	4 番教室	Topic 7	Discussion 7	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation/homework 30% group assignments 20% quizzes 25% discussion test 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項
出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004111				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	PATRICK　FOSS[PATRICK FOSS]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	計算機実	Orientation	Greetings and Starters	PATRICK　F	Active Learning /

			習室			OSS	Seminar
3-4	4/22	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 1	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
5-6	5/13	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 2	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
7-8	5/20	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 3	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
9-10	5/27	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 4	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
11-12	6/3	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 5	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
13-14	6/10	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 6	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
15-16	6/17	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 7	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
17-18	6/24	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 8	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
19-20	7/1	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 9	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
21-22	7/8	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 10	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
23-24	7/15	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 11	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
25-26	7/22	08:50-10:30	計算機実習室	Speaking Test Practice	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
27-28	7/29	08:50-10:30	計算機実習室	Speaking Test	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
29-30	7/31	08:50-10:30	計算機実習室	Discussion 12	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: speaking test 30% quizzes 20% active participation 50%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先（メールアドレス）

PATRICK FOSS:foss.p.d803@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

PATRICK FOSS:毎週水曜日 PM.12:30–PM.1:00

管理研究棟 2階 フォス研究室

時間割番号	004112				
科目名	英語ＩA			科目ID	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will participate in a variety of discussion activities in pairs and small groups to improve their comprehension and use of spoken English in an academic setting. Students will learn key phrases and strategies to improve their communicative competencies, especially formulaic, interactional, and strategic competence. Each lesson will follow the same standard format but with a different topic and target language introduced each week. Short readings to prepare students for each weekly topic will be provided. At the end of the course, students will be able to competently communicate about a range of topics in English.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics.

To express opinions and reasons for holding them and ask about the opinions of others.

To successfully repair communication breakdowns in English.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/15	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
3-4	4/22	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
5-6	5/13	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
7-8	5/20	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
9-10	5/27	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
11-12	6/3	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
13-14	6/10	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
15-16	6/17	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
17-18	6/24	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
19-20	7/1	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
21-22	7/8	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
23-24	7/15	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
25-26	7/22	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
27-28	7/29	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
29-30	7/31	10:45-12:25	2 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Course introduction and getting to know each other

Weeks 2-5: Skills instruction and discussion of selected topics.

Week 6: Review of weeks 2–5 and test preparation.

Week 7: Discussion test 1.

Week 8–11: Skills instruction and discussion of selected topics.

Week 12: Review of weeks 8–11 and test preparation.

Week 13: Discussion test 2.

Week 14: Course review (review of all skills)

Week 15: Course review　(students bring their own topics and questions)

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Reading quizzes: 20%

Discussion tests: 30%

Participation: 50%

再評価:有(再評価方法「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期 2 クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期 1 クラス（英語 IC）の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。 3 クラスすべての履 修は必須です。なお、 再評価の対象となるのは、 英語 I の ABC の各クラスに原則として 3 分の 2 以上出席した者です。ただし、3 クラスのうち 2 クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

教科書

Materials will be provided by the instructor.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

備考

オフィスアワー

水・木 12:30–13:00 管理研究棟 3 階

連絡先(メールアドレス)

christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

YOUNG DAVID CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

YOUNG DAVID CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30–13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004113				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	MIYA MARUTSUKA[MIYA MARUTSUKA]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	4 番教室	Orientation	Course Introduction	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
3-4	4/23	10:45-12:25	4 番教室	Topic 1	Discussion 1	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	10:45-12:25	4 番教室	Topic 2	Discussion 2	MIYA MARU	Active Learning,

						TSUKA	Seminar
7-8	5/7	10:45-12:25	4 番教室	Topic 3	Discussion 3	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	10:45-12:25	4 番教室	Topic 4	Discussion 4	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	10:45-12:25	4 番教室	Topic 5	Discussion 5	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	10:45-12:25	4 番教室	Topic 6	Discussion 6	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	10:45-12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	10:45-12:25	4 番教室	Topic 7	Discussion 7	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation/homework 30% group assignments 20% quizzes 25% discussion test 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項
出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004114				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	PATRICK　FOSS[PATRICK FOSS]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will engage in a range of conversation activities (in pairs or small groups) and in speech/presentation activities to develop better English listening and speaking skills. New vocabulary will also be introduced. Particular grammatical structures will occasionally be targeted. Readings may be used in particular classes as bases for discussion.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	計算機実	Orientation	Greetings and Starters	PATRICK　F	Active Learning /

			習室			OSS	Seminar
3-4	4/22	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 1	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
5-6	5/13	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 2	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
7-8	5/20	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 3	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
9-10	5/27	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 4	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
11-12	6/3	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 5	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
13-14	6/10	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 6	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
15-16	6/17	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 7	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
17-18	6/24	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 8	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
19-20	7/1	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 9	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
21-22	7/8	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 10	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
23-24	7/15	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 11	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
25-26	7/22	10:45-12:25	計算機実習室	Speaking Test Practice	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
27-28	7/29	10:45-12:25	計算機実習室	Speaking Test	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar
29-30	7/31	10:45-12:25	計算機実習室	Discussion 12	Listening and Speaking Activities	PATRICK F OSS	Active Learning / Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: speaking test 30% quizzes 20% active participation 50%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先（メールアドレス）

PATRICK FOSS:foss.p.d803@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

PATRICK FOSS:毎週水曜日 PM.12:30–PM.1:00

管理研究棟 2階 フォス研究室

時間割番号	004115				
科目名	英語ＩＢ			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	11 番教	第一回授業(コース概要	授業概要説明、コミュニティ・ビル	猪熊 恵子, Y	アクティブ・ラーニ

			室	説明)	ディング、フリー・ライティング	OUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	ング、ディスカッション、授業内ライティング
3-4	4/22	08:50-10:30	11 番教室	第二回授業(レトリックとは)	英語のレトリックとは何か	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
5-6	5/13	08:50-10:30	11 番教室	第三回授業(ライティングにおける物語)	英語ライティングにおける物語の役割(1):修正とプロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
7-8	5/20	08:50-10:30	11 番教室	第四回授業(プロセスとしてのライティング)	英語ライティングにおける物語の役割(2):フィードバック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、assignment(1)の提出
9-10	5/27	08:50-10:30	11 番教室	第五回授業(情報のレトリック)	情報・メディアにおけるレトリックの役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
11-12	6/3	08:50-10:30	11 番教室	第六回授業(情報とリサーチ)	リサーチの始め方、情報の集め方	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
13-14	6/10	08:50-10:30	11 番教室	第七回授業(情報をライティングに取り込む)	情報の分析と統合の方法・プロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、パラフレーズの練習、assignment(2)の提出
15-16	6/17	08:50-10:30	11 番教室	第八回授業(情報の適切な使用)	引用、剽窃、AI について	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
17-18	6/24	08:50-10:30	11 番教室	第九回授業(リサーチを論文にする 1)	論文の構造(パラグラフ、ステートメントなど)	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、論文の構造分析
19-20	7/1	08:50-10:30	11 番教室	第十回授業(リサーチを論文にする 2)	アーギュメントと対話	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTO	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、

						P. WHITAKER SIMON	assignment(3)の提出
21-22	7/8	08:50-10:30	11番教室	第十一回授業(リサーチを論文にする3)	リサーチと論文ステートメント	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
23-24	7/15	08:50-10:30	11番教室	第十二回授業(プレゼンテーション)	論文計画のプレゼンテーション	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Presentation
25-26	7/22	08:50-10:30	11番教室	第十三回授業(クリティカル・ライティング1)	ライティングにおけるパターンと創造性	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Final Paper 下書き
27-28	7/29	08:50-10:30	11番教室	第十四回授業(クリティカル・ライティング2)	論文におけるレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Peer Review
29-30	7/31	08:50-10:30	11番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Reflection

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Participation 30%, Assignments + Presentation 40%, Final Paper 30%

再評価: 有(再評価方法 「英語I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004116				
科目名	英語ＩB			**科目ID**	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜　1 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.
The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる。

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	9 番教室	第一回授業(概要)	授業概要説明	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式
3-4	4/22	08:50-10:30	9 番教室	第二回授業(ライティング基礎1)	英語でどう書くか	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式

							授業内ライティングを行なう
5-6	5/13	08:50-10:30	9番教室	第三回授業(ライティング基礎2)	パラグラフとは？	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(1)の提出
7-8	5/20	08:50-10:30	9番教室	第四回授業(ライティング基礎3)	日本語、英語スピーチを読み比べる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内ライティングを行なう
9-10	5/27	08:50-10:30	9番教室	第五回授業(リーディング＆ライティング)	他のソースを「要約」して自分の書き物に入れる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. サマリーの練習
11-12	6/3	08:50-10:30	9番教室	第六回授業(リーディング＆ライティング)	剽窃とは何か	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の下書き
13-14	6/10	08:50-10:30	9番教室	第七回授業(よりよりライティングに向けて1)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の Editing
15-16	6/17	08:50-10:30	9番教室	第八回授業(よりよいライティングに向けて2)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の提出
17-18	6/24	08:50-10:30	9番教室	第九回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(1)
19-20	7/1	08:50-10:30	9番教室	第十回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(2)
21-22	7/8	08:50-10:30	9番教室	第十一回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の下書き
23-24	7/15	08:50-10:30	9番教室	第十二回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の Editing と提出
25-26	7/22	08:50-10:30	9番教室	第十三回授業(ライティングのコツ)	ニュアンスのある英文を書くために(助動詞)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの計画書を練る
27-28	7/29	08:50-10:30	9番教室	第十四回授業(ライティングを仕上げる)	タームペーパーの引用文献リストを作る	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパー

							の下書き、Editing
29-30	7/31	08:50-10:30	9 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの下書きに対する教員からの講評、書き直し検討

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:30%, writing assignments + quizzes:40%, in-class exam or final essay:30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	004117				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Each class of this course will be centred on either a lecture or short article, which we will investigate and discuss broadly in class. The goal with the range of topics is breadth, which will develop your confidence in giving opinions on a range of issues as well as your skills at digesting information quickly in a live, discursive situation. The final assessment of the course is the discussion test, which will take a similar format to the sessions themselves.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	08:50-10:30	10 番教室	Orientation	Course Introduction	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

3-4	4/23	08:50-10:30	10 番教室	Topic 1	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	08:50-10:30	10 番教室	Topic 2	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
7-8	5/7	08:50-10:30	10 番教室	Topic 3	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	08:50-10:30	10 番教室	Topic 4	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	08:50-10:30	10 番教室	Topic 5	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	08:50-10:30	10 番教室	Topic 6	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	08:50-10:30	10 番教室	Topic 7	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	08:50-10:30	10 番教室	Topic 8	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	08:50-10:30	10 番教室	Topic 9	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	08:50-10:30	10 番教室	Topic 10	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	08:50-10:30	10 番教室	Topic 11	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	08:50-10:30	10 番教室	Topic 12	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	08:50-10:30	10 番教室	Topic 13	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	08:50-10:30	10 番教室	Wrap-up	Discussion Test	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 50%, discussion test 25%, assignments 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先（メールアドレス）

WHITAKER SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	004118				
科目名	英語ＩＢ			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	11 番教	第一回授業(コース概要	授業概要説明、コミュニティ・ビル	猪熊 恵子, Y	アクティブ・ラーニ

			室	説明)	ディング、フリー・ライティング	OUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	ング、ディスカッション、授業内ライティング
3-4	4/22	10:45-12:25	11 番教室	第二回授業(レトリックとは)	英語のレトリックとは何か	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
5-6	5/13	10:45-12:25	11 番教室	第三回授業(ライティングにおける物語)	英語ライティングにおける物語の役割(1):修正とプロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
7-8	5/20	10:45-12:25	11 番教室	第四回授業(プロセスとしてのライティング)	英語ライティングにおける物語の役割(2):フィードバック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、assignment(1)の提出
9-10	5/27	10:45-12:25	11 番教室	第五回授業(情報のレトリック)	情報・メディアにおけるレトリックの役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
11-12	6/3	10:45-12:25	11 番教室	第六回授業(情報とリサーチ)	リサーチの始め方、情報の集め方	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
13-14	6/10	10:45-12:25	11 番教室	第七回授業(情報をライティングに取り込む)	情報の分析と統合の方法・プロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、パラフレーズの練習、assignment(2)の提出
15-16	6/17	10:45-12:25	11 番教室	第八回授業(情報の適切な使用)	引用、剽窃、AI について	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
17-18	6/24	10:45-12:25	11 番教室	第九回授業(リサーチを論文にする 1)	論文の構造(パラグラフ、ステートメントなど)	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、論文の構造分析
19-20	7/1	10:45-12:25	11 番教室	第十回授業(リサーチを論文にする 2)	アーギュメントと対話	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTO	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、

						P. WHITAKER SIMON	assignment(3)の提出
21-22	7/8	10:45-12:25	11 番教室	第十一回授業(リサーチを論文にする 3)	リサーチと論文ステートメント	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
23-24	7/15	10:45-12:25	11 番教室	第十二回授業(プレゼンテーション)	論文計画のプレゼンテーション	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Presentation
25-26	7/22	10:45-12:25	11 番教室	第十三回授業(クリティカル・ライティング 1)	ライティングにおけるパターンと創造性	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Final Paper 下書き
27-28	7/29	10:45-12:25	11 番教室	第十四回授業(クリティカル・ライティング 2)	論文におけるレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Peer Review
29-30	7/31	10:45-12:25	11 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Reflection

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:Participation 30%, Assignments + Presentation 40%, Final Paper 30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004119				
科目名	英語ＩB			**科目ID**	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜　2 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.
The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	9 番教室	第一回授業(概要)	授業概要説明	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式
3-4	4/22	10:45-12:25	9 番教室	第二回授業(ライティング基礎1)	英語でどう書くか	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式

							授業内ライティングを行なう
5-6	5/13	10:45-12:25	9番教室	第三回授業(ライティング基礎2)	パラグラフとは？	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(1)の提出
7-8	5/20	10:45-12:25	9番教室	第四回授業(ライティング基礎3)	日本語、英語スピーチを読み比べる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内ライティングを行なう
9-10	5/27	10:45-12:25	9番教室	第五回授業(リーディング＆ライティング)	他のソースを「要約」して自分の書き物に入れる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. サマリーの練習
11-12	6/3	10:45-12:25	9番教室	第六回授業(リーディング＆ライティング)	剽窃とは何か	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の下書き
13-14	6/10	10:45-12:25	9番教室	第七回授業(よりよりライティングに向けて1)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の Editing
15-16	6/17	10:45-12:25	9番教室	第八回授業(よりよいライティングに向けて2)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の提出
17-18	6/24	10:45-12:25	9番教室	第九回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(1)
19-20	7/1	10:45-12:25	9番教室	第十回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(2)
21-22	7/8	10:45-12:25	9番教室	第十一回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の下書き
23-24	7/15	10:45-12:25	9番教室	第十二回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の Editing と提出
25-26	7/22	10:45-12:25	9番教室	第十三回授業(ライティングのコツ)	ニュアンスのある英文を書くために(助動詞)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの計画書を練る
27-28	7/29	10:45-12:25	9番教室	第十四回授業(ライティングを仕上げる)	タームペーパーの引用文献リストを作る	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパー

							の下書き、Editing
29-30	7/31	10:45-12:25	9 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの下書きに対する教員からの講評、書き直し検討

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:30%, writing assignments + quizzes:40%, in-class exam or final essay:30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	004120				
科目名	英語ＩA			**科目ID**	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Each class of this course will be centred on either a lecture or short article, which we will investigate and discuss broadly in class. The goal with the range of topics is breadth, which will develop your confidence in giving opinions on a range of issues as well as your skills at digesting information quickly in a live, discursive situation. The final assessment of the course is the discussion test, which will take a similar format to the sessions themselves.

The primary goals of this course are to improve English speaking and listening skills.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	10 番教室	Orientation	Course Introduction	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

3-4	4/23	10:45-12:25	10 番教室	Topic 1	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	10:45-12:25	10 番教室	Topic 2	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
7-8	5/7	10:45-12:25	10 番教室	Topic 3	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	10:45-12:25	10 番教室	Topic 4	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	10:45-12:25	10 番教室	Topic 5	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	10:45-12:25	10 番教室	Topic 6	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	10:45-12:25	10 番教室	Topic 7	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	10:45-12:25	10 番教室	Topic 8	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	10:45-12:25	10 番教室	Topic 9	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	10:45-12:25	10 番教室	Topic 10	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	10:45-12:25	10 番教室	Topic 11	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	10:45-12:25	10 番教室	Topic 12	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	10:45-12:25	10 番教室	Topic 13	Listening and Speaking Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	10:45-12:25	10 番教室	Wrap-up	Discussion Test	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 50%, discussion test 25%, assignments 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先（メールアドレス）

WHITAKER SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	004121				
科目名	英語ＩＢ			**科目ID**	
担当教員	野口　大斗[NOGUCHI Hiroto]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜　1 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes.

The primary goals of this course are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	08:50-10:30	2 番教室	Guidance	Course Introduction	野口　大斗	Active Learning, Seminar
3-4	4/23	08:50-10:30	2 番教室	Class 2	Reading and Writing Practice	野口　大斗	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	08:50-10:30	2 番教室	Class 3	Reading and Writing Practice	野口　大斗	Active Learning, Seminar

7-8	5/7	08:50-10:30	2 番教室	Class 4	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	08:50-10:30	2 番教室	Class 5	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	08:50-10:30	2 番教室	Class 6	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	08:50-10:30	2 番教室	Class 7	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	08:50-10:30	2 番教室	Class 8	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	08:50-10:30	2 番教室	Class 9	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	08:50-10:30	2 番教室	Class 10	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	08:50-10:30	2 番教室	Class 11	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	08:50-10:30	2 番教室	Class 12	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	08:50-10:30	2 番教室	Class 13	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	08:50-10:30	2 番教室	Class 14	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	08:50-10:30	2 番教室	Class 15	In-class Exam	野口 大斗	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: assignments 15% quizzes 15% participation 20% midterm exam 25% end-of-term exam 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項
出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004122				
科目名	英語ＩＢ			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	08:50-10:30	11 番教	第一回授業(コース概要	授業概要説明、コミュニティ・ビル	猪熊 恵子, Y	アクティブ・ラーニ

			室	説明)	ディング、フリー・ライティング	OUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	ング、ディスカッション、授業内ライティング
3-4	4/23	08:50-10:30	11 番教室	第二回授業(レトリックとは)	英語のレトリックとは何か	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
5-6	4/30	08:50-10:30	11 番教室	第三回授業(ライティングにおける物語)	英語ライティングにおける物語の役割(1):修正とプロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
7-8	5/7	08:50-10:30	11 番教室	第四回授業(プロセスとしてのライティング)	英語ライティングにおける物語の役割(2):フィードバック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、assignment(1)の提出
9-10	5/14	08:50-10:30	11 番教室	第五回授業(情報のレトリック)	情報・メディアにおけるレトリックの役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
11-12	5/21	08:50-10:30	11 番教室	第六回授業(情報とリサーチ)	リサーチの始め方、情報の集め方	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
13-14	5/28	08:50-10:30	11 番教室	第七回授業(情報をライティングに取り込む)	情報の分析と統合の方法・プロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、パラフレーズの練習、assignment(2)の提出
15-16	6/4	08:50-10:30	11 番教室	第八回授業(情報の適切な使用)	引用、剽窃、AI について	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
17-18	6/11	08:50-10:30	11 番教室	第九回授業(リサーチを論文にする 1)	論文の構造(パラグラフ、ステートメントなど)	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、論文の構造分析
19-20	6/18	08:50-10:30	11 番教室	第十回授業(リサーチを論文にする 2)	アーギュメントと対話	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTO	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、

						P. WHITAKER SIMON	assignment(3)の提出
21-22	6/25	08:50-10:30	11 番教室	第十一回授業(リサーチを論文にする 3)	リサーチと論文ステートメント	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
23-24	7/2	08:50-10:30	11 番教室	第十二回授業(プレゼンテーション)	論文計画のプレゼンテーション	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Presentation
25-26	7/9	08:50-10:30	11 番教室	第十三回授業(クリティカル・ライティング 1)	ライティングにおけるパターンと創造性	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Final Paper 下書き
27-28	7/16	08:50-10:30	11 番教室	第十四回授業(クリティカル・ライティング 2)	論文におけるレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Peer Review
29-30	7/23	08:50-10:30	11 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Reflection

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:Participation 30%, Assignments + Presentation 40%, Final Paper 30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。
履修上の注意事項 出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス） 猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー 猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004123				
科目名	英語ＩB			**科目ID**	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間：木曜　1 講
・対象学科：全学科
・科目を履修して得られる能力（コンピテンシー）：
　別表3－4）
　別表4－5）

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.
The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
（さまざまな種類の作品や書き物を読むことで）より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル（70 点以上）の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	08:50-10:30	7 番教室	第一回授業（概要）	授業概要説明	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式
3-4	4/23	08:50-10:30	7 番教室	第二回授業（ライティング基礎1）	英語でどう書くか	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式

							授業内ライティングを行なう
5-6	4/30	08:50-10:30	7番教室	第三回授業(ライティング基礎2)	パラグラフとは？	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(1)の提出
7-8	5/7	08:50-10:30	7番教室	第四回授業(ライティング基礎3)	日本語、英語スピーチを読み比べる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内ライティングを行なう
9-10	5/14	08:50-10:30	7番教室	第五回授業(リーディング＆ライティング)	他のソースを「要約」して自分の書き物に入れる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. サマリーの練習
11-12	5/21	08:50-10:30	7番教室	第六回授業(リーディング＆ライティング)	剽窃とは何か	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の下書き
13-14	5/28	08:50-10:30	7番教室	第七回授業(よりよりライティングに向けて1)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の Editing
15-16	6/4	08:50-10:30	7番教室	第八回授業(よりよいライティングに向けて2)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の提出
17-18	6/11	08:50-10:30	7番教室	第九回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(1)
19-20	6/18	08:50-10:30	7番教室	第十回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(2)
21-22	6/25	08:50-10:30	7番教室	第十一回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の下書き
23-24	7/2	08:50-10:30	7番教室	第十二回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の Editing と提出
25-26	7/9	08:50-10:30	7番教室	第十三回授業(ライティングのコツ)	ニュアンスのある英文を書くために(助動詞)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの計画書を練る
27-28	7/16	08:50-10:30	7番教室	第十四回授業(ライティングを仕上げる)	タームペーパーの引用文献リストを作る	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパー

							の下書き、Editing
29-30	7/23	08:50-10:30	7 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの下書きに対する教員からの講評、書き直し検討

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:30%, writing assignments + quizzes:40%, in-class exam or final essay:30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	004124				
科目名	英語ＩＢ			科目ID	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 木曜１講

対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will learn how to write a traditional five-paragraph essay, the basis of academic writing in English. Attention will be given to organizing your ideas, writing a clear thesis, supporting your ideas with attention to proper structure (sentence, paragraph, and essay), and revising your work. In the first half of the semester, we will focus on writing as a process and skill. In the second half of the semester, you will write four short essays with different patterns of development. All writing will occur in class, while out of class work will focus on reading to prepare you for this writing. Some attention to close reading practice will also be given at different times during the semester.

授業の到達目標

Write in clear, grammatical sentences.

Make appropriate language choices for an academic essay.

Create a logical framework for an essay.

Demonstrate an awareness of your own strengths and weaknesses as a writer.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
3-4	4/23	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
5-6	4/30	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
7-8	5/7	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
9-10	5/14	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
11-12	5/21	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
13-14	5/28	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
15-16	6/4	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
17-18	6/11	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
19-20	6/18	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
21-22	6/25	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
23-24	7/2	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
25-26	7/9	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
27-28	7/16	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
29-30	7/23	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Course introduction and getting to know each other

Weeks 2-8: Skills instruction (paragraph structure and basic pattern of a five-paragraph essay)

Weeks 9-11: In-class essay writing (a different pattern of development each week).

Weeks 12-13: Close reading of special topic essays

Week 14: In-class essay writing (compare and/or contrast essay of special topic essays).

Week 15: Course review

成績評価の方法

評価: Homework: 15%

In-class essays: 40%

Participation: 45%

再評価:有(再評価方法「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期 2 クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期 1 クラス（英語 IC）の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。 3 クラスすべての履 修は必須です。なお、 再評価の対象となるのは、 英語 I の ABC の各クラスに原則として 3 分の 2 以上出席した者です。ただし、3 クラスのうち 2 クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

教科書

Materials will be provided by the instructor.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

備考

オフィスアワー

水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階

連絡先(メールアドレス)

christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

YOUNG DAVID CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

YOUNG DAVID CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004125				
科目名	英語ＩＢ			**科目ID**	
担当教員	野口　大斗[NOGUCHI Hiroto]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜　2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes.

The primary goals of this course are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	2 番教室	Guidance	Course Introduction	野口　大斗	Active Learning, Seminar

3-4	4/23	10:45-12:25	2 番教室	Class 2	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
5-6	4/30	10:45-12:25	2 番教室	Class 3	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
7-8	5/7	10:45-12:25	2 番教室	Class 4	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
9-10	5/14	10:45-12:25	2 番教室	Class 5	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
11-12	5/21	10:45-12:25	2 番教室	Class 6	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
13-14	5/28	10:45-12:25	2 番教室	Class 7	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
15-16	6/4	10:45-12:25	2 番教室	Class 8	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
17-18	6/11	10:45-12:25	2 番教室	Class 9	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
19-20	6/18	10:45-12:25	2 番教室	Class 10	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
21-22	6/25	10:45-12:25	2 番教室	Class 11	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
23-24	7/2	10:45-12:25	2 番教室	Class 12	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
25-26	7/9	10:45-12:25	2 番教室	Class 13	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
27-28	7/16	10:45-12:25	2 番教室	Class 14	Reading and Writing Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
29-30	7/23	10:45-12:25	2 番教室	Class 15	In-class Exam	野口 大斗	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: assignments 15% quizzes 15% participation 20% midterm exam 25% end-of-term exam 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先（メールアドレス）

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室

YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004126				
科目名	英語ＩＢ			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	11 番教	第一回授業(コース概要	授業概要説明、コミュニティ・ビル	猪熊 恵子, Y	アクティブ・ラーニ

			室	説明)	ディング、フリー・ライティング	OUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	ング、ディスカッション、授業内ライティング
3-4	4/23	10:45-12:25	11 番教室	第二回授業(レトリックとは)	英語のレトリックとは何か	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
5-6	4/30	10:45-12:25	11 番教室	第三回授業(ライティングにおける物語)	英語ライティングにおける物語の役割(1):修正とプロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
7-8	5/7	10:45-12:25	11 番教室	第四回授業(プロセスとしてのライティング)	英語ライティングにおける物語の役割(2):フィードバック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、assignment(1)の提出
9-10	5/14	10:45-12:25	11 番教室	第五回授業(情報のレトリック)	情報・メディアにおけるレトリックの役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、レトリック分析
11-12	5/21	10:45-12:25	11 番教室	第六回授業(情報とリサーチ)	リサーチの始め方、情報の集め方	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
13-14	5/28	10:45-12:25	11 番教室	第七回授業(情報をライティングに取り込む)	情報の分析と統合の方法・プロセス	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、パラフレーズの練習、assignment(2)の提出
15-16	6/4	10:45-12:25	11 番教室	第八回授業(情報の適切な使用)	引用、剽窃、AI について	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
17-18	6/11	10:45-12:25	11 番教室	第九回授業(リサーチを論文にする 1)	論文の構造(パラグラフ、ステートメントなど)	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、論文の構造分析
19-20	6/18	10:45-12:25	11 番教室	第十回授業(リサーチを論文にする 2)	アーギュメントと対話	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTO	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、

						P. WHITAKER SIMON	assignment(3)の提出
21-22	6/25	10:45-12:25	11 番教室	第十一回授業(リサーチを論文にする 3)	リサーチと論文ステートメント	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、授業内ライティング
23-24	7/2	10:45-12:25	11 番教室	第十二回授業(プレゼンテーション)	論文計画のプレゼンテーション	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Presentation
25-26	7/9	10:45-12:25	11 番教室	第十三回授業(クリティカル・ライティング 1)	ライティングにおけるパターンと創造性	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Final Paper 下書き
27-28	7/16	10:45-12:25	11 番教室	第十四回授業(クリティカル・ライティング 2)	論文におけるレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Peer Review
29-30	7/23	10:45-12:25	11 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP. WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Reflection

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Participation 30%, Assignments + Presentation 40%, Final Paper 30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先（メールアドレス）

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004127				
科目名	英語ＩB			**科目ID**	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:木曜　2 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

Depending on the particular class, students will read English on a wide variety of topics, including literary works, articles from newspapers and journals, non-fiction and fiction. Students will also write in English on a variety of themes. Students in some classes may give formal presentations based on their written work and other class activities.
The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/16	10:45-12:25	7 番教室	第一回授業(概要)	授業概要説明	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式
3-4	4/23	10:45-12:25	7 番教室	第二回授業(ライティング基礎1)	英語でどう書くか	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式

							授業内ライティングを行なう
5-6	4/30	10:45-12:25	7番教室	第三回授業(ライティング基礎2)	パラグラフとは？	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(1)の提出
7-8	5/7	10:45-12:25	7番教室	第四回授業(ライティング基礎3)	日本語、英語スピーチを読み比べる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内ライティングを行なう
9-10	5/14	10:45-12:25	7番教室	第五回授業(リーディング＆ライティング)	他のソースを「要約」して自分の書き物に入れる	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. サマリーの練習
11-12	5/21	10:45-12:25	7番教室	第六回授業(リーディング＆ライティング)	剽窃とは何か	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の下書き
13-14	5/28	10:45-12:25	7番教室	第七回授業(よりよりライティングに向けて1)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の Editing
15-16	6/4	10:45-12:25	7番教室	第八回授業(よりよいライティングに向けて2)	賛否両論をまとめながら自分の意見を提示する(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の提出
17-18	6/11	10:45-12:25	7番教室	第九回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(1)
19-20	6/18	10:45-12:25	7番教室	第十回授業(日本語と英語の違いを考える)	訳せるものと訳せないもの(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内課題に取り組む(2)
21-22	6/25	10:45-12:25	7番教室	第十一回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の下書き
23-24	7/2	10:45-12:25	7番教室	第十二回授業(ペーパーの構造を作る)	より長い英文を書くには(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(3)の Editing と提出
25-26	7/9	10:45-12:25	7番教室	第十三回授業(ライティングのコツ)	ニュアンスのある英文を書くために(助動詞)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの計画書を練る
27-28	7/16	10:45-12:25	7番教室	第十四回授業(ライティングを仕上げる)	タームペーパーの引用文献リストを作る	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパー

							の下書き、Editing
29-30	7/23	10:45-12:25	7 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. タームペーパーの下書きに対する教員からの講評、書き直し検討

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:30%, writing assignments + quizzes:40%, in-class exam or final essay:30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	004128				
科目名	英語ＩＢ			科目ID	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 木曜１講

対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

Students will learn how to write a traditional five-paragraph essay, the basis of academic writing in English. Attention will be given to organizing your ideas, writing a clear thesis, supporting your ideas with attention to proper structure (sentence, paragraph, and essay), and revising your work. In the first half of the semester, we will focus on writing as a process and skill. In the second half of the semester, you will write four short essays with different patterns of development. All writing will occur in class, while out of class work will focus on reading to prepare you for this writing. Some attention to close reading practice will also be given at different times during the semester.

授業の到達目標

Write in clear, grammatical sentences.

Make appropriate language choices for an academic essay.

Create a logical framework for an essay.

Demonstrate an awareness of your own strengths and weaknesses as a writer.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/16	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
3-4	4/23	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
5-6	4/30	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
7-8	5/7	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
9-10	5/14	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
11-12	5/21	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
13-14	5/28	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
15-16	6/4	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
17-18	6/11	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
19-20	6/18	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
21-22	6/25	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
23-24	7/2	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
25-26	7/9	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
27-28	7/16	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
29-30	7/23	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Course introduction and getting to know each other

Weeks 2-8: Skills instruction (paragraph structure and basic pattern of a five-paragraph essay)

Weeks 9-11: In-class essay writing (a different pattern of development each week).

Weeks 12-13: Close reading of special topic essays

Week 14: In-class essay writing (compare and/or contrast essay of special topic essays).

Week 15: Course review

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Homework: 15% (6x2.5 points each)

In-class essays: 40% (4x10 points each)

Participation: 45% (Each lesson is worth 3 points each)

再評価:有(再評価方法「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期 2 クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期 1 クラス（英語 IC）の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。 3 クラスすべての履 修は必須です。なお、 再評価の対象となるのは、 英語 I の ABC の各クラスに原則として 3 分の 2 以上出席した者です。ただし、3 クラスのうち 2 クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

教科書

Materials will be provided by the instructor.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

備考

オフィスアワー

水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階

連絡先(メールアドレス)

christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

YOUNG DAVID CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

YOUNG DAVID CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004129				
科目名	英語ＩＣ			科目ID	
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 1 講

・対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

The purpose of this speaking course is to increase students' communicative skills and confidence to use English in public situations. Students will develop the ability to speak extensively on prepared and impromptu topics, in both conversation and presentation formats. This semester will focus evenly on conversation and presentation practice.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	5 番教室	Class 1	Intro to Discussion	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	08:50-10:30	5 番教室	Class 2	Intro to Presentations	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	08:50-10:30	5 番教室	Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar

7-8	10/14	08:50-10:30	5 番教室	Class 4	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
9-10	10/21	08:50-10:30	5 番教室	Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	08:50-10:30	5 番教室	Class 6	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	08:50-10:30	5 番教室	Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	08:50-10:30	5 番教室	Class 8	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	08:50-10:30	5 番教室	Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	08:50-10:30	5 番教室	Class 10	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	08:50-10:30	5 番教室	Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	08:50-10:30	5 番教室	Class 12	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	08:50-10:30	5 番教室	Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	08:50-10:30	5 番教室	Class 14	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	08:50-10:30	5 番教室	Class 15	Discussion Test	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 40% presentations 25% discussion test 25% homework 10%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項
出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004130				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	MIYA MARUTSUKA[MIYA MARUTSUKA]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Do you want to improve your ability to talk about health? This course will focus on health-related conversations, in addition to improving your listening, vocabulary, pronunciation, and presentation skills. Topics to be covered include: aging, smoking, exercise, food, stress and dental care.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	4 番教室	Orientation	Course Introduction	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	08:50-10:30	4 番教室	Topic 1	Discussion 1	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	08:50-10:30	4 番教室	Topic 2	Discussion 2	MIYA MARUTSUKA	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	08:50-10:30	4 番教室	Topic 3	Discussion 3	MIYA MARU	Active Learning,

						TSUKA	Seminar
9-10	10/21	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	08:50-10:30	4番教室	Topic 4	Discussion 4	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	08:50-10:30	4番教室	Topic 5	Discussion 5	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	08:50-10:30	4番教室	Topic 6	Discussion 6	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	08:50-10:30	4番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	08:50-10:30	4番教室	Topic 7	Discussion 7	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation/homework 30% group assignments 20% quizzes 25% discussion test 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス） 猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室 WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室 YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004131				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

近年欧米を中心に発達してきた新しい分野である「医療人文学」に関するテキストを英語で読み、グループでの議論やプレゼンテーションを通して理解を深める。

医療人文学は、例えば「物語」が医療現場において果たす役割など、人文知と医療の建設的な対話を行い、医療の根幹に本来あるべき「人間」という問いを多様な視点から考察する学問である。まだ翻訳されていない英語のテキストを精読し、他学生と深く議論することを通して、英文の理解だけでなく将来医療に関わるすべての人間(これは医療人だけでなく患者も含む)が人文知を通して多様な生と物語のありようを学ぶことを目標とする。

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	11 番教室	第一回授業(コース概要説明)	授業概要説明、コミュニティ・ビルディング、フリー・ライティング	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKE	アクティブ・ラーニング、ディスカッション

						R SIMON	
3-4	9/30	08:50-10:30	11番教室	第二回授業(医療人文学とは)	医療人文学の多様なアプローチ	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、
5-6	10/7	08:50-10:30	11番教室	第三回授業(Narrative Medicine 1)	医療において物語が果たす役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
7-8	10/14	08:50-10:30	11番教室	第四回授業(Narrative Medicine 2)	医療のレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、assignment(1)の提出
9-10	10/21	08:50-10:30	11番教室	第五回授業(個人と社会)	社会が個人の健康に及ぼす影響	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
11-12	10/28	08:50-10:30	11番教室	第六回授業(医療とイメージ)	医療におけるイメージのレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
13-14	11/4	08:50-10:30	11番教室	第七回授業(Graphic Medicine)	グラフィック・アートと医学	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
15-16	11/11	08:50-10:30	11番教室	第八回授業(構造的暴力)	医療における構造的暴力	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション assignment(2)の提出
17-18	11/18	08:50-10:30	11番教室	第九回授業(医療と宗教)	医療において宗教と信仰が果たす役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
19-20	11/25	08:50-10:30	11番教室	第十回授業(障害学 1)	「普通」を疑う(1)	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
21-22	12/2	08:50-10:30	11番教室	第十一回授業(障害学 2)	「普通」を疑う(2)	猪熊 恵子, YOUNG DAVI	アクティブ・ラーニング、ディスカッ

						D CHRISTOP, WHITAKER SIMON	ション
23-24	12/9	08:50-10:30	11番教室	第十二回授業(科学の歴史)	科学の歴史、テクノロジーと医療	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Presentation
25-26	12/16	08:50-10:30	11番教室	第十三回授業(偏見と医療)	医療における偏見	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
27-28	1/6	08:50-10:30	11番教室	第十四回授業(心の病と自己)	目に見えない病	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Peer Review
29-30	1/13	08:50-10:30	11番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Reflection

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:Participation 20%, Assignments + Quizzes + Presentation 50%, Final Paper 30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス） keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー 水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004132				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	野口　大斗[NOGUCHI Hiroto]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜　1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

This course focuses on active listening and oral English skills. Throughout the course, students will have opportunities to discuss and give presentations on a wide range of topics. After successfully completing this course, students should be able to speak in English without taking long pauses or reading from a script.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	2 番教室	Guidance Course	Introduction	野口　大斗	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	08:50-10:30	2 番教室	Topic 1	Discussion Practice 1	野口　大斗	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	08:50-10:30	2 番教室	Topic 2	Discussion Practice 2	野口　大斗	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	08:50-10:30	2 番教室	Topic 3	Discussion Practice 3	野口　大斗	Active Learning,

							Seminar
9-10	10/21	08:50-10:30	2 番教室	Topic 4	Discussion Practice 4	野口 大斗	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	08:50-10:30	2 番教室	Pre-test Preparation	Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	08:50-10:30	2 番教室	In-Class Exam	Discussion Test	野口 大斗	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	08:50-10:30	2 番教室	Topic 5	Presentation Practice 1	野口 大斗	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	08:50-10:30	2 番教室	Topic 6	Presentation Practice 2	野口 大斗	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	08:50-10:30	2 番教室	Topic 7	Presentation Practice 3	野口 大斗	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	08:50-10:30	2 番教室	Group Presentation	PowerPoint Presentation	野口 大斗	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	08:50-10:30	2 番教室	Topic 8	Presentation Practice 4	野口 大斗	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	08:50-10:30	2 番教室	Topic 9	Presentation Practice 5	野口 大斗	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	08:50-10:30	2 番教室	Topic 10	Presentation Practice 6	野口 大斗	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	08:50-10:30	2 番教室	Individual Presentation	Poster Presentation	野口 大斗	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 25% quizzes and assignments 15% discussion test 20% group presentation 20% individual presentation 20%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス）
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004133				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	KNOBBS RICHARD LEE[KNOBBS RICHARD LEE]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

The purpose of this speaking course is to increase students' communicative skills and confidence to use English. Students will develop the ability to speak on a wide range of topics in conversations. They will also have opportunities to prepare and give presentations.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	6 番教室	Orientation	Course Introduction	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	08:50-10:30	6 番教室	Topic 1	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	08:50-10:30	6 番教室	Topic 2	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	08:50-10:30	6 番教室	Topic 3	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
9-10	10/21	08:50-10:30	6 番教室	Topic 4	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI	Active Learning,

						CHARD LEE	Seminar
11-12	10/28	08:50-10:30	6 番教室	Topic 5	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	08:50-10:30	6 番教室	Topic 6	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	08:50-10:30	6 番教室	Topic 7	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	08:50-10:30	6 番教室	Topic 8	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	08:50-10:30	6 番教室	Topic 9	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	08:50-10:30	6 番教室	Topic 10	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	08:50-10:30	6 番教室	Topic 11	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	08:50-10:30	6 番教室	Topic 12	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	08:50-10:30	6 番教室	Topic 13	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	08:50-10:30	6 番教室	Wrap-Up	Discussion Test	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Quizzes/assignments: 25% Final discussion test: 25%

Participation: 50%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004134				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間: 水曜１講

対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

In the first part of the semester (weeks 1-6), students will learn how to serve as leaders of outcome-oriented groups by assuming and delegating specific roles. In the second half of the semester (weeks 7-15), students will utilize and expand on these leadership and group management skills by working together to complete a solutions-focused project on a social issue of their choosing. During this time, additional analytical and expressive skills will be developed. The project will culminate in a final, group presentation on the last day of the semester.

授業の到達目標

Serve as a group leader by organizing and maintaining task-oriented group discussions.

Identify problems and their root causes, as well as propose solutions in written and spoken form.

Clearly communicate ideas in formalized presentations.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
3-4	9/30	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
5-6	10/7	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
7-8	10/14	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
9-10	10/21	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
11-12	10/28	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
13-14	11/4	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
15-16	11/11	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
17-18	11/18	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
19-20	11/25	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
21-22	12/2	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
23-24	12/9	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
25-26	12/16	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
27-28	1/6	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
29-30	1/13	08:50-10:30	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Course introduction and getting to know each other

Weeks 2-6: Skills instruction (group discussion and leadership)

Weeks 7-14: Youth activitism project (project-based learning with incorporated skills instruction).

Week 15: Final presentations and course review

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Homework: 30%

Final presentation: 10%

Participation: 60%

再評価:有(再評価方法「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期 2 クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期 1 クラス（英語 IC）の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。 3 クラスすべての履 修は必須です。なお、 再評価の対象となるのは、 英語 I の ABC の各クラスに原則として 3 分の 2 以上出席した者です。ただし、3 クラスのうち 2 クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

教科書

Materials will be provided by the instructor.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

備考

オフィスアワー

水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階

連絡先(メールアドレス)

christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

YOUNG DAVID CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

YOUNG DAVID CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004135				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜　1 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

英語で書かれた詩や散文(小説などのフィクション作品を含む)、エッセイ等、多様なジャンルの英文を読む
自分の読解を他者の読解と比較検討しつつ、複雑な構文や日本語とは違うレトリックを使用する英文を正確に読解するための訓練を重ねる
最終的に、読み終えた英文に関しての自分なりの解釈をまとめ、それを他の学生に説明しつつ、他の学生の解釈と併せて議論することによって、自らの考えを相対化する

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	9 番教室	第一回授業(概要)	授業概要説明	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式
3-4	9/30	08:50-10:30	9 番教室	第二回授業(リーディング基礎1)	古い時代の英詩を読みながら構造を考える	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式 授業内発表に基

							づく議論と読解
5-6	10/7	08:50-10:30	9番教室	第三回授業(リーディング基礎2)	新しい時代の英詩を読みながら構造を考える	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
7-8	10/14	08:50-10:30	9番教室	第四回授業(リーディング実践1)	イギリス短編小説を読む1	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.アサインメント(1)の提出
9-10	10/21	08:50-10:30	9番教室	第五回授業(リーディング実践2)	イギリス短編小説を読む2	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
11-12	10/28	08:50-10:30	9番教室	第六回授業(リーディング実践3)	イギリス短編小説を読む3	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
13-14	11/4	08:50-10:30	9番教室	第七回授業(議論に基づいて解釈を深める1)	イギリス現代小説を読む1	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
15-16	11/11	08:50-10:30	9番教室	第八回授業(議論に基づいて解釈を深める2)	イギリス現代小説を読む2	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.アサインメント(2)の提出
17-18	11/18	08:50-10:30	9番教室	第九回授業(議論に基づいて解釈を深める3)	イギリス現代小説を読む3	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
19-20	11/25	08:50-10:30	9番教室	第十回授業(議論に基づいて解釈を深める4)	イギリス現代小説を読む4	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
21-22	12/2	08:50-10:30	9番教室	第十一回授業(社会と文学のつながり1／英語と日本語の違い)	イギリス文化とフィクション(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
23-24	12/9	08:50-10:30	9番教室	第十二回授業(社会と文学のつながり2／英語と日本語の違い)	イギリス文化とフィクション(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.授業内発表に基づく議論と読解
25-26	12/16	08:50-10:30	9番教室	第十三回授業(社会と文学のつながり3／英語と日本語の違い)	イギリス文化とフィクション(3)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.レポートの計画書を練る
27-28	1/6	08:50-10:30	9番教室	第十四回授業(自分たちの読解を振り返る)	レポートのテーマに基づく議論回	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.レポートに基づく

							議論
29-30	1/13	08:50-10:30	9 番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 教員からの講評

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participatio:20% in-class assignments plus presentations:50%, final essay:30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004136				
科目名	英語ＩＣ			科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 1 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

This course is aimed at developing students' critical reading, analysis and argumentative logic (spoken and written) through techniques derived from literary studies and the broader humanities. We will read short but influential literary texts, including some poetry, mostly from the 20th–21st centuries (one or two will be older). The course will therefore serve as something of an introduction to a part of the recent/present literary "scene" in English-speaking countries.

But a focus on literary texts will also allow students to challenge themselves to think and write critically about a set of closely linked questions. As such, over the semester, you will be able to refine your ideas about how you respond to and analyse literature, and consider how literary texts may relate to other areas of study and of life.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	10 番教室	Orientation	Course Introduction	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	08:50-10:30	10 番教室	Topic 1	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

5-6	10/7	08:50-10:30	10番教室	Topic 2	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	08:50-10:30	10番教室	Topic 3	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
9-10	10/21	08:50-10:30	10番教室	Topic 4	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	08:50-10:30	10番教室	Topic 5	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	08:50-10:30	10番教室	Topic 6	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	08:50-10:30	10番教室	Topic 7	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	08:50-10:30	10番教室	Topic 8	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	08:50-10:30	10番教室	Topic 9	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	08:50-10:30	10番教室	Topic 10	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	08:50-10:30	10番教室	Topic 11	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	08:50-10:30	10番教室	Topic 12	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	08:50-10:30	10番教室	Topic 13	Analysis and Discussion Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	08:50-10:30	10番教室	Wrap-up	Final Essay Feedback Session	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:20%, assignments:40%, final essay:40%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。

ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。
履修上の注意事項 出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス） WHITAKER SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
オフィスアワー WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	004137				
科目名	英語ＩC			**科目ID**	
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

The purpose of this speaking course is to increase students' communicative skills and confidence to use English in public situations. Students will develop the ability to speak extensively on prepared and impromptu topics, in both conversation and presentation formats. This semester will focus evenly on conversation and presentation practice.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	5 番教室	Class 1	Intro to Discussion	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	10:45-12:25	5 番教室	Class 2	Intro to Presentations	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	10:45-12:25	5 番教室	Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	10:45-12:25	5 番教室	Class 4	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar

9-10	10/21	10:45-12:25	5 番教室	Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	10:45-12:25	5 番教室	Class 6	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	10:45-12:25	5 番教室	Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	10:45-12:25	5 番教室	Class 8	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	10:45-12:25	5 番教室	Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	10:45-12:25	5 番教室	Class 10	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	10:45-12:25	5 番教室	Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	10:45-12:25	5 番教室	Class 12	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	10:45-12:25	5 番教室	Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	10:45-12:25	5 番教室	Class 14	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	10:45-12:25	5 番教室	Class 15	Discussion Test	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 40% presentations 25% discussion test 25% homework 10%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004138				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	MIYA MARUTSUKA[MIYA MARUTSUKA]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

Do you want to improve your ability to talk about health? This course will focus on health-related conversations, in addition to improving your listening, vocabulary, pronunciation, and presentation skills. Topics to be covered include: aging, smoking, exercise, food, stress and dental care.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	4 番教室	Orientation	Course Introduction	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	10:45-12:25	4 番教室	Topic 1	Discussion 1	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	10:45-12:25	4 番教室	Topic 2	Discussion 2	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	10:45-12:25	4 番教室	Topic 3	Discussion 3	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

9–10	10/21	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
11–12	10/28	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
13–14	11/4	10:45–12:25	4 番教室	Topic 4	Discussion 4	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
15–16	11/11	10:45–12:25	4 番教室	Topic 5	Discussion 5	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
17–18	11/18	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
19–20	11/25	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
21–22	12/2	10:45–12:25	4 番教室	Topic 6	Discussion 6	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
23–24	12/9	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
25–26	12/16	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
27–28	1/6	10:45–12:25	4 番教室	Activities	Group Assignment	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar
29–30	1/13	10:45–12:25	4 番教室	Topic 7	Discussion 7	MIYA MARU TSUKA	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2–13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation/homework 30% group assignments 20% quizzes 25% discussion test 25%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004139				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間: 水曜２講

対象:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

In the first part of the semester (weeks 1-6), students will learn how to serve as leaders of outcome-oriented groups by assuming and delegating specific roles. In the second half of the semester (weeks 7-15), students will utilize and expand on these leadership and group management skills by working together to complete a solutions-focused project on a social issue of their choosing. During this time, additional analytical and expressive skills will be developed. The project will culminate in a final, group presentation on the last day of the semester.

授業の到達目標

Serve as a group leader by organizing and maintaining task-oriented group discussions.

Identify problems and their root causes, as well as propose solutions in written and spoken form.

Clearly communicate ideas in formalized presentations.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
3-4	9/30	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
5-6	10/7	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
7-8	10/14	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
9-10	10/21	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
11-12	10/28	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
13-14	11/4	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
15-16	11/11	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
17-18	11/18	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
19-20	11/25	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
21-22	12/2	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
23-24	12/9	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
25-26	12/16	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
27-28	1/6	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP
29-30	1/13	10:45-12:25	5 番教室	YOUNG DAVID CHRISTOP

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Course introduction and getting to know each other

Weeks 2-6: Skills instruction (group discussion and leadership)

Weeks 7-14: Youth activitism project (project-based learning with incorporated skills instruction).

Week 15: Final presentations and course review

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Homework: 30%

Final presentation: 10%

Participation: 60%

再評価:有(再評価方法「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IA」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期 2 クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期 1 クラス（英語 IC）の 3 クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。 3 クラスすべての履 修は必須です。なお、 再評価の対象となるのは、 英語 I の ABC の各クラスに原則として 3 分の 2 以上出席した者です。ただし、3 クラスのうち 2 クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

教科書

Materials will be provided by the instructor.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

備考

オフィスアワー

水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階

連絡先(メールアドレス)

christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

YOUNG DAVID CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

YOUNG DAVID CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004140				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	野口　大斗[NOGUCHI Hiroto]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜　2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

This course focuses on active listening and oral English skills. Throughout the course, students will have opportunities to discuss and give presentations on a wide range of topics. After successfully completing this course, students should be able to speak in English without taking long pauses or reading from a script.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	2 番教室	Guidance Course	Introduction	野口　大斗	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	10:45-12:25	2 番教室	Topic 1	Discussion Practice 1	野口　大斗	Active Learning, Seminar
5-6	10/7	10:45-12:25	2 番教室	Topic 2	Discussion Practice 2	野口　大斗	Active Learning, Seminar

7-8	10/14	10:45-12:25	2 番教室	Topic 3	Discussion Practice 3	野口 大斗	Active Learning, Seminar
9-10	10/21	10:45-12:25	2 番教室	Topic 4	Discussion Practice 4	野口 大斗	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	10:45-12:25	2 番教室	Pre-test Preparation	Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	10:45-12:25	2 番教室	In-Class Exam	Discussion Test	野口 大斗	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	10:45-12:25	2 番教室	Topic 5	Presentation Practice 1	野口 大斗	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	10:45-12:25	2 番教室	Topic 6	Presentation Practice 2	野口 大斗	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	10:45-12:25	2 番教室	Topic 7	Presentation Practice 3	野口 大斗	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	10:45-12:25	2 番教室	Group Presentation	PowerPoint Presentation	野口 大斗	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	10:45-12:25	2 番教室	Topic 8	Presentation Practice 4	野口 大斗	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	10:45-12:25	2 番教室	Topic 9	Presentation Practice 5	野口 大斗	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	10:45-12:25	2 番教室	Topic 10	Presentation Practice 6	野口 大斗	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	10:45-12:25	2 番教室	Individual Presentation	Poster Presentation	野口 大斗	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: participation 25% quizzes and assignments 15% discussion test 20% group presentation 20% individual presentation 20%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項
出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004141				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	KNOBBS RICHARD LEE[KNOBBS RICHARD LEE]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

The purpose of this speaking course is to increase students' communicative skills and confidence to use English. Students will develop the ability to speak on a wide range of topics in conversations. They will also have opportunities to prepare and give presentations.

授業の到達目標

To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1–2	9/16	10:45–12:25	6 番教室	Orientation	Course Introduction	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
3–4	9/30	10:45–12:25	6 番教室	Topic 1	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
5–6	10/7	10:45–12:25	6 番教室	Topic 2	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
7–8	10/14	10:45–12:25	6 番教室	Topic 3	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RICHARD LEE	Active Learning, Seminar
9–10	10/21	10:45–12:25	6 番教室	Topic 4	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI	Active Learning,

						CHARD LEE	Seminar
11-12	10/28	10:45-12:25	6 番教室	Topic 5	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	10:45-12:25	6 番教室	Topic 6	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	10:45-12:25	6 番教室	Topic 7	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	10:45-12:25	6 番教室	Topic 8	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	10:45-12:25	6 番教室	Topic 9	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	10:45-12:25	6 番教室	Topic 10	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	10:45-12:25	6 番教室	Topic 11	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	10:45-12:25	6 番教室	Topic 12	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	10:45-12:25	6 番教室	Topic 13	Listening and Speaking Activities	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	10:45-12:25	6 番教室	Wrap-up	Discussion Test	KNOBBS RI CHARD LEE	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価: Quizzes/assignments: 25% Final discussion test: 25%

Participation: 50%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)
猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
WHITAKER　SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
WHITAKER　SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時　管理研究棟　3 階　ウィタカー研究室
YOUNG　DAVID　CHRISTOP:YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	004142				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員					
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

近年欧米を中心に発達してきた新しい分野である「医療人文学」に関するテキストを英語で読み、グループでの議論やプレゼンテーションを通して理解を深める。

医療人文学は、例えば「物語」が医療現場において果たす役割など、人文知と医療の建設的な対話を行い、医療の根幹に本来あるべき「人間」という問いを多様な視点から考察する学問である。まだ翻訳されていない英語のテキストを精読し、他学生と深く議論することを通して、英文の理解だけでなく将来医療に関わるすべての人間(これは医療人だけでなく患者も含む)が人文知を通して多様な生と物語のありようを学ぶことを目標とする。

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	11 番教室	第一回授業(コース概要説明)	授業概要説明、コミュニティ・ビルディング、フリー・ライティング	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKE	アクティブ・ラーニング、ディスカッション

						R SIMON	
3-4	9/30	10:45-12:25	11 番教室	第二回授業(医療人文学とは)	医療人文学の多様なアプローチ	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、
5-6	10/7	10:45-12:25	11 番教室	第三回授業(Narrative Medicine 1)	医療において物語が果たす役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
7-8	10/14	10:45-12:25	11 番教室	第四回授業(Narrative Medicine 2)	医療のレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、assignment(1)の提出
9-10	10/21	10:45-12:25	11 番教室	第五回授業(個人と社会)	社会が個人の健康に及ぼす影響	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
11-12	10/28	10:45-12:25	11 番教室	第六回授業(医療とイメージ)	医療におけるイメージのレトリック	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
13-14	11/4	10:45-12:25	11 番教室	第七回授業(Graphic Medicine)	グラフィック・アートと医学	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
15-16	11/11	10:45-12:25	11 番教室	第八回授業(構造的暴力)	医療における構造的暴力	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション assignment(2)の提出
17-18	11/18	10:45-12:25	11 番教室	第九回授業(医療と宗教)	医療において宗教と信仰が果たす役割	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
19-20	11/25	10:45-12:25	11 番教室	第十回授業(障害学 1)	「普通」を疑う(1)	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
21-22	12/2	10:45-12:25	11 番教室	第十一回授業(障害学 2)	「普通」を疑う(2)	猪熊 恵子, YOUNG DAVI	アクティブ・ラーニング、ディスカッ

						D CHRISTOP, WHITAKER SIMON	ション
23-24	12/9	10:45-12:25	11番教室	第十二回授業(科学の歴史)	科学の歴史、テクノロジーと医療	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Presentation
25-26	12/16	10:45-12:25	11番教室	第十三回授業(偏見と医療)	医療における偏見	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション
27-28	1/6	10:45-12:25	11番教室	第十四回授業(心の病と自己)	目に見えない病	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Peer Review
29-30	1/13	10:45-12:25	11番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子, YOUNG DAVID CHRISTOP, WHITAKER SIMON	アクティブ・ラーニング、ディスカッション、Reflection

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Weeks 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:Participation 20%, Assignments + Quizzes + Presentation 50%, Final Paper 30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス） 猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー 猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004143				
科目名	英語ＩＣ			**科目ID**	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1～		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:水曜　2 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　別表3－4)
　別表4－5)

授業の目的、概要等

英語で書かれた詩や散文(小説などのフィクション作品を含む)、エッセイ等、多様なジャンルの英文を読む
自分の読解を他者の読解と比較検討しつつ、複雑な構文や日本語とは違うレトリックを使用する英文を正確に読解するための訓練を重ねる
最終的に、読み終えた英文に関しての自分なりの解釈をまとめ、それを他の学生に説明しつつ、他の学生の解釈と併せて議論することによって、自らの考えを相対化する

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	9 番教室	第一回授業(概要)	授業概要説明	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式.
3-4	9/30	10:45-12:25	9 番教室	第二回授業(リーディング基礎1)	古い時代の英詩を読みながら構造を考える	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
5-6	10/7	10:45-12:25	9 番教室	第三回授業(リーディン	新しい時代の英詩を読みながら構	猪熊　恵子	アクティブ・ラーニ

				グ基礎2)	造を考える		ング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
7-8	10/14	10:45-12:25	9番教室	第四回授業(リーディング実践1)	イギリス短編小説を読む1	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(1)の提出
9-10	10/21	10:45-12:25	9番教室	第五回授業(リーディング実践2)	イギリス短編小説を読む2	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
11-12	10/28	10:45-12:25	9番教室	第六回授業(リーディング実践3)	イギリス短編小説を読む3	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
13-14	11/4	10:45-12:25	9番教室	第七回授業(議論に基づいて解釈を深める1)	イギリス現代小説を読む1	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
15-16	11/11	10:45-12:25	9番教室	第八回授業(議論に基づいて解釈を深める2)	イギリス現代小説を読む2	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. アサインメント(2)の提出
17-18	11/18	10:45-12:25	9番教室	第九回授業(議論に基づいて解釈を深める3)	イギリス現代小説を読む3	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
19-20	11/25	10:45-12:25	9番教室	第十回授業(議論に基づいて解釈を深める4)	イギリス現代小説を読む4	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
21-22	12/2	10:45-12:25	9番教室	第十一回授業(社会と文学のつながり1／英語と日本語の違い)	イギリス文化とフィクション(1)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
23-24	12/9	10:45-12:25	9番教室	第十二回授業(社会と文学のつながり2／英語と日本語の違い)	イギリス文化とフィクション(2)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. 授業内発表に基づく議論と読解
25-26	12/16	10:45-12:25	9番教室	第十三回授業(社会と文学のつながり3／英語と日本語の違い)	イギリス文化とフィクション(3)	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. レポートの計画書を練る
27-28	1/6	10:45-12:25	9番教室	第十四回授業(自分たちの読解を振り返る)	レポートのテーマに基づく議論回	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニング、演習形式. レポートに基づく議論
29-30	1/13	10:45-12:25	9番教室	第十五回授業(まとめ)	最終レポート返却、講評	猪熊 恵子	アクティブ・ラーニ

							ング、演習形式. 教員からの講評

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2–13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participatio:20% in-class assignments plus presentations:50%, final essay:30%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	004144				
科目名	英語ＩＣ			科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 2 講
・対象学科:全学科
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
別表3－4)
別表4－5)

授業の目的、概要等

This course is aimed at developing students' critical reading, analysis and argumentative logic (spoken and written) through techniques derived from literary studies and the broader humanities. We will read short but influential literary texts, including some poetry, mostly from the 20th–21st centuries (one or two will be older). The course will therefore serve as something of an introduction to a part of the recent/present literary "scene" in English-speaking countries.

But a focus on literary texts will also allow students to challenge themselves to think and write critically about a set of closely linked questions. As such, over the semester, you will be able to refine your ideas about how you respond to and analyse literature, and consider how literary texts may relate to other areas of study and of life.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
(さまざまな種類の作品や書き物を読むことで)より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	10 番教室	Orientation	Course Introduction	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
3-4	9/30	10:45-12:25	10 番教室	Topic 1	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

5-6	10/7	10:45-12:25	10 番教室	Topic 2	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
7-8	10/14	10:45-12:25	10 番教室	Topic 3	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
9-10	10/21	10:45-12:25	10 番教室	Topic 4	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
11-12	10/28	10:45-12:25	10 番教室	Topic 5	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-14	11/4	10:45-12:25	10 番教室	Topic 6	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
15-16	11/11	10:45-12:25	10 番教室	Topic 7	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-18	11/18	10:45-12:25	10 番教室	Topic 8	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
19-20	11/25	10:45-12:25	10 番教室	Topic 9	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-22	12/2	10:45-12:25	10 番教室	Topic 10	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
23-24	12/9	10:45-12:25	10 番教室	Topic 11	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
25-26	12/16	10:45-12:25	10 番教室	Topic 12	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
27-28	1/6	10:45-12:25	10 番教室	Topic 13	Discussion and Analysis Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
29-30	1/13	10:45-12:25	10 番教室	Wrap-up	Final Essay Feedback Session	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価：class participation:20%, assignments:40%, final essay:40%

再評価： 有（再評価方法 「英語 I」としての学年末課題）

・上記のパーセンテージは、「英語 IC」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス（英語 IA,IB）および選択制の後期1クラス（英語 IC）の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3クラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。

ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。
履修上の注意事項 出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先（メールアドレス） WHITAKER SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
オフィスアワー WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	004145				
科目名	英語ＩＢ			科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間：水曜 1 講
・対象学科：全学科
・科目を履修して得られる能力（コンピテンシー）：
別表3－4）
別表4－5）

授業の目的、概要等

Students in this class will read a range of texts in English, including newspaper articles, short pieces from academic journals, and literary texts such as essays and short stories. Occasional quizzes will test comprehension. Students will also develop the quality of their essay writing, through exposure to these varied texts and through writing assignments.

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
（さまざまな種類の作品や書き物を読むことで）より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル（70 点以上）の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	08:50-10:30	6 番教室	Orientation	Course Introduction	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 1, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER	Active Learning,

						SIMON	Seminar
5-6	5/13	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 1, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 2, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 2, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 3, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 3, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
15-16	6/17	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 4, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 4, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 5, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 5, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 6, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	08:50-10:30	6 番教室	Reading Text 6, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	08:50-10:30	6 番教室	Planning a strong essay	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	08:50-10:30	6 番教室	Wrap-up	Final Writing Workshop	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:30%, writing assignments + quizzes:30%, in-class exam or final essay:40%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。
履修上の注意事項 出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス) WHITAKER SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
オフィスアワー WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	004147				
科目名	英語ＩＢ			科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間：水曜 2 講
・対象学科：全学科
・科目を履修して得られる能力（コンピテンシー）：
別表3－4）
別表4－5）

授業の目的、概要等

Students in this class will read a range of texts in English, including newspaper articles, short pieces from academic journals, and literary texts such as essays and short stories. Occasional quizzes will test comprehension. Students will also develop the quality of their essay writing, through exposure to these varied texts and through writing assignments.

The primary goals of these courses are to improve English reading and writing skills.

授業の到達目標

To have broader knowledge and perspective (through reading different types of written works)
（さまざまな種類の作品や書き物を読むことで）より広い知識と見解を持つ

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

To be able to comprehend and use new vocabulary
新しい語彙を理解して使用することができる

To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル（70 点以上）の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

なお、英語分野では学期の折り返し地点で全学生に中間成績を通知している。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	10:45-12:25	6 番教室	Orientation	Course Introduction	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
3-4	4/22	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 1, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER	Active Learning,

						SIMON	Seminar
5-6	5/13	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 1, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
7-8	5/20	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 2, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
9-10	5/27	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 2, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
11-12	6/3	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 3, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-14	6/10	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 3, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
15-16	6/17	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 4, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-18	6/24	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 4, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
19-20	7/1	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 5, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-22	7/8	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 5, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
23-24	7/15	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 6, Part 1	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
25-26	7/22	10:45-12:25	6 番教室	Reading Text 6, Part 2	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
27-28	7/29	10:45-12:25	6 番教室	Planning a strong essay	Reading and Writing Activities	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
29-30	7/31	10:45-12:25	6 番教室	Wrap-up	Final Writing Workshop	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation:30%, writing assignments + quizzes:30%, in-class exam or final essay:40%

再評価: 有(再評価方法 「英語 I」としての学年末課題)

・上記のパーセンテージは、「英語 IB」についての評価方法です。「英語 I」は ABC の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語 I」は前期2クラス(英語 IA,IB)および選択制の後期1クラス(英語 IC)の3クラスの成績を合わせて最終的な成績を算出します。3ク

ラスすべての履修は必須です。なお、再評価の対象となるのは、英語 I の ABC の各クラスに原則として3分の2以上出席した者です。ただし、3クラスのうち2クラス以上で 60 点未満の成績がついた者には原則として再評価の機会を与えません。
履修上の注意事項 出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
連絡先(メールアドレス) WHITAKER SIMON:simon.w.56db@m.isct.ac.jp
オフィスアワー WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	000053				
科目名	物理学入門			科目ID	LA114100Z
担当教員	檜枝 光憲, 石井 裕人[HIEDA Mitsunori, ISHII Yuto]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 1～2 講(4/10～5/8)

対象学科:医学科・歯学科・検査技術学専攻

受講資格:入試で化学・生物を選択した人(物理未履修者向け)

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表4－1

授業の目的、概要等

物理学は自然科学の中でもっとも基礎的な学問のひとつです。物理学の基礎知識および物理学的なものの見方は、高度なテクノロジーに基づく理工系や医療分野には必須の概念です。本講義は、入試で物理を選択しなかった人(高校で物理を選択しなかった人や物理は履修したが理解が不十分な人)向けに物理学入門講義を行います。

授業の到達目標

以下の項目について高校卒業程度の知識を獲得し理解する。

1. 位置、速度、加速度の概念を理解する
2. 物体が受ける力を見つけ、運動方程式を立式できるようになる
3. 仕事、力学的エネルギー、運動量の概念を理解する
4. 電気と磁気の基本を理解する

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	4/10	08:50-12:25	10 番教室		石井 裕人	講義、演習、小テスト
5-8	4/17	08:50-12:25	10 番教室		石井 裕人	講義、演習、小テスト
9-12	4/24	08:50-12:25	10 番教室		檜枝 光憲	講義、演習、小テスト
13-16	5/1	08:50-12:25	10 番教室		石井 裕人	講義、演習、小テスト
17-20	5/8	08:50-12:25	10 番教室		石井 裕人	講義、演習、本試験

授業方法

講義とアクティブ・ラーニング(演習、議論、etc)

授業内容

第1-2回 イントロダクション、力学1(力のつりあい)、力学2(物体の運動)、小テスト1

第3-4回 力学3(力と運動)、力学4(等速円運動と単振動)、小テスト2

第5-6回 力学5(仕事とエネルギー)、力学6(運動量と力積)、小テスト3

第7-8回 電磁気1-2、小テスト4

第9-10回 波、本試験

成績評価の方法

授業の到達目標の達成度を主にテストもしくはレポートで評価する。

評価 : 試験 60%、 その他 : 小テスト(もしくはレポート) 40%

再評価: 有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎週実施する小テストに備えて授業の予習と復習を十分に行うこと。

試験の受験資格

原則 2/3 以上の出席が必要

教科書

これだけはおさえたい物理／金原粲 編著,曽江久美, 筑紫格, 馬場茂, 藤井恵子 著:実教出版, 2009

参考書

もういちど読む数研の高校物理／数研出版編集部 編,:数研出版, 2012

もういちど読む数研の高校物理／数研出版編集部 編,:数研出版, 2012

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

檜枝 光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

檜枝 光憲:毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	000051				
科目名	生物学入門			科目 ID	LA113900L
担当教員	三好 洋, 時本 楠緒子[MIYOSHI Hiroshi, TOKIMOTO Naoko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:金曜 1 講

対象学科:医学科・歯学科・検査技術学専攻

受講資格:入学試験で生物を選択しなかった学生、高校で生物を履修しなかった学生

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):4－1

主な講義場所

国府台キャンパス

授業の目的、概要等

この授業では、入学試験で生物学を選択しなかった学生、高校で生物を履修しなかった学生を対象とし、以下に目的を述べる。

・生物の形態及び機能の単位である「細胞」に関する基本的な知識を習得することと、「代謝」と「遺伝」の基本的な仕組みを理解し、説明できるようになる。

・生物学が医学の基盤となることを理解する。

授業の到達目標

1. 細胞の基本構造と細胞小器官の機能を説明することができる。
2. 生物を構成する物質の種類と機能を説明することができる。
3. 代謝と遺伝の仕組みを説明することができる。
4. 生物学の複数の知識を根拠にして、疾患の診断・治療・予防方法を説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	4/10	08:50-12:25	1 番教室, 7 番教室	伊藤 正則, 時本 楠緒子, 三好 洋
5-8	4/17	08:50-12:25	1 番教室, 7 番教室	伊藤 正則, 時本 楠緒子, 三好 洋
9-12	4/24	08:50-12:25	1 番教室, 7 番教室	伊藤 正則, 時本 楠緒子, 三好 洋
13-16	5/1	08:50-12:25	1 番教室, 7 番教室	伊藤 正則, 時本 楠緒子, 三好 洋
17-20	5/8	08:50-12:25	1 番教室, 7 番教室	伊藤 正則, 時本 楠緒子, 三好 洋

授業方法

・講義形式

・アクティブラーニングを取り入れる。具体的には、毎週の講義の最後に翌週の講義で取り扱う項目を示すので、その内容について各自で自己学習を行うこと。翌週の最初にその内容についての小テストを行う。疑問点があれば、リアクションペーパーに書くこと。これらをその後の講義で詳しく解説する。

授業内容

第 1 回 個体の階層構造、基本的な組織、細胞膜

第 2 回 細胞小器官(核、ミトコンドリア、リボソームなど)

第 3 回 細胞骨格、細胞接着

第 4 回 生体の構成元素、タンパク質

第 5 回 核酸、糖質、脂質

第 6 回 酵素反応

第 7 回 筋収縮

第 8 回 糖質の代謝

第 9 回 脂質の代謝、タンパク質の代謝

第 10 回 染色体、メンデルの法則

第 11 回 細胞周期、体細胞分裂

第 12 回 DNA の複製、細胞死

成績評価の方法

以下の方法で評価する。
評価:試験 90%・レポート 0%・その他(小テスト)10%
再評価:有(再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

アクティブラーニング:有
・LMS に講義に関する資料を掲示する。また、毎週の講義の最後に翌週の講義で取り扱う項目を示す。これらの情報を基にして、翌週の講義内容について自己学習を行うこと。
・翌週の最初にその内容についての小テストを行い、その後の講義で詳しく解説する。

試験の受験資格

定期試験・再試験の受験資格:3 分の 2 以上の出席

教科書

はじめの一歩の生化学・分子生物学第 3 版／前野正夫, 磯川桂太郎著,前野, 正夫,磯川, 桂太郎,:羊土社, 2016
人体の構造と機能第 5 版／Marieb, Elaine Nicpon, 1936-2018,Keller, Suzanne M,藤本, 悦子,エレイン N.マリーブ, スザンヌ M.ケラー 著, 藤本悦子 監訳,荒川満枝 [ほか] 訳:医学書院, 2025

参考書

Molecular biology of the cell／Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-:Garland Science, Taylor and Francis Group, 2015
Essential cell biology／Bruce Alberts, Karen Hopkin, Alexander Johnson, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter:Garland Science, Taylor and Francis Group, 2019

履修上の注意事項

期末試験の受験資格は「東京科学大学学修規程第 6 条」による。

時間割番号	000052				
科目名	化学入門			科目ID	LA114000Z
担当教員	澤野 頼子, 勝又 敏行[SAWANO Yoriko, KATSUMATA Toshiyuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:金曜日 1～2 限(4/10～5/8)

・対象学科:医学科・歯学科・保健衛生学科検査技術学専攻

・受講資格:入学試験で化学を選択しなかった学生

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表4−1)入学時に不足している基礎学力を一定レベルに引き上げる

授業の目的、概要等

入試で化学を選択しなかった学生に対し、高校卒業レベルの化学の知識を身につけるために開講する。この授業では物理化学、無機化学、有機化学の基礎を扱う。

授業の到達目標

高校卒業レベルの化学の知識を身につけ、大学での講義に対応できるようになることを目標とする。

高校の教科書および指定した教科書の章末問題を自力で8割解けるレベルが、GPA における「B」(本試験合格レベル)に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	4/10	08:50-12:25	2 番教室	化学についての理解度確認	化学についての理解度確認	勝又 敏行, 澤野 頼子	授業と演習による
5-8	4/17	08:50-12:25	2 番教室	元素、周期表について、気体の性質	元素、周期表について、気体の性質	勝又 敏行, 澤野 頼子	授業と演習による
9-12	4/24	08:50-12:25	2 番教室	液体の性質、化学平衡	液体の性質、化学平衡	勝又 敏行, 澤野 頼子	授業と演習による
13-16	5/1	08:50-12:25	2 番教室	有機化学	有機化学	勝又 敏行, 澤野 頼子	授業と演習による
17-18	5/8	08:50-10:30	2 番教室	有機化学	有機化学	勝又 敏行, 澤野 頼子	授業と演習による
19-20	5/8	10:45-12:25	2 番教室	試験	試験	勝又 敏行, 澤野 頼子	試験

授業方法

講義を基本とするが、適宜演習によるアクティブラーニングを取り入れる。

授業内容

1. 物質の構造 物質の構成要素:元素・単体・化合物、原子と分子
化学結合、化学量論:原子量・分子量・式量、化学反応式
2. 物質の状態 物質の状態変化と粒子の運動:物質の三態・蒸発熱・融解熱と沸点・融点、
気体:気体定数と状態方程式・理想気体と実在気体、
溶液:溶液の濃度と溶解度・希薄溶液の性質、コロイド
3. 物質の変化 化学反応と熱:熱化学方程式・結合エネルギー、
酸と塩基の反応:水素イオン濃度と pH・中和反応と中和滴定、
酸化還元反応、化学反応の速さと化学平衡
4. 単体と無機化合物 周期表と元素の分類、典型元素、遷移元素
5. 有機化合物 有機化合物の特徴と分類、脂肪族炭化水素、酸素を含む脂肪族化合物、芳香族化合物
6. 高分子化合物 高分子化合物の特徴と分類、天然物高分子化合物、合成高分子化合物

成績評価の方法

評価:試験 100%・レポート 0%
再評価:有(再評価方法:再試験)

化学の基礎を理解することが重要なので、試験のみによる評価を行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:教科書・参考書等で該当する箇所に目を通しておく。
復習:講義の内容および関連した演習問題を復習する。

試験の受験資格

定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席

教科書

化学 第 8 版／奈良 雅之:医学書院, 2026

参考書

最新臨床検査学講座 化学／奈良 雅之:医歯薬出版, 2020
大学生のための例題で学ぶ化学入門 第 2 版／大野 公一, 村田 滋, 大野公一, 村田滋, 錦織紳一 著:共立出版, 2021
化学入門／下井守, 村田滋 著:東京化学同人, 2013
化学入門／大野公一 [ほか]著:共立出版, 1997

他科目との関連

化学(化学 M、化学 DT)および化学実験を理解するためのバックグランドとなる。

履修上の注意事項

原則3分の2以上の出席が必要

連絡先(メールアドレス)

澤野 頼子:sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp
勝又 敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

澤野 頼子:前期:火曜日 12:00-13:20、後期:木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階
勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	000268				
科目名	数学Ⅰ			科目ID	LA114200Z
担当教員	中林 潤, 中山 まどか[NAKABAYASHI Jun, NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1),4-2),4-3),4-4),4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

情報科学, データサイエンスをはじめとする諸科学の数学的基盤である線形代数と微積分の概要について学ぶ。線形代数では行列と連立一次方程式, 行列の固有値の基礎と計算方法を通して, 線形構造や線形写像の考え方を学ぶ。微積分では高校で学習した 1 変数関数の微積分から発展して, 多変数関数の微積分の基礎と計算方法を通して, 極限操作や非線形解析の考え方を学ぶ。

授業の到達目標

集合と写像,ベクトル空間について説明できる。

基本的な線形演算,行列計算ができる。

行列の固有値,固有ベクトルについて説明できる。

多変数の極致問題について説明できる。

基本的な重積分の計算ができる。

授業方法

対面授業を基本とするが, 状況によって遠隔授業を行う。講義はスライドを使って進める。

授業内容

数の体系

数列と級数

初等関数

ベクトル空間

行列の演算

連立一次方程式

固有値,固有ベクトル

多変数関数の微分積分

成績評価の方法

期末試験の成績(70%),出席状況＋講義中の態度＋授業中の小テスト(30%)を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は必要ないが, 講義内容を復習してしっかりと身につけること。授業中に疑問が生じた場合は, その場で質問して解消しておくこと。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

参考書

アメリカの中学生が学んでいる14歳からの数学／ワークマンパブリッシング,水谷, 淳, 1970-,ワークマンパブリッシング 著,水谷淳 訳:ダイヤモンド社, 2022.3

偏微分・重積分・線形代数／上村, 豊,坪井, 堅二,上村豊, 坪井堅二著:東京化学同人, 2004.10

数学入門／上村, 豊, 1953-,坪井, 堅二, 1954-,上村豊, 坪井堅二 著:東京化学同人, 2019.9

教養の線形代数／村上, 正康,佐藤, 恒雄, 1935-,野沢, 宗平,村上正康, 佐藤恒雄, 野澤宗平, 稲葉尚志 共著:培風館, 2008.2

微分積分学／難波, 誠, 1943-,難波誠 著:裳華房, 1996.12

連絡先(メールアドレス)

中林　潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

中山　まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9

中山　まどか:水曜日 12:30―13:30

質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	000269				
科目名	数学ＩM			科目ID	LA114201Z
担当教員	中林　潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　火曜 2 講

対象:医学部医学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1),4-2),4-3),4-4),4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

情報科学，データサイエンスをはじめとする諸科学の数学的基盤である線形代数と微積分の概要について学ぶ。線形代数では行列と連立一次方程式，行列の固有値の基礎と計算方法を通して，線形構造や線形写像の考え方を学ぶ。微積分では高校で学習した 1 変数関数の微積分から発展して，多変数関数の微積分の基礎と計算方法を通して，極限操作や非線形解析の考え方を学ぶ。

授業の到達目標

集合と写像,ベクトル空間について説明できる。

基本的な線形演算,行列計算ができる。

行列の固有値,固有ベクトルについて説明できる。

多変数の極致問題について説明できる。

基本的な重積分の計算ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
3-4	4/28	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
5-6	5/12	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
7-8	5/19	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
9-10	5/26	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
11-12	6/2	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
13-14	6/9	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
15-16	6/16	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
17-18	6/23	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤
19-20	6/30	10:45-12:25	1 番教室	中林 潤

授業方法

対面授業を基本とするが，状況によって遠隔授業を行う。講義はスライドを使って進める。

授業内容

数の体系

数列と級数

初等関数

ベクトル空間

行列の演算

連立一次方程式

固有値,固有ベクトル

多変数関数の微分積分

成績評価の方法

期末試験の成績(70%),出席状況＋講義中の態度＋授業中の小テスト(30%)を勘案して総合的に評価する。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は必要ないが，講義内容を復習してしっかりと身につけること。授業中に疑問が生じた場合は，その場で質問して解消しておくこと。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

参考書

アメリカの中学生が学んでいる 14 歳からの数学／ワークマンパブリッシング,水谷，淳, 1970-,ワークマンパブリッシング 著,水谷淳 訳:ダイヤモンド社，2022.3

偏微分・重積分・線形代数／上村，豊,坪井，堅二,上村豊，坪井堅二著:東京化学同人，2004.10

数学入門／上村，豊, 1953-,坪井，堅二, 1954-,上村豊，坪井堅二 著:東京化学同人，2019.9

教養の線形代数／村上，正康,佐藤，恒雄, 1935-,野沢，宗平,村上正康，佐藤恒雄，野澤宗平，稲葉尚志 共著:培風館，2008.2

微分積分学／難波，誠, 1943-,難波誠 著:裳華房，1996.12

連絡先（メールアドレス）

nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

時間割番号	000270				
科目名	数学ＩＤ			科目ID	LA114202Z
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 火曜１講

対象:歯学部歯学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3, 4-2, 4-3

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

情報科学, データサイエンスをはじめとする諸科学の数学的基盤である線形代数と微積分の概要について学ぶ. 線形代数では行列と連立一次方程式, 行列の固有値の基礎と計算方法を通して, 線形構造や線形写像の考え方を学ぶ. 微積分では高校で学習した 1 変数関数の微積分から発展して, 多変数関数の微積分の基礎と計算方法を通して, 極限操作や非線形解析の考え方を学ぶ.

授業の到達目標

集合と写像, ベクトル空間について説明できる.

基本的な線形演算, 行列計算ができる.

行列の固有値, 固有ベクトルについて説明できる.

多変数の極致問題について説明できる.

基本的な重積分の計算ができる.

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
3-4	4/28	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
5-6	5/12	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
7-8	5/19	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
9-10	5/26	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
11-12	6/2	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
13-14	6/9	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
15-16	6/16	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
17-18	6/23	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
19-20	6/30	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか

授業方法

対面の講義を行う. 各自 PC を持ち込む.

授業内容

第 1 回 ガイダンス, 数の体系, 数列と級数

第 2 回 関数:初等関数, 極限と連続性

第 3 回 一変数関数の微分・積分

第 4 回 行列:定義と演算

第 5 回 連立 1 次方程式

第 6 回 ベクトル空間

第 7 回 行列の固有値・固有ベクトルと対角化

第 8 回 多変数関数の微分 ～偏微分・全微分, 極値問題～

第 9 回 多変数関数の積分 ～逐次積分法、面積確定領域, 変数変換とヤコビアン～

第 10 回 期末テスト
成績評価の方法
授業ごとの小レポート 40%, 期末試験 60%
成績評価の基準
「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示
特に準備学習は必要ないが, 講義内容を復習してしっかりと身につけること.
試験の受験資格
講義の 3 分の 2 回以上の出席
参考書
線型代数入門／斎藤, 正彦,齋藤正彦著:東京大学出版会, 1966
線形代数 : 明解演習／小寺, 平治, 1940-,小寺平治 著:共立出版, 1982.7
1 変数の微分積分／宮島, 静雄,宮島静雄著:共立出版, 2003.1
微分積分学／宮島, 静雄, 1948-,宮島静雄 著:共立出版, 2003.2
微分積分 : 明解演習／小寺, 平治, 1940-,小寺平治 著:共立出版, 1984.12
連絡先(メールアドレス)
nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
水曜日 12:30—13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	000271				
科目名	数学ＩＴ			科目ID	LA114203Z
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 火曜１講

対象:医学部保健衛生学科検査技術学専攻

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3, 4-2, 4-3

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

情報科学, データサイエンスをはじめとする諸科学の数学的基盤である線形代数と微積分の概要について学ぶ. 線形代数では行列と連立一次方程式, 行列の固有値の基礎と計算方法を通して, 線形構造や線形写像の考え方を学ぶ. 微積分では高校で学習した 1 変数関数の微積分から発展して, 多変数関数の微積分の基礎と計算方法を通して, 極限操作や非線形解析の考え方を学ぶ.

授業の到達目標

集合と写像, ベクトル空間について説明できる.

基本的な線形演算, 行列計算ができる.

行列の固有値, 固有ベクトルについて説明できる.

多変数の極致問題について説明できる.

基本的な重積分の計算ができる.

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
3-4	4/28	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
5-6	5/12	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
7-8	5/19	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
9-10	5/26	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
11-12	6/2	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
13-14	6/9	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
15-16	6/16	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
17-18	6/23	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか
19-20	6/30	08:50-10:30	7 番教室	中山 まどか

授業方法

対面の講義を行う. 各自 PC を持ち込む.

授業内容

第 1 回 ガイダンス, 数の体系, 数列と級数

第 2 回 関数:初等関数, 極限と連続性

第 3 回 一変数関数の微分・積分

第 4 回 行列:定義と演算

第 5 回 連立 1 次方程式

第 6 回 ベクトル空間

第 7 回 行列の固有値・固有ベクトルと対角化

第 8 回 多変数関数の微分 ～偏微分・全微分, 極値問題～

第 9 回 多変数関数の積分 ～逐次積分法、面積確定領域, 変数変換とヤコビアン～

第 10 回 期末テスト
成績評価の方法
授業ごとの小レポート 40%, 期末試験 60%
成績評価の基準
「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示
特に準備学習は必要ないが, 講義内容を復習してしっかりと身につけること.
試験の受験資格
講義の 3 分の 2 回以上の出席
参考書
線型代数入門／斎藤, 正彦,齋藤正彦著:東京大学出版会, 1966
線形代数 : 明解演習／小寺, 平治, 1940-,小寺平治 著:共立出版, 1982.7
1 変数の微分積分／宮島, 静雄,宮島静雄著:共立出版, 2003.1
微分積分学／宮島, 静雄, 1948-,宮島静雄 著:共立出版, 2003.2
微分積分 : 明解演習／小寺, 平治, 1940-,小寺平治 著:共立出版, 1984.12
連絡先(メールアドレス)
nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
水曜日 12:30—13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	000257				
科目名	物理学ＩＭ			科目ID	LA114301Z
担当教員	檜枝　光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:4/15～6/10 の水曜 3 講(対面・オンデマンドのどちらか)、
6/15～6/29 の月曜 2 講(対面)
対象学科:医学科
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2－1)、別表4－2)

授業の目的、概要等

力学は電磁気学と並んで物理学の基礎をなす重要な分野です。物体の落下運動など目で見える力学現象は皆さんの身の回りで起こることであり馴染みがあるでしょう。すでに高校物理でも力学を学び、様々な物体の運動(投げたボールの軌跡、人工衛星の軌道、バネの振動など)の未来の状況(たとえば位置と速度)がわかってしまうことに感動した諸君も多いかもしれません。本講義では微積分を使って大学レベルに発展させ、様々な物体の運動の解析に応用できるようにしていきます。

授業の到達目標

物体の運動が微分方程式で書けることを理解する。
様々な保存則が導出できることを理解する。
ニュートンの運動方程式(微分方程式)と様々な保存則を使い、いろいろな力学系の運動を解析できるようになる。
剛体の力学の基礎を理解する。

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/15	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
3-4	4/22	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
5-6	5/13	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
7-8	5/20	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
9-10	5/27	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
11-12	6/3	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
13-14	6/10	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
15-16	6/15	10:45-12:25	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
17-18	6/22	10:45-12:25	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
19-20	6/29	10:45-12:25	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業

授業方法

講義とアクティブ・ラーニング(演習、議論、etc)

授業内容

1　物理のための数学基礎
2　力と運動 1:運動と微積分
3　力と運動 2:運動方程式、エネルギー保存則
4　振動 1:単振動と指数関数による解法、減衰振動
5　振動 2:強制振動

6 仕事と線積分、保存力、惑星の運動、角運動量保存
7 剛体の力学 1
8 剛体の力学 2
9 剛体の力学 3
10 期末テスト

成績評価の方法

授業の到達目標の達成度を主に期末テストおよび授業内演習の提出状況により評価する。

評価 : 試験 60%
演習課題 40%
再評価: 有 (試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業後にきちんと復習すること。

試験の受験資格

原則 2/3 以上の出席が必要

参考書

力学／川村, 清, 1939-,阿部, 竜蔵, 1930-,川村清 著:裳華房, 1998.10

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	000258				
科目名	物理学ＩD･T			科目ID	LA114302Z
担当教員	檜枝　光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日･時間:4/15～7/1 の水曜 3 講(対面･オンデマンドのどちらか)

対象学科:歯学科･検査技術学専攻

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2－1)、別表4－2)

授業の目的、概要等

力学は電磁気学と並んで物理学の基礎をなす重要な分野です。物体の落下運動など目で見える力学現象は皆さんの身の回りで起こることであり馴染みがあるでしょう。すでに高校物理でも力学を学び、様々な物体の運動(投げたボールの軌跡、人工衛星の軌道、バネの振動など)の未来の状況(たとえば位置と速度)がわかってしまうことに感動した諸君も多いかもしれません。本講義では微積分を使って大学レベルに発展させ、様々な物体の運動の解析に応用できるようにしていきます。

授業の到達目標

物体の運動が微分方程式で書けることを理解する。

様々な保存則が導出できることを理解する。

ニュートンの運動方程式(微分方程式)と様々な保存則を使い、いろいろな力学系の運動を解析できるようになる。

剛体の力学の基礎を理解する。

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1-2	4/15	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
3-4	4/22	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
5-6	5/13	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
7-8	5/20	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
9-10	5/27	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
11-12	6/3	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	檜枝　光憲	オンデマンド授業
13-14	6/10	13:30-15:10	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
15-16	6/17	10:45-12:25	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
17-18	6/24	10:45-12:25	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
19-20	7/1	10:45-12:25	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業

授業方法

講義とアクティブ･ラーニング(演習、議論、etc)

授業内容

1 物理のための数学基礎

2 質点の運動の表し方

3 運動の法則

4 自由落下と空気抵抗を受けた運動

5 仕事

6 力学的エネルギーとその保存

7 振動1

8 振動2
9 角運動量
10 期末テスト

成績評価の方法

授業の到達目標の達成度を主に期末テストおよび授業内演習の提出状況により評価する。

評価 : 試験 60%
演習課題 40%
再評価: 有 (試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業後にきちんと復習すること。

試験の受験資格

原則 2/3 以上の出席が必要

参考書

物理学演習／鈴木, 勝, 1959- 固体物性,鈴木勝 編著:培風館, 2012.4

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	000287				
科目名	数学Ⅱ			科目ID	LA114400Z
担当教員	中林 潤, 徳永 伸一, 中山 まどか[NAKABAYASHI Jun, TOKUNAGA Shinichi, NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1),4-2),4-3),4-4),4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

微分方程式の基本的な理論を学び,様々な現象を微分方程式で定式化する方法を理解し応用できるようになる。微分方程式の解析手法を理解し, 実行できるようになる。解析結果から元の現象の理解を深める。

授業の到達目標

微分方程式を使って現象を定式化できる。

変数分離型の微分方程式を解ける。

平衡点の安定性について論じることができる。

コンピュータを使って微分方程式の数値計算を実行できる。

授業方法

対面授業を基本とするが, 状況に応じて遠隔授業を行う。講義はスライドを使って進める。PC を講義室に持ち込み, 計算機実習を行う。

授業内容

第 1 回 微分方程式の基礎

第 2 回 変数分離型の微分方程式の解法

第 3 回 連立微分方程式

第 4 回 微分方程式の数値計算法

第 5 回 微分方程式の数値計算実習①

第 6 回 微分方程式の数値計算実習②

第 7 回 2 階の線形微分方程式

第 8 回 時間遅れのある微分方程式

第 9 回 偏微分方程式①拡散方程式

第 10 回 偏微分方程式②波動方程式

成績評価の方法

最終レポートの成績(70%), 出席状況+講義中の態度+提出物の内容(30%)を勘案して総合的に評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は必要ないが, 講義内容を復習してしっかりと身につけること。授業中に疑問が生じた場合は, その場で質問して解消しておくこと。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

参考書

数値計算法／三井田, 惇郎, 1940-2020,須田, 宇宙,三井田惇郎, 須田宇宙 共著:森北出版, 2000.10

だれでもわかる数値解析入門 : 理論と C プログラム／新濃, 清志, 1941-1995,船田, 哲男, 1944-,新濃清志, 船田哲男 共著:近代科学社, 1995.12

ニューメリカルレシピ・イン・シー : C 言語による数値計算のレシピ 日本語版／Press, William H,丹慶, 勝市, 1947-,William H.Press [ほか]

著,丹慶勝市 [ほか]訳:技術評論社, 1993.6

連絡先(メールアドレス)

中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp
徳永 伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp
中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中林 潤:月曜～金曜
A.M.10:00 – P.M. 05:00
国府台キャンパス 4 階 教官研究室―9
徳永 伸一:前期:
火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:
木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。
上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

中山 まどか:水曜日 12:30―13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	000288				
科目名	数学Ⅱ（α）			科目ID	LA114401Z
担当教員	中林　潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　月曜 1-2 講

対象:医学科、歯学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

微分方程式の基本的な理論を学び,様々な現象を微分方程式で定式化する方法を理解し応用できるようになる。微分方程式の解析手法を理解し，実行できるようになる。解析結果から元の現象の理解を深める。

授業の到達目標

微分方程式を使って現象を定式化できる。

変数分離型の微分方程式を解ける。

平衡点の安定性について論じることができる。

コンピュータを使って微分方程式の数値計算を実行できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	6/30	08:50-12:25	10 番教室	中林 潤
5-8	7/6	08:50-12:25	10 番教室	中林 潤
9-12	7/13	08:50-12:25	10 番教室	中林 潤
13-16	7/20	08:50-12:25	10 番教室	中林 潤
17-20	7/27	08:50-12:25	10 番教室	中林 潤

授業方法

対面授業を基本とするが，状況に応じて遠隔授業を行う。講義はスライドを使って進める。PC を講義室に持ち込み，計算機実習を行う。

授業内容

第 1 回　微分方程式の基礎

第 2 回　変数分離型の微分方程式の解法

第 3 回　連立微分方程式

第 4 回　微分方程式の数値計算法

第 5 回　微分方程式の数値計算実習①

第 6 回　微分方程式の数値計算実習②

第 7 回　2 階の線形微分方程式

第 8 回　時間遅れのある微分方程式

第 9 回　偏微分方程式①拡散方程式

第 10 回　偏微分方程式②波動方程式

成績評価の方法

最終レポートの成績(70%)，出席状況＋講義中の態度＋提出物の内容(30%)を勘案して総合的に評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は必要ないが，講義内容を復習してしっかりと身につけること。授業中に疑問が生じた場合は，その場で質問して解消しておくこと。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

参考書

ニューメリカルレシピ・イン・シー : C 言語による数値計算のレシピ 日本語版／Press, William H,丹慶, 勝市, 1947-,William H.Press [ほか]著,丹慶勝市 [ほか]訳:技術評論社, 1993.6

だれでもわかる数値解析入門 : 理論と C プログラム／新濃, 清志, 1941-1995,船田, 哲男, 1944-,新濃清志, 船田哲男 共著:近代科学社, 1995.12

数値計算法／三井田, 惇郎, 1940-2020,須田, 宇宙,三井田惇郎, 須田宇宙 共著:森北出版, 2000.10

連絡先(メールアドレス)

nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

月曜～金曜

A.M.10:00 - P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室―9

時間割番号	000289				
科目名	数学Ⅱ（β）			科目ID	LA114402Z
担当教員	徳永　伸一[TOKUNAGA Shinichi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 月曜 1-2 講

対象学科・専攻: 医学科、歯学科

コンピテンシー:

2−1） 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

4−2） 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

4−3） 自然現象を探求するための基本的手法を身につける

授業の目的、概要等

グラフ理論を中心とする離散数学を学習します。

「離散」とは「連続」と対立する概念です。主として有限で離散的な世界の現象を解析する数学を「離散数学」と呼びます。離散数学で扱う最も基本的かつ重要な構造の1つが「グラフ」（中学・高校で習う「関数のグラフ」とは異なる概念）であり、これを研究対象とする分野が「グラフ理論」です。たとえば「すべての地図は4色で色分けできる」という有名な「4色定理」は、グラフ理論の言葉を用いれば「すべての平面的グラフは 4-彩色可能」と表現することができます。4色定理の証明は長大ですが、その基本的なアイディアや興味深い一般化は、複雑な数式等を用いずに、誰でも理解することができます。

グラフはまた、データ構造・ネットワーク構造や分子構造等を数学的に抽象化したものと見なすこともできますので、近年大きく発展し、様々な分野で応用されています。しかし本科目では必ずしも「応用」は重視せず、4色定理を始めとする、グラフ理論およびその周辺の興味深いトピックをいくつか取り上げて学習し、それらを通じて、数式を伴わない数学的論理を、正確に理解し考察する能力を身に付けることを大きな目的とします。

さらに、直観的に理解可能な未解決問題が多数知られていることも、この分野の大きな魅力です。そういった「正解が用意されていない問題」に対して主体的にアプローチすることで、受講者の皆さんのリサーチ・マインドが育まれることを期待しています。

数学好きな人はもちろん、「これまで学校で習ってきた数学はあまり好きではない・得意ではない」という人にこそ、お勧めしたい科目です。

授業の到達目標

4色定理やグラフ理論のいくつかの基本的な定理について、その背景や証明のアイディアを理解し、関連する離散数学の問題、一般化された問題、未解決問題等について考察する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	7/6	08:50-12:25	計算機実習室	徳永　伸一
5-8	7/13	08:50-12:25	計算機実習室	徳永　伸一
9-12	7/20	08:50-12:25	計算機実習室	徳永　伸一
13-16	7/27	08:50-12:25	計算機実習室	徳永　伸一
17-20	7/30	08:50-12:25	計算機実習室	徳永　伸一

授業方法

講義と演習による。

（ほぼ毎回演習課題を課す予定です）

授業内容

以下のトピック(予定)について順次解説し、関連する問題による演習を行います。
・グラフの基礎概念
・ドミノ敷き詰め問題、マッチング問題(結婚定理)
・グラフのラベル付け問題(graceful tree 予想)
・グラフの周遊問題(オイラー回路とハミルトン閉路)
・美術館問題
・平面グラフに関する問題(多面体公式とその応用)
・グラフの彩色問題、4色定理とその一般化および周辺の問題

成績評価の方法

演習課題を主とし(80%程度)、授業への参加姿勢、レポート・ノート提出等によって総合的に評価します。

★ただし履修者が一定数を越えた場合、全員または評価が一定基準に達していない学生を対象に、試験を行う可能性があります。再評価も試験によって行います。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

必要に応じて Web 上の参考資料、動画等により予習してもらいます。
授業は段階的に進めていきますので、各回の復習をしっかり行ってください。

参考書

グラフ理論(増補改訂版)／恵羅博, 土屋守正 著,:産業図書, 2010
グラフ理論／R.ディーステル 著,根上生也, 太田克弘 訳,:シュプリンガー・フェアラーク東京, 2000
幾何学的グラフ理論／前原濶, 根上生也 著,:朝倉書店, 1992
離散構造／根上生也 著,:共立出版, 1993

他科目との関連

後期の「教養基礎セミナー」で本科目と関連する内容を一部扱う可能性があります。

履修上の注意事項

事前の予備知識があまり必要でない分、各回の授業内容の理解が重要になります。 授業時間内に行う演習等も重視しているため、欠席すると結果的に評価に大きく影響する可能性があります。

連絡先(メールアドレス)

tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:
火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:
木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。
上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	000290				
科目名	数学Ⅱ（γ）			科目ID	LA114403Z
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間：月曜 1-2 講

対象学科・専攻：医学科、歯学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：2-1, 2-2, 2-3, 4-2, 4-3

主な講義場所

国府台キャンパス講義室

授業の目的、概要等

常微分方程式の基礎を習得する. 様々な現象を記述する常微分方程式の導出および解析手法を学ぶ. 将来の諸課題への応用解析に備えるとともに, 偏微分方程式や非線形問題などより複雑な数理モデルの研究の土台作りの役割を担う.

授業の到達目標

1. いくつかの現象が微分方程式で記述されることを理解する

2. 1 階および 2 階の線形常微分方程式の解法を習得する

3. 連立常微分方程式の解析方法を習得する

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	7/6	08:50-12:25	6 番教室	中山 まどか
5-8	7/13	08:50-12:25	6 番教室	中山 まどか
9-12	7/20	08:50-12:25	6 番教室	中山 まどか
13-16	7/27	08:50-12:25	6 番教室	中山 まどか
17-20	7/30	08:50-12:25	6 番教室	中山 まどか

授業方法

基本的に対面で行うが, 状況によって遠隔授業に変更する. 講義はスライドを用いる.

授業内容

第 1 回 微分方程式とは？ 1 階微分方程式入門

第 2 回 1 階微分方程式

第 3 回 2 階微分方程式

第 4 回 連立線形微分方程式系

第 5 回 微分方程式の数値計算

(ただし、進度、内容は状況によって変更する)

成績評価の方法

授業ごとの小レポート 40%, 期末レポート 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は必要ない.

試験の受験資格

講義の 3 分の 2 以上の出席

参考書

微分方程式の基礎 (数理科学ライブラリー／笠原 晧司：朝倉書店, 1982

連絡先(メールアドレス)

nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 12:30—13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	000260				
科目名	物理学ⅡM			科目ID	LA114501Z
担当教員	檜枝 光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:7/6～7/27 の月曜日および 7/30(木) 1 講・2 講
対象学科:医学科
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2－1)、別表4－2)

授業の目的、概要等

電磁気学は力学と並んで物理学の基礎をなす重要な分野です。リニアモーターカーやハイブリッド車用モーターなどほとんどの電気・電子技術が電磁気学と関係しています。また、医療技術や人体においても電流、磁気、電磁波など電磁気学は重要な要素であると言って良いでしょう。しかしながら、電磁気学は力学と比較すると難しいという印象があるようです。その理由は、私たちは物体を動かしたり力をかけたりなど日常的に力学現象を経験しているのに対して、電磁気学については日常の中で経験している実感が皆無であるためと思われます(例えば電場や磁場というのは電荷や電流によって空間に生じる変化であり目に見えない)。本講義では電磁気学に関する基本的事項やそれに関わる現象・実験事実を丁寧に説明し、電磁気学の基本法則であるマクスウェル方程式を導出していきます。さらに電磁波の波動方程式を導き、音波と波動性という共通概念で書かれることを学んでいきます。

授業の到達目標

電磁気学に関する基本的事項やそれに関わる現象・実験事実を学び、電磁気学の基本法則であるマクスウェル方程式を導出できるようになる。また学んだ知識を応用し、いろいろな電磁気学現象を解析できるようになる。
さらに電磁波と音波が同じ波動性という共通の概念で書かれることを学ぶ。

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	7/6	08:50-12:25	1 番教室	檜枝 光憲	対面授業
5-8	7/13	08:50-12:25	1 番教室	檜枝 光憲	対面授業
9-12	7/20	08:50-12:25	1 番教室	檜枝 光憲	対面授業
13-16	7/27	08:50-12:25	1 番教室	檜枝 光憲	対面授業
17-20	7/30	08:50-12:25	1 番教室	檜枝 光憲	対面授業

授業方法

講義とアクティブ・ラーニング(演習、議論、etc)

授業内容

1. イントロダクション : ベクトル解析 発散と回転
2. 静電場 1 : 積分形のガウスの法則
3. 静電場 2 : 微分形のガウスの法則、静電ポテンシャル(電位)
4. コンデンサーと静電場エネルギー
5. 静磁場 1 : 磁場に関するガウスの法則
6. 静磁場 2 : アンペールの法則、ビオ・サバールの法則
7. 時間的に変動する電場と磁場:マクスウェルの方程式
8. 電磁波の波動方程式
9. 物質中の波動 : 音波の波動方程式
10. 物質中の波動 2 : 音波の反射・透過
11. 期末テスト

成績評価の方法

授業の到達目標の達成度を主に中間・期末テストおよび授業内演習の提出状況により評価する。

評価 : 試験 60%

演習課題 40%

再評価: 有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業後はきちんと復習すること。

試験の受験資格

原則 2/3 以上の出席が必要

参考書

電磁気学の考え方／砂川 重信／著,:岩波書店, 1993

物理学／小出昭一郎 著,:裳華房, 1997

振動と波／長岡洋介 著,:裳華房, 1992

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	000261				
科目名	物理学ⅡD･T			科目ID	LA114502Z
担当教員	檜枝　光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日･時間:7/8～7/29 の水曜日および 7/31(金)　3 講･4 講

対象学科:歯学科･検査技術学専攻

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2－1)、別表4－2)

授業の目的、概要等

電磁気学は力学と並んで物理学の基礎をなす重要な分野です。リニアモーターカーやハイブリッド車用モーターなどほとんどの電気･電子技術が電磁気学と関係しています。また、医療技術や人体においても電流、磁気、電磁波など電磁気学は重要な要素であると言って良いでしょう。しかしながら、電磁気学は力学と比較すると難しいという印象があるようです。その理由は、私たちは物体を動かしたり力をかけたりなど日常的に力学現象を経験しているのに対して、電磁気学については日常の中で経験している実感が皆無であるためと思われます(例えば電場や磁場というのは電荷や電流によって空間に生じる変化であり目に見えない)。本講義では電磁気学に関する基本的事項やそれに関わる現象･実験事実を丁寧に説明し、電磁気学の基本法則であるマクスウェル方程式を導出していきます。さらに電磁波の波動方程式を導き、音波と波動性という共通概念で書かれることを学んでいきます。

授業の到達目標

電磁気学に関する基本的事項やそれに関わる現象･実験事実を学び、電磁気学の基本法則であるマクスウェル方程式を導出できるようになる。また学んだ知識を応用し、いろいろな電磁気学現象を解析できるようになる。
さらに電磁波と音波が同じ波動性という共通の概念で書かれることを学ぶ。

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1-4	7/8	13:30-17:05	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
5-8	7/15	13:30-17:05	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
9-12	7/22	13:30-17:05	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
13-16	7/29	13:30-17:05	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業
17-20	7/31	13:30-17:05	1 番教室	檜枝　光憲	対面授業

授業方法

講義とアクティブ･ラーニング(演習、議論、etc)

授業内容

1 電磁気学入門

2　クーロンの法則と電場
3　ガウスの法則
4　電位
5　静電容量
6　ビオ･サバールの法則と磁場
7　アンペールの法則
8　ローレンツ力
9　電磁誘導の法則
10　期末テスト

成績評価の方法

授業の到達目標の達成度を主に中間･期末テストおよび授業内演習の提出状況により評価する。

評価 : 試験 60%
演習課題 40%
再評価: 有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業後はきちんと復習すること。

試験の受験資格

原則 2/3 以上の出席が必要

参考書

物理学演習／鈴木, 勝, 1959- 固体物性,鈴木勝 編著:培風館, 2012.4

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	000841				
科目名	統計学			科目 ID	LA114600Z
担当教員	中林 潤, 中山 まどか[NAKABAYASHI Jun, NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

統計学の基礎理論とサンプリング手法や様々な統計解析手法を理解し, 結果を正しく解釈できるようになる。また, 自ら研究を計画したときに応用できるようになる。

授業の到達目標

(1) 統計学で必要な基礎(データの形, 母集団と標本 データの収集デザイン等)について説明できる。

(2) 統計学における記述統計の重要性を理解し, データを視覚的に表し要約できる。

(3) 統計的推測の方法を説明できる。

(4) 目的に沿った解析手法を適切に選択して解析できる。

(5) 解析結果を正しく解釈できる。

授業方法

対面授業を基本とするが, 状況に応じて遠隔講義などを適宜用いる。講義室に PC を持ち込み実習を行う。

授業内容

・統計学の基礎

・データの記述と指標

・確率と確率分布

・統計的推測

・二群間比較

・分散分析

・分割表による解析

・相関分析

・回帰分析

・ROC 曲線

・生存時間解析

成績評価の方法

出席状況＋授業中の態度＋講義内小テスト＋提出課題(30%)の成績と, 最終レポート(70%)で評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

教科書

基礎医学統計学／加納, 克己, 1941-,高橋, 秀人, 1963-,加納克己, 高橋秀人 共著:南江堂, 2019.3

連絡先(メールアドレス)

中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中林 潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9
中山　まどか:水曜日 12:30―13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	000054				
科目名	統計学(α)			科目ID	LA114601Z
担当教員	中林　潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:火曜 3 講

対象:保健衛生学科看護学専攻・口腔保健学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

統計学の基礎理論を理解し、サンプリング手法や統計解析の手法を正しく解釈できるようになる。また，自ら研究を計画したときに応用できるようになる。

授業の到達目標

(1) 統計学で必要な基礎(データの形，母集団と標本 データの収集デザイン等)について説明できる。

(2) 統計学における記述統計の重要性を理解し，データを視覚的に表し要約できる。

(3) 統計的推測の方法を説明できる。

(4) 目的に沿った解析手法を適切に選択して解析できる。

(5) 解析結果を正しく解釈できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	13:30-15:10	7 番教室	中林 潤
3-4	4/28	13:30-15:10	7 番教室	中林 潤
5-6	5/12	13:30-15:10	7 番教室	中林 潤
7-8	5/19	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤
9-10	5/26	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤
11-12	6/2	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤
13-14	6/9	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤
15-16	6/16	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤
17-18	6/23	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤
19-20	6/30	13:30-15:10	1 番教室	中林 潤

授業方法

対面授業を基本とするが，状況に応じて遠隔講義などを適宜用いる。講義室に PC を持ち込み実習を行う。

授業内容

・統計学の基礎

・データの記述と指標

・確率と確率分布

・統計的推測

・二群間比較

・分散分析

・分割表による解析

・相関分析

・回帰分析

・ROC 曲線

・生存時間解析

成績評価の方法

出席状況＋授業中の態度＋講義内小テスト＋提出課題(30%)の成績と，最終レポート(70%)で評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は特に必要ないが，授業で習ったことをしっかり復習しておくこと。授業中に疑問が生じた場合は，その場で質問して解消しておくこと。講義内で行った統計解析は自分で再現できるまで習熟しておくこと。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

教科書

基礎医学統計学／加納，克己, 1941-,高橋，秀人, 1963-,加納克己，高橋秀人 共著:南江堂，2019.3

連絡先(メールアドレス)

nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

月曜～金曜

A.M.10:00 - P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室―9

時間割番号	000055				
科目名	統計学(β)			科目ID	LA114602Z
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:火曜 4 講

対象:保健衛生学科検査技術学専攻

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3

主な講義場所

東京科学大学国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

統計学の基礎理論とサンプリング手法や様々な統計解析手法を理解し, 結果を正しく解釈できるようになる. また, 自ら研究を計画したときに応用できるようになる.

授業の到達目標

(1) 統計学で必要な基礎(データの形, 母集団と標本 データの収集デザイン等)について説明できる.

(2) 統計学における記述統計の重要性を理解し, データを視覚的に表し要約できる.

(3) 統計的推測の方法を説明できる.

(4) 目的に沿った解析手法を適切に選択して解析できる.

(5) 解析結果を正しく解釈できる.

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	15:25-17:05	7 番教室	中山 まどか
3-4	4/28	15:25-17:05	7 番教室	中山 まどか
5-6	5/12	15:25-17:05	7 番教室	中山 まどか
7-8	5/19	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか
9-10	5/26	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか
11-12	6/2	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか
13-14	6/9	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか
15-16	6/16	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか
17-18	6/23	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか
19-20	6/30	15:25-17:05	1 番教室	中山 まどか

授業方法

対面授業を基本とする. 講義室に PC を持ち込み実習を行う.

授業内容

・統計学の基礎

・データの記述と指標

・確率と確率分布

・統計的推測

・2群の比較

・分割票の解析

・区間推定

・回帰分析

成績評価の方法

出席状況＋授業中の態度＋講義内小テスト＋提出課題(30%)の成績と，最終レポート(70%)で評価する．筆記試験は行わない．
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 特に準備学習を必要としない．
試験の受験資格 講義全体の 2/3 以上の出席
教科書 基礎医学統計学／加納，克己，1941-,高橋，秀人，1963-,加納克己，高橋秀人 共著:南江堂，2019.3
連絡先(メールアドレス) nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 水曜日 12:30—13:30 質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	005502				
科目名	化学 M			科目 ID	
担当教員	奈良 雅之, 渡邊 総一郎[NARA Masayuki, WATANABE SOICHIRO]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:火曜1講(前期全週)、2 講(第 11 週～第 15 週)ただし第 14 週は金曜日(7 月 24 日)

・対象学科:医学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 2-1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る

別表 4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

分子生物学、生物物理学の発展により、生命現象を物理、化学的な視点、考え方で理解できるようになりました。医学の分野においても病気や治療法を分子レベルで捉えられるようになり、その知識は膨大になりつつあります。医学の道を選んだ皆さんは、物理、化学の基礎をしっかり身につけていないと、生命現象を分子レベルで理解できないばかりか、医学の先端的な研究からも取り残されてしまうことになるでしょう。本科目では、大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学(一般化学&有機化学)」を学習します。

授業の到達目標

授業で扱った範囲に関連した「最新臨床検査学講座　化学」「化学熱力学」「基礎講座　有機化学」等の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

授業に関連した演習問題が7割理解できるレベルが GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
3-4	4/28	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
5-6	5/12	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
7-8	5/19	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
9-10	5/26	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
11-12	6/2	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
13-14	6/9	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
15-16	6/16	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
17-18	6/23	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
19-20	6/30	08:50-10:30	1 番教室	奈良 雅之
21-24	7/7	08:50-12:25	1 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
25-28	7/14	08:50-12:25	1 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
29-32	7/21	08:50-12:25	1 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
33-36	7/24	08:50-12:25	1 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
37-40	7/28	08:50-12:25	1 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之

授業方法

講義形式で授業を行うが、適宜、演習を解いたり、解答を説明させたりして、アクティブラーニングを取り入れて行う。

授業内容

原子・分子の構造について取り扱うことにより、ミクロのものの見方を学習して、無機化合物、有機化合物の構造を理解するための基礎を確認します。次に、化学実験の内容を理論的に理解できるように「酸塩基平衡」を取り上げます。続いてマクロのものの見方を学習するために「化学熱力学(熱力学の原理(熱力学の平衡への応用))」を取り上げます。さらに、複雑な生命現象(生体内反応)の原理を理解するために「有機化学」を取り上げ、有機化合物の基本的な構造・性質・反応性に関して学びます。

注意:昨年度までの旧カリキュラムでは 90 分×30 コマの時間をかけて扱った内容を 2023 年度からのカリキュラムでは 45 分×40 コマに圧縮して実施しますので、すべてを教えることはできません。したがって、化学全般について理解を深めるには、積極的に自学自習に取り組むことが重要です。

1－2時限(担当　奈良)

第 1-2 回　ガイダンス　単位　　第 3-4 回　原子と分子の構造(1)
第 5-6 回　原子と分子の構造(2)　　第 7-8 回　原子と分子の構造(3)
第 9-10 回　酸塩基平衡(1)　　第 11-12 回　酸塩基平衡(2)
第 13-14 回　酸塩基平衡(3)　　第 15-16 回　化学熱力学(1)
第 17-18 回　化学熱力学(2)　　第 19-20 回　化学熱力学(3)
第 21-22 回　化学熱力学(4)　　第 25-26 回　化学熱力学(5)
第 29-30 回　化学熱力学(6)　　第 33-34 回　化学熱力学(2)
第 37-38 回　化学熱力学(2)

3－4時限(担当　渡邊)

第 23-24 回　有機化学(1)　　第 27-28 回　有機化学(2)
第 31-32 回　有機化学(3)　　第 35-36 回　有機化学(4)
第 39-40 回　有機化学(5)

成績評価の方法

評価:試験　100%　・レポート　0%
　その他(出席シートの小テスト、コメント等を評価に加味することがある。)

再評価:有(再評価方法　後期の試験期間に再試験を実施する)
化学を理解しているかどうかを評価の対象とするので、主に試験で評価する。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:指定された教科書,配布資料等で該当する箇所に目を通しておく。
復習:講義に関係した演習問題を解いて、理解していることを確認する。

試験の受験資格

考査:3分の2以上出席

構成ユニット

8 番教室および 9 番教室

教科書

最新臨床検査学講座　化学／奈良雅之:医歯薬出版, 2020
基礎講座有機化学／松島芳隆, 渡邊総一郎, 古荘義雄著,松島, 芳隆,渡邊, 総一郎,古荘, 義雄,:化学同人, 2022
化学熱力学／原田　義也:裳華房, 2012

参考書

一般化学／Jerome L.Rosenberg, Lawrence M.Epstein　共著,一国雅巳　訳,Rosenberg, Jerome Laib,Epstein, Lawrence M,一国, 雅巳, 1930-,:オーム社, 1995
系統看護学講座　化学／奈良, 雅之,:医学書院, 2018
マクマリー有機化学(上)／マクマリー／著,伊東〔ショウ〕／訳,児玉三明／訳,荻野敏夫／訳,深澤義正／訳,通元夫／訳,:東京化学同人, 2017

マクマリー有機化学(中)／マクマリー／著,伊東〔ショウ〕／訳,児玉三明／訳,荻野敏夫／訳,深澤義正／訳,通元夫／訳,:東京化学同人, 2017

ハート基礎有機化学／H. ハート, L.E. クレーン, D.J. ハート共著 ; 秋葉欣哉, 奥彬共訳,Hart, Harold,Craine, Leslie E.,Hart, David J,秋葉, 欣哉,奥, 彬,:培風館, 2002

参考材料:HGS 分子模型

他科目との関連

酸塩基平衡では「化学実験」の基礎となる理論を取り扱います。

履修上の注意事項

出席3分の2以上を満たさないと、考査の受験資格がなくなります。

備考

キーワード:原子・分子の構造、化学熱力学、有機化学

連絡先(メールアドレス)

奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

奈良　雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	005501				
科目名	化学 DT			科目 ID	
担当教員	奈良 雅之, 渡邊 総一郎[NARA Masayuki, WATANABE SOICHIRO]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:火曜 2 講(前期全週)、1 講(第 11～15 週)(ただし第 14 回は金曜日 7 月 24 日(金))

・対象学科:歯学科・保健衛生学科検査技術学専攻

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

別表 2-1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る

別表 4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

主な講義場所

7 番教室

授業の目的、概要等

分子生物学、生物物理学の発展により、生命現象を物理、化学的な視点、考え方で理解できるようになりました。歯学や検査技術学の医療系分野においても病気や治療法を分子レベルで捉えられるようになり、その知識は膨大になりつつあります。歯学や検査技術学の道を選んだ皆さんは、物理、化学の基礎をしっかり身につけていないと、生命現象を分子レベルで理解できないばかりか、先端的な研究からも取り残されてしまうことになるでしょう。本科目では、大学の一般教養課程で当然学んでおくべき「化学(物理化学&有機化学)」を学習します。

授業の到達目標

1)授業で扱った範囲に関連した「最新臨床検査学講座 化学」「基礎講座 有機化学」「化学熱力学」等の各章を理解し、かつその演習問題に取り組むことができる。

授業に関連した演習問題で7割理解できるレベルが GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
3-4	4/28	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
5-6	5/12	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
7-8	5/19	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
9-10	5/26	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
11-12	6/2	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
13-14	6/9	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
15-16	6/16	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
17-18	6/23	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
19-20	6/30	10:45-12:25	7 番教室	奈良 雅之
21-24	7/7	08:50-12:25	7 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
25-28	7/14	08:50-12:25	7 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
29-32	7/21	08:50-12:25	7 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
33-36	7/24	08:50-12:25	7 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之
37-40	7/28	08:50-12:25	7 番教室	渡邊 総一郎, 奈良 雅之

授業方法

講義形式で授業を行うが、適宜、アクティブラーニング(課題演習や答案の発表など)を取り入れる。

授業内容

「原子・分子の構造論」を取り上げることにより、ミクロ系のものの見方を学び、続いて「自然科学実験(化学実験)」の内容を理論的に理解できるように「酸塩基平衡」を取り上げる。また、「化学熱力学(熱力学の原理)」を取り上げることにより、マクロ系のものの見方を学ぶ。さらに、複雑な生命現象(生体内反応)の原理を理解するために「有機化学」を取り上げ、有機化合物の基本的な構造・性質・反応性

に関して学ぶ。

成績評価の方法

評価:試験(期末試験)　100%　・レポート　0%

　　その他(出席シートの小テスト、コメント等を評価に加味することがある。)

再評価:有(再評価方法　再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:指定された教科書、配布資料等で該当する箇所に目を通しておく。

復習:講義に関係した演習問題を解いて、理解していることを確認する。

試験の受験資格

試験・再試験の受験資格:3分の2以上出席

教科書

最新臨床検査学講座　化学／奈良雅之,:医歯薬出版, 2020

化学熱力学／原田義也著,:裳華房, 2012

基礎講座有機化学／松島芳隆, 渡邊総一郎, 古荘義雄著,松島, 芳隆,渡邊, 総一郎,古荘, 義雄,:化学同人, 2022

歯学科の方は、上記の 3 冊の購入が望ましいです。化学熱力学は後期の生命科学基礎(専門)でも活用できます。

検査技術学専攻の方は最新臨床検査学講座　化学と　基礎講座　有機化学を購入してください。

参考書

一般化学／Jerome L.Rosenberg, Lawrence M.Epstein　共著,一国雅巳　訳,:オーム社, 1995

系統看護学講座　化学／奈良, 雅之,:医学書院, 2018

ボルハルト・ショアー現代有機化学(上)／ボルハルト, ショアー　[著],村橋俊一　訳者代表,:化学同人, 2019

ボルハルト・ショアー現代有機化学(下)／ボルハルト, ショアー　[著],村橋俊一　訳者代表,:化学同人, 2020

ウォーレン有機化学(上)／J.CLAYDEN, N.GREEVES, S.WARREN　著,野依良治, 奥山格, 柴崎正勝, 檜山爲次郎　監訳,:東京化学同人, 2015

化学熱力学／原田義也　著,:裳華房, 2002

マクマリー一般化学(上)／JOHN McMURRY, ROBERT C.FAY　著,荻野博, 山本学, 大野公一　訳,:東京化学同人, 2010

他科目との関連

「酸塩基平衡」では「自然科学実験(化学実験)」の基礎となる理論を取り扱う。

履修上の注意事項

出席が3分の2以上を満たさないと、期末試験の受験資格がなくなります。

備考

キーワード:分析化学、化学実験学、化学熱力学、有機化学

連絡先(メールアドレス)

奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

奈良　雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	000837				
科目名	化学基礎			科目ID	LA114800Z
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:6/15(第 9 週)～7/30(第 16 週)の月曜 2 講 (ただし、6/15 と 6/22 は 1 講、2 講の連続)

・対象学科:保健衛生学科看護学専攻、口腔保健学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

2－1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

4－1)入学時に不足している基礎学力を一定レベルに引き上げる

4－2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

主な講義場所

7番教室

授業の目的、概要等

看護学・口腔保健学に必要な生命科学を学んでいく上で役立つ化学の基礎知識や考え方を講義することを基本とする。

授業の到達目標

1)授業で扱った内容および演習問題を理解し、将来、看護学・口腔保健学の専門の基礎となる化学を身につける。GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、授業に関連した演習問題を 7 割程度理解できることとする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	6/15	08:50-12:25	7 番教室	化学の基礎知識ー化学とじょうずなつきあい方	奈良　雅之	中学校、高校学校(化学基礎)で学んだ化学の基本用語の復習を行う。 単位について理解を深める。 元素の周期表に馴染む。
5-8	6/22	08:50-12:25	7 番教室	物質の状態ー気体、液体、固体	奈良　雅之	気体の性質、液体、溶液の性質について数値計算を通して理解を深める。
9-10	6/29	10:45-12:25	7 番教室	物質の変化(1)	奈良　雅之	熱化学反応、酸化還元反応について理解を深める
11-12	7/6	10:45-12:25	7 番教室	物質の変化(2)	奈良　雅之	化学平衡について理解を深める
13-14	7/13	10:45-12:25	7 番教室	無機化学	奈良　雅之	無機化合物の性質について理解を深める。科学基礎実験 NOK で扱った無機定性分析を理解をさらに深める。
15-16	7/20	10:45-12:25	7 番教室	有機化学(1)	奈良　雅之	有機化合物の特徴と分類について理解を深める。 有機化合物の表し方について習得する。
17-18	7/27	10:45-12:25	7 番教室	有機化学(2)	奈良　雅之	有機化合物の官能基について理解を深める。
19-20	7/30	10:45-12:25	7 番教室	有機化学(3)	奈良　雅之	有機化合物の中で特に生体分子について理解を深める。

授業方法

主に講義形式で行い、適宜、アクティブラーニング(演習)を取り入れて行う。毎回の授業時にコメントの提出を求める。

授業内容

1. 化学の基礎知識ー化学とのじょうずな付き合い方
2. 化学の単位と元素の周期表
3. 物質の状態ー気体の性質
4. 物質の状態ー液体・溶液の性質
5. 物質の変化ー化学反応
6. 物質の変化ー酸塩基平衡
7. 物質の構成ー無機化学
8. 物質の構成ー有機化学

成績評価の方法

評価 : 期末試験 90% ・ レポート 0% ・ その他(授業への参加度・授業時の小テストなど) 10%

再評価: 有(再評価方法 再試験)

授業内容の理解度を測るために試験や演習を行い、その成績および授業への参加度で評価を行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:指定された教科書,配布資料等で該当する箇所に目を通しておく。

復習:講義の内容および演習問題・小テストを復習する。

試験の受験資格

試験・再試験の受験資格:3分の2以上出席

教科書

化学 第 8 版／奈良 雅之,奈良 雅之 著・文・その他:2026

参考書

最新臨床検査学講座 化学／奈良 雅之:医歯薬出版, 2020

大学生のための例題で学ぶ化学入門 第2版／大野公一, 村田滋, 錦織紳一著,大野, 公一,村田, 滋,錦織, 紳一,:共立出版, 2021

高校の「化学基礎」および「化学」の教科書

履修上の注意事項

出席が3分の2以上を満たさないと、期末試験の受験資格がなくなります。

連絡先(メールアドレス)

奈良 雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

奈良 雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	00530				
科目名	生物学 M			**科目 ID**	
担当教員	伊藤　正則[ITO Masanori]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・曜日・時間:金曜日 1～2 講

・対象学科:医学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

2－1)自然現象を科学的に探究するための方法を知る。

4－2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける。

授業の目的、概要等

生命現象(疾患を含む)を個体から分子レベルで理解する。専門教育を学ぶうえでの基盤を形成すること、能動的に学習するようになること、論理的思考力を向上させることを目的とする。

授業の到達目標

1)遺伝や代謝などの生命現象を個体から分子レベルで説明することができる。

2)生体の構造と機能の関連性を説明することができる。

3)遺伝子解析・操作技術の原理を説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	5/15	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
5-8	5/22	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
9-12	5/29	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
13-16	6/5	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
17-20	6/12	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
21-24	6/19	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
25-28	6/26	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
29-32	7/3	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
33-36	7/10	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則
37-40	7/17	08:50-12:25	1 番教室	伊藤　正則

授業方法

基本的には講義形式で行う。アクティブラーニングとして、予め資料を LMS に掲示するので、予習を行うこと。授業後、授業内容に関する質問などをリアクションペーパーに書く。次週の授業で質問などに答える。復習では知識が体系的になるようにノートに整理する。

授業内容

生命現象を個体から分子レベルで説明する。

第 1 回　ウイルス、バクテリア、細胞の構造、細胞小器官の構造・機能、細胞分化、幹細胞と再生医療

第 2 回　細胞骨格、細胞接着、細胞分裂、細胞死、自己免疫疾患

第 3 回　核酸の構造、DNA の立体構造、DNA の複製・転写、RNA スプライシング、翻訳、遺伝子操作

第 4 回　性決定・分化、生殖、アミノ酸、タンパク質、代謝、酵素、消化、酸素呼吸、ビタミン

第 5 回　血液、血管

第 6 回　免疫

第 7 回　細胞間情報伝達、ホルモンの化学構造・機能、内分泌器官の構造・機能、神経系

第 8 回　ニューロン内・間での情報伝達、ニューロトランスミッター

第 9 回　グリア細胞、血液脳関門

第 10 回　脳機能の発現機構

成績評価の方法

試験 100%

再試験:有(再試験での成績は 60 点を上限とする)
(注意)授業内容に関する試験と生物学基礎知識確認試験の両試験を必ず受けること。両試験を受けない場合は、履修放棄とみなす。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

アクティブラーニングとして、予め資料を LMS に掲示するので、予習を行うこと。講義内容に関する質問などがあれば、リアクションペーパーに書くこと。次週の授業でこの質問などに答える。復習では知識を体系化することを意識して、ノートを整理する。

試験の受験資格

2/3 以上、出席すること。

教科書

はじめの一歩の生化学・分子生物学第 3 版／前野正夫, 磯川桂太郎著,前野, 正夫,磯川, 桂太郎,:羊土社, 2016

人体の構造と機能第 5 版／エレイン N.マリーブ著 ; 林正健二 [ほか] 訳,Marieb, Elaine Nicpon,林正, 健二,:医学書院, 2025

参考書

Molecular biology of the cell／Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John Wilson, Tim Hunt,Johnson, Alexander D,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-:Garland Science, Taylor and Francis Group, 2015

Essential cell biology／Bruce Alberts, Karen Hopkin, Alexander Johnson, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter:Garland Science, Taylor and Francis Group, 2019

Human biology 13th ed／Sylvia S. Mader, Michael Windelspecht ; with contributions by David Cox:McGraw-Hill, 2014

診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学／渡邉淳著,渡邉, 淳,:羊土社, 2017

よくわかるゲノム医学 : ヒトゲノムの基本から個別化医療まで／服部成介, 水島-菅野純子著,服部, 成介,水島-菅野, 純子,菅野, 純夫,:羊土社, 2016

連絡先(メールアドレス)

itohmt.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

時間割番号	00540				
科目名	生物学 DT			**科目 ID**	
担当教員	栗田　武[KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

・重要な連絡事項は LMS に掲示します。講義期間中は、毎週必ず LMS を確認してください。
・成績評価には、出席率 3 分の 2 以上が必要です。出席はカードリーダーで記録するため、学生証を必ず携帯してください。

授業の目的、概要等

生物学は医療の基礎となる自然科学です。
本コースでは、生命現象の原理を理解することで、生命科学・医学の知識を統合的に身につけるための基盤を形成します。また、科学的態度(論理的思考・批判的思考)を培い、能動的に学ぶ姿勢を育成することを目的とします。

授業の到達目標

1) 分子・個体・集団レベルの生命現象を論理的に説明できる。
2) 生体の構造と機能の関連を説明できる。
3) 現代の生命科学技術の原理を説明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-4	5/15	08:50-12:25	7 番教室	イントロダクション	栗田 武
5-8	5/22	08:50-12:25	7 番教室	進化	栗田 武
9-12	5/29	08:50-12:25	7 番教室	生殖	栗田 武
13-16	6/5	08:50-12:25	7 番教室	発生	栗田 武
17-20	6/12	08:50-12:25	7 番教室	細胞 I (構造)	栗田 武
21-24	6/19	08:50-12:25	7 番教室	細胞 II(細胞死・老化)	栗田 武
25-28	6/26	08:50-12:25	7 番教室	細胞 III(遺伝子発現)	栗田 武
29-32	7/3	08:50-12:25	7 番教室	免疫	栗田 武
33-36	7/10	08:50-12:25	7 番教室	内分泌・神経	栗田 武
37-40	7/17	08:50-12:25	7 番教室	統合	栗田 武

授業方法

・ 基本的には講義形式で行います。
・ アクティブラーニングの一環として、事前に講義資料を LMS に掲示します。予習・復習を行い、授業後にはリアクションペーパーに質問・感想・意見を記入してください。
・ 寄せられた質問には次回の授業で回答します。
・ 復習では、知識を体系的に整理できるようノート作成を推奨します。

授業内容

生命現象を個体から分子レベルで説明します。
以下の内容を有機的に関連づけながら説明します。

1. 生物学の学び方
2. 進化
3. 生殖
4. 発生
5. 細胞
6. 遺伝子
7. 生命科学技術
8. 組織・器官・器官系
9. 免疫
10. 内分泌

11. 神経

成績評価の方法

試験 100%

定期試験:80 点、学力認定試験:20 点

成績認定には、定期試験と学力認定試験、両方の受験が必須です。

再試験:あり。

再試験での成績は 60 点が上限となります。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

・ 初回授業までに、LMS に掲示している「生物学 DT 受講までに理解しておくべき用語」を自習してください。

・ 講義資料は事前に LMS に掲示します。予習・復習を行い、授業後にはリアクションペーパーを提出してください。

・ 復習時には、体系的な理解のためノート作成を推奨します。

試験の受験資格

出席率 3 分の 2 以上

教科書

はじめの一歩の生化学・分子生物学／前野, 正夫, 1952-,磯川, 桂太郎, 1959-,前野正夫, 磯川桂太郎 著:羊土社, 2016.12

人体の構造と機能／Marieb, Elaine Nicpon, 1936-,林正, 健二, 1946-,今本, 喜久子, 1943-,遠藤, 健司, 1962-,エレイン N.マリーブ 著,林正健二, 今本喜久子, 遠藤健司, 大島千佳, 小田切陽一, 武田多一, 武田裕子, 竹野ゆかり, 藤本悦子 訳:医学書院, 2015.3

参考書

Molecular biology of the cell／Alberts, Bruce,Johnson, Alexander D.,Lewis, Julian, 1946-2014,Morgan, David Owen, 1958-,Wilson, John, 1944-,Hunt, Tim, 1943-,Bruce Alberts, Alexander Johnson, Julian Lewis, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter,with problems by John:Garland Science, Taylor and Francis Group, [2015]

診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学／渡邉, 淳,渡邉淳 著:羊土社, 2017.5

よくわかるゲノム医学 : ヒトゲノムの基本から個別化医療まで／服部, 成介, 1952-,水島-菅野, 純子,菅野, 純夫, 1952-,服部成介, 水島-菅野純子 著,菅野純夫 監修:羊土社, 2016.1

他科目との関連

高校生物基礎・高校生物を理解していることを前提とします。 「生物学入門」を受講している学生は、その内容を十分に理解したうえで本講義に臨んでください。

履修上の注意事項

本講義は各回の内容が相互に密接に関連しており、継続的な理解が不可欠です。 一部でも理解が不十分なまま進むと、以後の内容理解に支障が出ます。疑問点があれば、 ・リアクションペーパー ・授業後の質問 ・メール などを活用し、できるだけ早く解決するようにしてください。 メールでの質問はいつでも受け付けています。

連絡先(メールアドレス)

kurita.t.382a@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週水曜日 PM.1:30-PM.5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室-2

時間割番号	00420				
科目名	生物学基礎			科目ID	
担当教員	松本　幸久[MATSUMOTO Yukihisa]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1～	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間：月曜 1,2 講、火曜 3,4 講

・対象専攻：看護学専攻・口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：

別表 2-1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る。

別表 4-1)入学時に不足している基礎学力を一定レベルに引き上げる。

別表 4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける。

主な講義場所

管理研究棟 2 階 8 番,9 番教室(火曜日)

校舎棟 1 階 1 番教室(月曜日)

授業の目的、概要等

生物は細胞から成り、細胞の機能によって生命現象が発現される。この授業では、細胞の構造に加えて、遺伝子発現、代謝等の細胞の機能を学ぶ。また、多数の細胞が集まって構築されている個体が、どのようにして全体として調和のとれた活動ができるかという点について学習する。さらに、これらの知識を活用することによって、ある疾患の原因を説明できることを理解する。

授業の到達目標

1)細胞を構成する細胞小器官と細胞膜の構造と機能を説明することができる。

2)遺伝および遺伝子とは何か、説明することができる。

3)遺伝子発現機構と転写調節機構を分子レベルで説明することができる。

4)代謝とは何か、説明することができる。

5)生体の基本構造を説明することができる。

6)生体の構造と関連させて、機能を具体的に説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
3-4	4/28	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
5-6	5/12	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
7-8	5/19	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
9-10	5/26	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
11-12	6/2	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
13-14	6/9	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
15-16	6/16	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
17-18	6/23	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
19-20	6/30	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
21-22	7/6	08:50-10:30	1 番教室	松本　幸久
23-24	7/7	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
25-26	7/13	08:50-10:30	1 番教室	松本　幸久
27-28	7/14	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久
29-30	7/20	08:50-10:30	1 番教室	松本　幸久
31-32	7/21	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本　幸久

33-34	7/24	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本 幸久
35-36	7/27	08:50-10:30	1 番教室	松本 幸久
37-38	7/28	10:45-12:25	8 番教室, 9 番教室	松本 幸久
39-40	7/30	08:50-10:30	1 番教室	松本 幸久

授業方法

授業は主に講義形式で行う。アクティブラーニングとして、毎回の授業で、復習クイズ(前回の授業内容から出題する基本問題)、予習クイズ(次回の授業内容から出題する基本問題)、ふりかえり発展問題(これまでの複数の授業の内容を関連づけさせた応用問題)などの演習を行う。また、疑問点抽出能力の向上のため、毎回の授業でリアクションペーパーに疑問点を書かせ提出させる。

授業内容

細胞の構造に加えて、遺伝子発現、代謝等の細胞の機能を説明する。また、生体の各組織・器官の構造と機能の概要を説明し、代表的な生命現象とその制御メカニズムを系統進化学的な観点を加えて説明する。さらに、これらの知識を活用することによって、ある種の疾患の原因と発症に至るまでのメカニズムを説明する。

1. 生物とは
2. 細胞膜
3. 生物を構成する物質
4. 酵素と代謝
5. 代謝経路
6. DNA の複製
7. 遺伝子の発現機構
8. 転写調節機構
9. 遺伝子の操作 1
10. 遺伝子の操作 2
11. 組織・器官・器官系
12. 消化器系
13. 血液
14. 免疫系 1
15. 免疫系 2
16. 内分泌系 1
17. 内分泌系 2
18. 神経系 1
19. 神経系 2
20. 神経系 3

＊内容、予定に変更があった場合にはその都度告知する。

成績評価の方法

評価:本講義は確実な知識を習得することが主な目的なので、期末考査70%、授業内の小テストなど30%で成績を評価する。
再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習では、授業内の予習クイズで出題された箇所に該当する教科書の範囲と、予め LMS に掲載されている講義資料に目を通しておくこと。復習では授業で扱った事項について、参考書やインターネット等により知識の拡充・整理を行い、知識が体系的になるようにノートを整理する。

試験の受験資格

授業の 2/3 以上出席したものに試験の受験資格を与える。

教科書

人体の構造と機能／Marieb, Elaine Nicpon, 1936-2018,林正, 健二, 1946-,今本, 喜久子, 1943-,遠藤, 健司, 1962-,エレイン N.マリーブ 著,

林正健二, 今本喜久子, 遠藤健司, 大島千佳, 小田切陽一, 武田多一, 武田裕子, 竹野ゆかり, 藤本悦子 訳:医学書院, 2015.3
必要に応じて参考資料を配布する。

参考書

医療・看護系のための生物学 = Biology, for paramedical and nursing courses／田村, 隆明,田村隆明著:裳華房, 2016.9.
ヒューマンバイオロジー 人体と生命／SS Mader:医学書院, 2005
はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学／前野, 正夫,磯川, 桂太郎,前野正夫, 磯川桂太郎著:羊土社, 2008.3
大学で学ぶ身近な生物学／吉村成弘 著,吉村, 成弘,:羊土社, 2015

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先する。

連絡先(メールアドレス)

matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

時間割番号	00430				
科目名	サイエンス PBL 入門			科目 ID	
担当教員	伊藤 正則, 奈良 雅之, 中林 潤, 柳下 和慶, 栗田 武, 檜枝 光憲, 徳永 伸一, 中山 まどか, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 松本 幸久, 三好 洋, 猫沖 陽子, 弓削 進弥, 石井 裕人, 田﨑 創平, 永野 昌俊[ITO Masanori, NARA Masayuki, NAKABAYASHI Jun, YAGISHITA Kazuyoshi, KURITA Takeshi, HIEDA Mitsunori, TOKUNAGA Shinichi, NAKAYAMA Madoka, SAWANO Yoriko, KATSUMATA Toshiyuki, MATSUMOTO Yukihisa, MIYOSHI Hiroshi, NEKOOKI Yoko, YUGE Shinya, ISHII Yuto, TASAKI Sohei, NAGANO Masatoshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1～	単位数	1.5
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・日時:2026 年 12 月 10 日、17 日、2027 年 1 月 7 日、14 日、21 日、28 日、3 及び 4 講
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)
2－4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。
4－3)自然現象を探究するための基本的な手法を身につける。

主な講義場所

後日、掲示する。。

授業の目的、概要等

1)問題抽出、論理的思考、コミュニケーション技術の向上:
次の一連の過程において必要な技術を向上させる。「資料やデータから具体的な問題点を抽出する → 知識を集め、整理する → 正確な知識と知識を根 拠とした正確な論理展開によって問題点を解決する → 簡潔かつ解り易い言葉で説明し、建設的な話し合いを行う」。

2)実験研究者になるための基礎づくり:
問題点を解決するために適切な実験を計画・実施する技術を向上させる。また、実験データを解り易く整理し、実験データの解析と適切な考察を行う技 術を培う。

3)医療に携わるうえでの基礎づくり:
測定結果から正しい結論やその背景にあるメカニズムを推論する。その過程で必要な論理的思考力を向上させる。

授業の到達目標

1. 配布資料(課題シート)から具体的な問題点を抽出し、「正確な知識」と「知識を根拠とした正確な論理展開」によって問題点を解決することができる。
2. 簡潔かつ解り易い言葉で説明することができる。
3. 建設的な話し合いを行うことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	12/10	13:30-17:05	1 番教室, 2 番教室, 3 番教室, 4 番教室, 5 番教室, 6 番教室, 7 番教室, 計算機実習室, 8 番教室, 9 番教室, 10 番教室, 11 番教室, 12 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 越野 和樹, 中林 潤, 徳永 伸一, 中山 まどか, 柳下 和慶, 田﨑 創平, 三好 洋, 猫沖 陽子, 永野 昌俊, 石井 裕人, 弓削 進弥
5-8	12/17	13:30-17:05	1 番教室, 2 番教室, 3 番教室, 4 番教室, 5 番教室, 6 番教室, 7 番教室, 計算機実習室, 8 番教室, 9 番教室, 10 番教室, 11 番教室, 12 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 越野 和樹, 中林 潤, 徳永 伸一, 中山 まどか, 柳下 和慶, 田﨑 創平, 猫沖 陽子, 弓削 進弥, 三好

				洋, 石井 裕人, 永野 昌俊
9-12	1/7	13:30-17:05	1 番教室, 2 番教室, 3 番教室, 4 番教室, 5 番教室, 6 番教室, 7 番教室, 計算機実習室, 8 番教室, 9 番教室, 10 番教室, 11 番教室, 12 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 越野 和樹, 中林 潤, 中山 まどか, 柳下 和慶, 三好 洋, 田﨑 創平, 猫沖 陽子, 弓削 進弥, 石井 裕人, 永野 昌俊
13-16	1/14	13:30-17:05	1 番教室, 2 番教室, 3 番教室, 4 番教室, 5 番教室, 6 番教室, 計算機実習室, 7 番教室, 8 番教室, 9 番教室, 10 番教室, 11 番教室, 12 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 越野 和樹, 中林 潤, 中山 まどか, 徳永 伸一, 柳下 和慶, 猫沖 陽子, 弓削 進弥, 三好 洋, 石井 裕人, 永野 昌俊, 田﨑 創平
17-20	1/21	13:30-17:05	1 番教室, 2 番教室, 3 番教室, 4 番教室, 5 番教室, 6 番教室, 7 番教室, 8 番教室, 9 番教室, 10 番教室, 11 番教室, 12 番教室, 計算機実習室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 越野 和樹, 中林 潤, 徳永 伸一, 中山 まどか, 柳下 和慶, 田﨑 創平, 三好 洋, 猫沖 陽子, 弓削 進弥, 石井 裕人, 永野 昌俊
21-24	1/28	13:30-17:05	1 番教室, 2 番教室, 3 番教室, 4 番教室, 5 番教室, 6 番教室, 7 番教室, 計算機実習室, 8 番教室, 9 番教室, 10 番教室, 11 番教室, 12 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 中林 潤, 徳永 伸一, 中山 まどか, 柳下 和慶, 田﨑 創平, 猫沖 陽子, 弓削 進弥, 三好 洋, 永野 昌俊, 石井 裕人

授業方法

problem-based learning (PBL)

授業内容

7 または 8 名程度から成るグループによる学習で、課題シートから問題点を抽出し、自然科学の知識を活用して、問題点を解決することを試みる。具体的には次の 1ー3 の順に行う。

1. 配布資料の内容を理解し、学生間での話し合い、具体的な問題点を抽出する。
2. 各自が問題点を解決するために必要な情報を得た後、情報を整理する。
3. 整理した情報を発表し、議論する。発表と議論した内容をまとめ、これらを根拠にして、問題点に対する答え導き出すことを試みる。
4. 上記 1～3 を整理した(論理展開を重視した)スライドを作成し、これを発表する。

この授業では学生間での話し合いが中心となる。話合いに参加するためには、明確な目的意識をもった学習が必要である。また、毎回、得た情報と話し合いの過程を整理・記録することが重要である。

成績評価の方法

授業への参加度、グループによる話し合いへの参加、グループごとでの発表会での発表内容、発表会での質問・返答内容、レポートの記述内容による。詳細は 1 回目の授業内でのガイダンスで述べる。1 回目の授業は on line で行う予定である。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

各自が問題点を解決するために必要な情報を集め、ノートなどに整理しておくこと。情報を集める過程でさらに問題点をみつけること。問題点を論理的方法により解決する。

試験の受験資格

試験を行わない。

教科書

課題シートなどの資料を配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

連絡先（メールアドレス）

伊藤　正則:itohmt.las@tmd.ac.jp
中林　潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp
栗田　武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp
徳永　伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp
奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp
勝又　敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp
柳下　和慶:yagishita.k.226c@m.isct.ac.jp
松本　幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp
檜枝　光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp
中山　まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

伊藤　正則:毎週月曜日　AM.10:00–PM.2：00　ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室
中林　潤:月曜～金曜
A.M.10:00 – P.M. 05:00
国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9
栗田　武:毎週水曜日　PM.1：30–PM. 5：00 ヒポクラテスホール（校舎棟）4 階 教官研究室―2
徳永　伸一:前期:
火曜 12:30–13:20（ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室）

後期:
木曜 12:30–13:20（ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室）

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。
上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

奈良　雅之:前期：毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期：毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6
勝又　敏行:毎週金曜日　12:00–13:00　ヒポクラテス 2 階化学実験準備室
柳下　和慶:毎週木曜日　12:30–13:00　管理研究棟 2 階　研究室
松本　幸久:毎週木曜日　PM.4:30–6:00　ヒポクラテスホール 4 階　教員研究室 10
檜枝　光憲:毎週火曜日　12:30～13:00　ヒポ 3F 教員研究室 2
中山　まどか:水曜日 12:30―13:30
質問等随時メールで受け付けています。（nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp）

時間割番号	000241				
科目名	科学基礎実験 T			科目 ID	LA116201Z
担当教員	檜枝 光憲, 伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久, 勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之[HIEDA Mitsunori, ITO Masanori, KURITA Takeshi, MATSUMOTO Yukihisa, KATSUMATA Toshiyuki, SAWANO Yoriko, NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:前期 6/15(月)4 講・7/7(火)3-4 講、後期木曜3・4講(変則的)

・対象学科:保健衛生学科検査技術学専攻

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

2－1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

2－2)自然現象を探求するための手法を知る

4－2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

4－3)自然現象を探求するための基本的手法を身につける

授業の目的、概要等

物理学実験(運動方程式の数値解法)、生物学実験(光学顕微鏡を用いた観察)、化学実験(無機定性分析、容量分析)の基本操作を学び、実験に対する基本的な態度を身につける。危険な物質(硫化水素など)の扱い方、光学顕微鏡の使い方、一次記録の取り方、報告の書き方などを習得する。さらに、各自が興味を持ったテーマを見つけだし、そのテーマに関する実験に取り組む(考察実験)。

授業の到達目標

実験ノートをきちんと取り、それを報告としてまとめ、発表することができる。さらに、自分でテーマを見つけ、実験を組み立てることができることを習得し、サイエンスリテラシーを向上させることを目標とする。

担当教員の指示に従って、それぞれの課題に関して要求された内容を記載したレポート等をすべて提出することがレベル B に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	6/15	15:25-17:05	8 番教室	檜枝 光憲
3-6	7/7	13:30-17:05	8 番教室	檜枝 光憲
7-10	10/29	13:30-17:05	8 番教室	松本 幸久
11-14	11/5	13:30-17:05	8 番教室	松本 幸久
15-18	11/12	13:30-17:05	8 番教室	奈良 雅之
19-22	11/19	13:30-17:05	8 番教室	奈良 雅之
23-26	11/26	13:30-17:05	8 番教室	奈良 雅之
27-30	12/3	13:30-17:05	8 番教室	奈良 雅之

授業方法

実習による

授業内容

1 物理学実験:実験データの解析入門

2 物理学実験:振り子実験と重力加速度の測定

3 生物学実験:光学顕微鏡の使い方、血液塗抹標本の作成・血球観察

4 生物学実験:グループ学習(実験結果から疑問点の抽出と解決、発表用スライド作成、発表会)

5 化学実験:無機金属イオンの分析(1)

6 化学実験:無機金属イオンの分析(2)

7 化学実験:容量分析(1) 中和滴定(食酢中の酸の定量)

8 化学実験:容量分析(2) キレート滴定(水道水中のカルシウムの定量)

化学実験及び生物学実験では、1人 1 セットずつ実験器具が配布されることにより、各自が責任をもって実験に取り組む。

成績評価の方法

実験のため、実験中の取り組み記録の作成などを重視し以下の通りとする。
物理学分野 25% 生物学分野 25% 化学分野 50%で評価する。
化学分野では実験ノート(一次記録およびレポート)50%、
実験中の取り組み(面接・テストなどを含む)50%で評価する。
生物学分野では実験レポート 70%、発表会での発表内容・質疑応答 30%で評価する。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習をして実験の内容をあらかじめ把握しておくこと。実験後はレポートを作成し、考察を行うこと。

教科書

「化学実験」(東京科学大学 ILA 国府台化学教室編)
生物学実験では資料を配布する。

参考書

最新臨床検査学講座 化学／奈良雅之 著:医歯薬出版, 2020

連絡先(メールアドレス)

奈良 雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp
澤野 頼子:sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp
栗田 武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp
勝又 敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp
伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp
松本 幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp
檜枝 光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

奈良 雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
澤野 頼子:前期:火曜日 12:00-13:20、後期:木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階
栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室-2
勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室
伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室
松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10
檜枝 光憲:毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	000242				
科目名	科学基礎実験 N･O･K			科目 ID	LA116202Z
担当教員	伊藤　正則, 勝又　敏行, 澤野　頼子, 奈良　雅之, 栗田　武, 松本　幸久, 檜枝　光憲[ITO Masanori, KATSUMATA Toshiyuki, SAWANO Yoriko, NARA Masayuki, KURITA Takeshi, MATSUMOTO Yukihisa, HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

･曜日･時間:金曜 1～2 講 (実験は指定された回に出席すること)

･対象学科:保健衛生学科看護学専攻、口腔保健学科

･科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

2－1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

2－2)自然現象を探求するための手法を知る

4－2)生命現象･自然現象について総合的に理解するための基礎学力･思考力を身につける

4－3)自然現象を探求するための基本的手法を身につける

主な講義場所

8･9番教室、化学実験室

授業の目的、概要等

化学実験では定性分析および容量分析を実験テーマとして基本操作を学び、実験に対する基本的な態度を身につけ、注意深い観察力、正確な判断力を身につける。1人 1 セットずつ実験器具が配布されることにより、各自が責任をもって実験に取り組む。危険な物質の扱い方、一次記録の取り方、報告の書き方などを習得する。

演習(化学および物理学)を通して、科学的な思考力を身につける。

生物学実験では、マウスの解剖と血液塗抹標本の光学顕微鏡による観察を行う。観察結果から疑問点を抽出し、複数の知識を根拠にして疑問点を論理的に解決することを試みる。生物学演習では、個体、器官系、組織、細胞、分子レベルで生命現象を解析する能力を向上させる。

授業の到達目標

1)実験では、一次記録をきちんと取り、それを実験報告としてまとめることができる。

2)演習では、看護や口腔保健の専門科目で役立つ化学、物理学、生物学の基礎について、演習問題に取り組むことで理解を深める。

GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-4	4/10	08:50-12:25	生物学実験室, 8 番教室, 9 番教室	生物学実験	伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
5-8	4/17	08:50-12:25	生物学実験室, 8 番教室, 9 番教室	生物学実験	伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
9-12	4/24	08:50-12:25	生物学実験室, 8 番教室, 9 番教室	生物学実験	伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
13-16	5/1	08:50-12:25	生物学実験室, 8 番教室, 9 番教室	生物学実験	伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
17-20	5/8	08:50-12:25	生物学実験室, 化学実験室, 8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室	予備日	奈良　雅之, 澤野　頼子, 勝又　敏行, 檜枝　光憲, 伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
21-24	5/15	08:50-12:25	生物学実験室, 化学実験室, 8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室	予備日	奈良　雅之, 澤野　頼子, 勝又　敏行, 檜枝　光憲, 伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
25-28	5/22	08:50-12:25	化学実験室, 8 番教室, 9 番教室	化学実験(講義)	奈良　雅之, 澤野　頼子, 勝又　敏行
29-32	5/29	08:50-12:25	8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室, 化学実験室	化学実験/物理学実験	奈良　雅之, 澤野　頼子, 勝又　敏行, 檜枝　光憲
33-36	6/5	08:50-12:25	8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室, 化学実験室	化学実験/物理学実験	奈良　雅之, 澤野　頼子, 勝又　敏行, 檜枝　光憲, 伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久
37-40	6/12	08:50-12:25	8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室, 化学実験室	化学実験/物理学実験	奈良　雅之, 澤野　頼子, 勝又　敏行, 檜枝　光憲, 伊藤　正則, 栗田　武, 松本　幸久

41–44	6/19	08:50–12:25	8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室, 化学実験室	化学実験/物理学実験	奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
45–48	6/26	08:50–12:25	化学実験室, 8 番教室, 9 番教室	化学実験	奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行
49–52	7/3	08:50–12:25	化学実験室, 8 番教室, 9 番教室	化学実験	奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行
53–56	7/10	08:50–12:25	生物学実験室, 化学実験室, 8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室	予備日	奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
57–60	7/17	08:50–12:25	生物学実験室, 化学実験室, 8 番教室, 9 番教室, 物理学実験室	予備日	奈良 雅之, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 檜枝 光憲, 伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久

授業方法

実習、講義、および演習による

授業内容

1. 科学基礎実験総論/講義(一次記録の取り方、レポートの書き方、安全対策、数値の取り扱い等)/席決め/実験準備
2. 無機定性分析(1)金属イオンの分析
3. 無機定性分析(2)金属イオンの分析
4. 容量分析:中和滴定(食酢中の酸の定量)
5. 演習(化学):原子の構造と化学結合
6. 演習(物理学):統計処理と乱数実験
7. 振り子実験と重力加速度の測定
8. マウスの解剖、血液塗抹標本の光学顕微鏡による観察
9. 演習(生物学):個体、器官系、組織、細胞、分子レベルでの生命現象の解析

成績評価の方法

評価:実験(一次記録、報告 30% ・ 実験中の取り組み 20%) ・演習(試験(考査)40% ・ 演習の参加度 10%)

実験中の取り組みや記録の作成、実験に対する考察、授業内容の理解度を測るために試験や演習などにより評価する。

再評価:有(再評価方法 再試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

物理学実験・演習:講義資料は LMS に掲載する。

化学実験:実験テキストの該当部分を予習をし、実験の内容をあらかじめ把握しておくこと。実験後はレポートを作成し、考察を行うこと。

生物学実験・演習:講義資料(LMS に掲載)を予めダウンロード・プリントアウトしておくこと。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の出席を必要とする。出欠は授業開始時に教員がとる。

教科書

「化学実験」(東京科学大学 ILA 国府台化学教室編)

参考書

生命科学のための化学実験／高橋知義 ほか:東京教学社, 2018

基礎化学実験 安全オリエンテーション／山口和也、山本仁:東京化学同人, 2007

基礎化学実験／東京大学教養学部化学部会 編,:東京化学同人, 2012

系統看護学講座 化学／奈良／雅之(化学),:医学書院, 2018

連絡先(メールアドレス)

奈良 雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

澤野 頼子:sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp

栗田 武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp

勝又 敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp

伊藤　正則:itohmt.las@tmd.ac.jp

松本　幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

檜枝　光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

奈良　雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

澤野　頼子:前期:火曜日 12:00–13:20、後期:木曜日 12:00–13:20 ヒポクラテス 4 階

栗田　武:毎週水曜日 PM.1:30–PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室–2

勝又　敏行:毎週金曜日 12:00–13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

伊藤　正則:毎週月曜日 AM.10:00–PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

松本　幸久:毎週木曜日 PM.4:30–6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

檜枝　光憲:毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	004401				
科目名	自然科学実験(物理学実験)			科目ID	
担当教員	檜枝 光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次			
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:火曜 3～4 講

対象学科:医学科、歯学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表2−2)自然現象を探求するための手法を知る

別表4−3)自然現象を探求するための基本的手法を身につける

主な講義場所

物理学学生実験室(ヒポ 1F)、7 番教室(ヒポ 3F)

授業の目的、概要等

実験形式により、学生自らが手を動かすことで物理学の知識を深化させる。

目的を達成するための方法を考え実験計画を立て、実験中はよくみ(観・視)よく考えて行動し、その結果を確かめながら実験方法を改良しつつ、最終的に得られた結果をどのように解釈したらよいかという物理学的な思考方法を学ぶ。

授業の到達目標

1. 自然科学に欠かせない予測手段の一つである数値シミュレーションを用い、運動方程式を解くことができる。
2. 極低温状態の固体の性質を調べ、金属、半導体、超伝導、磁性という現代物理学の主要分野である「物性物理学」の知識を得る。
3. 実験結果の解析、およびグラフ化の方法を学ぶ。
4. 科学的なレポートの書き方を学ぶ。

基本的な内容の理解を評価 70～79 点と評価とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1−4	4/21	13:30−17:05	1 番教室	檜枝 光憲	共通実験・演習
5−8	5/19	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験1(グループα)
9−12	5/26	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験1(グループα)
13−16	6/2	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験2(グループα)
17−20	6/9	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験2(グループα)
21−24	6/16	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験1(グループβ)
25−28	6/23	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験1(グループβ)
29−32	6/30	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験2(グループβ)
33−36	7/7	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験2(グループβ)
37−40	7/14	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験1(グループγ)
41−44	7/21	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験1(グループγ)
45−48	7/24	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験2(グループγ)
49−52	7/28	13:30−17:05	物理学実験室 7 番教室	檜枝 光憲	実験2(グループγ)

授業方法

実験

授業内容

下記の 3 項目の実験を、以下のスケジュールで実施する。グループ分けは、LMS にて発表する。

1. 共通実験・演習
2. 物性実験(担当:檜枝、日野)
3. 計算機実験(担当:酒井)

成績評価の方法

物理学実験における到達度を評価するため各実験ごとにレポートを課す。
実習形式のため授業の参加度およびレポートの内容を重視する。

レポート　80%
その他(授業の参加度、実験態度)20%

遅刻や実験中の態度不良による減点が大きいので注意すること。
なお、「物理学実験」では、すべての授業に出席し、すべてのレポートを提出することが義務付けられている。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

各実験前に必ず指示書を読んで理解すること。
また各実験テーマで必要とされる予習、事前準備、を実施すること。

試験の受験資格

試験は実施しないが、原則、すべての実験に参加すること

教科書

資料は LMS にて配布する

履修上の注意事項

自然科学実験は、物理学実験、化学実験、生物実験の総合成績により成績が決まる。 本科目の合格にはそれぞれの分野の実験で合格する必要がある。　原則、全ての授業に出席すること。 公欠、またはそれに準じた欠席(出席停止、欠席届)の場合、代替処置を教員と相談すること。　全てのレポートを提出すること。 (未提出のレポートがある場合、大きな減点となり不合格となる可能性が高いことを肝に命じること) 他人のレポートの丸写し、データ捏造などの不正行為がある場合、不合格とする。

連絡先(メールアドレス)

mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	004402				
科目名	自然科学実験(化学実験)			科目ID	
担当教員	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之[KATSUMATA Toshiyuki, SAWANO Yoriko, NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次			
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:火曜日・3～4 講 対象学生は指定された 1～3 組に分かれて化学実験、生物学実験、物理学実験を交代で行う。

対象学科:医学科、歯学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

2－1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

2－2)自然現象を探求するための手法を知る

4－2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

4－3)自然現象を探求するための基本的手法を身につける

授業の目的、概要等

無機定性分析および容量分析を主な実験テーマとして基本操作を学び、実験に対する基本的な態度を身につける。1人 1 セットずつ実験器具が配布されることにより、各自が責任をもって実験に取り組む。危険な物質(硫化水素など)の扱い方、一次記録の取り方、報告の書き方などを習得する。さらに、各自が興味を持ったテーマを見つけだし、そのテーマに関する実験に取り組む(考察実験)。

授業の到達目標

1)一次記録をきちんと取り、それを実験報告としてまとめることができる。さらに自分で実験テーマを見つけて、計画・実施することができる。

以上の目標を 70%達成することが、GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	5/12	13:30-17:05	1 番教室	化学実験ガイダンス	化学実験ガイダンス	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	ガイダンスを聞き化学実験について理解する。
5-8	5/19	13:30-17:05	化学実験室, 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
9-12	5/26	13:30-17:05	化学実験室, 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
13-16	6/2	13:30-17:05	化学実験室, 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
17-20	6/9	13:30-17:05	化学実験室, 4 番教室, 5 番教室	容量分析	容量分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
21-24	6/16	13:30-17:05	化学実験室, 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。

25-28	6/23	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
29-32	6/30	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
33-36	7/7	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	容量分析	容量分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
37-40	7/14	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
41-44	7/21	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
45-48	7/24	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	金属イオンの分析	金属イオンの分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。
49-52	7/28	13:30-17:05	化学実験室 4 番教室, 5 番教室	容量分析	容量分析	勝又 敏行, 澤野 頼子, 奈良 雅之	実験を行い、レポートを作成する。

授業方法

実習および講義による

授業内容

1. 化学実験総論／席決め／実験準備と講義(一次記録の取り方、レポートの書き方、安全対策等)
2. 無機金属イオンの分析(硫化水素法) その1(1－5族混合未知試料の分析)
3. 無機金属イオンの分析(硫化水素法) その2(1－5族混合未知試料の分析)
4. 容量分析 中和滴定の練習(食酢中の酸の定量)／誤差の取り扱い方
5. 容量分析 キレート滴定 牛乳、水道水中のカルシウムイオンの定量

成績評価の方法

実験のため、実験中の取り組み、記録の取り方など重視し以下の通りとする。

実験ノート(一次記録および報告)60%、

実験中の取り組み(面接、テストなどを含む)40%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習をして実験の内容をあらかじめ把握しておくこと。実験後はレポートを作成し、考察を行うこと。

教科書

「化学実験」(東京科学大学 ILA 国府台化学教室編)

参考書

最新臨床検査学講座　化学／奈良雅之：医歯薬出版, 2020

高木誠司著：定性分析化学中巻　イオン反応編、南江堂

高木誠司著：定量分析の実験と計算、共立出版

柴田村治著：無機クロマトグラフ法とイオン交換分離、 共立出版

D.T.Plummer 著：廣海他訳、実験で学ぶ生化学、化学同人

履修上の注意事項

自然科学実験の単位取得は、生物学実験、化学実験、物理学実験のそれぞれで合格していることが必要である。

連絡先（メールアドレス）

勝又　敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp

澤野　頼子:sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp

奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

勝又　敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

澤野　頼子:前期：火曜日 12:00-13:20、後期：木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階

奈良　雅之:前期：毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期：毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	004403				
科目名	自然科学実験(生物学実験)			科目ID	
担当教員	伊藤 正則, 松本 幸久, 栗田 武[ITO Masanori, MATSUMOTO Yukihisa, KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次			
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:火曜日 3～4 講

・対象:医学科・歯学科 1 年生

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

2－2)自然現象を探求する手法を知る。

4－3)自然現象を探求するための基本的手法を身につける。

主な講義場所

国府台キャンパス、ヒポクラテスホール 3 階生物学学生実験室

授業の目的、概要等

講義で学習する内容は観察や実験によって得られたものである。これらの生物学の基本的知識がどのような過程で得られたかを実際に体験することによって生物学の考え方を学ぶ。また、生物の取り扱い方法、機器の使用方法、観察・測定した結果の整理に仕方などの基本を学ぶ。さらにレポートの書き方を学ぶ。

授業の到達目標

1)生物を適切に取り扱うことができる。

2)実験機器を正しく使用することができる。

3)肉眼あるいは光学顕微鏡により生体の構造を観察し、その特徴を説明することができる。

4)実験結果や既存の知識から仮説を立て、仮説を検証するために適切な実験を計画することができる。

5)データを整理・分析し、この結果と既存の知識を根拠にして、正しい論理展開を含んだレポートを書くことができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-4	4/28	13:30-17:05	1 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
5-8	5/19	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
9-12	5/26	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
13-16	6/2	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
17-20	6/9	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
21-24	6/16	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
25-28	6/23	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
29-32	6/30	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
33-36	7/7	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
37-40	7/14	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
41-44	7/21	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
45-48	7/24	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久
49-52	7/28	13:30-17:05	生物学実験室, 2 番教室, 3 番教室	伊藤 正則, 栗田 武, 松本 幸久

授業方法

実習による。

授業内容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 マウスの解剖-器官の観察と器官のつながりの理解

第 3 回 ヒトとウシガエルの血液塗抹標本の光学顕微鏡での観察

第 4 回 DNA 抽出、PCR

第 5 回 PCR 産物のアガロース電気泳動による同定

成績評価の基準

レポート 100%

再評価:有

準備学習等についての具体的な指示

実験を行う前にテキストを読んでおくこと。

試験の受験資格

原則的には出席しないと、レポートを提出することはできない。2 回の遅刻で 1 回の欠席とする。

教科書

人体の構造と機能第 5 版／エレイン N.マリーブ著 ; 林正健二 [ほか] 訳,Marieb, Elaine Nicpon,林正, 健二,:医学書院, 2025

東京科学大学リベラルアーツ研究教育院(医歯学系) 新生物学実験テキスト-個体から分子まで-

連絡先(メールアドレス)

伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp

栗田 武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp

松本 幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室-2

松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

時間割番号	00560				
科目名	S･水の科学			科目ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

･曜日･時間:月曜 3～4 講(変則的)

･対象学科:全学科

･募集人数:30 名

･科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表2－4)自己問題提起･解決型の学習方法を身につける

別表2－5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う

授業の目的、概要等

水に対する世間の関心が高いことはご存じのことでしょう。例えば、水道水に対する不安、不満、嗜好飲料に対するブランド志向などからミネラルウォーターが一般家庭の中で定着しています。また、十分な科学的な根拠なしに、水に新しい機能を求める風潮がありますし、本屋の棚には「水で病気が治った？」といった怪しげな本も見受けられます。日常生活の中で当たり前としてとらえがちな「水」ですが、実は非常に複雑で奥が深く、なかなか一筋縄で理解できるものではありません。そこで、「水」に関するテーマを科学的な視点はもちろん、社会的な視点からも眺めることにより、その広さと深さを勉強します。

授業の到達目標

1. 水、水溶液を科学的な視点で理解できる。

2.「水」に関連する興味のあるテーマについて、自分で調べてプレゼンテーションを行うことができる。

3. 授業中にあまり積極的には参加できていないが、プレゼンテーション、レポート提出は行えた場合に、GPA における「B」に相当する。能動学習の成果が授業中に出ている学生は、「A あるいは A+]に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1-2	6/22	15:25-17:05	7 番教室	ガイダンス&グループ活動(1)	授業の概要について説明する。グループ学習を通して、水に関する興味を深める。	奈良　雅之	グループ学習の意義について理解する。
3-4	6/29	15:25-17:05	7 番教室	グループ活動(2)	指定されたグループにて、水に関する文献を輪読、紹介することにより、水に関する理解を深める。外部の講演者に水を話をして頂く。	奈良　雅之	輪読のやり方について理解する。水に関する理解を深める。
5-8	7/6	13:30-17:05	7 番教室	グループ活動(3)	指定されたグループにて、水に関する文献を輪読、紹介することにより、水に関する理解を深める。	奈良　雅之	輪読を通して、水に関する理解を深める。 グループ学習の意義について理解する。
9-12	7/13	13:30-17:05	7 番教室	グループ活動(4)	指定されたグループにて、水に関する文献を輪読、紹介することにより、水に関する理解をさらに深める。試飲会の打ち合わせを行う。	奈良　雅之	輪読を通して、水に関する理解を深める。 グループ学習の意義について理解する。

13-16	7/20	13:30-17:05	7番教室	グループ活動(5)	グループに分かれて試飲会を実施し、計画通りに実施できたか省察する。	奈良 雅之	グループ学習の意義について理解する。
17-20	7/27	13:30-17:05	7番教室	発表会(1)	各自の興味に基づいて、水に関連するトピックを発表し、発表した内容に基づいて議論する。	奈良 雅之	プレゼンテーションに慣れる。
21-24	7/30	13:30-17:05		発表会(2)	各自の興味に基づいて、水に関連するトピックを発表し、発表した内容に基づいて議論する。	奈良 雅之	プレゼンテーションに慣れる。

授業方法

教員による講義の部分はできるだけ少なくてし、受講者が積極的に参加するように、輪読、グループ学習、発表会など能動学習(アクティブラーニング)を実践します。机上の議論だけでなく、「どの水がうまいか？」「どの水を使うと、おいしいコーヒーが飲めるか？」など実際に比較実験を行う(自分の舌で確かめる)ことにより、眠気を吹き飛ばすようにしたいと思います。

授業内容

1.ガイダンス
2.水に関する講義
3.水,水溶液に関連する文献の輪読
4.ミネラルウォーターの試飲会
5.報告会 など

成績評価の方法

評価:授業中のグループ活動が特に重要ですので、授業への貢献度(50%)、発表・プレゼンテーション(20%)、レポート(30%)で評価します。
アクティブラーニングの提出物(レポート)よりもアクティブラーニングの活動を評価として重視します。
再評価:無

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

新聞記事、インターネットなどから水に関する情報を収集してください。

試験の受験資格

期末考査・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席

教科書

水を科学する／川瀬義矩 著,:東京電機大学出版局, 2011

参考書

水の話・十講 : その科学と環境問題／鈴木啓三 著,:化学同人, 1997
水とはなにか : ミクロに見たそのふるまい／上平 恒／著,:講談社, 1979
系統看護学講座 化学／奈良雅之:医学書院, 2018
水の科学 : 水の自然誌と生命、環境、未来／清田佳美著,清田, 佳美,:オーム社, 2015

他科目との関連

分子レベルの化学に興味を持っている方は、「生命分子スペクトル解析学演習」の履修をお勧めします。

履修上の注意事項

無断欠席する人は、グループ活動の妨げになりますので、履修しないでください。 グループ学習が嫌いな人には向いていません。

連絡先(メールアドレス)

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20, ヒポクラテス4階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30, ヒポクラテス4階教員研究室6

時間割番号	00580				
科目名	S・数理生物学入門			科目ID	
担当教員	中林　潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　月曜 4 講

対象:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

様々な生命現象を数式で記述したものを数理モデルと呼ぶ。数理モデルを数理科学的に解析することによって、元の現象の理解を深めていく学問の分野を数理生物学と言う。この講義は数理生物学とはいかなる学問であるか紹介することを目的としている。

一言で数理生物学と言ってもその内容は多岐にわたる。様々な数理生物学の成果を紹介しながら、その基礎となっている理論について説明する。

数学と生物学と言う一見関係なさそうな学問の意外なつながりついて紹介していく。

授業の到達目標

数理生物学とはどのような学問分野なのか説明できるようになる。

様々な数理生物学的解析手法について説明できるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	6/22	15:25-17:05		中林 潤
3-4	6/29	15:25-17:05		中林 潤
5-8	7/6	13:30-17:05		中林 潤
9-12	7/13	13:30-17:05		中林 潤
13-16	7/20	13:30-17:05		中林 潤
17-20	7/27	13:30-17:05		中林 潤
21-24	7/30	13:30-17:05		中林 潤

授業方法

対面授業を基本とするが，状況に応じて遠隔授業を行う。講義はスライドで進める。PC を持ち込み実習を行う講義もある。

授業内容

細胞増殖の数理モデル

パターン形成の数理モデル

進化とゲーム理論

離散時間のロジスティック成長とカオス

情報科学の基礎理論とバイオインフォマティクス

ベイズ理論の基礎と生命科学分野における応用

成績評価の方法

最終レポート(70%)，出席状況＋授業中の態度(30%)を勘案して総合的に評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は特に必要としない。講義内容をしっかり復習して理解することが重要である。授業中に疑問が生じた場合は，その場で質問して解消しておく。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

参考書

数理生物学入門 : 生物社会のダイナミックスを探る／巌佐, 庸,巌佐庸著:共立出版, 1998

数理生態学／巌佐, 庸, 1952-,日本生物物理学会,巌佐庸 編:共立出版, 1997.6

「数」の数理生物学／日本数理生物学会,瀬野, 裕美, 1960-,日本数理生物学会 編:共立出版, 2008.9

マレー数理生物学入門／Murray, James Dickson, 1931-,三村, 昌泰, 1941-2021,瀬野, 裕美, 1960-,河内, 一樹,中口, 悦史,勝瀬, 一登,吉田, 雄紀,青木, 修一郎,James D.Murray 著,三村昌泰 総監修,瀬野裕美, 河内一樹, 中口悦史, 三浦岳 監修,勝瀬一登, 吉田雄紀, 青木修一郎, 宮嶋望, 半田剛久, 山下博司 訳:丸善出版, 2014.1

数学がわかるということ : 食うものと食われるものの数学／山口, 昌哉, 1925-1998,山口昌哉 著:筑摩書房, 2010.8

連絡先(メールアドレス)

nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

月曜～金曜

A.M.10:00 - P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室―9

時間割番号	00590				
科目名	S･実用統計学			科目ID	
担当教員	徳永　伸一[TOKUNAGA Shinichi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日･時間:火曜 3-4 講

対象学科:保健衛生学科、口腔保健学科

コンピテンシー:

4−2) 生命現象･自然現象について総合的に理解するための基礎学力･思考力を身につける

4−3) 自然現象を探求するための基本的手法を身につける

4−4) 情報についての基本技能を身につける

主な講義場所

計算機実習室

授業の目的、概要等

保健衛生学科･口腔保健学科の皆さんが学ぶ「統計学」の内容を題材に、Excel と Python を用いた実習を行います。
(Excel がメインです)

保健衛生学科や口腔保健学科の卒業研究では、パソコンを用いた統計処理が多用されます。この授業では、統計学の基礎を確認しつつ、Excel や Python を用いた簡単なデータ処理･統計処理の技術を習得することを目指します。

授業の到達目標

･「統計学」の理解をより確実なものとし、実際の統計処理に応用できるようにする。

･Excel の基本的な使用法を習得し、Excel を用いた簡単なデータ処理･統計処理を実行できるようにする。

･Python による統計関数の描画や統計処理の基礎を習得する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	6/22	15:25-17:05		徳永　伸一
3-4	6/29	15:25-17:05		徳永　伸一
5-8	7/6	13:30-17:05		徳永　伸一
9-12	7/13	13:30-17:05		徳永　伸一
13-16	7/20	13:30-17:05		徳永　伸一
17-20	7/27	13:30-17:05		徳永　伸一
21-24	7/30	13:30-17:05		徳永　伸一

授業内容

第1回　:Excel および統計学の基礎

第2回　:Excel 演習1(確率密度関数のグラフ)

第3回　:Excel 演習2(2 項分布と正規近似)

第4回　:Excel 演習3(乱数の分布と標本平均の分布)

第5回　:Python 演習

第6回　:総合演習

※履修者の状況や希望を考慮して柔軟に進めますので、変更する可能性があります。

成績評価の方法

原則として出席および授業中に行う演習課題により評価します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

「統計学」の授業内容をよく把握しておくこと。また自分のパソコンに Excel をインストールし、使えるようにしておくこと。

参考書

数学/統計学／井川俊彦, 清田正夫, 徳永伸一, 山舘周恒, 熊坂一成 著,:医歯薬出版, 2005

やさしい医療系の統計学／佐藤敏雄, 村松宰 著,:医歯薬出版, 2002

入門統計解析／松原望 著,:東京図書, 2007

バイオサイエンスの統計学 : 正しく活用するための実践理論／市原清志 著,:南江堂, 1990

他科目との関連

「統計学」の内容を復習しながら進める予定です。

連絡先(メールアドレス)

tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	00600				
科目名	S・生命分子スペクトル解析学演習			科目ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:木曜 3 講、4 講(9 月 17 日～10 月 22 日)
・対象学科:全学科
・募集人数:　5 名
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
　2－1、2、3)科学的思考方法を知る
　4－3)自然現象を探究するための基本的手法を身につける

授業の目的、概要等

担当教員の専門分野(生命分子スペクトル解析学)に関連した研究テーマに実際に参加することにより、研究の取り組み方を学ぶことを目的としています。研究計画から実験報告まで、将来研究者として欠かすことのできない重要事項を一通り体系的に学べるでしょう。

授業の到達目標

少し高度な学生実験レベルから研究レベルまで、学生が希望したレベルの演習を体験できる。
授業にほぼ全回出席して、生命分子スペクトル解析学に関するレポートが提出できれば、GPA における「B」に相当する。

授業方法

実験ならびに研究ミーティングによるアクティブラーニングを実践する。

授業内容

タンパク質や脂質などの生体高分子や生体材料そのものを研究対象として、分光学的手法(主として赤外分光法もしくはラマン分光法)によるアプローチにより、対象となる分子の構造と機能の相関を解析する。

1. 分光学に関する基本操作を習得する。
2. 実験テーマ、研究テーマを決める。
3. 各自の目標設定を定めた上で、達成するための計画を立てる。
4. 研究を行う。(実験ならびに結果解析)
5. 研究結果についてのディスカッションを行う。ー個別指導
6. 実験経過、研究成果を発表する。
7. 実験レポート(報告書)として報告する。

成績評価の方法

評価:報告・レポート:80%
　　その他20%(授業中の取り組み方、参加度)
再評価　無

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:配付資料で分光学の原理について勉強する
復習:実験結果を整理して、報告できるようにまとめる

試験の受験資格

定期試験の受験資格:原則3分の2以上出席
(報告・レポートをもって定期試験とする)

参考書

赤外分光測定法 : 基礎と最新手法／田隅三生編著 ; 日本分光学会編集委員会編,田隅 三生,日本分光学会編集委員会,:エス・ティ・ジャパン, 2012

連絡先(メールアドレス)

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	00620				
科目名	S・海洋生物学実習			科目ID	
担当教員	伊藤　正則, 松本　幸久, 栗田　武[ITO Masanori, MATSUMOTO Yukihisa, KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・夏季集中で下記のスケジュールで行う。実施日時などの詳細は決定次第通知する。
　7 月下旬あるいは 8 月上旬に国府台キャンパスでガイダンス、光学顕微鏡の使用方法を学ぶ.
8 月中旬に 3 泊 4 日で京都大学フィールド科学研究センター瀬戸臨海実験所(和歌山県白浜町)で実習を行う。
　以後、国府台キャンパスで発表会用スライドをつくる。国府台キャンパスで発表会を行う。発表会は 8 月下旬に行う予定である。
・全学科を対象とする。25 名の定員で、定員を超えたときは抽選を行う。
・状況によっては実習内容の変更あるいは中止する可能性がある。
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)
　2－2)自然現象を探究する方法を知る。
　4－3)自然現象を探究するための基本的な手法を身につける。

主な講義場所

7 月下旬あるいは 8 月上旬に国府台キャンパス生物学学生実験室でガイダンス、光学顕微鏡の使用方法を学ぶ.
8 月中旬に 3 泊 4 日で京都大学フィールド科学研究センター瀬戸臨海実験所で実習を行う.
以後、 国府台キャンパス 7 番教室で発表会用スライドをつくる。8 月下旬に国府台キャンパス 7 番教室で発表会を行う。

授業の目的、概要等

[目的] ウニの発生を光学顕微鏡で観察し、その発生過程で起こる現象とその現象の発現機構を理解する。また、海に生息する様々な生物の形態、生態及び行動を観察し、その多様性と多様性の原因となる機構を理解する。観察実習から疑問点を抽出し、知識を根拠にして論理的解決を試みる。

[概要] この実習の大部分は、京都大学フィールド科学研究センター瀬戸臨海実験所において実施される。実習内容は、①棘皮動物であるウニの発生の観察、②沿岸域でのプランクトンの採集とその形態及び行動の観察、③潮間帯に生息する生物の採集とその形態、生態及び行動の観察である。

この実習の主要となる部分は、京都大学フィールド科学研究センター瀬戸臨海実験所において実施され、京都大学フィールド科学研究センター瀬戸臨海実験所の教員が主に指導する。

授業の到達目標

1. ウニの発生過程の特徴を説明することができる。
2. 海に生息する生物の多様性を具体的に説明することができる。
3. 実習で得られた結果から具体的な疑問点を抽出し、様々な知識を根拠にして疑問点を論理的に解決できる。

授業方法

講義と実習による。実習を行いながら疑問点を抽出し、様々な情報を根拠にして論理的に疑問点を解決することを目指す。

授業内容

国府台キャンパスで行われる実習ガイダンスを受講する。また、光学顕微鏡の使い方を理解する。京都大学フィールド科学研究センター瀬戸臨海実験所では、①棘皮動物であるウニの発生の観察、②沿岸域でのプランクトンの採集とその形態及び行動の観察、③潮間

帯に生息する生物の採集とその形態、生態及び行動の観察を行う。これらの実習を行いながら、疑問点を抽出する。次に、国府台キャンパスで発表会の準備として、資料を検索・整理し、論理展開を重視したスライドを作成した後、発表する。

成績評価の方法

発表会での発表内容によって評価する。再評価は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前に配布された資料をよく読んでおく。ウニの発生過程と海に生息する生物に関して予め知識を得ておく。

試験の受験資格

試験を行わない。

教科書

資料を配布する。

参考書

発生生物学／浅島誠編著,浅島, 誠,:朝倉書店, 1996

日本産海洋プランクトン検索図説 = An illustrated guide to marine plankton in Japan／千原光雄, 村野正昭編,千原, 光雄,村野, 正昭,:東海大学出版会, 1997

原色検索日本海岸動物図鑑／西村三郎 編著,西村, 三郎, 1930-2001,:保育社, 1995

履修上の注意事項

・定員は 25 名で、履修希望者が 25 名を超えた場合は抽選で履修者を決める。 ・具体的な日程は決定次第通知する。 ・状況によっては内容を変更する、あるいは中止する可能性がある。

連絡先(メールアドレス)

伊藤 正則:itohmt.las@tmd.ac.jp

栗田 武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp

松本 幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

伊藤 正則:毎週月曜日 AM.10:00-PM.2:00 ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30-PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室-2

松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

時間割番号	00650				
科目名	S･江戸市川文学散歩			科目ID	
担当教員	木谷　真紀子[KITANI Makiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表 1-6)優れた芸術作品に触れて完成を高める

別表 1-7)人間の心への理解を高める

別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的名文章表現能力を身につける

主な講義場所

国府台キャンパス。

授業の目的、概要等

文学など芸術作品は、時代や土地とどのように結びついているのだろうか。教養部のある国府台キャンパスは市川に位置しているが、松戸へも徒歩圏内である。市川は、日本最古の歌集『万葉集』から、文学に描かれている。また永井荷風や井上ひさしなど、著名な作家が居を構え、作品を生み出した場所でもある。

また松戸は「野菊の墓」を生み、社会派文学を生んだ水上勉は現在の矢切駅の前に住んでいた。そのような国府台キャンパス一帯の魅力を、作品鑑賞と実地訪問の両方から味わう。

本学学生は、2 年時以降は、東京都心部にキャンパスが移る。できれば、都心部が登場する作品も扱いたいが、受講者の希望を決め、最終決定としたい。

授業では「市川」や「松戸」、「江戸」「東京」を通し、文学作品を社会、土地との関わりから考察することを目的とする。

授業の到達目標

①土地と文学がどのように関わっているかを学ぶ。

②市川と関わる文学作品を鑑賞する

③松戸を描いた文学作品を鑑賞する

④江戸を描いた文学作品を鑑賞する

⑤東京を描いた文学作品を鑑賞する

⑥自分の関わる土地を文学的視点から見直す。

⑦文学に描かれた場所を訪問する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	6/22	15:25-17:05		木谷　真紀子
3-4	6/29	15:25-17:05		木谷　真紀子
5-8	7/6	13:30-17:05		木谷　真紀子
9-12	7/13	13:30-17:05		木谷　真紀子
13-16	7/20	13:30-17:05		木谷　真紀子
17-20	7/27	13:30-17:05		木谷　真紀子
21-24	7/30	13:30-17:05		木谷　真紀子

授業方法

担当者が講義を行い、受講者はそれを聞いたうえで、ディスカッションや課題を通し、理解を深める。また受講者全員が、自分の故郷や自分の関わる土地を描いた文学作品についてプレゼンテーションを行う。また授業内で扱った作品舞台への実地見学も行う。

授業内容

1)ガイダンス

2)『万葉集』と市川①

3)『万葉集』市川②、実地見学
4)永井荷風と市川
5)井上ひさしと市川
6)近代文学と松戸
7)伊藤左千夫「野菊の墓」①
8)伊藤左千夫「野菊の墓」②、実地見学
9)「仮名手本忠臣蔵」と江戸①
10)「仮名手本忠臣蔵」と江戸②
11)三島由紀夫「幸福号出帆」
12)三島由紀夫と昭和三十年の東京ウォーターフロント①実地見学
13)三島由紀夫と昭和三十年の東京ウォーターフロント②実地見学
14)三島由紀夫と昭和三十年の東京ウォーターフロント③実地見学
15)総括

成績評価の方法

期末レポート 50%
その他 50%(授業に関する課題 10%・プレゼン評価表 10%・プレゼンテーション 30%)

成績評価の基準

期末レポートはもちろん、毎回の授業や課題に熱心に取り組んだか、クラスメイトの取り組みをきちんと評価したかも重要視する。
「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

プレゼンテーションの準備、課題など、授業外でも「土地と文学」という視点から考察分析する機会を作る。

試験の受験資格

3 分の 2 以上の授業に出席していること。
20 分以内の遅刻、早退は、3 回で 1 回分の欠席としてカウントする。

教科書

野菊の墓／伊藤左千夫:新潮社, 2020-04-30
幸福号出帆／三島由紀夫:筑摩書房, 1996
偽原始人／井上ひさし:新潮社, 1989
受講者の希望で、扱う作品を変更する場合がある。

参考書

授業内で、適宜、指示をする。

他科目との関連

他の文学系の科目でも、文学と土地の関連について触れることがある。

備考

「授業内課題や授業後コメントシート」が提出されていない場合には、欠席とする。

連絡先(メールアドレス)

makiko.las@tmd.ac.jp

オフィスアワー

月、金曜 12:20～13:30　管理研究棟 2 階
※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	00660				
科目名	S・彫刻(塑像)			科目ID	
担当教員	高見　直宏[TAKAMI Naohiro]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

夏季集中講義
募集人数:10 人
対象学科:医学科を優先とした全学科(歯学科は履修できません)
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1−5、1−6、1−7

授業の目的、概要等

人間の骨格や筋肉がその外部形態に及ぼす影響を観察するだけでなく、人間の内面に視野を向け、人間の存在そのものを探求する。水粘土を使用し、塑像による頭像制作を行う実技演習授業。

授業の到達目標

素材とする水粘土に触れる。造形を追求する。観察によって得られる人体の力強さや美しさ等を表現することを目標とする。人間の魅力を感じ取り、芸術に深く触れることを目標とする。

授業方法

全 12 回の授業は全て実技実習。

授業内容

第 1 回　彫刻についての講義
第 2 回　塑造制作準備
第 3 回　芯棒組みの実技
第 4 回　塑造制作①
第 5 回　塑造制作②(塑造制作と並行して個人プランミーティング)
第 6 回〜第 10 回　塑造制作③〜⑦
第 11 回　講評・採点
第 12 回　掃除・片付け

成績評価の方法

評価　:　試験 0% ・ レポート 0% ・ その他(実習作品、授業への参加度)100%　作品の完成度、制作密度を重視する)
再評価:　無

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

料理、メイク、DIY など普段からのクリエイティブな活動を積極的に行い、日常生活において、想像した物事を自らの手で形作ろうとする姿勢を持つことが望ましい。

教科書

無し

参考書

無し

履修上の注意事項

出席重視　出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先させる。

備考

準備するもの:スケッチブック(A4 以上)、鉛筆(2B)、カッターナイフ、作業着(白衣も可)

時間割番号	00610				
科目名	S・タンパク質の科学			科目ID	
担当教員	澤野　頼子[SAWANO Yoriko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜日 3・4 講(9/17～10/22)

対象学科:全学科

募集人数:10 名

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表2－1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

別表2－4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

授業の目的、概要等

タンパク質は食品に含まれる物質としてなじみがあるが、生命現象に直接かかわる物質(酵素、抗体、情報受容・伝達タンパク質など)としても非常に重要である。この授業では化学、生命科学におけるタンパク質およびそれを構成するアミノ酸について、基本概念の導入講義を行った上で、少人数のグループに分かれて学生自らが問題提起・討論・解決を行う PBL(Problem Based Learning)を通して学習し、その成果を発表会にて発表する。

授業の到達目標

1)講義、PBL および発表を通して、化学、生命科学におけるタンパク質およびアミノ酸の関わりを理解し、レポートにまとめる。GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	9/17	13:30-17:05		ガイダンス、導入講義、PBL(1)	ガイダンス、導入講義、PBL	澤野　頼子	【到達目標】1)【学習方法】講義、PBL、グループ毎の活動報告提出
5-8	9/24	13:30-17:05		PBL(2)	PBL	澤野　頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
9-12	10/1	13:30-17:05		PBL(3)	PBL	澤野　頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
13-16	10/8	13:30-17:05		PBL(4)	PBL	澤野　頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
17-20	10/15	13:30-17:05		PBL(5)、リハーサル	PBL および発表のリハーサル	澤野　頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
21-24	10/22	13:30-17:05		発表会	発表会	澤野　頼子	【到達目標】1)【学習方法】課題発表、リアクション

							ペーパー提出

授業方法

講義およびアクティブラーニング(PBL、課題発表)による

授業内容

アミノ酸・タンパク質に関する講義、PBL、発表を行う。

成績評価の方法

評価: レポート 20% ・ その他(授業への参加度、課題発表) 80%

再評価: 無

授業時の取り組み状況(PBL での活動状況、課題発表)を重視し、それに関連したレポートとともに評価を行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

配布資料に目を通しておく。

アミノ酸やタンパク質に関してインターネットや書籍等から情報収集を行う。

試験の受験資格

原則3分の2以上出席

参考書

タンパク質科学 : 生物物理学的なアプローチ／有坂文雄 著:裳華房, 2021

Essential タンパク質科学／Mike Williamson 著,津本浩平, 植田正, 前仲勝実 監訳:南江堂, 2016

タンパク質・アミノ酸の新栄養学／木戸, 康博, 岸恭一, 木戸康博 編:講談社, 2007

タンパク質入門 : その化学構造とライフサイエンスへの招待／高山光男 著:内田老鶴圃, 2006

アミノ酸 : タンパク質と生命活動の化学／船山信次 著:東京電機大学出版局, 2009

たんぱく質入門 : どう作られ、どうはたらくのか／武村政春 著:講談社, 2011

カラー図解分子レベルで見た体のはたらき : いのちを支えるタンパク質を視る／平山令明 著:講談社, 2018

タンパク質はすごい! : 心と体の健康をつくるタンパク質の秘密／石浦章一 著:技術評論社, 2014

タンパク質とからだ : 基礎から病気の予防・治療まで／平野久 著:中央公論新社, 2017

タンパク質とは何か／山本啓一 著:集英社インターナショナル, 2025

履修上の注意事項

履修希望者は、ガイダンス動画を視聴の上、履修申請を行うこと。履修希望者が定員を超えた場合は抽選を行う。

連絡先(メールアドレス)

sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:火曜日 12:00-13:20、後期:木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階

時間割番号	00710				
科目名	S･社会福祉概論			科目ID	
担当教員	BAO MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日･時間:木曜3･4講

対象学科: 全学科

募集人数:15人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-2)

授業の目的、概要等

現代社会における家族･地域社会の変化を踏まえ、社会福祉の現状･制度や政策を幅広く、総合的に学習する。社会福祉に関する基本的事柄を学ぶ。それにより、社会福祉についての包括的理解を深める。

社会福祉の概念、社会福祉の理念、社会福祉の歩み、社会福祉の法と仕組みについて学修したうえ、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、母子･父子･寡婦福祉、生活保護、地域福祉の各領域の現状と課題を明らかにし、社会福祉の専門職と専門職倫理についても学修する。

授業の到達目標

社会福祉における基本的な概念、知識、理論を習得する。社会福祉を取り巻く状況と歴史、社会福祉の法律、社会福祉サービスの各分野におけるサービス･支援内容と実施機関、社会福祉の専門職と専門職倫理などを理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1-4	9/17	13:30-17:05	8 番教室	第 1 回 現代社会と福祉① 第 2 回 現代社会と福祉②	①授業紹介、家族･地域社会の変化、福祉問題 ②社会福祉とは、憲法と社会福祉、社会福祉の理念	BAO MIN	現代日本社会における家族･地域の変化の具体例があげられ、それに伴うグループディスカッションを行う。具体的な福祉問題が説明できる、社会福祉の概念が理解できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-8	9/24	13:30-17:05	8 番教室	第 3 回 社会福祉の歩み① 第 4 回 社会福祉の歩み②	①イギリスにおける社会福祉の歩み ②日本における社会福祉の歩み	BAO MIN	イギリスと日本の社会歩みを述べることができ、戦後の日本における社会福祉の成立と動向が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-12	10/1	13:30-17:05	8 番教室	第 5 回 社会福祉の法と仕組み 第 6 回 社	①社会福祉の法律と仕組みの内容 ②国と地方公共団体の行政	BAO MIN	社会福祉法をはじめ、障害者基本

				会福祉の行政と民間組織	機関、民間組織		法、高齢社会対策基本法と少子社会対策基本法が理解でき、公的および民間の福祉機関と組織が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-16	10/8	13:30-17:05	8 番教室	第 7 回 社会福祉サービスの概観① 第 8 回 社会福祉サービスの概観②	①児童福祉、障害者福祉の内容 ②高齢者福祉、母子・父子・寡婦福祉、生活保護の内容	BAO MIN	児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、母子・父子・寡婦福祉の概観、サービス・支援内容と実施機関と生活保護制度の概要と実施機関が説明できる。一つ分野を選び、実態と問題点に関し、レポートを作成し、発表する。
17-20	10/15	13:30-17:05	8 番教室	第 9 回 地域福祉の概観① 第 10 回 地域福祉の概観②	①地域福祉とは、地域福祉の推進組織と担い手 ②地域福祉計画と地域福祉推進の財源、地域福祉の実際	BAO MIN	地域福祉、地域の組織化、地域福祉計画が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
21-24	10/22	13:30-17:05	8 番教室	第 11 回 社会福祉専門職の資格制度と専門職倫理 第 12 回 まとめ	①社会福祉の担い手の現状および社会福祉専門職の資格制度の内容、社会福祉専門職の専門性と専門職倫理の紹介 ②教場レポート	BAO MIN	社会福祉専門職と専門職倫理が理解し、説明できる。教場レポート作成。

授業方法

講義形式で授業を行い、毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーとして提出し、フィードバックする。授業内容に対し、課題発表やミニ討論をすることがある。

授業内容

第 1 回 現代社会と福祉①
第 2 回 現代社会と福祉②
第 3 回 社会福祉の歩み①
第 4 回 社会福祉の歩み②
第 5 回 社会福祉の法と仕組み
第 6 回 社会福祉の行政と民間組織
第 7 回 社会福祉サービスの概観①
第 8 回 社会福祉サービスの概観②

第 9 回　地域福祉の概観①
第 10 回 地域福祉の概観②
第 11 回 社会福祉専門職の資格制度と専門職倫理
第 12 回 まとめ

成績評価の方法

評価:教場レポート 60% ・その他(授業参加、授業中課題)40%
再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習は特に必要ありませんが、復習はしっかり行ってください。その際、授業中配布した資料と教科書の内容を確認し理解を深めてください。

試験の受験資格

①原則3分の2以上出席、②授業中の課題を提出すること。

教科書

社会福祉概論 : その基礎学習のために／西村昇, 日開野博, 山下正國編著,西村, 昇,日開野, 博,山下, 正國,:中央法規出版, 2022

参考書

よくわかる社会福祉の動向／中央法規出版,社会福祉の動向編集委員会 編集:中央法規出版, 2024
たのしく学ぶ社会福祉 : 誰もが人間らしく生きる社会をつくる／丹波史紀 [ほか] 編著,丹波, 史紀,石田, 賀奈子,黒田, 学,長谷川, 千春,:ミネルヴァ書房, 2021

履修上の注意事項

出欠は、出欠管理システムの記録と教員が取る出欠を併用して管理します。

連絡先(メールアドレス)

min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	00720				
科目名	S・糖の科学			**科目ID**	
担当教員	勝又　敏行[KATSUMATA Toshiyuki]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:木曜日 3,4 講(後期)

募集人数:10 名

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表2−1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

別表2−2)自然現象を探求するための手法を知る

別表2−5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う

授業の目的、概要等

糖と聞くとまず思い浮かぶのが砂糖である。砂糖は料理などで気軽に使われ、身近にたくさんあるが、ほかにも様々なところで糖は私たちに関わっている。糖の仲間であるデンプンは米やパンの主成分であり、人間のエネルギー源として毎日の生活に欠かせないものである。食品以外でも木や紙の主成分はセルロースという多糖であり、軟膏や手術糸などはアルギン酸という多糖が使われている。このように糖はもっとも身近にある有機化合物である。分子レベルで見た時も、生物の構成成分としてもエネルギー源として使われるのをはじめとしてタンパク質、核酸、脂質などと結合して、生体内で起こる反応に重要な機能を担っていることが明らかになってきている。中でもタンパク質の多くは糖鎖の修飾をもち、生理活性や構造の維持に糖鎖が重要や役割を果たしていると考えられている。

糖の科学では、実習形式で糖の働きに関する英文のレビューを読み、糖の機能や構造に関する理解を深める。論文購読やプレゼンテーション、糖鎖分析に関する実験などを通してアクティブラーニング形式で生体における糖の役割や重要性について最新の知識を勉強していく予定である。

授業の到達目標

糖に関する基礎知識を習得し、自分で英語の論文を検索、読解する力を身に着けることを目標とする。

実験の計画を立て、実施し、記録をとることができる。

GPA における「B」の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業方法

英語の総説の読解の演習や実験を中心にアクティブラーニングを行う。

授業内容

1. 糖に関する講義
2. 糖に関する英文の総説の輪読(アクティブラーニング)
3. 各自興味のある論文のプレゼンテーション
4. 糖鎖構造解析に関する実験

成績評価の方法

演習を中心として行うため以下の通りとする。

評価:試験　0%、レポート　50%、その他(プレゼンテーションや質問など)50%

再評価　有(レポート再提出)

成績評価の基準

糖に関する論文の購読、発表ができる。

実験のレポート作成、プレゼンテーションができる。

準備学習等についての具体的な指示

自分でテーマに沿った論文を検索して、それをまとめてプレゼンテーションできるようにすること。

参考書

コールドスプリングハーバー糖鎖生物学／Ajit Varki [ほか編],鈴木康夫, 木全弘治 監訳:丸善, 2010

ポストゲノム時代の糖鎖生物学がわかる／谷口直之 編.:羊土社, 2002

糖鎖科学への招待／辻崇一　共著,梶本哲也　共著,:三共出版, 2008

連絡先(メールアドレス)

katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	00740				
科目名	S・現代パフォーミングアーツ入門			**科目ID**	
担当教員	徳永　伸一[TOKUNAGA Shinichi]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

後期木曜 3-4 講

コンピテンシー:
1−6)優れた芸術作品に触れて感性を高める
3−2)自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける
3−4)外国文化を理解する
3−6)日本の文化・社会を国際社会の中で理解し、発信できる力を身につける

主な講義場所

計算機実習室

授業の目的、概要等

「パフォーミング・アーツ(Performing Arts)」とは音楽、演劇、ダンス等「演じられる」芸術の総称です。
「現代」と謳っていますが、いわゆる「現代的」なものを扱うという意味ではなく、現在活動中のアーチスト(+彼らに直接的に影響を与えた人たち)にスポットを当てます。生のパフォーマンス体験に勝る「学習」はありませんが、教室内では難しいので、代用品として、CD・DVD 等の記録媒体やインターネット上のコンテンツを活用します。現在までのところ、利用可能なコンテンツの都合で音楽(ジャズ、クラシックからロック、J-POP まで何でも)の比重が高いですが、他のジャンル(音楽+ビジュアルによるパフォーマンス、コンテンポラリーダンス等)も履修者の興味に応じて取り入れる予定です。

より重要なのは聴衆・観客としてパフォーマンスに「参加」することで、結果として生涯にわたって芸術と主体的に関わる術を学ぶことが究極の目標です
(よって必ずしも単位取得は重要ではなく、単位と関係なく野次馬的・娯楽的に参加する学生も歓迎します)。

授業の到達目標

・様々なパフォーミングアートに対し、自分の言葉で批評し、感想を整理してわかりやすく述べることができる。
・未知のアートに対する興味に基づいて自ら探究し、文化的背景を学習すると共に、体験(鑑賞)行動に発展させることができる。

授業方法

講義、映像・音源鑑賞およびディスカッションを主とします。

★一部の授業を学外でのライブ鑑賞実習や、学外講師による大岡山キャンパスまたは湯島キャンパスでの特別講座とする可能性があります。その場合、授業時間帯も変更となる可能性があります(極力履修者の都合と希望を考慮しますが、時間・場所の都合でやむを得ず出席不可となった場合については別途配慮します)。またその際、ライブのチャージ料金(1500 円程度予定)および交通費等の実費は各自の負担となります。

授業内容

各授業ごとに大まかなテーマ(ジャンルやアーチスト個人等)を決め、関連する映像ソフトやインターネット上のコンテンツを鑑賞します。

また 2014 年度より、外部講師(演奏家等)による公開講座の受講に基づくレポートを、評価の一部として取り入れています。
(10 月に湯島キャンパスにて開講予定)

成績評価の方法

評価項目は以下の3点:
(1)各回の授業の関するレポート
(2)授業時間外に各自が体験したコンサートやパフォーマンス公演等に関する詳細なレポート

(3)履修者によるアーティスト・作品の紹介プレゼンテーション
(4)10 月に湯島キャンパスにて開講される公開講座の受講に基づくレポート

ただし(3)は時間の都合上、全員が行うことは難しいと思われるので、希望者を優先します。
(1)(2)を主体として評価し(約 80%)、授業中の発言や掲示板でのディスカッションおよび(3)(4)の評価を加味します。
(1)と(2)は同等に評価するので、欠席した場合は原則として、その回数に応じて(2)のレポートを余分に提出することによって穴埋めしてもらいます。

成績評価の基準

到達目標をある程度達成したと見なせること。

準備学習等についての具体的な指示

授業のための特別な準備は必要ありませんが、日頃からアートに関心を持ち、積極的に鑑賞して、感性を磨くよう心掛けてください。

教科書

特にありませんが、主にインターネットで得られる情報を積極的に活用します。

参照ホームページ

過去の記録(の一部):
http://www.tmd.ac.jp/artsci/math/lec/cparts.htm

2014 年度の公開講座(「Saigenji と旅するブラジル」)の様子:
https://www.facebook.com/tmdu.public/posts/720148531368330

2015 年度の公開講座(「レオナルド・ブラーボと旅するブラジル」)の様子:
https://www.facebook.com/tmdu.public/posts/890552230994625

2017 年度の公開講座「岩川光とケーナ大解剖」のレポート記事(大学公開講座の情報サイト「まななび」):
http://mananavi.com/%e4%b8%96%e7%95%8c%e7%9a%84%e3%82%b1%e3%83%bc%e3%83%8a%e5%a5%8f%e8%80%85%e3%83%bb%e5%b2%a9%e5%b7%9d%e5%85%89%e3%80%8c%e3%82%b1%e3%83%bc%e3%83%8a%e3%81%8b%e3%82%89%e4%b8%96%e7%95%8c%e3%81%8c%e8%a6%8b/

2025 年度公開講座「B→C REPRISE AND BEYOND」レビュー記事(JazzTokyo):
https://jazztokyo.org/reviews/live-report/post-116830/

東京医科歯科大学教養部 文化・芸術公開講座 Facebook ページ:
https://www.facebook.com/groups/618115738726298

連絡先(メールアドレス)

tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:
火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:
木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。
上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	00760				
科目名	S・サイエンスフロンティア概論			科目ID	
担当教員	檜枝 光憲, 中林 潤, 伊藤 正則, 徳永 伸一, 奈良 雅之, 松本 幸久, 澤野 頼子, 勝又 敏行, 栗田 武 [HIEDA Mitsunori, NAKABAYASHI Jun, ITO Masanori, TOKUNAGA Shinichi, NARA Masayuki, MATSUMOTO Yukihisa, SAWANO Yoriko, KATSUMATA Toshiyuki, KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)

主な講義場所

講義動画の非同期配信を基本とするが、一部同期型で実施するものあるので、各講義ごとに確認すること。

授業の目的、概要等

サイエンス(基礎科学)は社会の基盤をなす学問であり、工学、創薬、医療などテクノロジーの進歩の裏には必ずサイエンスがベースになっている。生物学、化学、物理学、数学の研究者である自然系教員が、それぞれの研究分野に関連したトピックを選び、自身の研究内容や当該領域における研究トレンド、研究方法、期待される成果などをレクチャーし、さらに社会や医療との接点などを教授する。

授業の到達目標

最近のサイエンスの研究に触れることで、研究者として必要な基盤知識とリサーチマインドを獲得する。また、生物、化学、物理、数学と幅広い研究領域を学ぶことで、研究者が専門を越えて研鑽できる学際融合の目を養う。

授業方法

講義(非同期型を基本とするが、一部は同期型で実施する)

アクティブラーニング(発見学習、調査学習、等)

授業内容

非同期型授業(オンデマンド)

1. 導入 (中林、勝又)
2. 昆虫の学習と記憶 (松本)
3. 振動分光学の生命科学への応用 (奈良)
4. 振動分光によるカルシウム結合タンパク質の構造活性相関の解明 (奈良)
5. 植物の生存戦略 (澤野)
6. 生体高分子の分析法 (勝又)
7. 摩擦の物理 (檜枝)
8. 極低温の物質科学研究:超伝導と超流動 (檜枝)
9. 網羅的ゲノム解析とがんゲノム医療 (中林)

同期型授業

10. 卵母細胞の成熟機構と行動の脳制御機構 (伊藤)
11. グラフの周遊問題とゲノム解析 (徳永)
12. 分子進化から読み解く生命医科学 (栗田)

成績評価の方法

評価: 授業毎に課す課題 100% (授業に参加した上で提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

各教員によって対応が違うが事前学習の指示があった場合にはそれに従うこと。

試験の受験資格

試験は実施しないが、講義全体の 2/3 以上の出席が必要である。出欠は講義動画の視聴記録で確認する。

連絡先(メールアドレス)

中林　潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp
栗田　武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp
徳永　伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp
奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp
勝又　敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp
松本　幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中林　潤:月曜～金曜
A.M.10:00 – P.M. 05:00
国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9
栗田　武:毎週水曜日 PM.1:30–PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室―2
徳永　伸一:前期:
火曜 12:30–13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:
木曜 12:30–13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。
上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

奈良　雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6
勝又　敏行:毎週金曜日 12:00–13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室
松本　幸久:毎週木曜日 PM.4:30–6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

時間割番号	00800				
科目名	S・分子分光学演習:基礎編			科目ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

夏季集中型:
・対象学科:全学科
・募集人数:10名
・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
2−1・2・3)科学的思考方法を知る
4−3)自然現象を探究するための基本的手法を身につける

主な講義場所

分光測定は化学教員実験室で行います。

授業の目的、概要等

近年の技術的な進歩に伴って、医歯学や生命科学の分野における分子分光学の果たす役割は大きくなっています。この科目では担当教員の専門分野である“分子分光学(生命分子スペクトル解析学)”を通じて「ミクロのものの見方」「分光学の生体分子への応用」を学びます。まずは化学の基礎として、原子の構造、分子の構造を講義ならびに演習を通じて理解します。次に、実際に分光装置を用いて分光測定の基本操作に慣れます。実験テーマを決めて、生体分子等について分光測定で得られたスペクトルをコンピュータで解析します。

授業の到達目標

⑴原子の構造、分子の構造について理解できる。
⑵基本操作を習得することにより、一人で分光測定ができる。
⑶基本物質や生体分子の振動スペクトルから構造を読み取ることができる。
授業をほぼ全回出席して、課されたノルマをこなせば、GPA における B 以上に相当する。

授業方法

演習・実験形式を取り入れたアクティブラーニングを行う。

授業内容

タンパク質や脂質などの生体高分子や生体材料などを研究対象として、分光学的手法(主として赤外分光法もしくはラマン分光法)によるアプローチにより、対象となる分子の構造と機能の相関を解析する。
1-4 ガイダンス、光分析の基礎、原子構造と周期律
5-8 分子構造と化学結合
9-12 量子化学入門
13-16 生体分子分光学の基礎
17-20 分光学実習(1)
21-24 分光学実習(2)

実験レポート(報告書)として報告する。
履修者が多い場合は、分光学実習を 2 もしくは 3 つのグループに分けて行う場合があります。

成績評価の方法

評価:報告会での発表・レポート　70%・
その他　30%(実験の取り組み方)

再評価:無

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

ガイダンスの折に資料を配付しますので、配付資料を事前に読んでください。

試験の受験資格

考査の受験資格：原則3分の2以上出席

教科書

必要な文献はコピーして配付します

参考書

系統看護学講座／奈良雅之：医学書院, 2018

赤外分光測定法 : 基礎と最新手法／田隅 三生 編著,日本分光学会編集委員会 編,：エス・ティ・ジャパン, 2012

ハート基礎有機化学／H.ハート, L.E.クレーン, D.J.ハート 原著,秋葉欣哉, 奥彬 訳,：培風館, 2002

一般化学／Jerome L.Rosenberg, Lawrence M.Epstein 共著,一国雅巳 訳,Rosenberg, Jerome Laib,Epstein, Lawrence M,一国, 雅巳, 1930−,：オーム社, 1995

他科目との関連

原子、分子の構造について詳しく取り扱います。

連絡先（メールアドレス）

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期：毎週火曜日 PM.0:30−PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期：毎週木曜日 PM.0:30−PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	00810				
科目名	S・生命医学研究リテラシー入門			科目ID	
担当教員	栗田 武[KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

本コースは、将来医学研究に携わりたいと考えている医学科の学生を対象として、今年度新たに設置された少人数形式のゼミです。

生命医科学研究の基本的な考え方に触れながら、英語の原著論文を読むために必要な研究リテラシーを身につけることを目的としています。

担当教員は、米国の研究大学医学部において 17 年間 Principal Investigator(PI)として研究室を主宰した経験を有しています。これまでに 90 編を超える科学英文論文を発表し、50 以上の学術誌に対して 80 件を超える査読を担当してきました。また現在も英文生命科学誌の編集委員を務めています。

こうした豊富な経験を踏まえ、本コースでは、科学論文がどのように作成・査読・出版されるのかという研究活動の実際を理解しつつ、英語原著論文を自ら読み、内容を整理し、わかりやすく紹介する力を育成します。

本講座で養われるコンピテンシー
2−1 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る
2−2 自然現象を探求するための手法を知る
2−3 言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る
2−4 自己問題提起・解決型の学習方法を身につける
2−5 自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う
4−5 科学文献を読み、学会発表ができる英語力を身につける

主な講義場所

国府台キャンパス

授業の目的、概要等

本ゼミは、医学研究に関心を持つ医学部初年次の学生を対象に、研究の考え方と論文読解の基礎を段階的に学ぶ場です。
まず、科学論文が発表されるまでのプロセスを理解し、次に教員による論文紹介(手本)、輪読、個別読解へと進みます。最終的には、英語原著論文の内容を自ら整理し、口頭発表することに挑戦します。少人数ならではのリラックスした雰囲気で、対話と質問を重視して進行します。

授業の到達目標

本コースを通じて、以下の力を身につけることを目指します。
・ 科学論文の基本構造および研究成果が公表されるまでの過程を説明できる。
・ 英語生命医科学論文の主要な論点と研究成果を、図表を中心に理解できる。
・ 論文における仮説・実験デザイン・結論を批判的に検討できる。
・ 英語原著論文の内容を整理し、わかりやすく口頭発表できる。
・ 医師として研究に携わる上で必要となる研究リテラシーの基礎を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1−2	6/22	15:25−17:05		栗田 武
3−4	6/29	15:25−17:05		栗田 武
5−8	7/6	13:30−17:05		栗田 武
9−12	7/13	13:30−17:05		栗田 武
13−16	7/20	13:30−17:05		栗田 武
17−20	7/27	13:30−17:05		栗田 武

21-24	7/30	13:30-17:05		栗田 武	

授業方法

以下の流れで授業を行います。

1. 教員による論文紹介(手本)
2. 輪読
3. 個別論文の読解
4. 学生による論文紹介発表

質疑やディスカッションを歓迎し、少人数で穏やかに進めます。

授業内容

受講者の人数に応じて内容や進行が変更になる場合があります。

第 1-2 回:オリエンテーション／科学論文が発表されるまでのプロセス
第 3-4 回:論文の構造と読み方(IMRaD、Figure の役割)
第 5-6 回:教員による論文紹介(お手本)
第 7-8 回:輪読論文①(全体像の理解)
第 9-10 回:輪読論文②(データと考察)
第 11-12 回:個別論文選択と読解開始
第 13-14 回:個別論文読解(教員によるサポート)
第 15-16 回:発表準備(スライド構成と説明方法)
第 17-18 回:学生発表①
第 19-20 回:学生発表②
第 21-22 回:学生発表③
第 23-24 回:学生発表④・総括

成績評価の方法

・ 出席:25%
・ 輪読・読解への取り組み:25%
・ 最終発表:50%

成績評価の基準

輪読・読解への取り組み

輪読および個別読解では、以下の点をふまえて評価します。

1. 授業前準備(事前読解・調査)
2. 授業内での発言・質問
3. 内容理解(図表の読み取り・要点整理など)
4. 批判的思考(研究の限界や問題点への気づきなど)
5. 研究的視点(仮説・実験デザインへの関心など)

英語力や専門知識の量そのものではなく、準備・理解・参加の姿勢を重視します。

最終発表

以下の観点をもとに評価します。

1. 内容理解(背景・目的・方法・主要結果・結論)
2. 論理的整合性(発表の流れの一貫性)
3. 説明力(他の受講生へ分かりやすく説明できているか)
4. 批判的視点(限界・今後の課題の指摘)
5. 質疑応答(誠実かつ論理的な対応)

準備学習等についての具体的な指示

読解や調査の作業は授業時間内にも行い、教員がサポートします。ただし、授業時間内に完了しない場合は、次回までの課題として取り組んでください。

試験の受験資格

本コースでは筆記試験は実施しません。

成績は出席状況、授業への取り組み、最終発表により評価します。

また、成績評価には全講義時間の 3 分の 2(16 回)以上の出席が必要です。

他科目との関連

生物学入門を受講している場合は、その内容を理解しておくと、本科目での作業が容易になります。入試で生物を選択した学生も、高校生物基礎・高校生物の範囲を復習しておくことをおすすめします。

履修上の注意事項

本ゼミでは、能動的な参加を歓迎します。生命科学に興味があり、新しい知識や考え方に触れることを楽しめる学生の皆さんの参加を期待しています。研究に関する予備知識や英語力は問いません。

連絡先(メールアドレス)

kurita.t.382a@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週水曜日 PM.1:30-PM.5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室-2

時間割番号	00820				
科目名	S・ミシェル・フーコー『臨床医学の誕生』を読む			科目ID	
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 木曜 3-4 講

対象:全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-1) 言語を通した人間の創造的営みを理解する

1-2) 社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-3) 人間の歴史的営みを理解する

1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2-3) 言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

この授業では、人文社会科学における医療研究に決定的な影響を及ぼしたミシェル・フーコーの『臨床医学の誕生』を取り上げます。これを受講生と輪読し、ディスカッションを行うことで、名著『臨床医学の誕生』を理解することを主な目的とします。その上で、このテキストを足掛かりに、現代医療の特徴や問題点について検討することを目指します。

授業の到達目標

テキストを正確に理解し、レジュメを用いたプレゼンテーションができる。

自分の意見を他の受講生に分かり易く丁寧に説明できる。

他の受講生の発言を傾聴し、適切な応答をすることができる。

現代医療の特徴や問題点を人文社会科学の見地から指摘できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	6/22	15:25-17:05		藤井 達夫
3-4	6/29	15:25-17:05		藤井 達夫
5-8	7/6	13:30-17:05		藤井 達夫
9-12	7/13	13:30-17:05		藤井 達夫
13-16	7/20	13:30-17:05		藤井 達夫
17-20	7/27	13:30-17:05		藤井 達夫
21-24	7/30	13:30-17:05		藤井 達夫

授業方法

セミナー形式で実施します。具体的には、指定されたテキストを輪読し、ディスカッションを行います。そのために、受講生には、担当箇所のレジュメ(内容の要約とコメント)を作成し、プレゼンテーションをしてもらいます。

授業内容

第 1 回授業 ガイダンス

第 2 回～第 6 回 テキストの輪読とディスカッション

成績評価の方法

試験やレポートは実施せず、プレゼンテーション(60%)と授業への参加度(40%)で評価します。

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による。

準備学習等についての具体的な指示

テキストの指定された範囲の熟読

プレゼンテーションの準備(担当者)

試験の受験資格

全授業回数の 2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。
教科書 臨床医学の誕生／Foucault, Michel, 1926-1984,神谷, 美恵子, 1914-1979,ミシェル・フーコー [著],神谷美恵子 訳:みすず書房, 2020.4
参考書 授業内で適宜、紹介します。
履修上の注意事項 授業への積極的な参加を重視します。 テキストはコピーでも構いません。 当授業での生成系 AI の使用については、初回授業で説明を行います。
連絡先(メールアドレス) fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	00830				
科目名	S・国際・グローバル研究入門			科目ID	
担当教員	YOUNG DAVID CHRISTOP[YOUNG DAVID CHRISTOP]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3-1・3-2・3-3・3-5

授業の目的、概要等

In the first part of the semester (weeks 1-2), students will learn foundational concepts in international and global studies.

In the second part of the semester (weeks 3-6), students will apply and expand upon this basic understanding by participating in a model United Nations conference.

授業の到達目標

Learn foundational concepts in international and global studies.

Apply and express an understanding of these concepts through project-based learning.

Improve English and cooperative learning abilities.

以下の 3 点を満たすことが、 B 評価 (70 点以上) の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。

2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。

3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、 またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	6/22	15:25-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP
3-4	6/29	15:25-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP
5-8	7/6	13:30-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP
9-12	7/13	13:30-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP
13-16	7/20	13:30-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP
17-20	7/27	13:30-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP
21-24	7/30	13:30-17:05		YOUNG DAVID CHRISTOP

授業方法

Content Instruction

授業内容

Weeks 1-2: Course introduction and learning foundational concepts in international and global studies.

Weeks 3-4: Preparation for the model United Nations conference.

Weeks 5-6: Participation in the model United Nations conference.

成績評価の方法

評価: Homework: 20%

Midterm exam: 20%

Participation: 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

教科書

Materials will be provided by the instructor.
履修上の注意事項 出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。
備考 オフィスアワー 水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 連絡先(メールアドレス) christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
連絡先(メールアドレス) christop.y.a53c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー YOUNG Davey:水・木 12:30-13:00 管理研究棟 3 階 Young 研究室

時間割番号	00850				
科目名	S･イギリス文学講読			科目ID	
担当教員	猪熊　恵子[INOKUMA Keiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

･曜日･時間:月曜　3. 4講

･対象学科:全学科

･科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表3－4)

別表4－5)

授業の目的、概要等

19 世紀後半から 20 世紀前半のイギリスで書かれた「探偵小説」を英語で読む。

主にコナン･ドイルの「シャーロック･ホームズ」の中編･短編、アガサ･クリスティーの短編などを取り上げ、可能な限り精読する。

また、近代社会の成立と個人のアイデンティティという問題と探偵小説というジャンルが、どのようにかかわっているのかについても考察する。

あわせて、「探偵小説」というジャンルにしばしば与えられる「芸術性が低い」「芸術的価値を認められない」との批判的評価の背景についても考える。

授業の到達目標

英文をざっくり適当に読むのではなく、きちんと精読･吟読するように努め、その過程で文脈や背景知識を調べながら、一つ一つの言葉の裏にある大きな社会の枠組みを想像してみる。

また、調べた知識や、丁寧に英文を読んだうえでの感想を、他の学生と議論･共有する。この議論を通して、同じ英文を読んだときに、読んだ人の数だけ異なる感想があるという当たり前の事実を改めてよく理解するとともに、翻って自らの読解力･想像力･嗜好･思考などを相対的に把握することを目指す。

なお、本授業では以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標をおおむね達成したレベル(70 点)の必要条件として要求される。

1. 授業内で課される課題や発表等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で提出または実施すること。

2. 授業内でのディスカッション等に積極的に参加すること。

3. 教員からのコメントや他の履修生との話し合いを通して、自らの作品読解や解釈を相対化し、新たな視点から検討しなおして、考察をより深めること。その考察を最終レポート作成の際に活かすこと。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1-2	6/22	15:25-17:05	11 番教室	第一回:ガイダンス	作品の抜粋を精読しながら、その時代背景や「探偵小説」というジャンルの誕生と19世紀市民社会の形成との関連について考える。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッション
3-4	6/29	15:25-17:05	11 番教室	第二回:『緋色の研究』	文学作品の翻案映画を確認しながら、小説形態と映画形態の媒体の違い、作品受容の時代背景の変化などについて考察する。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッショ

							ン
5-8	7/6	13:30-17:05	11 番教室	第三回:探偵小説とは何か　第四回:『ピンクの研究』	暗号解読という、探偵小説につきものの仕掛けについて、その解釈共同体の限定の方法、秘密を生成しつつ解読を促す様子について、19 世紀の原作と 20 世紀の翻案テレビシリーズを見比べながら考える。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッション
9-12	7/13	13:30-17:05	11 番教室	第五回:小説と映画、媒体の違い　第六回:『バスカヴィル家の犬』	暗号解読という、探偵小説につきものの仕掛けについて、その解釈共同体の限定の方法、秘密を生成しつつ解読を促す様子について、19 世紀の原作と 20 世紀の翻案テレビシリーズを見比べながら考える。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッション　最終回授業における講評とレポート提出
13-16	7/20	13:30-17:05	11 番教室	第七回:「踊る人形の謎」　第八回:暗号解読と探偵小説、読者共同体の限定について	暗号解読という、探偵小説につきものの仕掛けについて、その解釈共同体の限定の方法、秘密を生成しつつ解読を促す様子について、19 世紀の原作と 20 世紀の翻案テレビシリーズを見比べながら考える。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッション　最終回授業における講評とレポート提出
17-20	7/27	13:30-17:05	11 番教室	第九回:The Blind Banker　第十回:『アクロイド殺し』	クリスティーの『アクロイド殺し』について考察し、「フェアかアンフェアか論争」についても考える。そのうえで、読者と作者のあいだの契約関係(読者受容理論等と絡めて)についても考察する。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッション　最終回授業における講評とレポート提出
21-24	7/30	13:30-17:05	11 番教室	第十一回:「フェア」な探偵小説とは何か。読者受容理論について　第十二回:ディスカッションおよび総括	クリスティーの『アクロイド殺し』について考察し、「フェアかアンフェアか論争」についても考える。そのうえで、読者と作者のあいだの契約関係(読者受容理論等と絡めて)についても考察する。	猪熊　恵子	セミナー形式 担当学生による授業内発表と、それに基づく授業内ディスカッション　最終回授業における講評とレポート提出

授業方法

セミナー形式を取る。

原則として一日 2 時限続きの授業形式であるため、事前に十分な予習をしたうえで授業に臨むことが求められる。

授業内では予習してきた英文の訳出確認、個々の学生の訳出の違いについての意見交換をおこなったうえで、個々の作家の生きた時代背景などの大きな枠組みの確認と、それに関するディスカッションをする。あわせて、その短編を翻案した映像資料などを確認し、同一作品の受容法がメディアの違いや文化・時代の流れにしたがってどのように変化していくかを議論する。

授業内容

第一回:ガイダンス

第二回から第十回:シャーロック・ホームズ中編『緋色の研究』(A Study in Scarlet)、『バスカヴィル家の犬』(The Hound of the Baskervilles)、短編「踊る人形」(The Adventure of the Dancing Men)、およびベネディクト・カンバーバッチ主演『シャーロック』第一シリーズ, A Study in Pink, The Blind Banker。およびグラナダ・テレビシリーズ 『シャーロック・ホームズの冒険』より教員が選択するエピソード群、さらにデヴィッド・スーシエ主演のポワロシリーズより『アクロイド殺し』(The Murder of Roger Ackroyd)
第十一回:総括およびディスカッション回
第十二回:最終レポート提出および意見交換

成績評価の方法

評価:クラス内での議論への参加・貢献度:30%、授業内発表(訳出課題の提出含む):40%、最終レポート 30%
再評価: 無

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

上記授業内容からも明らかなように、英語の短編(および長編の抜粋)を複数読む授業である。そのため、授業開始前に十全な準備が要求される。
履修が決定した学生には、授業前にメール等で予習課題と予習方法などを通知する。指定された箇所を十分に読んで、授業内発表用の資料を作成し、そのうえで授業に臨むことが必須。その後も、授業内で指定された箇所を訳出したり、その短編の書かれた社会や時代背景について十分に調査することが求められる。

試験の受験資格

試験ではなく、レポートおよび授業内発表を評価する。全体の 3 分の 1 以上欠席した者には原則として単位を認定しない。

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先する。

参照ホームページ

参考文献および使用テクストは、教員からコピーを配布する。

連絡先(メールアドレス)

keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

時間割番号	00870				
科目名	S・日本人移民の歴史			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

時間・曜日：木曜 3・4 講

対象学科：全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：1-2, 1-3, 1-4, 1-6

授業の目的、概要等

近年、日本国内では移民の「受け入れ」の是非をめぐる議論が盛んになっているが、その一方で日本が 100 年以上前から国策によって海外に多くの移民を送り出してきたという事実はあまり認識されていない。現在日本国内で暮らしている「外国人」の中には、中南米などに移住した日本人の子孫も多く含まれる。

移民送出の背景と日系社会の歴史を学び、現代日本社会が直面する「外国人問題」や多文化共生について考えることがこの授業の目的である。

授業の到達目標

ハワイ、北米、中南米に移住した日本人の歴史について、当時の社会的背景や移住先の状況とともに概略を理解する。日本人移民の歴史を通じて、日本の近代史をグローバルな視点から捉え直す。

授業方法

日本人移民の歴史について説明した後、関連する映像作品を鑑賞し、ディスカッションを行う。毎回授業終了時にリアクションペーパーを提出し、次回以降にフィードバックを行う。

授業内容

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 海外移住の歴史的

第 3 回 ハワイ、北米の日系人①

第 4 回 ハワイ、北米の日系人②

第 5 回 第二次世界大戦と日系人①

第 6 回 第二次世界大戦と日系人②

第 7 回 ブラジルの日系人①

第 8 回 ブラジルの日系人②

第 9 回 アルゼンチン、ボリビア、パラグアイの日系人①

第 10 回 アルゼンチン、ボリビア、パラグアイの日系人②

第 11 回 日系社会の今

第 12 回 まとめ

成績評価の方法

リアクションペーパー60%、ディスカッションへの参加 40%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による。

準備学習等についての具体的な指示

予習は必要ないが、授業で取り上げた内容についてわからないことがあれば各自で調べること。

試験の受験資格

①原則3分の2以上出席、②授業中の課題を提出すること。

連絡先(メールアドレス)

takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

毎週木曜日　AM.09:00-PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	00880				
科目名	S・Premedical 人体生物学入門ゼミナール			科目ID	
担当教員	高垣 堅太郎[TAKAGAKI Kentaro]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:[後期]木曜日(9/17～10/22) 3～4 講
対象学科:医学科
募集人数:5ー15 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
1-1) 言語を通した人間の創造的営みを理解する
3-1) 国際的に活躍するための語学力を養う
3-2) 自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける
3-6) 日本の文化・社会を国際社会の中で理解し、発信できる力を身につける

主な講義場所

別表のとおり
See separate table for information

授業の目的、概要等

This course offers an English-medium introduction to the core concepts that support premedical and early preclinical learning. Rather than providing comprehensive factual coverage of anatomy, physiology, or pathophysiology, the course emphasizes the development of a conceptual scaffold within a guided PBL context. Students will explore integrative biological mechanisms underlying human health and disease, using selected examples from real clinical contexts.

Each 90-minute session integrates short, focused lectures based on pre-reading assignments, vocabulary checks, peer-instruction in a flipped-classroom format, and small-group, team-based analyses of simplified USMLE-style questions. By learning to reason through mechanisms, differential diagnoses, and perturbations—rather than memorizing isolated facts—students will strengthen their biomedical literacy, medical English proficiency, and early clinical reasoning skills. Students will understand the role and nature of rote memorization in learning medicine, and develop personalized approaches to medical study.

Active engagement in English-language discussion, group work, and individual self-directed learning is expected.

授業の到達目標

1. To obtain broader knowledge and perspective of the underlying biomedical principles introduced in class, and to internalize this foundational framework
ゼミで取り上げる専門医学・生物学概念の科学的・歴史的背景を自分で理解し、知識基盤として内在化する

2. To acquire and use new specialist vocabulary, based on an understanding of etymologies and word nuance (i.e. use of English-English specialist dictionaries)
新しい専門語彙を語源とニュアンス含め、学習して使用することができるようになる (専門英英辞典の活用)

3. To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively
自分の考えを、さまざまな参照手段や方策を効果的に活用しながら、より明確かつ論理的に文章で表現することができる

4. To be able to speak in front of others more effectively
他の人の前でより効果的に話すことができる

5. To be able to overcome shyness and worries about assertively stating opinions and communicating in comprehensible English
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語ではっきりと理解可能な形で伝え議論に参加することができること

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	9/17	13:30-17:05	未定	Introduction (A) Ice-breaker, Goal-directed communication, Patient scenario, Prereading	Introduction (B) Hypovolemic shock, Blood volume, blood loss, organ ischemia, fluid therapy, venous access, transfusions	高垣 堅太郎	(A) understand the broad range of mechanisms necessary to understand medicine (B) hypovolemic shock
5-8	9/24	13:30-17:05	未定	2. Core Systems and Homeostasis (A) Fluid, Electrolytes, Acid-Base Logic Vomiting diarrhea, nausea	2. Core Systems and Homeostasis (B) Thyroid: Endocrine Control Systems, and thyroid disorders	高垣 堅太郎	(A) fluid therapy/electrolytes, supportive vs. curative (B) endocrine system, thyroid
9-12	10/1	13:30-17:05	未定	3. Energy, Metabolism, and Long-Term Adaptation (A) Glucose and diabetes, complications	3. Energy, Metabolism, and Long-Term Adaptation (B) Anemia anemia ddx / wu	高垣 堅太郎	(A) regulation and dysregulation of glucose (B) regulation and dysregulation of hemoglobin
13-16	10/8	13:30-17:05	未定	4. Acute Perturbations (A) Acute pancreatitis	4. Acute Perturbations (B) Sepsis and Systemic Inflammation	高垣 堅太郎	(A) acute pancreatitis, acute abdomen and history (B) sepsis and septic shock
17-20	10/15	13:30-17:05	未定	5. Brain, Behavior, and Neurophysiology (A) Motor System and Weakness	5. Brain, Behavior, and Neurophysiology (B) Memory, Forgetting, and Neurocognitive DO	高垣 堅太郎	(A) neurologic exam and patient interview (B) neuropsychiatric testing, supportive therapy
21-24	10/22	13:30-17:05	未定	6. Developmental/Neuropsychiatric (A) Child and Adolescent Behavioral Development	6. Developmental/Neuropsychiatric (B) Parkinson Disease and Neurodegeneration	高垣 堅太郎	(A) child development/milestones, ASD, DSM (B) Parkinson disease, tremor, neuropsychiatry

授業方法

Guided PBL/CBL/TBL (also, 課題発表、グループワーク、討論、ディベート)

授業内容

Guided PBL/CBL/TBL (also, mini-presentations、group work、debate) will lead to examining and understanding basic medical concepts

Guided PBL/CBL/TBL (also, 課題発表、グループワーク、討論、ディベート)を通して、特定の臨床課題に関する基礎医学概念を検討・理解してゆく

成績評価の方法

出席・参加度 100%(別途 rubric を LMS に発表予定です)

Evaluations will be dependent upon in-class participation and activities (rubric to be announced on LMS).

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

From the second session onwards, you are expected to have conducted the pre-reading and answered the comprehension questions. List up any further followup questions you have, to be discussed in class

2回目以降、各自が読書課題を予習し、理解度チェックの質問を答えておくこと。情報を消化する過程で、さらにゼミで検討したい問題点をみつけること。

試験の受験資格

原則、全授業の 2/3 以上の出席をすること

Active participation in 4 out of 6 sessions is a prerequisite to pass this course.

備考

A questionnaire will be available from the last day of class. Answering this questionnaire is a prerequisite for passing this course. This new course was designed based on upper-class medical student feedback.

授業最終日から、科目についてアンケートを LMS 上で実施することを修了の条件とする。本科目は新設のため過去のフィードバックはないが、中学年医学生からの希望により設計された。

連絡先(メールアドレス)

高垣　堅太郎:takagaki.k.2cdc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

高垣　堅太郎:不定期、御連絡ください。原則湯島キャンパスです。

Irregular, please contact. Yushima campus as a rule.

時間割番号	00900				
科目名	S・ソーシャルウェルビーイング・コミュニケーション実践			科目 ID	
担当教員	柳下 和慶, 渡邊 洋子[YAGISHITA Kazuyoshi, WATANABE Yoko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:[後期]木曜日(9/17～10/22) 3～4 講
対象学科:全科目
募集人数:30 人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
1-1) 言語を通した人間の創造的営みを理解する
1-5) 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る
1-7) 人間の心への理解を深める
1-8) 自己の心と体を管理する能力を獲得する
3-3) チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける

主な講義場所

ILA 国府台

授業の目的、概要等

本授業におけるソーシャルウェルビーイングとは、「人間関係において幸福を感じる関係性を構築すること」を指すものとする。
社会生活において、良好なコミュニケーションを実現させ、信頼しあえる人間関係を築くためには、自分のことをよく理解し、自分の意見を言語化できることや、他者のことも理解し、配慮した伝え方を検討できることが、とても大切である。
本授業では、良好なコミュニケーションの実現に向けて、心理学的アプローチから、自分自身を客観的に見つめ、自己理解を深めることや、適切な自己表現につながるアサーティブコミュニケーションを中心としたコミュニケーションスキルを理解する。加えて、グループプロセスにおける様々な機能を知り、個々の役割を考察する。それらの過程によって、自分に合ったコミュニケーションの方法を検討し、身につけることを目的とする。

授業の到達目標

①自己理解力-自分自身の考え方の傾向を知る、自分自身の考えや意見を言語化できる。
②他者理解力-自分とは異なる他者の考え方や意見について検討し、考察できる。
③グループプロセスの理解-グループワークにおいて、3つの機能について理解し、それぞれの役割を検討できる。
④アサーティブコミュニケーションについて理解し、自分なりの実践方法を獲得する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	9/17	13:30-17:05	10 番教室	ソーシャルウェルビーイング:コミュニケーション実践	授業全体のオリエンテーション	柳下 和慶 渡邊 洋子	リアクションペーパー、アンケート
5-8	9/24	13:30-17:05	10 番教室	アサーティブなコミュニケーションとは	アサーティブなコミュニケーションとはどのようなコミュニケーションかを知り、具体的に様々なパターンを検討する。	柳下 和慶 渡邊 洋子	コミュニケーションの 3 つのパターンにつ いて説明ができる。 授業中の質疑応答、グループワーク、リアクションペーパー
9-12	10/1	13:30-17:05	10 番教	自分のコミュニケーショ	自分の物の見方や、考え方の癖	柳下 和慶,	自分自身のコミュ

			室	ンのパターンとは	を知り、コミュニケーションのパターン把握する。長所や短所も検討する。	渡邊 洋子	ニケーションのパターンについて説明ができる。授業中の質疑応答、グループワーク、リアクションペーパー
13-16	10/8	13:30-17:05	10 番教室	ウェルビーイング概論	ソーシャルウェルビーイングを理解する上で、多方面からのウェルビーイングの考え方を知る。	柳下 和慶	ウェルビーイングを説明することができる。 授業中の質疑応答、リアクションペーパー
17-20	10/15	13:30-17:05	10 番教室	グループプロセスについて	グループプロセスにおける 3 つの機能について理解する。 グループワークを実施し、それぞれの機能を体験・観察する。	渡邊 洋子	グループプロセスの 3 つの機能について説明ができる。実践における自分なりの役割を考察できる。 授業中の質疑応答、グループワーク、リアクションペーパー
21-24	10/22	13:30-17:05	10 番教室	ソーシャルウェルビーイング:コミュニケーション実践	コミュニケーション実践における総括	柳下 和慶 渡邊 洋子	コミュニケーションスキルの知識とグループワークでの体験を経て、自分なりに獲得したコミュニケーションパターンを総括し、発表する。 授業中の質疑応答、グループワーク、リアクションペーパー、アンケート

授業方法

授業は講義形式で実施。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、リラックスした環境の中でグループワークや発表も行う。
基本的には対面授業であるが、一部授業はオンラインで行う。
リアクションペーパー、アンケートも実施。

授業内容

授業スケジュール参照

成績評価の方法

評価:出席・参加度 60%、レポート 40%
再評価: 有 (レポート等による)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程」の第 6 条による。

準備学習等についての具体的な指示

各授業のキーワードについて、事前に調べ知ることが望まれる。

試験の受験資格 原則、全授業の 2/3 以上の出席をすること。
他科目との関連 「フィジカルウェルビーイング」「フィットネスマネジメント」「人文社会科学概論Ⅱ」と関連する。
履修上の注意事項 【注意】看護学専攻においては、保健師免許取得後の申請により「養護教諭二種免許状」を取得することが可能である。取得に当たっては、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目「体育」(2単位)を取得することが必須である。 【注意】！！！本科目「S・ソーシャルウェルビーイング・コミュニケーション実践」は上記「体育」(2単位)に相当しない。
連絡先(メールアドレス) 柳下　和慶:yagishita.k.226c@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 柳下　和慶:毎週木曜日 12:30-13:00 管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	00910				
科目名	S・言語学概論			**科目 ID**	
担当教員	藤井　俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1	**単位数**	1
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

時間・曜日：木曜 3・4 講

対象学科：全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)：1-1, 1-7, 2-3

授業の目的、概要等

言語学が如何なる学問かを理解した上で、理論言語学がどういった言語現象に着目し、最終的に何を解明することを目指すかを理解する。日本語や英語、ドイツ語に於ける具体的な言語現象を紹介しながら、これらをどういった手法で分析してきたかを紹介し、言語理論の発展の歴史を概観する。本授業では生成文法理論を主に検討しながら、近年までの研究動向を把握することを目指す。

授業の到達目標

言語学一般、及び理論言語学の基礎的な知識を習得する。また言語学が探求する問いの意義を理解し、言語を研究対象とする問題意識を共有する。

具体的には、言語学で主に分析されてきた言語現象(例えば英語の do-support や that-trace effect 等)やその分析手法(及びその変遷)を理解し、また言語理論(主に生成文法)の科学的意義について理解する。生成文法については GB からミニマリスト・プログラムへ至る理論の枠組みの変化を大まかに理解することを求める。

授業方法

講義形式で授業を行う。授業終了時にはその授業で挙がった話題に関する自身の考えや感想をリアクションペーパーとして提出することを求める。受講者主体のディスカッションや発表を課すことがある。

授業内容

第 1 回 言語学の下位分野とその概要
第 2 回 理論言語学の萌芽と発展
第 3 回 生成文法理論の変遷①
第 4 回 生成文法理論の変遷②(ディスカッション)
第 5 回 格配列と意味役割
第 6 回 主語とは何か(ディスカッション)
第 7 回 併合と移動①
第 8 回 併合と移動②(ディスカッション)
第 9 回 左方領域と談話機能①
第 10 回 左方領域と談話機能②(ディスカッション)
第 11 回 言語の普遍性と特異性
第 12 回 まとめ

成績評価の方法

レポート 70%・その他(出席状況・授業参加などの平常点)30%

再評価：有(レポート)

レポート課題の詳細については授業内で説明するが、先行研究の吟味や丁寧なデータの分析、及び参考文献の適切な引用といった基本的な項目について評価を行う。平常点については授業への参加度(ディスカッションや授業内容に関する発言)及びリアクションペーパーの内容に基づき評価する。

成績評価の基準

上記の成績評価の方法に示す各項目の成績の合計により評価を行う。

準備学習等についての具体的な指示

授業時に言語データの分析ないし収集といった課題を課す場合があるが、その場合はきちんと準備をしておくこと。また、特に興味を持った分野や期末レポートで取り組む課題に関して、シラバスで挙げた参考資料や授業内で示した資料に目を通すことが求められ

る。
試験の受験資格
レポート提出には授業の 3 分の 2 以上の出席が必須である。
参考書
生成文法 = Syntax in generative grammar／渡邊, 明,渡辺明著:東京大学出版会, 2009.1 生成文法の新展開 : ミニマリスト・プログラム／中村, 捷, 1945-,金子, 義明, 1956-,菊地, 朗, 1957-,中村捷, 金子義明, 菊地朗 著:研究社出版, 2001.5 比較言語学の視点 : テキストの読解と分析／吉田, 和彦, 1954-,吉田和彦 著:大修館書店, 2005.4
他科目との関連
後期の教養基礎セミナーに関してはドイツ語学の入門的側面を持つのに対し、本授業は言語学一般及び理論言語学の導入を目的とする。互いに連関しつつ補足しあうような内容となっている。
履修上の注意事項
授業後にスライドをアップする予定なので、内容を復習したい受講生についてはこれを活用すること。
備考
レポート提出に 3 分の 2 以上の出席が必須である点について注意。またリアクションペーパーも忘れず提出すること。
連絡先(メールアドレス)
fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー
木曜日 12:30～13:00 管理研究棟 2 階 研究室

時間割番号	00930				
科目名	S・英語文学と社会			科目 ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間：月曜 3/4 講
・対象学科：全学科
・科目を履修して得られる能力（コンピテンシー）：
別表1－1）
別表1－3）
別表3－4）
別表3－5）

授業の目的、概要等

This course invites students to think and share ideas (through discussions and essays) about the changing, complex relationship between literature and society. We will start by looking at British and US literature alongside radically new ideas about the nature of society which emerged in the early 20th century. This is the moment when the modern sciences of social life, sociology and anthropology, began to take their present professional, academic form. We will look at how writers of literature responded to this significant change, and how new ways of imagining society affected literary culture.

You will then be encouraged to go beyond this starting point, and invited to think about possible connections between literature and social theory which are of particular interest to you, from other time periods or in relation to other social challenges.

授業の到達目標

To have broader knowledge and a more precise, critical perspective

To be able to express oneself more clearly and logically in writing, utilizing reference tools and other resources effectively

To be able to comprehend and use new vocabulary to achieve specific communicative goals

To be able to respectfully assess and discuss the ideas of others more effectively

以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル（70 点以上）の必要条件として要求される。

1. Show critical understanding of the core ideas of the course regarding society and literature, whether through your analysis of lectures or your own independent study
2. Present your ideas effectively in a small-group setting, and take others' responses into account
3. Make effective use of new English vocabulary to discuss specialised topics

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	6/22	15:25-17:05	6 番教室	Introductory Session	Opening lecture; self-introductions; group discussion of course	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
3-4	6/29	15:25-17:05	6 番教室	Literature, Sociology, Anthropology	Background lecture + seminar on literature and the early 20th-century social sciences	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
5-8	7/6	13:30-17:05	6 番教室	Special topic 1	Seminar on topics in early 20th-century US/UK literature and	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

					society		
9-12	7/13	13:30-17:05	6 番教室	Special topic 2	Seminar on topics in early 20th-century US/UK literature and society	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
13-16	7/20	13:30-17:05	6 番教室	Special topic 3	Seminar on topics in early 20th-century US/UK literature and society	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
17-20	7/27	13:30-17:05	6 番教室	Extended topic 2	Student-led seminar on topics in the wider history of literature and society	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar
21-24	7/30	13:30-17:05	6 番教室	Summary session	Final discussion session bringing together topics from the course	WHITAKER SIMON	Active Learning, Seminar

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Week 1: Orientation

Weeks 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Week 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

評価:class participation: 20% in-class assignments:40%, final essay:40%

再評価: なし

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

履修上の注意事項

出欠管理システムの記録より、教員がとる出欠を優先させます。

連絡先(メールアドレス)

simon.w.56db@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	00940				
科目名	S・宇宙地球科学			科目ID	
担当教員					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目

前期:オンデマンド形式

全 14 回

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 2-1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

主な講義場所

遠隔授業(非同期型)

授業の目的、概要等

大学生の教養としての現代的天文学・惑星科学・地球科学の基本的内容を講義する。

授業の到達目標

現代の宇宙観と地球観、およびそれらを形づくる基本的な考え方を理解する。主に高校までの物理学、数学、化学により理解することを目標とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	担当教員
1-2	6/22	15:25-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	
3-4	6/29	15:25-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	
5-8	7/6	13:30-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	
9-12	7/13	13:30-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	
13-16	7/20	13:30-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	
17-20	7/27	13:30-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	
21-24	7/30	13:30-17:05	オンデマンド	授業日程は暫定です。	

授業方法

オンデマンド形式。講義の動画を提供する。

授業内容

宇宙を構成する天体の構造と形成、および地球を構成する物質・生命の進化に関する講義動画を 14 回分提供する。

第 1 回 宇宙の大きさと構造 (尾崎和海)
第 2 回 銀河と銀河系 (尾崎和海)
第 3 回 星形成 (尾崎和海)
第 4 回 恒星の内部構造 (尾崎和海)
第 5 回 惑星形成論 (尾崎和海)
第 6 回 惑星の大気 (尾崎和海)
第 7 回 太陽系外の惑星 (尾崎和海)
第 8 回 アストロバイオロジー (井田茂)
第 9 回 太陽系の化学進化 (横山哲也)
第 10 回 地球型惑星の内部構造 (横山哲也)
第 11 回 地球を構成する岩石 (横山哲也)
第 12 回 固体地球の進化 (癸生川陽子)
第 13 回 惑星環境の進化 (癸生川陽子)
第 14 回 地球生命の進化 (癸生川陽子)

成績評価の方法

評価:レポート 100%

再評価:　無
成績評価の基準 「東京科学大学学修規程第6条」による
準備学習等についての具体的な指示 教科書や参考文献など、授業に関連する資料を参照し、1 授業あたり 100 分を目安に自習する。
教科書 授業で適宜紹介する。
備考 キーワード: 天文学・惑星科学・地球科学

時間割番号	00950				
科目名	S・やってみようバイオインフォマティクス			科目ID	
担当教員	中林　潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1),4-2),4-3),4-4),4-5)

主な講義場所

国府台キャンパス

ヒポクラテス棟講義室

授業の目的、概要等

近年，生命科学研究においてバイオインフォマティクスは必要不可欠なものとなりつつある。しかし，バイオインフォマティクスの解析手法は高度化，複雑化し，その基礎的理論から十全に理解することは困難である。

本講義では、バイオインフォマティクスの概論から始めて，様々な解析手法についてその基礎的な理論を学習していく。また、様々なバイオインフォマティクス解析について、その理論を理解するだけでなく、自ら実践できるようになることを目的としている。

授業の到達目標

バイオインフォマティクス解析の基礎理論を理解し，基本的な解析を実行できるようになる。

授業方法

対面授業を基本とするが，状況に応じて遠隔授業を行う。夏季集中講義期間中に集中して開講する。各自 PC を持ち込み，模擬データを使ってバイオインフォマティクス解析を実行する。

授業内容

・バイオインフォマティクス概論

・シーケンスデータのアラインメント

・発現変動遺伝子の抽出

・GO 解析

・scRNA-seq データ解析

成績評価の方法

出席の状況(30%)と最終レポートの成績(70%)を勘案して総合的に評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は必要ないが，講義の内容を良く復習して身につけることが重要である。講義中に実行した解析は自分で再現できるまで習熟しておくこと。授業中に疑問が生じた場合は，その場で質問して解消しておくこと。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

参考書

バイオインフォマティクス : Web 連携テキスト : 基礎から応用／門田，幸二，1974-,清水，謙多郎，1957-,岸野，洋久，1955-,寺田，透,門田幸二，清水謙多郎，岸野洋久，寺田透 共編著:培風館，2022.10

連絡先(メールアドレス)

nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9

時間割番号	00960				
科目名	S・生成 AI 活用 CG キャラクターによる解説動画制作			科目 ID	
担当教員	辻　泰明[TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

4-4)情報についての基本技能を身につける

授業の目的、概要等

CG キャラクターによる解説動画を制作することにより、情報を映像で伝える方法を身につけます。

3DCG、合成音声、生成 AI 画像/動画といった要素技術の習得だけでなく、それらを統合した制作工程を理解し、企画の発想法や構成のパターンを学びます。

自らが選んだテーマを、映像によって表現し、内容を的確に伝えることを目的とした、解説動画を制作する実習を行います。

授業の到達目標

・生成 AI を的確に活用して CG キャラクターによる解説動画を制作することができる。

・動画だけでなく、自分の意見の表明など様々なコミュニケーションの機会に適用可能な 2 項構成を習得し、応用できる。

・生成 AI を取り巻く、著作権など知的財産権や個人情報の保護について、実践に即して理解し、適応できる。

なお、本授業では、GPA における「B」評価を得るためには、上記の到達目標を達成した上で、

・授業内で課される課題や発表等について、期限内に所定の形式で提出または実施する。

・授業内でのディスカッション等に参加し、自分の見解を述べる。

という二つの条件を充足することが必要です。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-8	8/3	10:45-18:55	7 番教室	第 1 回 ガイダンス 企画プレゼンテーション 第 2 回 構成表・台本作成 第 3 回 3DCG キャラクター作成 第 4 回 合成音声作成	第 1 回 授業の進め方を説明し、企画のプレゼンテーションを行います。第 2 回 台本と構成表を作成します。第 3 回 自分のアバターとなる 3DCG キャラクターを作成します。第 4 回 CG キャラクターが語るナレーションを作成します。	辻　泰明	動画コンテンツの企画提案に基づいて、台本と構成表を作成した上で、3DCG キャラクターと合成音声を作成できる。
9-16	8/4	10:45-18:55	7 番教室	第 5 回 画像/動画生成 第 6 回 劇伴(BGM)作成 第 7 回 タイムライン編集 第 8 回 マルチレイヤー編集	第 5 回 映像による解説のための画像/動画の生成および資料映像の収集を行い、素材を揃えます。第 6 回 劇伴(BGM)を作成します。第 7 回 構成表を元に、素材を編集して、一つながりの動画にします。第 8 回 構成表を元に、画像/映像の挿入や字幕の付加を行います。	辻　泰明	動画コンテンツの構成表を元に生成 AI を活用して素材を生成し、的確に編集できる。
17-24	8/5	10:45-18:55	7 番教室	第 9 回 オーディション 第 10 回 生成 AI に関する知的財産権と個人情報 第 11 回 今後の	第 9 回 完成した動画のプレゼンテーションを行います。第 10 回 生成 AI に関する知的財産権と個人情報について学びます。第 11	辻　泰明	動画コンテンツの制作と生成 AI の活用について包括的に理解し、発

				展望　第 12 回　総括と発展学習の方法	回　実習の体験を元にして、生成 AI の発展がもたらす今後の社会について議論します。第 12 回　授業の振り返りを行い、発展学習の方法を考えます。		展的に応用できる。

授業方法

実習を中心に進めます。CG キャラクター、合成音声、生成 AI による画像/動画などを用いて、さまざまな情報を映像で伝えるための解説動画を制作します。制作にあたっては、受講ガイドを配布した上で、詳細に制作方法を解説しますので、映像に関する予備知識や経験は必要ありません。一つ一つ丁寧に、指示に従って進めれば、誰でも、CG キャラクターによる解説動画を制作することができます。自分が創ったキャラクターが動き出し、語り始める楽しさを存分に味わい、映像で情報を伝えるための知見を身につけてください。

授業内容

第 1 回　ガイダンス　企画プレゼンテーション
第 2 回　構成表・台本作成
第 3 回　3DCG キャラクター作成
第 4 回　合成音声作成
第 5 回　画像/動画生成
第 6 回　劇伴(BGM)作成
第 7 回　タイムライン編集
第 8 回　マルチレイヤー編集
第 9 回　オーディション
第 10 回　生成 AI に関する知的財産権と個人情報
第 11 回　今後の展望
第 12 回　総括と発展学習の方法

成績評価の方法

評価　：　その他(課題提出・発表・ディスカッション)　100%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

受講者には受講準備ガイドを事前に配布します。ガイドに従って、準備を進めておいてください。

参考書

映像コンテンツ制作教程:生成 AI 活用の可能性を探る／辻　泰明:樹村房, 2026.3

履修上の注意事項

三分の二以上の出席が必要です。 出欠管理システムよりも、教員自身が取る出欠を優先します。

備考

これまでの履修者が制作した動画のテーマ例
・アボガトの魅力
・甘いものの良いところと悪いところ
・アメフトの魅力
・イラストの描き方
・医療現場における AI の導入
・エネルギー問題
・美味しい炒飯について
・大阪へ行こう
・お好み焼きの魅力
・お化け屋敷の仕掛け
・キリンの魅力
・クラリネットの魅力
・クリームソーダの魅力

・クリケット
・The Fascination of the Anne of Green Gables Series
・授業中に眠くなってしまうのはなぜ?
・3ピースバンドの魅力
・総合診療科とは
・躰道って?
・食べる宝石
・東京ディズニーリゾートについて
・人魚姫が見たもの
・人間の目はなぜ錯覚するの
・人間のようで人間でない存在コリット
・パイプオルガンの魅力
・ハンドボールの魅力
・火鍋と日本の鍋
・ファストファッション
・フィギュアスケートの魅力
・ミニチュアシュナウザー
・山登りにいこう
・病は気から
など

連絡先(メールアドレス)

tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:金　14:30～15:00　後期:水　12:30～13:00

時間割番号	00970				
科目名	S・バクテリアコロニーパターンとその数理モデルを作ろう			科目ID	
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3, 4-2, 4-3

主な講義場所

ヒポクラテス棟 3F 実験室, 4F 中山居室

授業の目的、概要等

目的:複雑な生命現象を数理的に捉え, 評価することを目的とする

概要:枯草菌が生成するパターンの環境依存性を実際に実験し, その観察結果を分析する. バクテリアコロニーの生成メカニズムから主要な部分を抽出し, 微分方程式を用いて記述したのち数値実験を行う

授業の流れ:簡単な講義の後, 実験, 実験結果の分析, 現象を支配する要素の抽出, 数理モデル構築, 数理モデル評価を行う

授業の到達目標

1) 基礎的な微分方程式の仕組みを理解し, 解の安定性を検証できるようになる
2) 簡単な数理モデルを自分で作れるようになる

授業方法

講義, 実習, 課題発表による

授業内容

第 1 日目 ガイダンス, 微分方程式についての簡単な講義, 実験準備
第 2 日目 実験
第 3 日目 実験結果まとめ, 数理モデル構築, 簡単なシミュレーション, 結果発表
ただし, 出席者の理解度, 関心によって柔軟に変更する

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 20% ・ その他(出席・発表・議論) 80%
再評価: 有(再提出レポート等)

授業への参加状況(発言, 質問, 演習, 課題発表)を重視し, それに関連したレポートと共に評価を行う.

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

特に準備学習は必要ない.

試験の受験資格

講義の 3 分の 2 以上の出席

参考書

分析者のためのデータ解釈学入門 : データの本質をとらえる技術／江崎, 貴裕,江崎貴裕 著:ソシム, 2020.12
本質を捉えたデータ分析のための分析モデル入門 : 統計モデル、深層学習、強化学習等用途・特徴から原理まで一気通貫!／杉山, 聡, データサイエンティスト,杉山聡 著:ソシム, 2022.8/, 2022.3/, 2017.1

履修上の注意事項

集中講義なので極力欠席しないこと

連絡先(メールアドレス)

nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

時間割番号	004601				
科目名	教養基礎セミナー(心理療法の理論)前半 1 講			科目 ID	
担当教員	門地　里絵[MONCHI Rie]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜　1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-7)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

心理学は実証科学的方法によって人の心の法則やメカニズムを解き明かそうとする学問です。

日常の心の動きをはじめとして、心がかかわるすべての領域が対象になります。

このため、扱う領域は多岐にわたり、複数の分野に細分化されています。

この科目は、これまでに集積されてきた知の体系にできるだけ幅広く触れることで、自分自身も含めた人間への理解を深め、心を科学的に研究する方法について理解することを目的とします。

授業の到達目標

日常生活における人間の行動を理解することで、より適応的に生活し、他者と接するための知識を身につけることを目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之

授業方法

セミナー形式であり、テーマによってはグループワークを取り入れる場合もあります。

授業内容

第 1 回:ガイダンス

（講義の進め方、学問としての心理学の考え方や歴史を概説します）

第 2 回:パーソナリティ

（人を特徴づける人格について理論や測定方法を講義し、いくつかの測定法を実施します）

第 3 回:感情

（日々を彩る喜怒哀楽の感情について理論や表出の特徴を講義し、小実験を実施します）

第 4-6 回:臨床

（心理支援の基礎理論や実践者に必要な態度・スキルについて講義し、グループワークを行います）

第 7-8 回:社会

（社会集団から人が受ける影響力などを講義し、グループワークを行います）

成績評価の方法

評価　:　レポート　60%　・　授業への参加度　40%　授業内課題の提出状況とワークへの積極的な参加を重視します。

再評価:　　有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

演習で取り組む課題の準備をしてきてください。

各回が終わったら、適宜必要に応じて復習してください。

教科書

特に指定しません。必要な資料は配布します。

参考書

講義の中で随時紹介します。

履修上の注意事項

・原則として、授業回数の 2/3 の出席を満たさなければ期末試験の受験資格を得られません。 ・レポート作成時、データ解析手法や先行研究調査について生成 AI を使用することは許可します。生成 AI が作成した文章を自身の回答としてレポートに転記することは許可しません。転記が疑われた場合には回答内容に関わらず不合格とし、再試を受験するものとします。

参照ホームページ

特に指定しません。講義内で適宜紹介します。

時間割番号	004602				
科目名	教養基礎セミナー(心理療法の理論)前半 2 講			科目 ID	
担当教員	門地　里絵[MONCHI Rie]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜　2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-7)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

心理学は実証科学的方法によって人の心の法則やメカニズムを解き明かそうとする学問です。

日常の心の動きをはじめとして、心がかかわるすべての領域が対象になります。

このため、扱う領域は多岐にわたり、複数の分野に細分化されています。

この科目は、これまでに集積されてきた知の体系にできるだけ幅広く触れることで、自分自身も含めた人間への理解を深め、心を科学的に研究する方法について理解することを目的とします。

授業の到達目標

日常生活における人間の行動を理解することで、より適応的に生活し、他者と接するための知識を身につけることを目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之

授業方法

セミナー形式であり、テーマによってはグループワークを取り入れる場合もあります。

授業内容

第 1 回:ガイダンス

（講義の進め方、学問としての心理学の考え方や歴史を概説します）

第 2 回:パーソナリティ

（人を特徴づける人格について理論や測定方法を講義し、いくつかの測定法を実施します）

第 3 回:感情

（日々を彩る喜怒哀楽の感情について理論や表出の特徴を講義し、小実験を実施します）

第 4-6 回:臨床

（心理支援の基礎理論や実践者に必要な態度・スキルについて講義し、グループワークを行います）

第 7-8 回:社会

（社会集団から人が受ける影響力などを講義し、グループワークを行います）

成績評価の方法

評価　:　レポート　60%　・　授業への参加度　40%　授業内課題の提出状況とワークへの積極的な参加を重視します。

再評価:　　有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

演習で取り組む課題の準備をしてきてください。

各回が終わったら、適宜必要に応じて復習してください。
教科書 特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書 講義の中で随時紹介します。
履修上の注意事項 ・原則として、授業回数の 2/3 の出席を満たさなければ期末試験の受験資格を得られません。 ・レポート作成時、データ解析手法や先行研究調査について生成 AI を使用することは許可します。生成 AI が作成した文章を自身の回答としてレポートに転記することは許可しません。転記が疑われた場合には回答内容に関わらず不合格とし、再試を受験するものとします。
参照ホームページ 特に指定しません。講義内で適宜紹介します。

時間割番号	004603				
科目名	教養基礎セミナー(心理支援の理論)後半 1 講			科目 ID	
担当教員	門地　里絵[MONCHI Rie]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜　1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-7)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

心理学は実証科学的方法によって人の心の法則やメカニズムを解き明かそうとする学問です。

日常の心の動きをはじめとして、心がかかわるすべての領域が対象になります。

このため、扱う領域は多岐にわたり、複数の分野に細分化されています。

この科目は、これまでに集積されてきた知の体系にできるだけ幅広く触れることで、自分自身も含めた人間への理解を深め、心を科学的に研究する方法について理解することを目的とします。

授業の到達目標

日常生活における人間の行動を理解することで、より適応的に生活し、他者と接するための知識を身につけることを目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		門地　里絵　奈良　雅之

授業方法

セミナー形式であり、テーマによってはグループワークを取り入れる場合もあります。

授業内容

第 1 回:ガイダンス

（講義の進め方、学問としての心理学の考え方や歴史を概説します）

第 2 回:パーソナリティ

（人を特徴づける人格について理論や測定方法を講義し、いくつかの測定法を実施します）

第 3 回:感情

（日々を彩る喜怒哀楽の感情について理論や表出の特徴を講義し、小実験を実施します）

第 4-6 回:臨床

（心理支援の基礎理論や実践者に必要な態度・スキルについて講義し、グループワークを行います）

第 7 回:社会

（社会集団から人が受ける影響力などを講義し、グループワークを行います）

成績評価の方法

評価　:　レポート　60%　・　授業への参加度　40%　授業内課題の提出状況とワークへの積極的な参加を重視します。

再評価:　　有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

演習で取り組む課題の準備をしてきてください。

各回が終わったら、適宜必要に応じて復習してください。

教科書

特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書 講義の中で随時紹介します。
履修上の注意事項 ・原則として、授業回数の 2/3 の出席を満たさなければ期末試験の受験資格を得られません。 ・レポート作成時、データ解析手法や先行研究調査について生成 AI を使用することは許可します。生成 AI が作成した文章を自身の回答としてレポートに転記することは許可しません。転記が疑われた場合には回答内容に関わらず不合格とし、再試を受験するものとします。
参照ホームページ 特に指定しません。講義内で適宜紹介します。

時間割番号	004604				
科目名	教養基礎セミナー(心理支援の理論)後半 2 講			科目 ID	
担当教員	門地　里絵[MONCHI Rie]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜　2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-7)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

心理学は実証科学的方法によって人の心の法則やメカニズムを解き明かそうとする学問です。

日常の心の動きをはじめとして、心がかかわるすべての領域が対象になります。

このため、扱う領域は多岐にわたり、複数の分野に細分化されています。

この科目は、これまでに集積されてきた知の体系にできるだけ幅広く触れることで、自分自身も含めた人間への理解を深め、心を科学的に研究する方法について理解することを目的とします。

授業の到達目標

日常生活における人間の行動を理解することで、より適応的に生活し、他者と接するための知識を身につけることを目標とします。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		門地　里絵　奈良　雅之

授業方法

セミナー形式であり、テーマによってはグループワークを取り入れる場合もあります。

授業内容

第 1 回:ガイダンス

（講義の進め方、学問としての心理学の考え方や歴史を概説します）

第 2 回:パーソナリティ

（人を特徴づける人格について理論や測定方法を講義し、いくつかの測定法を実施します）

第 3 回:感情

（日々を彩る喜怒哀楽の感情について理論や表出の特徴を講義し、小実験を実施します）

第 4-6 回:臨床

（心理支援の基礎理論や実践者に必要な態度・スキルについて講義し、グループワークを行います）

第 7 回:社会

（社会集団から人が受ける影響力などを講義し、グループワークを行います）

成績評価の方法

評価　:　レポート　60%　・　授業への参加度　40%　授業内課題の提出状況とワークへの積極的な参加を重視します。

再評価:　　有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

演習で取り組む課題の準備をしてきてください。

各回が終わったら、適宜必要に応じて復習してください。

教科書

特に指定しません。必要な資料は配布します。
参考書 講義の中で随時紹介します。
履修上の注意事項 ・原則として、授業回数の 2/3 の出席を満たさなければ期末試験の受験資格を得られません。 ・レポート作成時、データ解析手法や先行研究調査について生成 AI を使用することは許可します。生成 AI が作成した文章を自身の回答としてレポートに転記することは許可しません。転記が疑われた場合には回答内容に関わらず不合格とし、再試を受験するものとします。
参照ホームページ 特に指定しません。講義内で適宜紹介します。

時間割番号	004605				
科目名	教養基礎セミナー(倫理学を現実に照らして考える)前半 1 講 大賀			科目 ID	
担当教員	大賀 祐樹[OGA Yuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表)1-2 社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表)1-5 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表)1-7 人間の心への理解を深める

別表)1-9 市民としての倫理観を養う

別表)5-1ELSI を認知し、その重要性を理解する

別表)5-2ELSI を分析・評価する視座・方法論を獲得する

授業の目的、概要等

倫理学とは、概念や理論を学ぶと同時に、自分の人生や社会において問題に直面したとき、どのように考え、答えを出すか、その実践的な方法を学ぶ学問でもある。この講義では、教科書、参考書として扱う書物に書かれている様々な事例をもとに、倫理学的に考えるとはどのようなことか、問題を整理して、複数の観点の論理や対立構造を理解したうえで、自分自身で理由に基づいた議論を構築し、答えを出す、実践的な力を養う。

授業の到達目標

倫理学の知識や理論、枠組みが、実際にどのような場面で実践され得るのかということを、教科書として扱う書物に書かれている事例を元にして学ぶ。実際に起きた事例や、様々な思考実験を題材として、倫理学の様々な考え方を通すとどのように考えられ、答えられるのか、自らの道徳的直観だけでなく、理由と論理に基づいて考える力を養うことを目標とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之

授業方法

教科書として指定する書籍を読み進め、受講者のコメント発表、ディスカッションなどを行う。指定教科書は初回授業までに準備して持参すること。

授業内容

毎回、教科書の指定した箇所を読み進め、担当を割り振り、発表やディスカッションなどを行う。

成績評価の方法

評価 : 評価 : レポート 30% ・ その他(発表やコメントの内容など、授業への参加度) 70%

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

教科書の各回の該当箇所を各自で事前に読了しておくこと。

教科書

児玉聡『実践・倫理学』勁草書房(2020 年)

参考書
毎回の授業で参考文献を紹介する。
履修上の注意事項
原則3分の2以上の出席が必要。教科書は必ず各自で準備し、毎回持参すること。
備考
キーワード:応用倫理学

時間割番号	004606				
科目名	教養基礎セミナー(倫理学を現実に照らして考える)前半 2 講 大賀			科目 ID	
担当教員	大賀 祐樹[OGA Yuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表)1-2 社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表)1-5 人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表)1-7 人間の心への理解を深める

別表)1-9 市民としての倫理観を養う

別表)5-1ELSI を認知し、その重要性を理解する

別表)5-2ELSI を分析・評価する視座・方法論を獲得する

授業の目的、概要等

倫理学とは、概念や理論を学ぶと同時に、自分の人生や社会において問題に直面したとき、どのように考え、答えを出すか、その実践的な方法を学ぶ学問でもある。この講義では、教科書、参考書として扱う書物に書かれている様々な事例をもとに、倫理学的に考えるとはどのようなことか、問題を整理して、複数の観点の論理や対立構造を理解したうえで、自分自身で理由に基づいた議論を構築し、答えを出す、実践的な力を養う。

授業の到達目標

倫理学の知識や理論、枠組みが、実際にどのような場面で実践され得るのかということを、教科書として扱う書物に書かれている事例を元にして学ぶ。実際に起きた事例や、様々な思考実験を題材として、倫理学の様々な考え方を通すとどのように考えられ、答えられるのか、自らの道徳的直観だけでなく、理由と論理に基づいて考える力を養うことを目標とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之

授業方法

教科書として指定する書籍を読み進め、受講者のコメント発表、ディスカッションなどを行う。指定教科書は初回授業までに準備して持参すること。

授業内容

毎回、教科書の指定した箇所を読み進め、担当を割り振り、発表やディスカッションなどを行う。

成績評価の方法

評価 : 評価 : レポート 30% ・ その他(発表やコメントの内容など、授業への参加度) 70%

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

教科書の各回の該当箇所を各自で事前に読了しておくこと。

教科書

児玉聡『実践・倫理学』勁草書房(2020 年)

参考書
毎回の授業で参考文献を紹介する。
履修上の注意事項
原則3分の2以上の出席が必要。教科書は必ず各自で準備し、毎回持参すること。
備考
キーワード:応用倫理学

時間割番号	004607				
科目名	教養基礎セミナー(哲学の原典を直接読む)後半 1 講 大賀			科目 ID	
担当教員	大賀 祐樹[OGA Yuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表 1-6)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

哲学の原典である書籍を実際に読み進める。独力でいきなり読んでも理解できないかもしれないが、ゆっくりとしたペースで、受講者で協力して熟読し、議論を行い、解説を加えることで、理解を深められるようにする。難しい哲学書と向き合い、直接読み解く力を養う。

授業の到達目標

難しい哲学書をしっかりと読み通し、内容と向き合って、理解できるようになるための訓練を行い、その力を習得することを目標とする。内容を理解できずとも、哲学書の原典の表現に直接触れて、哲学の思考に直に触れる体験をすることも目的となる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		大賀 祐樹, 奈良 雅之

授業方法

教科書として指定する書籍を読み進め、受講者のコメント発表、ディスカッションなどを行う。指定教科書は初回授業までに準備して持参すること。

授業内容

毎回、教科書の指定した箇所を読み進め、担当を割り振り、発表やディスカッションなどを行う。

成績評価の方法

評価 : 評価 : レポート 30% ・ その他(発表やコメントの内容など、授業への参加度) 70%

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

教科書の各回の該当箇所を各自で事前に読了しておくこと。

教科書

ハイデガー『存在と時間(1)』岩波文庫、熊野純彦訳(2013 年)

参考書

毎回の授業で参考文献を紹介する。

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上の出席が必要。教科書は必ず各自で準備し、毎回持参すること。

備考

キーワード:存在論、現象学

時間割番号	004608				
科目名	教養基礎セミナー(哲学の原典を直接読む)後半 2 講 大賀			科目 ID	
担当教員	大賀 祐樹[OGA Yuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

別表 1-6)人間の心への理解を深める

授業の目的、概要等

哲学の原典である書籍を実際に読み進める。独力でいきなり読んでも理解できないかもしれないが、ゆっくりとしたペースで、受講者で協力して熟読し、議論を行い、解説を加えることで、理解を深められるようにする。難しい哲学書と向き合い、直接読み解く力を養う。

授業の到達目標

難しい哲学書をしっかりと読み通し、内容と向き合って、理解できるようになるための訓練を行い、その力を習得することを目標とする。内容を理解できずとも、哲学書の原典の表現に直接触れて、哲学の思考に直に触れる体験をすることも目的となる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		大賀 祐樹, 奈良 雅之

授業方法

教科書として指定する書籍を読み進め、受講者のコメント発表、ディスカッションなどを行う。指定教科書は初回授業までに準備して持参すること。

授業内容

毎回、教科書の指定した箇所を読み進め、担当を割り振り、発表やディスカッションなどを行う。

成績評価の方法

評価 : 評価 : レポート 30% ・ その他(発表やコメントの内容など、授業への参加度) 70%

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

教科書の各回の該当箇所を各自で事前に読了しておくこと。

教科書

ハイデガー『存在と時間(1)』岩波文庫、熊野純彦訳(2013 年)

参考書

毎回の授業で参考文献を紹介する。

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上の出席が必要。教科書は必ず各自で準備し、毎回持参すること。

備考

キーワード:存在論、現象学

時間割番号	004609				
科目名	教養基礎セミナー(現代社会と科学主義)前半 1 講 徳久			科目 ID	
担当教員	徳久 美生子[TOKUHISA Mioko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2-4) 自己問題提起解決型学習方法を身につける

3-3) チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける

授業の目的、概要等

変化を続ける現代社会を生き抜くことは、簡単ではありません。何が正解であるか分からず、正しさの基準も人それぞれです。この授業では、正解を選ぶ基準が溶解したかに見える現代社会にあって、科学的知見や科学的方法を用いて社会問題を分析することはできるのかを受講生の皆さんと一緒に考えます。

はじめにそれぞれの受講生に関心がある社会問題を出してもらいます。授業内で関連するデータや資料を調べ、AI の回答と比較します。その上で自分たちの調べ方やデータを検証し、現代社会を人の視点で客観的で科学的に分析することの現代的意義について話し合います。

授業の到達目標

① 現代社会にどのような社会問題があるのかを学ぶ(知識の取得)

② 社会問題を論理・実証的に分析する科学的手法を学ぶ(実践力の取得)

③ 現代の社会問題を論理・実証的な方法で科学的に分析すること(科学主義)の意義を提案できるようになる(提案力の取得)

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之

授業方法

ゼミ形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションやプレゼンテーションなども行う予定です。

授業内容

1. ガイダンス:現代社会を生きるとは
2. 関心のある社会問題を出し合う
3. 社会問題を分析する1(現状を知る)
4. 社会問題を分析する2(データ分析の手法を学ぶ)
5. 社会問題を分析する3(データを用いて分析する)
6. (オンライン授業)社会問題の現場を体験して
7. 社会問題の分析を検証する(AIとの比較)
8. まとめ:社会問題を科学的に分析することの意味と意義を考える

成績評価の方法

評価 : レポート 60 % ・ その他(発表と討論) 40 % セミナー形式の授業であり、授業への参加度を重視します。

再評価: 有(再評価方法)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内での議論を振り返り、自分の意見をまとめて次の授業に臨んでください。

教科書

指定なし

授業内で取り上げる文献や映像に関するプリントを配布します。

参考書

チェ・ウンスク 2024『「ふつう」の私たちが、誰かの人権を奪うとき』金みょんじょん訳、平凡社

池田喬 2025『「嘘をつく」とはどういうことか』ちくまプリマー新書

他授業内で随時紹介していきます。

履修上の注意事項

単位取得には、3 分の 2 以上の出席が必要です。学外講師の都合により日程が変更になることがあります。本講義では、生成系 AI の使用を認めます。ただし、課題等の作成において、AI が生成した文章や回答をそのまま流用することは禁止します。

備考

キーワード:社会問題・マイノリティ・差別

時間割番号	004610				
科目名	教養基礎セミナー(現代社会と科学主義)前半 2 講　徳久			科目 ID	
担当教員	徳久　美生子[TOKUHISA Mioko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜　2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2-4)自己問題提起解決型学習方法を身につける

3-3)チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける

授業の目的、概要等

変化を続ける現代社会を生き抜くことは、簡単ではありません。何が正解であるか分からず、正しさの基準も人それぞれです。この授業では、正解を選ぶ基準が溶解したかに見える現代社会にあって、科学的知見や科学的方法を用いて社会問題を分析することはできるのかを受講生の皆さんと一緒に考えます。

はじめにそれぞれの受講生に関心がある社会問題を出してもらいます。授業内で関連するデータや資料を調べ、AI の回答と比較します。その上で自分たちの調べ方やデータを検証し、現代社会を人の視点で客観的で科学的に分析することの現代的意義について話し合います。

授業の到達目標

① 現代社会にどのような社会問題があるのかを学ぶ(知識の取得)

② 社会問題を論理・実証的に分析する科学的手法を学ぶ(実践力の取得)

③ 現代の社会問題を論理・実証的な方法で科学的に分析すること(科学主義)の意義を提案できるようになる(提案力の取得)

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之

授業方法

ゼミ形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションやプレゼンテーションなども行う予定です。

授業内容

1. ガイダンス:現代社会を生きるとは
2. 関心のある社会問題を出し合う
3. 社会問題を分析する1(現状を知る)
4. 社会問題を分析する2(データ分析の手法を学ぶ)
5. 社会問題を分析する3(データを用いて分析する)
6. (オンライン授業)社会問題の現場を体験して
7. 社会問題の分析を検証する(AI との比較)
8. まとめ:社会問題を科学的に分析することの意味と意義を考える

成績評価の方法

評価 :　レポート　　60% ・ その他(　発表と討論　)　　40 %　セミナー形式の授業であり、授業への参加度を重視します。

再評価:　有(再評価方法)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内での議論を振り返り、自分の意見をまとめて次の授業に臨んでください。

教科書

指定なし

授業内で取り上げる文献や映像に関するプリントを配布します。

参考書

チェ・ウンスク 2024『「ふつう」の私たちが、誰かの人権を奪うとき』金みょんじょん訳、平凡社

池田喬 2025『「嘘をつく」とはどういうことか』ちくまプリマー新書

他授業内で随時紹介していきます。

履修上の注意事項

単位取得には、3 分の 2 以上の出席が必要です。学外講師の都合により日程が変更になることがあります。本講義では、生成系 AI の使用を認めます。ただし、課題等の作成において、AI が生成した文章や回答をそのまま流用することは禁止します。

備考

キーワード:社会問題・マイノリティ・差別

時間割番号	004611				
科目名	教養基礎セミナー(平和な「社会」と科学主義)後半 1 講 徳久			科目 ID	
担当教員	徳久 美生子[TOKUHISA Mioko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間: 水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1−10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2−4)自己問題提起解決型学習方法を身につける

3−3)チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける

授業の目的、概要等

多くの人々は戦争のない平和な「社会」を望んでいると思いますが、より広い意味では戦争がないことだけが平和とは言えないでしょう。明日食べる物がない人たちが置かれた状況も平和とは言えないからです。それでは平和な「社会」とはどのような「社会」でしょうか。私たちが生きている「社会」は平和だと言えるでしょうか。

この授業では、グループワークを通して平和な「社会」とはどのような状態を言うのかを話し合います。その上で自分たちが抱く平和な「社会」を実現するために、ひとりひとりには何ができるのかを考えます。

授業の到達目標

① 平和な「社会」とはどのような「社会」なのかを自分の言葉で説明できるようになる(思考力の取得)

② 自分が考える平和な「社会」の実現に、自分たちは何ができるのかを提案できるようになる(提案力の取得)

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		徳久 美生子, 奈良 雅之

授業方法

ゼミ形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションやプレゼンテーションなども行う予定です。

授業内容

1. ガイダンス:平和はどう考えられているか
2. 平和な「社会」とは(グループワーク)
3. 平和ではない「社会」の現状を知る
4. 外部講師を予定:被爆体験を伝える
5. 平和ではない「社会」とは(グループワーク)
6. 未来の平和を構想する
7. まとめ:未来の平和に対して何ができるのか考える

成績評価の方法

評価 : レポート 60% ・ その他(発表と討論)40 % セミナー形式の授業であり、授業への参加度を重視します。

再評価: 有(再評価方法)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内での議論を振り返り、自分の意見をまとめて次の授業に臨んでください。

教科書

指定なし

授業内で取り上げる文献や映像に関するプリントを配布します

参考書

三浦英之 2025『1945 最後の秘密』集英社

辻田真左憲 2023『戦前の正体』講談社現代新書

他授業内で随時紹介していきます

履修上の注意事項

単位取得には、3 分の 2 以上の出席が必要です。学外講師の都合により日程が変更になることがあります。本講義では、生成系 AI の使用を認めます。ただし、課題等の作成において、AI が生成した文章や回答をそのまま流用することは禁止します。

備考

キーワード:戦争・平和・貧困

時間割番号	004612				
科目名	教養基礎セミナー(平和な「社会」と科学主義)後半 2 講　徳久			科目 ID	
担当教員	徳久　美生子[TOKUHISA Mioko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜　2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2-4)自己問題提起解決型学習方法を身につける

3-3)チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける

授業の目的、概要等

多くの人々は戦争のない平和な「社会」を望んでいると思いますが、より広い意味では戦争がないことだけが平和とは言えないでしょう。明日食べる物がない人たちが置かれた状況も平和とは言えないからです。それでは平和な「社会」とはどのような「社会」でしょうか。私たちが生きている「社会」は平和だと言えるでしょうか。

この授業では、グループワークを通して平和な「社会」とはどのような状態を言うのかを話し合います。その上で自分たちが抱く平和な「社会」を実現するために、ひとりひとりには何ができるのかを考えます。

授業の到達目標

① 平和な「社会」とはどのような「社会」なのかを自分の言葉で説明できるようになる(思考力の取得)

② 自分が考える平和な「社会」の実現に、自分たちは何ができるのかを提案できるようになる(提案力の取得)

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		徳久　美生子, 奈良　雅之

授業方法

ゼミ形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションやプレゼンテーションなども行う予定です。

授業内容

1. ガイダンス:平和はどう考えられているか
2. 平和な「社会」とは(グループワーク)
3. 平和ではない「社会」の現状を知る
4. 外部講師を予定:被爆体験を伝える
5. 平和ではない「社会」とは(グループワーク)
6. 未来の平和を構想する
7. まとめ:未来の平和に対して何ができるのか考える

成績評価の方法

評価　:　レポート 60%　・　その他(発表と討論)　40%　セミナー形式の授業であり、授業への参加度を重視します。

再評価:　有(再評価方法)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内での議論を振り返り、自分の意見をまとめて次の授業に臨んでください。

教科書

指定なし

授業内で取り上げる文献や映像に関するプリントを配布します

参考書

三浦英之 2025『1945 最後の秘密』集英社

辻田真左憲 2023『戦前の正体』講談社現代新書

他授業内で随時紹介していきます

履修上の注意事項

単位取得には、3 分の 2 以上の出席が必要です。学外講師の都合により日程が変更になることがあります。本講義では、生成系 AI の使用を認めます。ただし、課題等の作成において、AI が生成した文章や回答をそのまま流用することは禁止します。

備考

キーワード:戦争・平和・貧困

時間割番号	004613				
科目名	教養基礎セミナー(愛から考える現代社会)前半 1 講 面			科目 ID	
担当教員	面 一也[OMOTE Kazuya]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 1 講

募集人数: 10 人程度

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2), 1-5), 1-7), 1-8), 1-9), 3-4), 3-5), 3-6)

授業の目的、概要等

本授業では、現代の古典にして世界的なロングセラーでもある、エーリッヒ・フロムの代表作の精読を通して、愛の視座から現代社会のあり方について考察する。

フロムによると、愛は現代社会において崩壊してしまい、成り立たなくなっている。人びとが「愛」という言葉で意味するものは、愛ではなくむしろ依存にすぎない。西洋では、「愛」という言葉は、ときに「友愛」(友情)とも訳されるように、恋愛だけではなく、より広い意味合いをもつ。依存は一種の心理的な服従であるから、私たち現代人は、恋愛や友情が成立しない社会で、支配-服従関係のうちに生きることになる。病理的な例としては、恋愛がドメスティック・バイオレンスに、親子愛が過干渉や虐待に、さらには社会全体が暴力装置になり果てる、等々。なおフロム自身も、ヒトラーの独裁支配に直面したユダヤ系ドイツ人(亡命知識人)である。

本授業では、なぜ現代社会がこのような性質のものになったのか、また、どのようにしたら(あるいは、そもそも)社会のあり方を変えることができるのか、といった問いを中心に議論を進めたい。授業はセミナー形式で行なわれるため、問題意識の旺盛な学生の積極的な発言が歓迎される。

授業の到達目標

愛に関するフロムの議論を正確に理解する。

愛が崩壊した現代社会の問題点を的確に理解する。

今後の社会のあり方について、批判的に考察する力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之

授業方法

セミナー形式。アクティヴ・ラーニングとして、分担箇所のレジュメの作成と発表、および毎授業時における議論への参加が求められる。

授業内容

1 ガイダンス

2 はじめに

第一章 愛は技術か

3 第二章 愛の理論

1 愛、それは人間の実存の問題にたいする答え (前半)

4 第二章 1 (後半)

5 第二章 2 親子の愛

3 愛の対象

ａ 友愛
ｂ 母性愛
ｃ 恋愛
6 第二章 ３ ｄ 自己愛
ｅ 神への愛
7 第三章 愛と現代西洋社会におけるその崩壊
8 第四章 愛の習練

成績評価の方法

評価 ： レポート（レジュメ発表） 50% ・ その他(議論への参加) 50% ※セミナー形式の授業であるため、授業への参加度を重視する。
再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習として教科書(各回分)の事前読了を求める。予習には 60 分～90 分かかると想定される。授業時の議論の準備を兼ねて、自分で抱いた感想や考察などを、簡単にメモに残しておくとよいだろう。また、復習は次の授業の土台になるため、次回までに済ませると理想的である。

教科書

エーリッヒ・フロム著、鈴木晶訳『愛するということ』紀伊國屋書店、2020 年(改訳・新装版)。

参考書

授業時に適宜指示する。

履修上の注意事項

出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先させる 。

時間割番号	004614				
科目名	教養基礎セミナー(愛から考える現代社会)前半 2 講 面			科目 ID	
担当教員	面 一也[OMOTE Kazuya]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2 講

募集人数: 10 人程度

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2), 1-5), 1-7), 1-8), 1-9), 3-4), 3-5), 3-6)

授業の目的、概要等

本授業では、現代の古典にして世界的なロングセラーでもある、エーリッヒ・フロムの代表作の精読を通して、愛の視座から現代社会のあり方について考察する。

フロムによると、愛は現代社会において崩壊してしまい、成り立たなくなっている。人びとが「愛」という言葉で意味するものは、愛ではなくむしろ依存にすぎない。西洋では、「愛」という言葉は、ときに「友愛」(友情)とも訳されるように、恋愛だけではなく、より広い意味合いをもつ。依存は一種の心理的な服従であるから、私たち現代人は、恋愛や友情が成立しない社会で、支配―服従関係のうちに生きることになる。病理的な例としては、恋愛がドメスティック・バイオレンスに、親子愛が過干渉や虐待に、さらには社会全体が暴力装置になり果てる、等々。なおフロム自身も、ヒトラーの独裁支配に直面したユダヤ系ドイツ人(亡命知識人)である。

本授業では、なぜ現代社会がこのような性質のものになったのか、また、どのようにしたら(あるいは、そもそも)社会のあり方を変えることができるのか、といった問いを中心に議論を進めたい。授業はセミナー形式で行なわれるため、問題意識の旺盛な学生の積極的な発言が歓迎される。

授業の到達目標

愛に関するフロムの議論を正確に理解する。

愛が崩壊した現代社会の問題点を的確に理解する。

今後の社会のあり方について、批判的に考察する力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之

授業方法

セミナー形式。アクティヴ・ラーニングとして、分担箇所のレジュメの作成と発表、および毎授業時における議論への参加が求められる。

授業内容

1 ガイダンス

2 はじめに

第一章 愛は技術か

3 第二章 愛の理論

1 愛、それは人間の実存の問題にたいする答え (前半)

4 第二章 1 (後半)

5 第二章 2 親子の愛

3 愛の対象

ａ 友愛
ｂ 母性愛
ｃ 恋愛
6 第二章 ３ ｄ 自己愛
ｅ 神への愛
7 第三章 愛と現代西洋社会におけるその崩壊
8 第四章 愛の習練

成績評価の方法

評価 ： レポート（レジュメ発表） 50% ・ その他(議論への参加) 50% ※セミナー形式の授業であるため、授業への参加度を重視する。
再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習として教科書(各回分)の事前読了を求める。予習には 60 分～90 分かかると想定される。授業時の議論の準備を兼ねて、自分で抱いた感想や考察などを、簡単にメモに残しておくとよいだろう。また、復習は次の授業の土台になるため、次回までに済ませると理想的である。

教科書

エーリッヒ・フロム著、鈴木晶訳『愛するということ』紀伊國屋書店、2020 年(改訳・新装版)。

参考書

授業時に適宜指示する。

履修上の注意事項

出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先させる 。

時間割番号	004615				
科目名	教養基礎セミナー(G･オーウェル『動物農場』を通してデモクラシーを考える)後半 1 講 面			科目 ID	
担当教員	面 一也[OMOTE Kazuya]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日･時間:水曜 1 講

募集人数: 10 人程度

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2), 1-5), 1-7), 1-8), 1-9), 3-4), 3-5), 3-6)

授業の目的、概要等

第二次世界大戦が終わる頃、イギリスの作家ジョージ･オーウェルは、ナチス･ドイツの敗北を受けて、デモクラシーの勝利を楽観的に論じる大半の知識人層とちがって、形を変えたもっと恐ろしい未来がやって来るのではないか、と案じていた。プロパガンダや世論操作によって、人びとの心の内面までもが権力に支配された、デモクラシーとは名ばかりの統制国家が到来するのではないか、と。それから半世紀以上が経ち、とりわけ先進国と呼ばれる国々が、オーウェル的世界に近づいている、としばしば指摘される。

本授業では、以上のような問題意識のもとに書かれた、オーウェルの名著『動物農場』を読み解きながら、デモクラシーの現状と、その未来のあり方について考察していく。授業はセミナー形式で行なわれるため、問題意識の旺盛な学生の積極的な発言が歓迎される。

授業の到達目標

1. G･オーウェル『動物農場』を正確に理解する。
2. デモクラシーの現状について、とくにその問題点を的確に理解する。
3. デモクラシーの未来のあり方について、批判的に考察する力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		面 一也, 奈良 雅之

授業方法

セミナー形式。アクティヴ･ラーニングとして、分担箇所のレジュメの作成と発表、および毎授業時における議論への参加が求められる。

授業内容

1 ガイダンス

2 『動物農場』第 1･2･3 章

3 同、第 4･5･6 章

4 同、第 7･8 章

5 同、第 9･10 章

6 報道の自由:『動物農場』序文案

7 『動物農場』ウクライナ語版への序文

成績評価の方法

評価 : レポート (レジュメ発表) 50% ・ その他(議論への参加) 50% ※セミナー形式の授業であるため、授業への参加度を重視する。

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習として教科書(各回分)の事前読了を求める。予習には 60 分～90 分かかると想定される。授業時の議論の準備を兼ねて、自分で抱いた感想や考察などを、簡単にメモに残しておくとよいだろう。また、復習は次の授業の土台になるため、次回までに済ませると理想的である。

教科書

ジョージ・オーウェル著、山形浩生訳『動物農場〔新訳版〕』早川書房(ハヤカワ epi 文庫)、2017 年。

参考書

授業時に適宜指示する。

履修上の注意事項

出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先させる 。

時間割番号	004616				
科目名	教養基礎セミナー(G･オーウェル『動物農場』を通してデモクラシーを考える)後半2講 面			科目 ID	
担当教員	面 一也[OMOTE Kazuya]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日･時間:水曜 2 講

募集人数: 10 人程度

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2), 1-5), 1-7), 1-8), 1-9), 3-4), 3-5), 3-6)

授業の目的、概要等

第二次世界大戦が終わる頃、イギリスの作家ジョージ･オーウェルは、ナチス･ドイツの敗北を受けて、デモクラシーの勝利を楽観的に論じる大半の知識人層とちがって、形を変えたもっと恐ろしい未来がやって来るのではないか、と案じていた。プロパガンダや世論操作によって、人びとの心の内面までもが権力に支配された、デモクラシーとは名ばかりの統制国家が到来するのではないか、と。それから半世紀以上が経ち、とりわけ先進国と呼ばれる国々が、オーウェル的世界に近づいている、としばしば指摘される。

本授業では、以上のような問題意識のもとに書かれた、オーウェルの名著『動物農場』を読み解きながら、デモクラシーの現状と、その未来のあり方について考察していく。授業はセミナー形式で行なわれるため、問題意識の旺盛な学生の積極的な発言が歓迎される。

授業の到達目標

1. G･オーウェル『動物農場』を正確に理解する。
2. デモクラシーの現状について、とくにその問題点を的確に理解する。
3. デモクラシーの未来のあり方について、批判的に考察する力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		面 一也, 奈良 雅之

授業方法

セミナー形式。アクティヴ･ラーニングとして、分担箇所のレジュメの作成と発表、および毎授業時における議論への参加が求められる。

授業内容

1 ガイダンス

2 『動物農場』第 1･2･3 章

3 同、第 4･5･6 章

4 同、第 7･8 章

5 同、第 9･10 章

6 報道の自由:『動物農場』序文案

7 『動物農場』ウクライナ語版への序文

成績評価の方法

評価 : レポート (レジュメ発表) 50% ・ その他(議論への参加) 50% ※セミナー形式の授業であるため、授業への参加度を重視する。

再評価: 有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習として教科書(各回分)の事前読了を求める。予習には 60 分～90 分かかると想定される。授業時の議論の準備を兼ねて、自分で抱いた感想や考察などを、簡単にメモに残しておくとよいだろう。また、復習は次の授業の土台になるため、次回までに済ませると理想的である。

教科書

ジョージ・オーウェル著、山形浩生訳『動物農場〔新訳版〕』早川書房(ハヤカワ epi 文庫)、2017 年。

参考書

授業時に適宜指示する。

履修上の注意事項

出欠管理システムより教員自身が取る出欠を優先させる 。

時間割番号	004617				
科目名	教養基礎セミナー(憲法と人権)前半1講　飛田			科目ID	
担当教員	飛田　綾子[TOBITA Ayako]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1.市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と完成

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する。

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る。

授業の目的、概要等

制定から 80 年近く経っても一度も改正されない日本国憲法について、みなさんはどのようにお考えでしょうか。改正の必要性を考えるために、まずは憲法の中身、特に権利として何が保障されているのか考えてみませんか。憲法とは法の元締めのような存在です。したがって憲法に関する知識を学ぶことは、現代社会で生きる自分自身のためになります。

この授業では憲法が保障する「基本的人権」を説明します。具体的には、死刑制度、生活保護に関連する生存権や、ジェンダーに関連する法の下の平等、報道の自由をめぐる表現の自由の問題を取り上げます。適宜みんなで意見交換をしようと思います。

授業の到達目標

① 日本国憲法が保障している権利の内容や裁判についての基本的知識を説明できる。

② 権利に関する問題を考察し、積極的に討論できるようになる。

③ 脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之

授業方法

教員が作成したレジュメをもとに、講義形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、具体的問題をグループでディスカッションし、ワークシートに記入する機会を適宜設ける予定です。

授業内容

第 1 回　ガイダンス・ 人身の自由(死刑制度について)ガイダンスののち、さっそく「死刑制度」について考えてみます。

第 2 回 経済的自由(憲法が想定している経済活動)前科のある人への居住制限や経済活動への規制緩和の是非を考えてみます。

第 3 回　　社会権(広く社会保障について)社会保障の存在意義などを考えてみます。

第 4 回　　信教の自由(内心の自由への保障の意味。国家による戦争犠牲者の追悼のあり方)信教の自由への制限のあり方)「内心の自由」の意味するものとは何か考えてみましょう。

第 5 回　　表現の自由(猥褻物や扇動的表現の規制の是非など)不快な表現を禁止することは当たり前でしょうか。一から考えてみましょう。

第 6 回　　幸福追求権(プライバシーの範囲) 自分の過去がネットに残っている場合、削除は認められるのでしょうか。

第 7 回　　法の下の平等(民法の規定する夫婦同姓の規定や、同性婚が認められていない状況について)最高裁の判断も注目しながら、考えてみましょう。

第 8 回　　まとめ:憲法の思想的基盤である「立憲主義」について考えてみます。

成績評価の方法

評価 ： レポート 40% ・ その他(授業への参加度・リアクションペーパー 、小テスト) 60%
再評価: 有(再評価方法:レポート提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習・復習として、レジュメを読み直し、授業内容を確認すること。特に復習に重点をおくこと。国内外をとわず、政治・社会問題も含めたあらゆるニュースに敏感になり、そうしたニュースと憲法や法律全般との関係を考える習慣を身につけて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

神野潔編著『教養としての憲法入門』(弘文堂、2016 年) 松本和彦『事例問題から考える憲法』(有斐閣、2018 年)。参考書は適宜、紹介します。

履修上の注意事項

① 出欠管理システムの記録より教員の出欠調査を優先します。 ② 原則として出席回数が3分の2以上を満たさないと、レポート提出資格を得られません。 ③ 遅刻 3 回で欠席 1 回とカウントします。長時間の離席や、他の授業の課題を行なっている等、教員が「授業を受けていない」と判断した学生は欠席扱いにします。 ④ 授業中の教員の発言は積極的にメモを取ってください。 ⑤ AI の使用は禁止しません。ただし使用した場合は、プロンプトも併せて使用情報を必ず伝えること。

備考

キーワード:憲法、正義、立憲主義、民主主義、基本的人権

時間割番号	004618				
科目名	教養基礎セミナー(憲法と人権)前半2講　飛田			**科目ID**	
担当教員	飛田　綾子[TOBITA Ayako]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:　水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1.市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と完成

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する。

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る。

授業の目的、概要等

制定から 80 年近く経っても一度も改正されない日本国憲法について、みなさんはどのようにお考えでしょうか。改正の必要性を考えるために、まずは憲法の中身、特に権利として何が保障されているのか考えてみませんか。憲法とは法の元締めのような存在です。したがって憲法に関する知識を学ぶことは、現代社会で生きる自分自身のためになります。

この授業では憲法が保障する「基本的人権」を説明します。具体的には、死刑制度、生活保護に関連する生存権や、ジェンダーに関連する法の下の平等、報道の自由をめぐる表現の自由の問題を取り上げます。適宜みんなで意見交換をしようと思います。

授業の到達目標

① 日本国憲法が保障している権利の内容や裁判についての基本的知識を説明できる。

② 権利に関する問題を考察し、積極的に討論できるようになる。

③ 脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		飛田 綾子, 奈良 雅之

授業方法

教員が作成したレジュメをもとに、講義形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、具体的問題をグループでディスカッションし、ワークシートに記入する機会を適宜設ける予定です。

授業内容

第 1 回　ガイダンス・ 人身の自由(死刑制度について)ガイダンスののち、さっそく「死刑制度」について考えてみます。

第 2 回　経済的自由(憲法が想定している経済活動)前科のある人への居住制限や経済活動への規制緩和の是非を考えてみます。

第 3 回　　社会権(広く社会保障について)社会保障の存在意義などを考えてみます。

第 4 回　　信教の自由(内心の自由への保障の意味。国家による戦争犠牲者の追悼のあり方)信教の自由への制限のあり方)「内心の自由」の意味するものとは何か考えてみましょう。

第 5 回　　表現の自由(猥褻物や扇動的表現の規制の是非など)不快な表現を禁止することは当たり前でしょうか。一から考えてみましょう。

第 6 回　　幸福追求権(プライバシーの範囲)　自分の過去がネットに残っている場合、削除は認められるのでしょうか。

第 7 回　　法の下の平等(民法の規定する夫婦同姓の規定や、同性婚が認められていない状況について)最高裁の判断も注目しながら、考えてみましょう。

第 8 回　　まとめ:憲法の思想的基盤である「立憲主義」について考えてみます。

成績評価の方法

評価 ： レポート 40% ・ その他(授業への参加度・リアクションペーパー 、小テスト) 60%
再評価: 有(再評価方法:レポート提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習・復習として、レジュメを読み直し、授業内容を確認すること。特に復習に重点をおくこと。国内外をとわず、政治・社会問題も含めたあらゆるニュースに敏感になり、そうしたニュースと憲法や法律全般との関係を考える習慣を身につけて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

神野潔編著『教養としての憲法入門』(弘文堂、2016 年) 松本和彦『事例問題から考える憲法』(有斐閣、2018 年)。参考書は適宜、紹介します。

履修上の注意事項

① 出欠管理システムの記録より教員の出欠調査を優先します。 ② 原則として出席回数が3分の2以上を満たさないと、レポート提出資格を得られません。 ③ 遅刻 3 回で欠席 1 回とカウントします。長時間の離席や、他の授業の課題を行なっている等、教員が「授業を受けていない」と判断した学生は欠席扱いにします。 ④ 授業中の教員の発言は積極的にメモを取ってください。 ⑤ AI の使用は禁止しません。ただし使用した場合は、プロンプトも併せて使用情報を必ず伝えること。

備考

キーワード:憲法、正義、立憲主義、民主主義、基本的人権

時間割番号	004619				
科目名	教養基礎セミナー(憲法と政治)制度後半1講　飛田			科目ID	
担当教員	飛田　綾子[TOBITA Ayako]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜１講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1.市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と完成

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する。

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る。

授業の目的、概要等

近年憲法改正の必要が特に叫ばれています。自衛隊の活動範囲の拡大の是非や、内閣の権限強化の必要性など、議論は多岐にわたっています。こうした中で、憲法改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要です。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定しています。こうした機関が持つ権限や相互関係のあり方は「国のあり方」の根本に関わります。この授業では、天皇制や平和主義も含めて「政治のあり方」をめぐるさまざまなテーマを、みんなで考えていきたいと思います。

授業の到達目標

① 日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法９条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について考察し、討論できる。

② 現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。

③ 各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。

④ 脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		飛田 綾子, 奈良 雅之

授業方法

教員が作成したレジュメをもとに、講義形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、具体的問題をグループでディスカッションし、ワークシートに記入する機会を適宜設ける予定です。

授業内容

第１回 ガイダンス・立憲主義・「代表」とは　ガイダンスののち、憲法の思想的基盤の立憲主義と「政治」の関係を説明します。

第２回 国会(全国民の代表の意味の吟味)国会議員の憲法上の位置付けは適切か否か、「代表」のあり方について考えてみましょう。

第３回 内閣(総理大臣の権限強化の是非)強力なリーダーシップを取るために、内閣及び総理大臣の権限強化は望ましいのか。考えてみましょう。

第４回 裁判所(憲法裁判所の導入の是非)憲法判断を積極的に行わせるために、憲法裁判所を設立することについて考えてみましょう。

第５回 平和主義・安全保障(日本の安全保障・国際貢献のあり方) 現在の政府解釈を踏まえた上で、日本の「平和主義」「安全保障」のあり方を考えてみましょう。

第６回 天皇制(皇位継承や公務のあり方) 日本国及び日本国民統合の象徴である「天皇」という存在について改めて考えてみましょう。

第７回 憲法改正(各国の憲法改正・憲法の存在意義)アメリカ、フランス、ドイツと比較しながら日本の憲法のあり方について考えてみ

ましょう。

成績評価の方法

評価 ： レポート 40% ・ その他(授業への参加度・リアクションペーパー 、小テスト) 60%

再評価: 有(再評価方法:レポート提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習・復習として、レジュメを読み直し、授業内容を確認すること。特に復習に重点をおくこと。国内外をとわず、政治・社会問題も含めたあらゆるニュースに敏感になり、そうしたニュースと憲法や法律全般との関係を考える習慣を身につけて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

神野潔編著『教養としての憲法入門』(弘文堂、2016 年)。 松本和彦『事例問題から考える憲法』(有斐閣、2018 年)。笹田英司ほか『トピックからはじめる統治制度(第 3 版)』(有斐閣、2025 年)。参考書は適宜、紹介します。

履修上の注意事項

① 出欠管理システムの記録より教員の出欠調査を優先します。 ② 原則として出席回数が3分の2以上を満たさないと、レポート提出資格を得られません。 ③ 遅刻 3 回で欠席 1 回とカウントします。長時間の離席や、他の授業の課題を行なっている等、教員が「授業を受けていない」と判断した学生は欠席扱いにします。 ④ 授業中の教員の発言は積極的にメモを取ってください。 ⑤ AI の使用は禁止しません。ただし使用した場合は、プロンプトも併せて使用情報を必ず伝えること。

備考

キーワード:憲法、立憲主義、民主主義、基本的人権、政治制度

時間割番号	004620				
科目名	教養基礎セミナー(憲法と政治)制度後半2講　飛田			科目ID	
担当教員	飛田　綾子[TOBITA Ayako]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1.市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と完成

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する。

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る。

授業の目的、概要等

近年憲法改正の必要が特に叫ばれています。自衛隊の活動範囲の拡大の是非や、内閣の権限強化の必要性など、議論は多岐にわたっています。こうした中で、憲法改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要です。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定しています。こうした機関が持つ権限や相互関係のあり方は「国のあり方」の根本に関わります。この授業では、天皇制や平和主義も含めて「政治のあり方」をめぐるさまざまなテーマを、みんなで考えていきたいと思います。

授業の到達目標

① 日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法 9 条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について考察し、討論できる。

② 現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。

③ 各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。

④ 脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		飛田　綾子, 奈良　雅之

授業方法

教員が作成したレジュメをもとに、講義形式で行います。アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、具体的問題をグループでディスカッションし、ワークシートに記入する機会を適宜設ける予定です。

授業内容

第 1 回 ガイダンス・立憲主義・「代表」とは　ガイダンスののち、憲法の思想的基盤の立憲主義と「政治」の関係を説明します。

第 2 回 国会(全国民の代表の意味の吟味)国会議員の憲法上の位置付けは適切か否か、「代表」のあり方について考えてみましょう。

第 3 回 内閣(総理大臣の権限強化の是非)強力なリーダーシップを取るために、内閣及び総理大臣の権限強化は望ましいのか。考えてみましょう。

第 4 回 裁判所(憲法裁判所の導入の是非)憲法判断を積極的に行わせるために、憲法裁判所を設立することについて考えてみましょう。

第 5 回 平和主義・安全保障(日本の安全保障・国際貢献のあり方) 現在の政府解釈を踏まえた上で、日本の「平和主義」「安全保障」のあり方を考えてみましょう。

第 6 回 天皇制(皇位継承や公務のあり方) 日本国及び日本国民統合の象徴である「天皇」という存在について改めて考えてみましょう。

第 7 回 憲法改正(各国の憲法改正・憲法の存在意義)アメリカ、フランス、ドイツと比較しながら日本の憲法のあり方について考えてみ

ましょう。

成績評価の方法

評価 ： レポート 40% ・ その他(授業への参加度・リアクションペーパー 、小テスト) 60%

再評価: 有(再評価方法:レポート提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習・復習として、レジュメを読み直し、授業内容を確認すること。特に復習に重点をおくこと。国内外をとわず、政治・社会問題も含めたあらゆるニュースに敏感になり、そうしたニュースと憲法や法律全般との関係を考える習慣を身につけて下さい。

教科書

特に指定しません。

参考書

神野潔編著『教養としての憲法入門』(弘文堂、2016 年)。 松本和彦『事例問題から考える憲法』(有斐閣、2018 年)。笹田英司ほか『トピックからはじめる統治制度(第 3 版)』(有斐閣、2025 年)。参考書は適宜、紹介します。

履修上の注意事項

① 出欠管理システムの記録より教員の出欠調査を優先します。 ② 原則として出席回数が3分の2以上を満たさないと、レポート提出資格を得られません。 ③ 遅刻 3 回で欠席 1 回とカウントします。長時間の離席や、他の授業の課題を行なっている等、教員が「授業を受けていない」と判断した学生は欠席扱いにします。 ④ 授業中の教員の発言は積極的にメモを取ってください。 ⑤ AI の使用は禁止しません。ただし使用した場合は、プロンプトも併せて使用情報を必ず伝えること。

備考

キーワード:憲法、立憲主義、民主主義、基本的人権、政治制度

時間割番号	004621				
科目名	教養基礎セミナー(子どもの権利:水と衛生)前半 1 講　三谷			科目 ID	
担当教員	三谷　純子[MITANI Junko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-4)異なる空間の文化を理解する

1-9)市民としての倫理観を養う

2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

未来を担う子どもの主体性や尊厳を尊重し、彼らの参加を含む子どもの権利の促進を図りながら持続可能な開発を目指す際に、基盤となる子どもの権利条約や制度を先ず知る。UNICEF が支援する水と衛生に焦点を当て、文化を含め様々な状況により、一律的な唯一絶対に正しい即座の解決法がない課題について、複数の視点から分析し、自分なりに考える態度を養うことを目的とする。

授業の到達目標

目標 1. 子どもの権利条約の概要、特に水と衛生に関する国際社会の子ども枠組み、SDG(持続 可能な開発目標)と子どもの権利の関係について説明できる。

目標 2. 世界の子どもの水と衛生への権利の現状と解決への取り組みについて具体例をあげ、文化と開発の複雑な関係を含め、複数の視点から説明できる。

目標 3. 議論に積極的に参加し、質問・意見を自主的に表明できる。

目標 4. 文献調査参照と発表の基礎的な技術を身に着ける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		三谷　純子, 奈良　雅之

授業方法

アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションや発表(1回)などを行う。受講人数により内容を調整することがある。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:子どもの権利条約と国連子どもの権利委員会・政府・UNICEF・保護者や子ども、市民社会等 の役割 ニーズベースから権利ベースへ

第 2 回 ユニセフのしくみ:国別プログラムサイクルアプローチ、資金の流れとパートナー(特に水と衛生関連)

第 3 回 SDGs&世界の水と衛生の現状及び開発のための広報基礎知識

第 4 回 貧しい国々の保健医療施設での水と衛生(特に手洗い)

第 5 回 家庭やコミュニティにおける水と衛生(野外排泄とトイレ、排泄物処理を巡る差別やタブー)

第 6 回 学校での水と衛生(特に生理・LGBTQ+・障碍者)

第 7 回 UNICEF と水と衛生に関する技術革新、政策と法整備

第 8 回 まとめ 水と衛生への子どもの権利促進と多様な参加・自分や若者にできること

成績評価の方法

評価　:レポート 30%・発表と回答 30%、フィードバック・ディスカッション 30%、ニュースシェアリング 10%

再評価:有(再評価方法)レポート

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、指定されたテーマのニュースや漫画・映画・TED 等を紹介しあい、実際に起きていることと学んだことを結び付けて考える。

フィードバックで復習・ミニ調査・考察を行う。

教科書

講義では、主に、UNICEF, WHO, JMP の資料を LMS で共有する

参考書

日本語(UNICEF 本部の英語の HP の方が情報は各段に多い)

●日本ユニセフ協会 https://www.unicef.or.jp/

●Wateraid 日本 https://www.wateraid.org/jp

●「ARC 平野裕二の子どもの権利国際情報サイト」https://w.atwiki.jp/childrights/

●『スフィアハンドブック 2018 人道憲章と人道支援における最低基準』の給水衛生及び衛生促進の部分

●UNESCO 国際セクシャリティ教育ガイダンス日本語訳 https://sexology.life/world/itgse/ ＊読みやすい一般向けの日本語の本 ●田島隆雄『情熱のアフリカ大陸サラヤ 消毒剤普及プジェクトの全記録』 幻冬舎 2020 年●佐藤大介『13 億人のトイレ:下からみた経済大国インド』角川新書 2020

●田中ひかる『生理用品の社会史』角川ソフィア文庫 2019 年 杉田映理他編『月経の人類学 女子生徒の生理と開発支援』世界思想社 2022年

履修上の注意事項

原則毎回出席。欠席者には、その回の加点なし。 3回以上の欠席者はレポートの提出資格を失う。 世界地理をよく知らない人は、国名付の世界地図を要常備。 受講者の人数や受講者の関心により、内容を多少変更することがある。

時間割番号	004622				
科目名	教養基礎セミナー(子どもの権利:水と衛生)前半 2 講　三谷			科目 ID	
担当教員	三谷　純子[MITANI Junko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:　水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-4)異なる空間の文化を理解する

1-9)市民としての倫理観を養う

2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

3-4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

未来を担う子どもの主体性や尊厳を尊重し、彼らの参加を含む子どもの権利の促進を図りながら持続可能な開発を目指す際に、基盤となる子どもの権利条約や制度を先ず知る。UNICEF が支援する水と衛生に焦点を当て、文化を含め様々な状況により、一律的な唯一絶対に正しい即座の解決法がない課題について、複数の視点から分析し、自分なりに考える態度を養うことを目的とする。

授業の到達目標

目標 1. 子どもの権利条約の概要、特に水と衛生に関する国際社会の子ども枠組み、SDG(持続 可能な開発目標)と子どもの権利の関係について説明できる。

目標 2. 世界の子どもの水と衛生への権利の現状と解決への取り組みについて具体例をあげ、文化と開発の複雑な関係を含め、複数の視点から説明できる。

目標 3. 議論に積極的に参加し、質問・意見を自主的に表明できる。

目標 4. 文献調査参照と発表の基礎的な技術を身に着ける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		三谷　純子, 奈良　雅之

授業方法

アクティブ・ラーニングの形式を取り入れ、グループディスカッションや発表(1回)などを行う。受講人数により内容を調整することがある。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:子どもの権利条約と国連子どもの権利委員会・政府・UNICEF・保護者や子ども、市民社会等 の役割 ニーズベースから権利ベースへ

第 2 回 ユニセフのしくみ:国別プログラムサイクルアプローチ、資金の流れとパートナー(特に水と衛生関連)

第 3 回 SDGs&世界の水と衛生の現状及び開発のための広報基礎知識

第 4 回 貧しい国々の保健医療施設での水と衛生(特に手洗い)

第 5 回 家庭やコミュニティにおける水と衛生(野外排泄とトイレ、排泄物処理を巡る差別やタブー)

第 6 回 学校での水と衛生(特に生理・LGBTQ+・障碍者)

第 7 回 UNICEF と水と衛生に関する技術革新、政策と法整備

第 8 回 まとめ 水と衛生への子どもの権利促進と多様な参加・自分や若者にできること

成績評価の方法

評価　:レポート 30%・発表と回答 30%、フィードバック・ディスカッション 30%、ニュースシェアリング 10%

再評価:有(再評価方法)レポート

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、指定されたテーマのニュースや漫画・映画・TED 等を紹介しあい、実際に起きていることと学んだことを結び付けて考える。

フィードバックで復習・ミニ調査・考察を行う。

教科書

講義では、主に、UNICEF, WHO, JMP の資料を LMS で共有する

参考書

日本語(UNICEF 本部の英語の HP の方が情報は各段に多い)

●日本ユニセフ協会 https://www.unicef.or.jp/

●Wateraid 日本 https://www.wateraid.org/jp

●「ARC 平野裕二の子どもの権利国際情報サイト」https://w.atwiki.jp/childrights/

●『スフィアハンドブック 2018 人道憲章と人道支援における最低基準』の給水衛生及び衛生促進の部分

●UNESCO 国際セクシャリティ教育ガイダンス日本語訳 https://sexology.life/world/itgse/ ＊読みやすい一般向けの日本語の本 ●田島隆雄『情熱のアフリカ大陸サラヤ 消毒剤普及プジェクトの全記録』 幻冬舎 2020 年●佐藤大介『13 億人のトイレ:下からみた経済大国インド』角川新書 2020

●田中ひかる『生理用品の社会史』角川ソフィア文庫 2019 年 杉田映理他編『月経の人類学 女子生徒の生理と開発支援』世界思想社 2022年

履修上の注意事項

原則毎回出席。欠席者には、その回の加点なし。 3回以上の欠席者はレポートの提出資格を失う。 世界地理をよく知らない人は、国名付の世界地図を要常備。 受講者の人数や受講者の関心により、内容を多少変更することがある。

時間割番号	004627				
科目名	教養基礎セミナー(映像ストーリー構成分析)前半 1 講 辻			**科目 ID**	
担当教員	辻 泰明[TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

SNS の普及によって映像によるコミュニケーションが発達し、映像特有のストーリーによる情報伝達が力を発揮しています。医療においても、人びとの心にメッセージを届けるためには、ストーリー(物語性)による情報の伝え方や受け取り方について理解することが重要です。このセミナーでは、映画・テレビ・SNS 動画などのコンテンツを視聴しながら、映像ストーリーの特性と構成について学ぶことを目的とします。

授業の到達目標

映像ストーリーによる情報伝達の特性や構成について、映画・テレビ・SNS 動画など実際の映像コンテンツに則して説明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30		第 1 回 ガイダンス ストーリー(物語性)とは何か	授業の進め方／ストーリー(物語性)の意義／映画、テレビ、SNS 動画などにおけるストーリー	辻 泰明	ストーリー(物語性)の意義について説明できる。
3-4	9/30	08:50-10:30		第 2 回 実例研究	テレビ、SNS 動画などでのストーリーについてプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映画、テレビ、SNS 動画などでのストーリーについて分析し、見解を述べることができる。
5-6	10/7	08:50-10:30		第 3 回 映像ストーリーの構成	映像コンテンツの三幕構成 ／各幕の機能 ／構成による映像コンテンツの類別	辻 泰明	ストーリーの構成要素としてのキャラクターとアクション／映像ストーリーにおける三幕構成と ACT(幕)の機能／映画、テレビ、SNS 動画などにおける三幕構成
7-8	10/14	08:50-10:30		第 4 回 実例研究	映画、テレビ、SNS 動画などでの三幕構成についてプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映画、テレビ、SNS 動画などでの三幕構成について分析し、見解を述べることができる。
9-10	10/21	08:50-10:30		第 5 回 映像コンテンツの文法	映像コンテンツの文法とストーリーの関連／フェイク動画の構成と	辻 泰明	映像コンテンツの文法とフェイクに

					ストーリー／フェイク動画のストーリーを映像の文法によって見抜く方法		ついて説明できる。
11-12	10/28	08:50-10:30		第 6 回 実例研究	映像コンテンツの文法とフェイクについて分析をプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映像コンテンツの文法とフェイクについて分析し、見解を述べることができる。
13-14	11/4	08:50-10:30		第 7 回 映像コンテンツの類別とジャンル	映像コンテンツの類別とジャンル／フィクションとノンフィクションのスペクトラム／ノンフィクションにおけるストーリーと情報の伝え方	辻 泰明	映像コンテンツの類別とジャンルにおける物語性について説明できる。
15-16	11/11	08:50-10:30		第 8 回 総括 映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方	映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方について分析をプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方について分析し、見解を述べることができる。

授業方法

この授業は、アクティブラーニングによるセミナー形式で行います。講師が解説した内容に基づいて、実際の現象を調べた結果について発表をしていただきます。

授業内容

第 1 回 ガイダンス 授業の進め方 ストーリー(物語性)とは何か
第 2 回 実例研究
第 3 回 映像ストーリーの構成
第 4 回 実例研究
第 5 回 映像コンテンツの文法
第 6 回 実例研究
第 7 回 映像コンテンツの類別とジャンル
第 8 回 総括 映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方

成績評価の方法

評価 : レポート 40% ・ その他(プレゼンテーション) 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習では、資料や動画を予めインターネット等で閲覧したり視聴したりしておいてください。

参考書

映像コンテンツ制作教程:生成 AI 活用の可能性を探る／辻 泰明:樹村房, 2026.3

履修上の注意事項

三分の二以上の出席が必要です。 出欠管理システムよりも、教員自身が取る出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	004628				
科目名	教養基礎セミナー(映像ストーリー構成分析)前半 2 講 辻			科目 ID	
担当教員	辻 泰明[TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

SNS の普及によって映像によるコミュニケーションが発達し、映像特有のストーリーによる情報伝達が力を発揮しています。医療においても、人びとの心にメッセージを届けるためには、ストーリー(物語性)による情報の伝え方や受け取り方について理解することが重要です。このセミナーでは、映画・テレビ・SNS 動画などのコンテンツを視聴しながら、映像ストーリーの特性と構成について学ぶことを目的とします。

授業の到達目標

映像ストーリーによる情報伝達の特性や構成について、映画・テレビ・SNS 動画など実際の映像コンテンツに則して説明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25		第 1 回 ガイダンス ストーリー(物語性)とは何か	授業の進め方／ストーリー(物語性)の意義／映画、テレビ、SNS 動画などにおけるストーリー	辻 泰明	ストーリー(物語性)の意義について説明できる。
3-4	9/30	10:45-12:25		第 2 回 実例研究	テレビ、SNS 動画などでのストーリーについてプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映画、テレビ、SNS 動画などでのストーリーについて分析し、見解を述べることができる。
5-6	10/7	10:45-12:25		第 3 回 映像ストーリーの構成	映像コンテンツの三幕構成 ／各幕の機能 ／構成による映像コンテンツの類別	辻 泰明	ストーリーの構成要素としてのキャラクターとアクション／映像ストーリーにおける三幕構成と ACT(幕)の機能／映画、テレビ、SNS 動画などにおける三幕構成
7-8	10/14	10:45-12:25		第 4 回 実例研究	映画、テレビ、SNS 動画などでの三幕構成についてプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映画、テレビ、SNS 動画などでの三幕構成について分析し、見解を述べることができる。
9-10	10/21	10:45-12:25		第 5 回 映像コンテンツの文法	映像コンテンツの文法とストーリーの関連／フェイク動画の構成と	辻 泰明	映像コンテンツの文法とフェイクに

					ストーリー／フェイク動画のストーリーを映像の文法によって見抜く方法		ついて説明できる。
11-12	10/28	10:45-12:25		第 6 回 実例研究	映像コンテンツの文法とフェイクについて分析をプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映像コンテンツの文法とフェイクについて分析し、見解を述べることができる。
13-14	11/4	10:45-12:25		第 7 回 映像コンテンツの類別とジャンル	映像コンテンツの類別とジャンル／フィクションとノンフィクションのスペクトラム／ノンフィクションにおけるストーリーと情報の伝え方	辻 泰明	映像コンテンツの類別とジャンルにおける物語性について説明できる。
15-16	11/11	10:45-12:25		第 8 回 総括 映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方	映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方について分析をプレゼンテーション／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方について分析し、見解を述べることができる。

授業方法

この授業は、アクティブラーニングによるセミナー形式で行います。講師が解説した内容に基づいて、実際の現象を調べた結果について発表をしていただきます。

授業内容

第 1 回 ガイダンス 授業の進め方 ストーリー(物語性)とは何か
第 2 回 実例研究
第 3 回 映像ストーリーの構成
第 4 回 実例研究
第 5 回 映像コンテンツの文法
第 6 回 実例研究
第 7 回 映像コンテンツの類別とジャンル
第 8 回 総括 映像ストーリーの構成分析手法と情報の伝え方・受け取り方

成績評価の方法

評価 : レポート 40% ・ その他(プレゼンテーション) 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習では、資料や動画を予めインターネット等で閲覧したり視聴したりしておいてください。

参考書

映像コンテンツ制作教程:生成 AI 活用の可能性を探る／辻 泰明:樹村房, 2026.3

履修上の注意事項

三分の二以上の出席が必要です。 出欠管理システムよりも、教員自身が取る出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	004629				
科目名	教養基礎セミナー(近代の社会学)前半 1 講　大倉			**科目 ID**	
担当教員	大倉　韻[OKURA Hibiki]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

授業の目的は以下の三点。

第一に、大学における学習のあり方を理解し基本的な学習能力を身につけてもらうこと。

第二に、現代社会をとりまく諸現象ならびに諸問題を理解しその解決策を検討するために、社会学的なものの見方・考え方を身に着けてもらうこと。

第三に、それら学習の成果を活用して、学期末レポートの執筆、並びにプレゼンテーションを実施してもらうことである。

授業の到達目標

〇情報収集力:必要な情報を自分自身で判断した上で収集できるようになること。

〇情報発信力:客観的で理解しやすい文章を書くことができ、説得力のあるプレゼンテーションをできるようになること。

〇ディベート力:他者の意見を正しく理解した上で、自分の意見を適切に述べることができるようになること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之

授業方法

授業は講義と演習を組み合わせておこなう。レポートの書き方やプレゼンテーションのしかたについて、授業内で課題を出すことがある。

授業内容

第 1 回:大学生活について／社会学への招待

第 2 回:大学での学びについて／デュルケーム

第 3 回:レポートについて／労働と承認

第 4 回:レポートの書き方／戦後日本とアイドル

第 5 回:プレゼンテーションの方法／テーマパークと〈模倣〉

第 6 回:論点をめぐる検討／セクシュアリティとジェンダー

第 7 回:プレゼンテーション

第 8 回:ふりかえり、レポート作成に関する質疑応答

成績評価の方法

生徒の積極的な授業参加を高く評価する。そのため、成績評価は次のようにおこなう。

評価:レポート 40%、プレゼンテーション 20%、授業参加 40%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は特に必要ないが、復習をしっかりおこない疑問点があれば質問すること。また各回の課題は次回以降の授業内容に関わってくるため、確実にこなすことが求められる。

教科書

井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第 3 版）』慶應義塾大学出版会、2019 年。

参考書

授業内で適宜紹介する。

履修上の注意事項

原則的に授業回数の 3 分の 2 以上の出席を学期末レポートの提出要件とする。 生成系 AI の使用は禁止しないが、課題などに取り組む際に AI が出力した文章や回答をそのまま使用することは認めない。

時間割番号	004630				
科目名	教養基礎セミナー(近代の社会学)前半 2 講　大倉			科目 ID	
担当教員	大倉　韻[OKURA Hibiki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

授業の目的は以下の三点。

第一に、大学における学習のあり方を理解し基本的な学習能力を身につけてもらうこと。

第二に、現代社会をとりまく諸現象ならびに諸問題を理解しその解決策を検討するために、社会学的なものの見方・考え方を身に着けてもらうこと。

第三に、それら学習の成果を活用して、学期末レポートの執筆、並びにプレゼンテーションを実施してもらうことである。

授業の到達目標

〇情報収集力:必要な情報を自分自身で判断した上で収集できるようになること。

〇情報発信力:客観的で理解しやすい文章を書くことができ、説得力のあるプレゼンテーションをできるようになること。

〇ディベート力:他者の意見を正しく理解した上で、自分の意見を適切に述べることができるようになること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之

授業方法

授業は講義と演習を組み合わせておこなう。レポートの書き方やプレゼンテーションのしかたについて、授業内で課題を出すことがある。

授業内容

第 1 回:大学生活について／社会学への招待

第 2 回:大学での学びについて／デュルケーム

第 3 回:レポートについて／労働と承認

第 4 回:レポートの書き方／戦後日本とアイドル

第 5 回:プレゼンテーションの方法／テーマパークと〈模倣〉

第 6 回:論点をめぐる検討／セクシュアリティとジェンダー

第 7 回:プレゼンテーション

第 8 回:ふりかえり、レポート作成に関する質疑応答

成績評価の方法

生徒の積極的な授業参加を高く評価する。そのため、成績評価は次のようにおこなう。

評価:レポート 40%、プレゼンテーション 20%、授業参加 40%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による
準備学習等についての具体的な指示 事前学習は特に必要ないが、復習をしっかりおこない疑問点があれば質問すること。また各回の課題は次回以降の授業内容に関わってくるため、確実にこなすことが求められる。
教科書 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第 3 版)』慶應義塾大学出版会、2019 年。
参考書 授業内で適宜紹介する。
履修上の注意事項 原則的に授業回数の 3 分の 2 以上の出席を学期末レポートの提出要件とする。 生成系 AI の使用は禁止しないが、課題などに取り組む際に AI が出力した文章や回答をそのまま使用することは認めない。

時間割番号	004631				
科目名	教養基礎セミナー(現代の社会学)後半 1 講 大倉			科目 ID	
担当教員	大倉 韻[OKURA Hibiki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 1 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

授業の目的は以下の三点。

第一に、大学における学習のあり方を理解し基本的な学習能力を身につけてもらうこと。

第二に、現代社会をとりまく諸現象ならびに諸問題を理解しその解決策を検討するために、社会学的なものの見方・考え方を身に着けてもらうこと。

第三に、それら学習の成果を活用して、学期末レポートの執筆、並びにプレゼンテーションを実施してもらうことである。

授業の到達目標

〇情報収集力:必要な情報を自分自身で判断した上で収集できるようになること。

〇情報発信力:客観的で理解しやすい文章を書くことができ、説得力のあるプレゼンテーションをできるようになること。

〇ディベート力:他者の意見を正しく理解した上で、自分の意見を適切に述べることができるようになること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		大倉 韻 奈良 雅之

授業方法

授業は講義と演習を組み合わせておこなう。レポートの書き方やプレゼンテーションのしかたについて、授業内で課題を出すことがある。

授業内容

第 1 回:大学生活について／社会学への招待

第 2 回:大学での学びについて／ウェーバー

第 3 回:レポートについて／労働と感情

第 4 回:レポートの書き方／虚構とアイドル

第 5 回:プレゼンテーションの方法／トランスナショナルなテーマパーク

第 6 回:論点をめぐる検討／セクシュアリティとジェンダー

第 7 回:プレゼンテーション

成績評価の方法

生徒の積極的な授業参加を高く評価する。そのため、成績評価は次のようにおこなう。

評価:レポート 40%、プレゼンテーション 20%、授業参加 40%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は特に必要ないが、復習をしっかりおこない疑問点があれば質問すること。また各回の課題は次回以降の授業内容に関わってくるため、確実にこなすことが求められる。
教科書 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第 3 版)』慶應義塾大学出版会、2019 年。
参考書 授業内で適宜紹介する。
履修上の注意事項 原則的に授業回数の 3 分の 2 以上の出席を学期末レポートの提出要件とする。　生成系 AI の使用は禁止しないが、課題などに取り組む際に AI が出力した文章や回答をそのまま使用することは認めない。

時間割番号	004632				
科目名	教養基礎セミナー(現代の社会学)後半 2 講　大倉			科目 ID	
担当教員	大倉　韻[OKURA Hibiki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

授業の目的は以下の三点。

第一に、大学における学習のあり方を理解し基本的な学習能力を身につけてもらうこと。

第二に、現代社会をとりまく諸現象ならびに諸問題を理解しその解決策を検討するために、社会学的なものの見方・考え方を身に着けてもらうこと。

第三に、それら学習の成果を活用して、学期末レポートの執筆、並びにプレゼンテーションを実施してもらうことである。

授業の到達目標

〇情報収集力:必要な情報を自分自身で判断した上で収集できるようになること。

〇情報発信力:客観的で理解しやすい文章を書くことができ、説得力のあるプレゼンテーションをできるようになること。

〇ディベート力:他者の意見を正しく理解した上で、自分の意見を適切に述べることができるようになること。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		大倉 韻 奈良 雅之

授業方法

授業は講義と演習を組み合わせておこなう。レポートの書き方やプレゼンテーションのしかたについて、授業内で課題を出すことがある。

授業内容

第 1 回:大学生活について／社会学への招待

第 2 回:大学での学びについて／ウェーバー

第 3 回:レポートについて／労働と感情

第 4 回:レポートの書き方／虚構とアイドル

第 5 回:プレゼンテーションの方法／トランスナショナルなテーマパーク

第 6 回:論点をめぐる検討／セクシュアリティとジェンダー

第 7 回:プレゼンテーション

成績評価の方法

生徒の積極的な授業参加を高く評価する。そのため、成績評価は次のようにおこなう。

評価:レポート 40%、プレゼンテーション 20%、授業参加 40%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前学習は特に必要ないが、復習をしっかりおこない疑問点があれば質問すること。また各回の課題は次回以降の授業内容に関わってくるため、確実にこなすことが求められる。

教科書

井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第 3 版)』慶應義塾大学出版会、2019 年。

参考書

授業内で適宜紹介する。

履修上の注意事項

原則的に授業回数の 3 分の 2 以上の出席を学期末レポートの提出要件とする。 生成系 AI の使用は禁止しないが、課題などに取り組む際に AI が出力した文章や回答をそのまま使用することは認めない。

時間割番号	004645				
科目名	教養基礎セミナー(言語科学とドイツ語)前半 1 講　藤井(俊)			科目 ID	
担当教員	藤井　俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜1講

募集人数　:8人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-7, 2-3

授業の目的、概要等

ドイツ語の言語現象の観察・分析を通して、言語学の基礎を学ぶ授業です。ドイツ語を題材とはしますが、提示する例文にはグロスと訳を付けるなどしてドイツ語未履修者でも問題なく理解出来るようにします。ドイツ語と言語学の基本について導入を行った後、受講者の興味に合わせて文献を選び、それについてゼミ形式で検討を行います。必要に応じて題材となる現象について日本語、英語等との比較も行います。

授業の到達目標

①言語を言語理論に基づいて分析する過程を学ぶことで、科学的思考を磨きます。

②最も複雑なモジュールの一つである言語の性質を検討することで、人間に関する理解を深めます。

③ドイツ語等の言語をメタ的に分析する手法を身につけることで、言語学習の効率的な習得が可能になります。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		藤井　俊吾
3-4	9/30	08:50-10:30		藤井　俊吾
5-6	10/7	08:50-10:30		藤井　俊吾
7-8	10/14	08:50-10:30		藤井　俊吾
9-10	10/21	08:50-10:30		藤井　俊吾
11-12	10/28	08:50-10:30		藤井　俊吾
13-14	11/4	08:50-10:30		藤井　俊吾
15-16	11/11	08:50-10:30		藤井　俊吾

授業方法

導入としてドイツ語、及び言語学に関する基本知識を講義形式で紹介した後、受講者の関心のあるトピックについて扱った文献についてディスカッションを行います。受講者には授業の中で文献紹介等の発表をして頂く予定です。

授業内容

第 1 回　オリエンテーション、ドイツ語の基本情報、関心のあるトピックの共有

第 2 回　言語学の基礎知識

第 3 回　統語論①

第 4 回　統語論②

第 5 回　言語獲得①

第 6 回　言語獲得②

第 7 回　意味論①

第 8 回　意味論②

成績評価の方法

評価　:試験　0% ・ レポート　70% ・ その他(出席状況・授業参加などの平常点)30%

再評価:有(試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

読んでおくべき文献等は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、予習は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

授業の 3 分の 2 以上に出席した者にのみレポート提出の資格を与える。

参考書

現代ドイツ言語学入門 : 生成・認知・類型のアプローチから／吉田, 光演, 1954-,吉田光演 [ほか]共著:大修館書店, 2001.12

他科目との関連

国際地域文化入門・ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱで学んだ内容を深掘する内容となっている。

履修上の注意事項

ゼミ形式の授業であるため、積極的な参加を期待する。

備考

レポート提出のために授業の 3 分の 2 以上に出席する必要があることに注意。

連絡先(メールアドレス)

藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	004646				
科目名	教養基礎セミナー(言語科学とドイツ語)前半 2 講　藤井(俊)			科目 ID	
担当教員	藤井　俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2 講

募集人数　:8人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-7, 2-3

授業の目的、概要等

ドイツ語の言語現象の観察・分析を通して、言語学の基礎を学ぶ授業です。ドイツ語を題材とはしますが、提示する例文にはグロスと訳を付けるなどしてドイツ語未履修者でも問題なく理解出来るようにします。ドイツ語と言語学の基本について導入を行った後、受講者の興味に合わせて文献を選び、それについてゼミ形式で検討を行います。必要に応じて題材となる現象について日本語、英語等との比較も行います。

授業の到達目標

①言語を言語理論に基づいて分析する過程を学ぶことで、科学的思考を磨きます。

②最も複雑なモジュールの一つである言語の性質を検討することで、人間に関する理解を深めます。

③ドイツ語等の言語をメタ的に分析する手法を身につけることで、言語学習の効率的な習得が可能になります。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		藤井　俊吾
3-4	9/30	10:45-12:25		藤井　俊吾
5-6	10/7	10:45-12:25		藤井　俊吾
7-8	10/14	10:45-12:25		藤井　俊吾
9-10	10/21	10:45-12:25		藤井　俊吾
11-12	10/28	10:45-12:25		藤井　俊吾
13-14	11/4	10:45-12:25		藤井　俊吾
15-16	11/11	10:45-12:25		藤井　俊吾

授業方法

導入としてドイツ語、及び言語学に関する基本知識を講義形式で紹介した後、受講者の関心のあるトピックについて扱った文献についてディスカッションを行います。受講者には授業の中で文献紹介等の発表をして頂く予定です。

授業内容

第 1 回　オリエンテーション、ドイツ語の基本情報、関心のあるトピックの共有

第 2 回　言語学の基礎知識

第 3 回　統語論①

第 4 回　統語論②

第 5 回　言語獲得①

第 6 回　言語獲得②

第 7 回　意味論①

第 8 回　意味論②

成績評価の方法

評価　:試験　0% ・ レポート　70% ・ その他(出席状況・授業参加などの平常点)30%

再評価:有(試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

読んでおくべき文献等は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、予習は必ず済ませた上で授業に臨んでください。

試験の受験資格

授業の 3 分の 2 以上に出席した者にのみレポート提出の資格を与える。

参考書

現代ドイツ言語学入門 : 生成・認知・類型のアプローチから／吉田, 光演, 1954-,吉田光演 [ほか]共著:大修館書店, 2001.12

他科目との関連

国際地域文化入門・ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱで学んだ内容を深掘する内容となっている。

履修上の注意事項

ゼミ形式の授業であるため、積極的な参加を期待する。

備考

レポート提出のために授業の 3 分の 2 以上に出席する必要があることに注意。

連絡先(メールアドレス)

藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	004647				
科目名	教養基礎セミナー(生成文法研究におけるドイツ語)後半1講 藤井(俊)			科目ID	
担当教員	藤井 俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 1講

募集人数 :8人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-7, 2-3

授業の目的、概要等

ドイツ語の言語現象の観察・分析を通して、理論言語学の一つである生成文法の基礎を学ぶ授業です。ドイツ語を題材とはしますが、例文にはグロスと訳を付けるなどしてドイツ語未履修者でも問題なく理解出来るようにします。ドイツ語と生成文法の基本について導入を行った後、受講者の興味に合わせて文献を選び、それについてゼミ形式で検討を行います。必要に応じて題材となる現象について日本語、英語等との比較も行います。

授業の到達目標

①言語を生成文法理論に基づいて分析する過程を学ぶことで、科学的思考を磨きます。

②最も複雑なモジュールの一つである言語の性質を検討することで、人間に関する理解を深めます。

③ドイツ語等の言語をメタ的に分析する手法を身につけることで、言語学習の効率的な習得が可能になります。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		藤井 俊吾
3-4	11/25	08:50-10:30		藤井 俊吾
5-6	12/2	08:50-10:30		藤井 俊吾
7-8	12/9	08:50-10:30		藤井 俊吾
9-10	12/16	08:50-10:30		藤井 俊吾
11-12	1/6	08:50-10:30		藤井 俊吾
13-14	1/13	08:50-10:30		藤井 俊吾

授業方法

導入としてドイツ語、及び生成文法に関する基本知識を講義形式で紹介した後、受講者の関心のあるトピックについて扱った文献についてディスカッションを行います。受講者には授業の中で文献紹介等の発表をして頂く予定です。

授業内容

第1回 オリエンテーション、ドイツ語の基本情報、関心のあるトピックの共有

第2回 生成文法の基礎知識

第3回 ドイツ語の語順①

第4回 ドイツ語の語順②

第5回 意味役割と格配列

第6回 言語習得①

第7回 言語習得②

成績評価の方法

評価 : 試験0%・レポート70%・その他(出席状況・授業参加などの平常点)30%

再評価: 有(試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

読んでおくべき文献等は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、予習は必ず済ませた上で授業に臨んでください。
試験の受験資格 授業の 3 分の 2 以上に出席した者にのみレポート提出の資格を与える。
参考書 現代ドイツ言語学入門 : 生成・認知・類型のアプローチから／吉田, 光演, 1954-,吉田光演 [ほか]共著:大修館書店, 2001.12
他科目との関連 国際地域文化入門・ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱで触れた内容について深掘する授業となっている。
履修上の注意事項 ゼミ形式の授業であるため、積極的な授業参加を期待する。
備考 レポート提出には授業の 3 分の 2 以上の出席が必要である点に注意。
連絡先(メールアドレス) 藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー 藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	004648				
科目名	教養基礎セミナー(生成文法研究におけるドイツ語)後半2講 藤井(俊)			科目ID	
担当教員	藤井 俊吾[FUJII Shungo]				
開講時期	2026年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2講

募集人数 :8人

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-7, 2-3

授業の目的、概要等

ドイツ語の言語現象の観察・分析を通して、理論言語学の一つである生成文法の基礎を学ぶ授業です。ドイツ語を題材とはしますが、例文にはグロスと訳を付けるなどしてドイツ語未履修者でも問題なく理解出来るようにします。ドイツ語と生成文法の基本について導入を行った後、受講者の興味に合わせて文献を選び、それについてゼミ形式で検討を行います。必要に応じて題材となる現象について日本語、英語等との比較も行います。

授業の到達目標

①言語を生成文法理論に基づいて分析する過程を学ぶことで、科学的思考を磨きます。

②最も複雑なモジュールの一つである言語の性質を検討することで、人間に関する理解を深めます。

③ドイツ語等の言語をメタ的に分析する手法を身につけることで、言語学習の効率的な習得が可能になります。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		藤井 俊吾
3-4	11/25	10:45-12:25		藤井 俊吾
5-6	12/2	10:45-12:25		藤井 俊吾
7-8	12/9	10:45-12:25		藤井 俊吾
9-10	12/16	10:45-12:25		藤井 俊吾
11-12	1/6	10:45-12:25		藤井 俊吾
13-14	1/13	10:45-12:25		藤井 俊吾

授業方法

導入としてドイツ語、及び生成文法に関する基本知識を講義形式で紹介した後、受講者の関心のあるトピックについて扱った文献についてディスカッションを行います。受講者には授業の中で文献紹介等の発表をして頂く予定です。

授業内容

第1回 オリエンテーション、ドイツ語の基本情報、関心のあるトピックの共有

第2回 生成文法の基礎知識

第3回 ドイツ語の語順①

第4回 ドイツ語の語順②

第5回 意味役割と格配列

第6回 言語習得①

第7回 言語習得②

成績評価の方法

評価 : 試験0%・レポート70%・その他(出席状況・授業参加などの平常点)30%

再評価: 有(試験)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

読んでおくべき文献等は授業中に適宜指示します。授業のスムーズな進行のため、予習は必ず済ませた上で授業に臨んでください。
試験の受験資格 授業の 3 分の 2 以上に出席した者にのみレポート提出の資格を与える。
参考書 現代ドイツ言語学入門 : 生成・認知・類型のアプローチから／吉田, 光演, 1954-,吉田光演 [ほか]共著:大修館書店, 2001.12
他科目との関連 国際地域文化入門・ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱで触れた内容について深掘する授業となっている。
履修上の注意事項 ゼミ形式の授業であるため、積極的な授業参加を期待する。
備考 レポート提出には授業の 3 分の 2 以上の出席が必要である点に注意。
連絡先(メールアドレス) 藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
オフィスアワー 藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

時間割番号	004653				
科目名	教養基礎セミナー(中国語と中国文化)前半１講　包			科目ID	
担当教員	BAO　MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜1講　・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表1−1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表1−3)人間の歴史的営みを理解する

別表1−4)異なる空間の文化を理解する

別表3−4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

言語は文化のキャリヤーであります。民族、国家、社会制度、経済形態、価値観念、思考方式、風俗習慣等はそのいずれをとっても言語に反映されないものはないです。本授業では、中国語の語音と中国文化、漢字と中国文化、中国語の語彙と中国文化、中国語の文法と中国文化、中国語の数字と中国文化、氏名・別称・地名と中国文化、中国語と中国の生活風俗に関する内容などを紹介します。中国語の短文と共に、日本語訳を配付して解説するので、中国語履修者でなくても、中国文化に興味があれば受講できます。

授業の到達目標

授業を通して、中国語と中国文化の関係を理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30	計算機実習室	第1回　授業の概要説明、中国語の語音と中国文化	諧音による置換と縁起かつぎ、諧音と言葉の改造	BAO　MIN	中国語における諧音現象が理解できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション　リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	9/30	08:50-10:30	計算機実習室	第2回　漢字と中国文化	文字に関する迷信と崇拝について漢字から見た古代女性の社会的地位	BAO　MIN	例をあげて漢字と中国文化が説明できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション　リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	10/7	08:50-10:30	計算機実習室	第3回　中国語の語彙と中国文化①	語彙と科挙制度①	BAO　MIN	「状元、挙人と秀才」が説明できる。　リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	10/14	08:50-10:30	計算機実習室	第4回　中国語の語彙と中国文化②	語彙と科挙制度②	BAO　MIN	中国における科挙制度の歴史が

							説明できる。ある意味では科挙制度の現代版である「高考」の知識を得る。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	10/21	08:50-10:30	計算機実習室	第5回 中国語の数字と中国文化	中国語の中の数字文化	BAO MIN	中国語の数字文化が説明できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション リアクションペーパーを用いた質疑応答
11-12	10/28	08:50-10:30	計算機実習室	第6回 氏名・別称・地名と中国文化	中国人の姓氏と姓氏観念 地名と文化	BAO MIN	中国人の姓氏と姓氏観念が説明できる。中国の地名の由来が解釈できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	11/4	08:50-10:30	計算機実習室	第7回 中国語と中国の生活風俗	食の問題及び関連する言語現象、婚姻と婚姻に関連する言語現象	BAO MIN	食の問題及び関連する言語現象、婚姻と婚姻に関連する言語現象が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	11/11	08:50-10:30	計算機実習室	第8回 まとめ	これまでの内容を振り返り、中国語と中国文化の関係について教場レポートを作成する。	BAO MIN	

授業方法

講義と演習による。

事前にプリントを渡し、関連内容を調べておくこと。毎回2，3の短文を購読する。教員が説明を行い、クラスで討論を行う。毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第1回 授業の概要説明、中国語の語音と中国文化

第2回 漢字と中国文化

第3回 中国語の語彙と中国文化①

第4回 中国語の語彙と中国文化②

第5回 中国語の数字と中国文化

第6回　氏名・別称・地名と中国文化
第7回　中国語と中国の生活風俗
第8回　まとめ

成績評価の方法

レポート 60% ・ その他(授業への参加度)40%
再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回プリントを配布する。中国語の原文を使い、日本語で説明するが、事前に参考書などを使い、授業内容に関する資料を準備し、まとめておくこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

魯宝元著(2006)『漢語與中国文化』、華語教学出版社
プリントを配布します。

参考書

中国文化 55 のキーワード／武田雅哉, 加部勇一郎, 田村容子 編著,武田, 雅哉, 1958-,加部, 勇一郎, 1973-,田村, 容子, 1975-,:ミネルヴァ書房, 2016
テーマで読み解く中国の文化／湯浅邦弘編著,湯浅, 邦弘,宮本, 一夫,横田, 恭三,中村, 未来,佐藤, 一好,宇田川, 幸則,古田, 茂美,浅見, 洋二,谷口, 高志,草野, 友子,福田, 一也,鶴成, 久章,椛島, 雅弘,川野, 明正,近藤, 浩之,渡邉, 英幸,町, 泉寿郎,合山, 林太郎,陶, 徳民,柿沼, 陽平,:ミネルヴァ書房, 2016
中国百科／中国国際放送局日本語部編訳 ; 王丹丹 [ほか] 翻訳,北京放送局日本語部,王, 丹丹,:科学出版社東京, 2016

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上出席すること

連絡先(メールアドレス)

BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	004654				
科目名	教養基礎セミナー(中国語と中国文化)前半 2 講 包			科目 ID	
担当教員	BAO MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 2 講 ・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表1−1)言語を通した人間の創造的営みを理解する

別表1−3)人間の歴史的営みを理解する

別表1−4)異なる空間の文化を理解する

別表3−4)外国文化を理解する

授業の目的、概要等

言語は文化のキャリヤーであります。民族、国家、社会制度、経済形態、価値観念、思考方式、風俗習慣等はそのいずれをとっても言語に反映されないものはないです。本授業では、中国語の語音と中国文化、漢字と中国文化、中国語の語彙と中国文化、中国語の文法と中国文化、中国語の数字と中国文化、氏名・別称・地名と中国文化、中国語と中国の生活風俗に関する内容などを紹介します。中国語の短文と共に、日本語訳を配付して解説するので、中国語履修者でなくても、中国文化に興味があれば受講できます。

授業の到達目標

授業を通して、中国語と中国文化の関係を理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25	計算機実習室	第1回 授業の概要説明、中国語の語音と中国文化	諧音による置換と縁起かつぎ、諧音と言葉の改造	BAO MIN	中国語における諧音現象が理解できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション 、 リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	9/30	10:45-12:25	計算機実習室	第2回 漢字と中国文化	文字に関する迷信と崇拝について漢字から見た古代女性の社会的地位	BAO MIN	例をあげて漢字と中国文化が説明できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション 、リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	10/7	10:45-12:25	計算機実習室	第3回 中国語の語彙と中国文化①	語彙と科挙制度①	BAO MIN	「状元、挙人と秀才」が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	10/14	10:45-12:25	計算機実習室	第4回 中国語の語彙と中国文化②	語彙と科挙制度②	BAO MIN	中国における科挙制度の歴史が

							説明できる。ある意味では科挙制度の現代版である「高考」の知識を得る。 リアクションペーパーを用いた質疑応答
9-10	10/21	10:45-12:25	計算機実習室	第5回 中国語の数字と中国文化	中国語の中の数字文化	BAO MIN	中国語の数字文化が説明できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション 、リアクションペーパーを用いた質疑応答
11-12	10/28	10:45-12:25	計算機実習室	第6回 氏名・別称・地名と中国文化	中国人の姓氏と姓氏観念 地名と文化	BAO MIN	中国人の姓氏と姓氏観念が説明できる。中国の地名の由来が解釈できる。日本語における類似現象についてグループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	11/4	10:45-12:25	計算機実習室	第7回 中国語と中国の生活風俗	食の問題及び関連する言語現象、婚姻と婚姻に関連する言語現象	BAO MIN	食の問題及び関連する言語現象、婚姻と婚姻に関連する言語現象が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
15-16	11/11	10:45-12:25	計算機実習室	第8回 まとめ	これまでの内容を振り返り、中国語と中国文化の関係について教場レポートを作成する。	BAO MIN	

授業方法

講義と演習による。

事前にプリントを渡し、関連内容を調べておくこと。毎回2，3の短文を購読する。教員が説明を行い、クラスで討論を行う。毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第1回 授業の概要説明、中国語の語音と中国文化

第2回 漢字と中国文化

第3回 中国語の語彙と中国文化①

第4回 中国語の語彙と中国文化②

第5回 中国語の数字と中国文化

第6回　氏名・別称・地名と中国文化
第7回　中国語と中国の生活風俗
第8回　まとめ

成績評価の方法

レポート 60% ・ その他(授業への参加度)40%
再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回プリントを配布する。中国語の原文を使い、日本語で説明するが、事前に参考書などを使い、授業内容に関する資料を準備し、まとめておくこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

魯宝元著(2006)『漢語與中国文化』、華語教学出版社
プリントを配布します。

参考書

中国文化 55 のキーワード／武田雅哉, 加部勇一郎, 田村容子 編著,武田, 雅哉, 1958-,加部, 勇一郎, 1973-,田村, 容子, 1975-,:ミネルヴァ書房, 2016
テーマで読み解く中国の文化／湯浅邦弘編著,湯浅, 邦弘,宮本, 一夫,横田, 恭三,中村, 未来,佐藤, 一好,宇田川, 幸則,古田, 茂美,浅見, 洋二,谷口, 高志,草野, 友子,福田, 一也,鶴成, 久章,椛島, 雅弘,川野, 明正,近藤, 浩之,渡邉, 英幸,町, 泉寿郎,合山, 林太郎,陶, 徳民,柿沼, 陽平,:ミネルヴァ書房, 2016
中国百科／中国国際放送局日本語部編訳 ; 王丹丹 [ほか] 翻訳,北京放送局日本語部,王, 丹丹,:科学出版社東京, 2016

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上出席すること

連絡先(メールアドレス)

BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	004655				
科目名	教養基礎セミナー(中国社会の現在)後半１講　包			**科目ID**	
担当教員	BAO　MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日･時間:水曜1講　･対象学科:全学科

･科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表1−2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表1−4)異なる空間の文化を理解する

別表3−4)外国文化を理解する

別表3−5)国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

映像と資料を使いながら、中国の政治･経済･社会に関する最新のトピックを紹介します。本講義を通して現代中国のありのままの姿を理解することを目指します。日本語の資料を使うので、中国語履修者でなくても、中国社会に興味があれば受講できます。

授業の到達目標

授業を通して、中国社会を理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標･学習方法･その他
1-2	11/18	08:50-10:30	計算機実習室	第1回　授業の概要説明	オリエンテーション、トピックの担当を決める、中国の概要	BAO　MIN	中国社会の概要が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	11/25	08:50-10:30	計算機実習室	第2回　中国の素顔	三期目の習近平政権の特徴	BAO　MIN	三期目に入った習近平政権の政策の方向性を理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	12/2	08:50-10:30	計算機実習室	第3回　中国の教育①	中国の初等･中等･高等教育、成人教育、生涯学習等	BAO　MIN	中国における教育制度を理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	12/9	08:50-10:30	計算機実習室	第４回　中国の教育②	中国の教育現場における競争の実態	BAO　MIN	映像を通し、中国の教育現場における競争の現状を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答

9-10	12/16	08:50-10:30	計算機実習室	第5回 中国の医療制度①	中国の医療保険の仕組み	BAO MIN	授業を通し、中国における医療保険制度を理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応
11-12	1/6	08:50-10:30	計算機実習室	第6回 中国の医療制度②	がん大国中国の実態	BAO MIN	映像を通し、中国・命の決断を迫られる患者たちの実態ををを知り、日本との違いを理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	1/13	08:50-10:30	計算機実習室	第7回 まとめ 態	課題に関する報告	BAO MIN	これまでの授業を振り返り、現代中国社会のありのままの姿が認識できる。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答

授業方法

講義と演習による。

事前にプリントを渡し、関連内容を調べておくこと。毎回2，3の短文を購読する。教員が説明を行い、クラスで討論を行う。毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第1回 授業の概要説明
第2回 中国の素顔
第3回 中国の教育①
第4回 中国の教育②
第5回 中国の医療制度①
第6回 中国の医療制度②
第7回 まとめ

成績評価の方法

レポート 60% ・ その他(授業への参加度)40%

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前に参考書などを使い、授業内容に関する資料を準備し、まとめておくこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

:明石書店

:小学館

参考書

現代中国を知るための 52 章／藤野彰 編著,藤野, 彰, 1955-,:明石書店, 2018

習近平が変えた中国／天児慧 編著,茅原郁生, 関志雄, 佐藤考一, 中兼和津次, 菱田雅晴, 毛里和子 著,天児, 慧, 1947-,茅原, 郁生, 1938-,関, 志雄, 1957-,佐藤, 考一, 1960-,:小学館, 2018

幸福な監視国家・中国／梶谷懐, 高口康太 著,梶谷, 懐, 1970-,高口, 康太, 1976-,:NHK 出版, 2019

中国「強国復権」の条件 :「一帯一路」の大望とリスク／柯隆 著,柯, 隆, 1963-,:慶應義塾大学出版会, 2018

習近平の中国／川島真, 小嶋華津子編,川島, 真,小嶋, 華津子,:東京大学出版会, 2022

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上出席すること

連絡先(メールアドレス)

BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	004656				
科目名	教養基礎セミナー(中国社会の現在)後半 2 講　包			**科目 ID**	
担当教員	BAO　MIN[BAO MIN]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜 2 講 ・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表1−2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表1−4)異なる空間の文化を理解する

別表3−4)外国文化を理解する

別表3−5)国際情勢を理解する

授業の目的、概要等

映像と資料を使いながら、中国の政治・経済・社会に関する最新のトピックを紹介します。本講義を通して現代中国のありのままの姿を理解することを目指します。日本語の資料を使うので、中国語履修者でなくても、中国社会に興味があれば受講できます。

授業の到達目標

授業を通して、中国社会を理解する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	10:45-12:25	計算機実習室	第1回　授業の概要説明	オリエンテーション、トピックの担当を決める、中国の概要	BAO　MIN	中国社会の概要が説明できる。リアクションペーパーを用いた質疑応答
3-4	11/25	10:45-12:25	計算機実習室	第2回　中国の素顔	三期目の習近平政権の特徴	BAO　MIN	三期目に入った習近平政権の政策の方向性が説明できる。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
5-6	12/2	10:45-12:25	計算機実習室	第3回　中国の教育①	中国の初等・中等・高等教育、成人教育、生涯学習等	BAO　MIN	中国における教育制度を理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
7-8	12/9	10:45-12:25	計算機実習室	第 4 回　中国の教育②	中国の教育現場における競争の実態	BAO　MIN	映像を通し、中国の教育現場における競争の現状を理解する。リアクションペーパーを用いた質疑応答

9-10	12/16	10:45-12:25	計算機実習室	第5回 中国の医療制度①	中国の医療保険の仕組み	BAO MIN	授業を通し、中国における医療保険制度を理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応
11-12	1/6	10:45-12:25	計算機実習室	第6回 中国の医療制度②	がん大国中国の実態	BAO MIN	映像を通し、中国・命の決断を迫られる患者たちの実態ををを知り、日本との違いを理解する。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答
13-14	1/13	10:45-12:25	計算機実習室	第7回 まとめ	課題に関する報告	BAO MIN	これまでの授業を振り返り、現代中国社会のありのままの姿が認識できる。グループディスカッション、リアクションペーパーを用いた質疑応答

授業方法

講義と演習による。

事前にプリントを渡し、関連内容を調べておくこと。毎回2，3の短文を購読する。教員が説明を行い、クラスで討論を行う。毎回授業終了時に、各自が新しく学んだことや疑問に思ったことをリアクションペーパーに書いて提出し、フィードバックする。

授業内容

第1回 授業の概要説明
第2回 中国の素顔
第3回 中国の教育①
第4回 中国の教育②
第5回 中国の医療制度①
第6回 中国の医療制度②
第7回 まとめ

成績評価の方法

レポート 60% ・ その他(授業への参加度)40%

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前に参考書などを使い、授業内容に関する資料を準備し、まとめておくこと。

試験の受験資格

2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

教科書

:明石書店

:小学館

参考書

現代中国を知るための 52 章／藤野彰 編著,藤野, 彰, 1955-,:明石書店, 2018

習近平が変えた中国／天児慧 編著,茅原郁生, 関志雄, 佐藤考一, 中兼和津次, 菱田雅晴, 毛里和子 著,天児, 慧, 1947-,茅原, 郁生, 1938-,関, 志雄, 1957-,佐藤, 考一, 1960-,:小学館, 2018

幸福な監視国家・中国／梶谷懐, 高口康太 著,梶谷, 懐, 1970-,高口, 康太, 1976-,:NHK 出版, 2019

中国「強国復権」の条件 :「一帯一路」の大望とリスク／柯隆 著,柯, 隆, 1963-,:慶應義塾大学出版会, 2018

習近平の中国／川島真, 小嶋華津子編,川島, 真,小嶋, 華津子,:東京大学出版会, 2022

履修上の注意事項

原則 3 分の 2 以上出席すること

連絡先(メールアドレス)

BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

時間割番号	004657				
科目名	教養基礎セミナー(『人新世の「資本論」』を手掛かりに、環境問題について考える)前半 1 講 藤井			科目 ID	
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 1 講(前半)

対象学科: 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

授業の目的、概要等

「人新世」というを地質学の言葉を手掛かりに、人類が現在直面している危機の本質について考えます。分かりやすく言えば、資本主義経済の下で地球環境の保護は果たして可能かという問いについて皆さんと考えます。

授業の到達目標

・一冊のテキストを読み切ることができる。

・読んだ内容を分かりやすくプレゼンテーションでき、ディスカッションの論題を提起できる。

・他の履修生の議論を傾聴し、適切な応答ができる。

・現代社会のあり方について考え、意見を表明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	08:50-10:30		イントロダクション	・授業の進め方の説明 ・科学技術社会論についての説明	藤井 達夫	到達目標:授業の進め方について理解する。 学習方法:講義とディスカッション
3-4	9/30	08:50-10:30		第 1 章:気候変動と帝国的生活様式 気候変動が文明を危機に／フロンティアの消滅—市場と環境の二重の限界にぶつかる資本主義	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
5-6	10/7	08:50-10:30		第 2 章:気候ケインズ主義の限界 二酸化炭素排出と経済成長は切り離せない	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。

							学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
7-8	10/14	08:50-10:30		第3章:資本主義システムでの脱成長を撃つ なぜ資本主義では脱成長は不可能なのか	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
9-10	10/21	08:50-10:30		第5章:加速主義という現実逃避　生産力至上主義が生んだ幻想／資本の「包摂」によって無力になる私たち	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
11-12	10/28	08:50-10:30		第6章:欠乏の資本主義、潤沢なコミュニズム 貧しさの原因は資本主義	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
13-14	11/4	08:50-10:30		第7章:脱成長コミュニズムが世界を救う　コロナ禍も「人新世」の産物／脱成長コミュニズムとは何か	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
15-16	11/11	08:50-10:30		まとめ	全体をとおしてのディスカッション	藤井 達夫	到達目標:テキス

							トの内容を総括し、自分の見解を述べることができる。学習方法:プレゼンテーションとディスカッション

授業方法

この授業はセミナー形式で行われます。今年度は、斎藤幸平『人新世の「資本論」』（集英社新書、2020 年）を輪読します。履修生のプレゼンテーションとディスカッションによって授業は進められます。

授業内容

授業明細を参照。

成績評価の方法

授業内でのプレゼンテーション 60%＋授業への参加度 40%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

・テキストの指定された範囲を読んで授業に参加すること。

・プレゼンテーションの準備をすること。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

教科書

人新世の「資本論」／斎藤, 幸平, 1987-,斎藤幸平 著:集英社, 2020.9

参考書

授業内で適宜紹介します。

履修上の注意事項

授業への積極的なコミットメントが求められます。 当授業での生成系 AI の使用については、初回授業で説明をします。

連絡先(メールアドレス)

藤井 達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井 達夫:毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	004658				
科目名	教養基礎セミナー(『人新世の「資本論」』を手掛かりに、環境問題について考える)前半 2 講 藤井			科目 ID	
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2 講(前半)

対象学科: 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

授業の目的、概要等

「人新世」というを地質学の言葉を手掛かりに、人類が現在直面している危機の本質について考えます。分かりやすく言えば、資本主義経済の下で地球環境の保護は果たして可能かという問いについて皆さんと考えます。

授業の到達目標

・一冊のテキストを読み切ることができる。

・読んだ内容を分かりやすくプレゼンテーションでき、ディスカッションの論題を提起できる。

・他の履修生の議論を傾聴し、適切な応答ができる。

・現代社会のあり方について考え、意見を表明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25		イントロダクション	・授業の進め方の説明 ・科学技術社会論についての説明	藤井 達夫	到達目標:授業の進め方について理解する。 学習方法:講義とディスカッション
3-4	9/30	10:45-12:25		第 1 章:気候変動と帝国的生活様式 気候変動が文明を危機に／フロンティアの消滅—市場と環境の二重の限界にぶつかる資本主義	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
5-6	10/7	10:45-12:25		第 2 章:気候ケインズ主義の限界 二酸化炭素排出と経済成長は切り離せない	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。

							学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
7-8	10/14	10:45-12:25		第3章:資本主義システムでの脱成長を撃つ なぜ資本主義では脱成長は不可能なのか	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
9-10	10/21	10:45-12:25		第5章:加速主義という現実逃避　生産力至上主義が生んだ幻想／資本の「包摂」によって無力になる私たち	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
11-12	10/28	10:45-12:25		第6章:欠乏の資本主義、潤沢なコミュニズム 貧しさの原因は資本主義	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
13-14	11/4	10:45-12:25		第7章:脱成長コミュニズムが世界を救う　コロナ禍も「人新世」の産物／脱成長コミュニズムとは何か	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
15-16	11/11	10:45-12:25		まとめ	全体をとおしてのディスカッション	藤井 達夫	到達目標:テキス

							トの内容を総括し、自分の見解を述べることができる。学習方法:プレゼンテーションとディスカッション

授業方法

この授業はセミナー形式で行われます。今年度は、斎藤幸平『人新世の「資本論」』（集英社新書、2020 年）を輪読します。履修生のプレゼンテーションとディスカッションによって授業は進められます。

授業内容

授業明細を参照。

成績評価の方法

授業内でのプレゼンテーション 60%＋授業への参加度 40%

再評価:有(レポート)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

・テキストの指定された範囲を読んで授業に参加すること。

・プレゼンテーションの準備をすること。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

教科書

人新世の「資本論」／斎藤, 幸平, 1987-,斎藤幸平 著:集英社, 2020.9

参考書

授業内で適宜紹介します。

履修上の注意事項

授業への積極的なコミットメントが求められます。 当授業における生成系 AI の使用については、初回授業で説明します。

連絡先(メールアドレス)

藤井 達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井 達夫:毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	004659				
科目名	教養基礎セミナー(クーン『科学革命の構造』を手掛かりに、ポスト・トゥルースの時代の科学について考える)後半 1 講 藤井			科目 ID	
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 1 講(後半)

対象学科: 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

授業の目的、概要等

科学技術社会論(STS)の古典中の古典であるトマス・クーンの『科学革命の構造』を輪読することで、私たちが自明視しているありふれた科学史観を批判的に検討します。さらに、クーンの「革命的な」科学史観から、現代の科学と私たちの社会との関係について考え、議論します。特に、ポスト・トゥルースと呼ばれる時代における科学(者)のあり方についてフォーカスする予定です。

授業の到達目標

・一冊のテキストを読み切ることができる。

・読んだ内容を分かりやすくプレゼンテーションでき、ディスカッションの論題を提起できる。

・他の履修生の議論を傾聴し、適切な応答ができる。

・ポスト・トゥルースの時代における専門家のあり方について考え、意見を表明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	08:50-10:30		イントロダクション――イアン・ハッキングによる「序説」	・授業の進め方の説明 ・科学技術社会論についての説明	藤井 達夫	到達目標:授業の進め方について理解する 学習方法:講義とディスカッション
3-4	11/25	08:50-10:30		第Ⅰ節 序論 第Ⅱ節 通常科学への道筋	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
5-6	12/2	08:50-10:30		第Ⅲ節 通常科学の性質 第Ⅳ節 パズル解きとしての通常科学	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができ

							る。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
7-8	12/9	08:50-10:30		第Ⅴ節 パラダイムの優位性　第Ⅵ節 アノマリーと科学的発見の出現	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
9-10	12/16	08:50-10:30		第Ⅶ節 危機と科学理論の出現　第Ⅷ節 危機への応答	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
11-12	1/6	08:50-10:30		第Ⅸ節 科学革命の性質と必要性　第Ⅹ節 世界観の変化としての革命	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
13-14	1/13	08:50-10:30		第ⅩⅠ節 革命の不可視性　第ⅩⅡ節 革命の終わり方　第ⅩⅢ節 革命をとおしての進歩	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼ

							ンテーションとディスカッション

授業方法

この授業はセミナー形式で行われます。今年度は、トマス・クーン『科学革命の構造　新版』を輪読します。履修生のプレゼンテーションとディスカッションによって授業は進められます。

授業内容

授業明細を参照。

成績評価の方法

授業内でのプレゼンテーション 60%＋授業への参加度 40%

再評価：有（レポート）

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

・テキストの指定された範囲を読んで授業に参加すること。

・プレゼンテーションを準備すること。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

教科書

科学革命の構造／Kuhn, Thomas S, 1922−1996,青木, 薫, 1956−,トマス・S・クーン [著],青木薫 訳：みすず書房, 2023.6

参考書

授業内で適宜紹介します。

備考

授業への積極的なコミットメントが求められます。

テキストはコピーでも構いません。

当授業での AI の使用については、初回授業で説明します。

連絡先（メールアドレス）

藤井　達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井　達夫:毎週月曜日 12:00―13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	004660				
科目名	教養基礎セミナー(クーン『科学革命の構造』を手掛かりに、ポスト・トゥルースの時代の科学について考える)後半 2 講 藤井			科目 ID	
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 2 講(後半)

対象学科: 全学科

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する

別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

授業の目的、概要等

科学技術社会論(STS)の古典中の古典であるトマス・クーンの『科学革命の構造』を輪読することで、私たちが自明視しているありふれた科学史観を批判的に検討します。さらに、クーンの「革命的な」科学史観から、現代の科学と私たちの社会との関係について考え、議論します。特に、ポスト・トゥルースと呼ばれる時代における科学(者)のあり方についてフォーカスする予定です。

授業の到達目標

・一冊のテキストを読み切ることができる。

・読んだ内容を分かりやすくプレゼンテーションでき、ディスカッションの論題を提起できる。

・他の履修生の議論を傾聴し、適切な応答ができる。

・ポスト・トゥルースの時代における専門家のあり方について考え、意見を表明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	10:45-12:25		イントロダクション――イアン・ハッキングによる「序説」	・授業の進め方の説明 ・科学技術社会論についての説明	藤井 達夫	到達目標:授業の進め方について理解する 学習方法:講義とディスカッション
3-4	11/25	10:45-12:25		第Ⅰ節 序論 第Ⅱ節 通常科学への道筋	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
5-6	12/2	10:45-12:25		第Ⅲ節 通常科学の性質 第Ⅳ節 パズル解きとしての通常科学	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができ

							る。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
7-8	12/9	10:45-12:25		第Ⅴ節 パラダイムの優位性　第Ⅵ節 アノマリーと科学的発見の出現	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
9-10	12/16	10:45-12:25		第Ⅶ節 危機と科学理論の出現　第Ⅷ節 危機への応答	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
11-12	1/6	10:45-12:25		第Ⅸ節 科学革命の性質と必要性　第Ⅹ節 世界観の変化としての革命	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼンテーションとディスカッション
13-14	1/13	10:45-12:25		第ⅩⅠ節 革命の不可視性　第ⅩⅡ節 革命の終わり方　第ⅩⅢ節 革命をとおしての進歩	テキストの輪読	藤井 達夫	到達目標:当該範囲の内容について、ディスカッションを通して理解を深めることができる。当該範囲の内容について、意見を述べられる。 学習方法:プレゼ

							ンテーションとディスカッション

授業方法

この授業はセミナー形式で行われます。今年度は、トマス・クーン『科学革命の構造　新版』を輪読します。履修生のプレゼンテーションとディスカッションによって授業は進められます。

授業内容

授業明細を参照。

成績評価の方法

授業内でのプレゼンテーション 60%＋授業への参加度 40%

再評価：有（レポート）

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

・テキストの指定された範囲を読んで授業に参加すること。

・プレゼンテーションを準備すること。

試験の受験資格

2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。

教科書

科学革命の構造／Kuhn, Thomas S, 1922−1996,青木, 薫, 1956−,トマス・S・クーン [著],青木薫 訳：みすず書房, 2023.6

参考書

授業内で適宜紹介します。

備考

授業への積極的なコミットメントが求められます。

テキストはコピーでも構いません。

当授業での AI の使用については、初回授業で説明します。

連絡先（メールアドレス）

藤井　達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

藤井　達夫:毎週月曜日 12:00―13:00(管理棟 2 階)

時間割番号	004661				
科目名	教養基礎セミナー(科学と疑似科学の境界)前半 1 講　奈良			科目 ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜1講

・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについて基本を理解する

1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる

4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

巷には「マイナスイオン」、「パワーストーン」、「活性水素水」「ホメオパシー」など科学的な根拠がないもの、曖昧なもので溢れています。大学生の科学的な知識があれば、このようなニセ科学(疑似科学)に属するものには絶対だまされるはずはないと過信しがちですが、科学とニセ科学の間に明確な境界線があるわけではなく、白黒がはっきりつかないことがしばしばです。この授業では、社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。受講者にはできるだけ授業に参加できるように、グループ討論、発表を行います。

授業の到達目標

授業の関係したテーマを見つけて、そのテーマの基づいて理解を深める。自分で課題を設定し、レポート(本文 2000 字以上)としてまとめて、期日までに提出することが、GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		奈良　雅之
3-4	9/30	08:50-10:30		奈良　雅之
5-6	10/7	08:50-10:30		奈良　雅之
7-8	10/14	08:50-10:30		奈良　雅之
9-10	10/21	08:50-10:30		奈良　雅之
11-12	10/28	08:50-10:30		奈良　雅之
13-14	11/4	08:50-10:30		奈良　雅之
15-16	11/11	08:50-10:30		奈良　雅之

授業方法

概要については講義形式で実施するが、グループ活動で話し合ったり、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。授業の終盤では、発表会を行います。

授業内容

社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。科学的な側面から基礎事項を確認するとともに、文化、制度の面からも考えていきます。

成績評価の方法

評価:試験0%・レポート80%

その他20%(授業への参加度・授業中の回答状況)

再評価:有

授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:配付資料、関連資料に目を通してください。

復習:興味のある項目について、文献を調べてください。

試験の受験資格

・定期試験・再試験の受験資格：原則3分の2以上出席
（レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。）

参考書

嘘と絶望の生命科学／榎木英介 著,：文藝春秋, 2014
メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学／松永和紀 著,：名古屋市鶴舞中央図書館点字文庫, 2010
科学と人間の不協和音／池内了 [著],：角川書店, 2012
活性酸素／高柳 輝夫 編,大坂 武男 編,大坂 武男 [ほか]共著,日本化学会 監修,：丸善
博士漂流時代 ：「余った博士」はどうなるか?／榎木英介 [著],：ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2010
水素水とサビない身体／太田成男 著,：小学館, 2013
疑似科学入門／池内 了 著,：岩波書店
なぜ疑似科学が社会を動かすのか ：ヒトはあやしげな理論に騙されたがる／石川幹人著,石川, 幹人,：PHP 研究所, 2016

連絡先（メールアドレス）

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期：毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期：毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	004662				
科目名	教養基礎セミナー(科学と疑似科学の境界)前半 2 講　奈良			科目 ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 2 講

・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについて基本を理解する

1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる

4-2) 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

巷には「マイナスイオン」、「パワーストーン」、「活性水素水」「ホメオパシー」など科学的な根拠がないもの、曖昧なもので溢れています。大学生の科学的な知識があれば、このようなニセ科学(疑似科学)に属するものには絶対だまされるはずはないと過信しがちですが、科学とニセ科学の間に明確な境界線があるわけではなく、白黒がはっきりつかないことがしばしばです。この授業では、社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。受講者にはできるだけ授業に参加できるように、発言、発表する機会を設けたいと思います。

授業の到達目標

授業の関係したテーマを見つけて、そのテーマの基づいて理解を深める。

自分で課題を設定し、レポート(本文 2000 字以上)としてまとめて、期日までに提出することが、GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		奈良　雅之
3-4	9/30	10:45-12:25		奈良　雅之
5-6	10/7	10:45-12:25		奈良　雅之
7-8	10/14	10:45-12:25		奈良　雅之
9-10	10/21	10:45-12:25		奈良　雅之
11-12	10/28	10:45-12:25		奈良　雅之
13-14	11/4	10:45-12:25		奈良　雅之
15-16	11/11	10:45-12:25		奈良　雅之

授業方法

講義形式を予定していますが、履修人数が少ない場合は、希望に応じて、セミナー形式に変更することができます。履修人数が多い場合にも、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。授業の終盤では、発表会を行います。

授業内容

社会問題としてインパクトの強かった疑似科学のトピックをいくつか選び、科学と疑似科学のグレーゾーンについて理解を深めます。科学的な側面から基礎事項を確認するとともに、文化、制度の面からも考えていきます。

成績評価の方法

評価:試験0%・レポート80%

その他20%(授業への参加度・授業中の回答状況)

再評価:有

授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:配付資料、関連資料に目を通してください。

復習:興味のある項目について、文献を調べてください。

試験の受験資格

・定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席
（レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。）

参考書

嘘と絶望の生命科学／榎木英介 著,:文藝春秋, 2014
メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学／松永和紀 著,:名古屋市鶴舞中央図書館点字文庫, 2010
科学と人間の不協和音／池内了 [著],:角川書店, 2012
活性酸素／高柳 輝夫 編,大坂 武男 編,大坂 武男 [ほか]共著,日本化学会 監修,:丸善
博士漂流時代 :「余った博士」はどうなるか?／榎木英介 [著],:ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2010
水素水とサビない身体／太田成男 著,:小学館, 2013
疑似科学入門／池内 了 著,:岩波書店
なぜ疑似科学が社会を動かすのか : ヒトはあやしげな理論に騙されたがる／石川幹人著,石川, 幹人,:PHP 研究所, 2016

連絡先(メールアドレス)

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	004663				
科目名	教養基礎セミナー(生命科学の光と影)後半 1 講　奈良			科目 ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜1講

・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-3)人間の歴史的営みを理解する。

1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2-1)自然現象を科学的に理解するための方法論を知る

4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

我々の生存を支えている生命現象はきわめて複雑で、それにはタンパク質、糖質、脂質、核酸などの多種類の物質が関わっています。それらの物質の中で生命現象の直接的な担い手であるタンパク質に注目が集まっています。21世紀はタンパク質の時代ともてはやされて、この10年間で大型のプロジェクトが活発に推進されました。この授業では生命科学の柱の1つであるタンパク質研究に焦点を当てて、X線、核磁気共鳴(NMR)、赤外線という電磁波の活用法を学びます。これらの光を活用するために、フーリエ変換という数学的な手法について知り、生命科学の「光と影」について理解を深めます。

授業の到達目標

授業の関係したテーマを見つけて、そのテーマの基づいて理解を深める。

自分で課題を設定し、レポート(本文 2000 字以上)としてまとめて、期日までに提出することが、GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		奈良　雅之
3-4	11/25	08:50-10:30		奈良　雅之
5-6	12/2	08:50-10:30		奈良　雅之
7-8	12/9	08:50-10:30		奈良　雅之
9-10	12/16	08:50-10:30		奈良　雅之
11-12	1/6	08:50-10:30		奈良　雅之
13-14	1/13	08:50-10:30		奈良　雅之

授業方法

講義形式を予定していますが、履修人数が少ない場合は、希望に応じて、セミナー形式に変更することができます。履修人数が多い場合にも、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。

授業内容

21世紀はタンパク質の時代ともてはやされて、この18年間で大型のプロジェクトが活発に推進されましたが、その光と影に迫ってみたいと考えます。科学的な知識として、タンパク質構造解析の概略を勉強しますが、実際にこの研究に携わったポスドクの問題など、社会的な視点からも理解を深めます。

成績評価の方法

評価:試験0%・レポート 80%

その他(授業への参加度 20%)

再評価:有

授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:配付資料に目を通してください。
復習:興味のあるテーマを見つけたら、それに関する文献や本を調べてください。

試験の受験資格

・定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席
（レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。）

参考書

タンパク質の生命科学 : ポスト・ゲノム時代の主役／池内俊彦 著,:中央公論新社, 2001
ポストゲノム時代のタンパク質科学 : 構造・機能・ゲノミクス／Arthur M.Lesk 著,高木淳一 訳.:化学同人, 2007
入門構造生物学 : 放射光 X 線と中性子で最新の生命現象を読み解く／高エネルギー加速器研究機構構造生物学研究センター, 加藤龍一 編.:共立出版, 2010
タンパク質の構造と機能 : カラー図説／グレゴリー A. ペツコ／著,ダグマール リンゲ／著,横山 茂之／監訳,宮島 郁子／訳.:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2005

連絡先(メールアドレス)

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	004664				
科目名	教養基礎セミナー(生命科学の光と影)後半 2 講　奈良			科目 ID	
担当教員	奈良　雅之[NARA Masayuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜2講

・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-3)人間の歴史的営みを理解する。

1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる

2-1)自然現象を科学的に理解するための方法論を知る

4-2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

我々の生存を支えている生命現象はきわめて複雑で、それにはタンパク質、糖質、脂質、核酸などの多種類の物質が関わっています。それらの物質の中で生命現象の直接的な担い手であるタンパク質に注目が集まっています。21世紀はタンパク質の時代ともてはやされて、この10年間で大型のプロジェクトが活発に推進されました。この授業では生命科学の柱の1つであるタンパク質研究に焦点を当てて、X線、核磁気共鳴(NMR)、赤外線という電磁波の活用法を学びます。これらの光を活用するために、フーリエ変換という数学的な手法について知り、生命科学の「光と影」について理解を深めます。

授業の到達目標

授業の関係したテーマを見つけて、そのテーマの基づいて理解を深める。

自分で課題を設定し、レポート(本文 2000 字以上)としてまとめて、期日までに提出することが、GPA における「B」に相当する。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		奈良　雅之
3-4	11/25	10:45-12:25		奈良　雅之
5-6	12/2	10:45-12:25		奈良　雅之
7-8	12/9	10:45-12:25		奈良　雅之
9-10	12/16	10:45-12:25		奈良　雅之
11-12	1/6	10:45-12:25		奈良　雅之
13-14	1/13	10:45-12:25		奈良　雅之

授業方法

講義形式を予定していますが、履修人数が少ない場合は、希望に応じて、セミナー形式に変更することができます。履修人数が多い場合にも、文献や指定課題について事前に調べてディスカッションするなど、アクティブラーニングを取り入れます。

授業内容

21世紀はタンパク質の時代ともてはやされて、この20年間で大型のプロジェクトが活発に推進されましたが、その光と影に迫ってみたいと考えます。科学的な知識として、タンパク質構造解析の概略を勉強しますが、実際にこの研究に携わったポスドクの問題など、社会的な視点からも理解を深めます。

成績評価の方法

評価:試験0%・レポート 80%

その他(授業への参加度 20%)

再評価:有

授業で習得したことをレポートにまとめることを重視します。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習:配付資料に目を通してください。

復習:興味のあるテーマを見つけたら、それに関する文献や本を調べてください。

試験の受験資格

・定期試験・再試験の受験資格:原則3分の2以上出席

（レポートでもって、定期試験・再試験の代替とする。）

参考書

タンパク質の生命科学 : ポスト・ゲノム時代の主役／池内俊彦 著,:中央公論新社, 2001

ポストゲノム時代のタンパク質科学 : 構造・機能・ゲノミクス／Arthur M.Lesk 著,高木淳一 訳,:化学同人, 2007

入門構造生物学 : 放射光 X 線と中性子で最新の生命現象を読み解く／高エネルギー加速器研究機構構造生物学研究センター, 加藤龍一 編,:共立出版, 2010

タンパク質の構造と機能 : カラー図説／グレゴリー A. ペツコ／著,ダグマール リンゲ／著,横山 茂之／監訳,宮島 郁子／訳,:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2005

連絡先(メールアドレス)

nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

時間割番号	004665				
科目名	教養基礎セミナー(医歯系の物理)前半 2 講　檜枝			科目 ID	
担当教員	檜枝　光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:木曜2講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2－1)別表2－2)別表2－4)別表4－2)

授業の目的、概要等

医療は物理学と大いに関係しています。例えば、人体の動きや歯の矯正治療は力学が関係しており、医療でお馴染みの X 線、MRI、レーザーなど現代医療技術は物理学者によって発見されました。本授業はセミナー形式で進め、医歯学に関係した物理について理解を深めていきます。

授業の到達目標

前期に学んだ物理を基礎に、セミナー形式で医歯学に関係した物理を習得する。

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
3-4	9/30	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
5-6	10/7	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
7-8	10/14	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
9-10	10/21	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
11-12	10/28	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
13-14	11/4	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
15-16	11/11	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー

授業方法

セミナー

授業内容

1. 医歯系の物理セミナー1:力学
2. 医歯系の物理セミナー2:流体
3. 医歯系の物理セミナー3:熱
4. 医歯系の物理セミナー4:音
5. 医歯系の物理セミナー5:光
6. 医歯系の物理セミナー6:磁気
7. 医歯系の物理セミナー7:放射線
8. まとめ

成績評価の方法

評価 : レポート 40 %

授業内でのプレゼン 40%

その他(授業の参加度) 20%

再評価: 有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料や文献を読みプレゼンテーションの準備をすること。

試験の受験資格

試験は実施しないが、原則 2/3 以上の出席が必要

参考書

生物学と医学のための物理学／Paul Davidovits 著,曽我部正博 監訳,吉村建二郎 編集協力,:共立出版, 2015

物理学入門から医用物理へ : 超音波、磁気共鳴、X 線理解のために／本間康浩 著,:ブイツーソリューション, 2013

医療系のための物理／佐藤幸一, 藤城敏幸 著,:東京教学社, 2013

ライフサイエンス物理学／Morton M.Sternheim, Joseph W.Kane [著] ; 石井千穎監訳,Sternheim, Morton M.,Kane, Joseph W.,石井, 千穎,:広川書店, 1991

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

檜枝 光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

檜枝 光憲:毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	004666				
科目名	教養基礎セミナー(人体・医療の物理)後半 2 講　檜枝			**科目 ID**	
担当教員	檜枝　光憲[HIEDA Mitsunori]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:木曜2講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表2－1)別表2－2)別表2－4)

別表4－2)

授業の目的、概要等

生命も含め物質現象は物理学の原理と大いに関係しています。例えば人体の動きや歯の矯正治療は力学、血流の流れは流体力学、また体内に取り込み消費するエネルギーは熱力学の原理に従っています。また、X 線、MRI、重粒子線治療など多くの現代医療測定技術は物理学の成果です。本授業はセミナー形式で進め、人体や医歯学に関係した物理を学んでいきます。

授業の到達目標

前期に学んだ物理を基礎に、セミナー形式で人体・医療に関係した物理を習得する。

到達目標を概して達成したレベルを評価 70～79 とする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
3-4	11/25	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
5-6	12/2	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
7-8	12/9	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
9-10	12/16	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
11-12	1/6	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー
13-14	1/13	10:45-12:25		檜枝 光憲	セミナー

授業方法

セミナー

授業内容

1. 人体・医療の物理セミナー1:力学
2. 人体・医療の物理セミナー2:流体
3. 人体・医療の物理セミナー3:熱
4. 人体・医療の物理セミナー4:音
5. 人体・医療の物理セミナー5:光
6. 人体・医療の物理セミナー6:磁気
7. 人体・医療の物理セミナー7:放射線

成績評価の方法

評価 : レポート 40 %

授業内でのプレゼン 40%

その他(授業の参加度) 20%

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料や文献を調べプレゼン等の準備をすること。

試験の受験資格

試験は実施しないが、原則 2/3 以上の出席が必要

参考書

生物学と医学のための物理学／Paul Davidovits 著,曽我部正博 監訳,吉村建二郎 編集協力,:共立出版, 2015

物理学入門から医用物理へ : 超音波、磁気共鳴、X 線理解のために／本間康浩 著,:ブイツーソリューション, 2013

医療系のための物理／佐藤幸一, 藤城敏幸 著,:東京教学社, 2013

ライフサイエンス物理学／Morton M.Sternheim, Joseph W.Kane [著] ; 石井千穎監訳,Sternheim, Morton M.,Kane, Joseph W.,石井, 千穎,:広川書店, 1991

履修上の注意事項

原則 2/3 以上の出席が必要。 出欠管理システムより、教員自身が取る出欠を優先させる。

連絡先(メールアドレス)

檜枝 光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

檜枝 光憲:毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

時間割番号	004669				
科目名	教養基礎セミナー(生活の中の化学)前半 1 講 勝又			科目 ID	
担当教員	勝又 敏行[KATSUMATA Toshiyuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜日1講(後期前半)

募集人数:8名

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表2−1)自然現象を探求するための手法を知る

別表2−2)自然現象を探求するための手法を知る

別表2−4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

授業の目的、概要等

自然科学実験や科学基礎実験の中の化学実験では、金属イオンの分析や容量分析を行っている。これらの実験は教科書の中の説明をするだけのものではない。今までの知識の積み重ねで得られたものをまとめたもので、社会の中の様々な分野、場面で応用され利用されている。本セミナーでは化学実験の中で使われている試料や試薬、使われている化学的な手法が現代社会の中でどこでどのように関連しているのかを調べ、化学と社会のつながりを理解する。

授業の到達目標

化学と社会とのつながりについて調べ、グループでのディスカッションをで自分の意見を発言できる。

調べたことをまとめてプレゼンテーションできる。

GPA における「B」の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1−2	9/16	08:50−10:30		勝又 敏行
3−4	9/30	08:50−10:30		勝又 敏行
5−6	10/7	08:50−10:30		勝又 敏行
7−8	10/14	08:50−10:30		勝又 敏行
9−10	10/21	08:50−10:30		勝又 敏行
11−12	10/28	08:50−10:30		勝又 敏行
13−14	11/4	08:50−10:30		勝又 敏行
15−16	11/11	08:50−10:30		勝又 敏行

授業方法

課題に対してグループディスカッションを行う。

そのディスカッションの内容を踏まえ、まとめてプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニング中心のセミナーである。

授業内容

1. 化学実験の内容の分析
2. 実験の内容が生活、社会でどのように使われているかのディスカッション(アクティブラーニング)
3. 各自興味のあるテーマでのプレゼンテーション(アクティブラーニング)
4. 現代社会における科学の役割についてのディスカッション(アクティブラーニング)

成績評価の方法

以下の通りとする。

評価:試験 0%、レポート 50%、プレゼンテーションやディスカッションなど 50%

再評価 有(レポート再提出)

成績評価の基準

話し合いにおける取組、プレゼンテーション、レポートを総合的に判断する。

準備学習等についての具体的な指示 化学実験で使われているか試料、手法などがどのように使われているかを、それをまとめて議論、発表できるようにすること。
参考書 化学実験テキスト（東京医科歯科大学）
連絡先（メールアドレス） 勝又　敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 勝又　敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	004670				
科目名	教養基礎セミナー(化学実験と生活)後半1講 勝又			科目ID	
担当教員	勝又 敏行[KATSUMATA Toshiyuki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜日1講(後期後半)

募集人数:8名

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表2−1)自然現象を探求するための手法を知る

別表2−2)自然現象を探求するための手法を知る

別表2−4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

授業の目的、概要等

自然科学実験や科学基礎実験の中の化学実験では、金属イオンの分析や容量分析を行っている。これらの実験は教科書の中の説明をするだけのものではない。今までの知識の積み重ねで得られたものをまとめたもので、社会の中の様々な分野、場面で応用され利用されている。本セミナーでは化学実験の中で使われている試料や試薬、使われている化学的な手法が現代社会の中でどこでどのように関連しているのかを調べ、化学と社会のつながりを理解する。

授業の到達目標

化学と社会とのつながりについて調べ、グループでのディスカッションをで自分の意見を発言できる。

調べたことをまとめてプレゼンテーションできる。

GPA における「B」の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1−2	11/18	08:50−10:30		勝又 敏行
3−4	11/25	08:50−10:30		勝又 敏行
5−6	12/2	08:50−10:30		勝又 敏行
7−8	12/9	08:50−10:30		勝又 敏行
9−10	12/16	08:50−10:30		勝又 敏行
11−12	1/6	08:50−10:30		勝又 敏行
13−14	1/13	08:50−10:30		勝又 敏行

授業方法

課題に対してグループディスカッションを行う。

そのディスカッションの内容を踏まえ、まとめてプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニング中心のセミナーである。

授業内容

1. 化学実験の内容の分析
2. 実験の内容が生活、社会でどのように使われているかのディスカッション(アクティブラーニング)
3. 各自興味のあるテーマでのプレゼンテーション(アクティブラーニング)
4. 現代社会における科学の役割についてのディスカッション(アクティブラーニング)

成績評価の方法

以下の通りとする。

評価:試験 0%、レポート 50%、プレゼンテーションやディスカッションなど 50%

再評価 有(レポート再提出)

成績評価の基準

話し合いにおける取組、プレゼンテーション、レポートを総合的に判断する。

準備学習等についての具体的な指示 化学実験で使われているか試料、手法などがどのように使われているかを、それをまとめて議論、発表できるようにすること。
参考書 化学実験テキスト（東京医科歯科大学）
連絡先（メールアドレス） 勝又　敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 勝又　敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

時間割番号	004671				
科目名	教養基礎セミナー(食の科学)前半 2 講 澤野			科目 ID	
担当教員	澤野 頼子[SAWANO Yoriko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜日・2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表1－3)人間の歴史的営みを理解する

別表2－1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る。

別表2－4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

授業の目的、概要等

食は私たちの健康や生命を維持するために欠かすことのできない大切なものである。人間にとって食とは、身体の形成やエネルギー供給源として働く「栄養素」を与えるだけのものではなく、「おいしさ」や「安全性」を兼ね備え、健康の維持や疾病の予防に有効な「機能性(生体調節機能)」をもたらすものでもある。そして、「食生活」、「食文化」という言葉が表すように、食は人類の進化の歴史の中で、生活環境や文化と密接に関連し、変遷を遂げてきた。一方で、近年、地球環境の変動等によって食料生産に関わる諸問題が顕在化しており、食の持続可能性に対する関心が高まっている。本授業では、食の文化的・歴史的・科学的側面や諸問題について、PBL および課題発表によって理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標

1)講義、PBL・課題発表により食を文化的・歴史的・科学的側面からとらえ、自分の考えをレポートにまとめる。

GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/16	10:45-12:25		ガイダンス、講義	ガイダンスと導入講義	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】講義
3-4	9/30	10:45-12:25		PBL(1)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
5-6	10/7	10:45-12:25		PBL(2)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
7-8	10/14	10:45-12:25		PBL(3)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
9-10	10/21	10:45-12:25		PBL(4)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
11-12	10/28	10:45-12:25		PBL(5)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
13-14	11/4	10:45-12:25		リハーサル	発表会のリハーサル	澤野 頼子	【到達目標】1)【学

							習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
15-16	11/11	10:45-12:25		発表会	発表会のリハーサル	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】課題発表、リアクションペーパー提出

授業方法

講義およびアクティブラーニング(PBL、課題発表)による

授業内容

食の文化的・歴史的・科学的側面や諸問題について、講義、PBL・課題発表を通して学ぶ。

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 25% ・ 授業への参加度および PBL・課題発表 75%

再評価: 有

授業時の取り組み状況(PBL での活動状況、課題発表)を重視し、それに関連したレポートとともに評価を行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

講義資料(Science Tokyo LMS に掲載)に目を通しておく。

食に関する新聞記事、ニュース、インターネット、書籍、論文等から情報収集を行い、自分なりの考えをまとめる。

試験の受験資格

原則3分の2以上出席

参考書

食品の科学／上野川修一, 田之倉優 編,:東京化学同人, 2005

食品学 : 食品成分と機能性 第2版／久保田紀久枝, 森光康次郎編,久保田, 紀久枝,森光, 康次郎,:東京化学同人, 2021

ニューフードサイエンス／鮫島邦彦, 高橋史生 編著,鮫島, 邦彦, 1938-,高橋, 史生,:三共出版, 2005

健康と食生活／吉田勉 編著,吉田, 勉, 1927-,:学文社, 2016

パソコンで学ぶ食品化学 : 目で見る食品成分とその変化／高野克己, 渡部俊弘編著,高野, 克己,渡部, 俊弘,:三共出版, 2005

健康と調理のサイエンス : 調理科学と健康の接点／大越ひろ, 品川弘子 編著,渡辺敦子, 大須賀彰子, 藤井恵子, 高橋智子, 飯田文子 著,:学文社, 2017

SDGs 時代の食・環境問題入門／吉積巳貴、島田幸司、天野耕二、吉川直樹,吉積巳貴、島田幸司、天野耕二、吉川直樹,:昭和堂, 2021

食科学入門 : 食の総合的理解のために／朝倉敏夫, 井澤裕司, 新村猛, 和田有史 編:昭和堂, 2018

図解よくわかるフードテック入門／三輪, 泰史,三輪泰史 編著:日刊工業新聞社, 2022

持続可能性と環境・食・農／廣政, 幸生,廣政幸生 編著:日本経済評論社, 2022

【参考書 11】

ISBN:9784296209859

書名:教養としてのフードテック : リベラルアーツで問い直す「食の本質価値」

著者名:松島倫明, 田中宏隆, 岡田亜希子　出版社:日経 BP　出版年:2025

【参考書 12】

ISBN:9784540201936

書名:食・農・環境と SDGs : 持続可能な社会のトータルビジョン

著者名:古沢広祐　出版社:農山漁村文化協会　出版年:2020

連絡先(メールアドレス)

澤野 頼子:sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

澤野 頼子:前期:火曜日 12:00-13:20、後期:木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階

時間割番号	004672				
科目名	教養基礎セミナー(食の科学)後半 2 講 澤野			科目 ID	
担当教員	澤野 頼子[SAWANO Yoriko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜日・2 講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表1－3)人間の歴史的営みを理解する

別表2－1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る。

別表2－4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

授業の目的、概要等

食は私たちの健康や生命を維持するために欠かすことのできない大切なものである。人間にとって食とは、身体の形成やエネルギー供給源として働く「栄養素」を与えるだけのものではなく、「おいしさ」や「安全性」を兼ね備え、健康の維持や疾病の予防に有効な「機能性(生体調節機能)」をもたらすものでもある。そして、「食生活」、「食文化」という言葉が表すように、食は人類の進化の歴史の中で、生活環境や文化と密接に関連し、変遷を遂げてきた。一方で、近年、地球環境の変動等によって食料生産に関わる諸問題が顕在化しており、食の持続可能性に対する関心が高まっている。本授業では、食の文化的・歴史的・科学的側面や諸問題について、PBL および課題発表によって理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標

1)講義、PBL・課題発表により食を文化的・歴史的・科学的側面からとらえ、自分の考えをレポートにまとめる。

GPA における「B」(本試験合格レベル)の条件は、上記到達目標を概ね達成できたこととする。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	10:45-12:25		ガイダンス、講義	ガイダンスと導入講義	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】講義
3-4	11/25	10:45-12:25		PBL(1)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
5-6	12/2	10:45-12:25		PBL(2)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
7-8	12/9	10:45-12:25		PBL(3)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
9-10	12/16	10:45-12:25		PBL(4)	PBL(グループ活動)	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
11-12	1/6	10:45-12:25		リハーサル	発表会のリハーサル	澤野 頼子	【到達目標】1)【学習方法】PBL、グループ毎の活動報告提出
13-14	1/13	10:45-12:25		発表会	発表会のリハーサル	澤野 頼子	【到達目標】1)【学

							習方法】課題発表、リアクションペーパー提出

授業方法

講義およびアクティブラーニング(PBL、課題発表)による

授業内容

食の文化的・歴史的・科学的側面や諸問題について、講義、PBL・課題発表を通して学ぶ。

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 25% ・ 授業への参加度および PBL・課題発表 75%

再評価: 有

授業時の取り組み状況(PBL での活動状況、課題発表)を重視し、それに関連したレポートとともに評価を行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

講義資料(Science Tokyo LMS に掲載)に目を通しておく。

食に関する新聞記事、ニュース、インターネット、書籍、論文等から情報収集を行い、自分なりの考えをまとめる。

試験の受験資格

原則3分の2以上出席

参考書

食品の科学／上野川修一, 田之倉優 編,:東京化学同人, 2005

食品学 : 食品成分と機能性 第2版／久保田紀久枝, 森光康次郎編,久保田, 紀久枝,森光, 康次郎,:東京化学同人, 2021

ニューフードサイエンス／鮫島邦彦, 高橋史生 編著,鮫島, 邦彦, 1938-,高橋, 史生,:三共出版, 2005

健康と食生活／吉田勉 編著,吉田, 勉, 1927-,:学文社, 2016

パソコンで学ぶ食品化学 : 目で見る食品成分とその変化／高野克己, 渡部俊弘編著,高野, 克己,渡部, 俊弘,:三共出版, 2005

健康と調理のサイエンス : 調理科学と健康の接点／大越ひろ, 品川弘子 編著,渡辺敦子, 大須賀彰子, 藤井恵子, 高橋智子, 飯田文子 著,:学文社, 2017

SDGs 時代の食・環境問題入門／吉積巳貴、島田幸司、天野耕二、吉川直樹,吉積巳貴、島田幸司、天野耕二、吉川直樹,:昭和堂, 2021

食科学入門 : 食の総合的理解のために／朝倉敏夫, 井澤裕司, 新村猛, 和田有史 編:昭和堂, 2018

図解よくわかるフードテック入門／三輪, 泰史,三輪泰史 編著:日刊工業新聞社, 2022

持続可能性と環境・食・農／廣政, 幸生,廣政幸生 編著:日本経済評論社, 2022

【参考書 11】

ISBN:9784296209859

書名:教養としてのフードテック : リベラルアーツで問い直す「食の本質価値」

著者名:松島倫明, 田中宏隆, 岡田亜希子 出版社:日経 BP 出版年:2025

【参考書 12】

ISBN:9784540201936

書名:食・農・環境と SDGs : 持続可能な社会のトータルビジョン

著者名:古沢広祐 出版社:農山漁村文化協会 出版年:2020

連絡先(メールアドレス)

澤野 頼子:sawano.y.0d97@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

澤野 頼子:前期:火曜日 12:00-13:20、後期:木曜日 12:00-13:20 ヒポクラテス 4 階

時間割番号	004673				
科目名	教養基礎セミナー(生命現象の制御機構)前半 1 講　伊藤			**科目 ID**	
担当教員	伊藤　正則[ITO Masanori]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜 1 講

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

2－2)自然現象を探究するための手法を知る。

2－4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。

4－3)自然現象を探究するための基本的な手法を身につける。

主な講義場所

後日連絡する。

授業の目的、概要等

医療の基盤となる生命科学の理解を深める。各自が、興味ある生命現象を対象にして、この発現制御メカニズムを調べ、発表する。その際、疑問点の提出から、既存の知識を根拠にして論理的に説明することを重視する。

授業の到達目標

1)生命現象の発現制御メカニズムを理解し、説明することができる。

2)疑問点を抽出し、既存の知識を根拠にして論理的に説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		伊藤　正則
3-4	9/30	08:50-10:30		伊藤　正則
5-6	10/7	08:50-10:30		伊藤　正則
7-8	10/14	08:50-10:30		伊藤　正則
9-10	10/21	08:50-10:30		伊藤　正則
11-12	10/28	08:50-10:30		伊藤　正則
13-14	11/4	08:50-10:30		伊藤　正則
15-16	11/11	08:50-10:30		伊藤　正則

授業方法

それぞれの学生が興味ある生命現象を選び、この発現制御メカニズムを既存の知識を根拠にして論理的に説明することを試みる。

授業内容

第 1 回　ガイダンス:文献を検索する方法を学ぶ。

第 2、3 回　発表テーマを選ぶ。発表用 PowerPoint file を作成する。

第 4 回　中間発表、質疑応答

第 5 回、6 回　発表用 PowerPoint file を完成させる。

第 7、8 回　発表会、質疑応答

成績評価の方法

発表内容・発表での質疑応答 100%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予め情報検索し、発表用 PowerPoint file をつくる。

試験の受験資格

全出席すること。公欠の場合はオンラインでの補講を受けること。

参考書

必要に応じて紹介する。

連絡先(メールアドレス)
伊藤　正則:itohmt.las@tmd.ac.jp
オフィスアワー
伊藤　正則:毎週月曜日　AM.10:00-PM.2:00　ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

時間割番号	004674				
科目名	教養基礎セミナー(医療の基盤となる生物学)後半 1 講 伊藤			科目 ID	
担当教員	伊藤 正則[ITO Masanori]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 1 講

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)

2－2)自然現象を探究するための手法を知る。

2－4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける。

4－3)自然現象を探究するための基本的な手法を身につける。

主な講義場所

後日連絡する。

授業の目的、概要等

生物学の理解を深め、生物学の知識が医療において活用されていることを理解する。各自が、興味ある生命現象とこの医療への応用を対象にして、調べ、応用を発表する。その際、疑問点の提出から、既存の知識を根拠にして論理的に説明することを重視する。

授業の到達目標

1)生命現象の発現制御メカニズムと医療への応用を理解し、説明することができる。

2)疑問点を抽出し、既存の知識を根拠にして論理的に説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		伊藤 正則
3-4	11/25	08:50-10:30		伊藤 正則
5-6	12/2	08:50-10:30		伊藤 正則
7-8	12/9	08:50-10:30		伊藤 正則
9-10	12/16	08:50-10:30		伊藤 正則
11-12	1/6	08:50-10:30		伊藤 正則
13-14	1/13	08:50-10:30		伊藤 正則

授業方法

それぞれの学生が興味ある生命現象を選び、この発現制御メカニズムを既存の知識を根拠にして論理的に説明することを試みる。

授業内容

第 1 回 ガイダンス:文献を検索する方法を学ぶ。

第 2、3 回 発表テーマを選ぶ。発表用 PowerPoint file を作成する。

第 4 回 中間発表、質疑応答

第 5 回、6 回 発表用 PowerPoint file を完成させる。

第 7、8 回 発表会、質疑応答

成績評価の方法

発表内容・発表での質疑応答 100%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予め情報検索し、発表用 PowerPoint file をつくる。

試験の受験資格
全出席すること。公欠した場合はオンラインでの補講を受けること。
参考書
その都度、紹介する。
連絡先（メールアドレス）
伊藤　正則:itohmt.las@tmd.ac.jp
オフィスアワー
伊藤　正則:毎週月曜日　AM.10:00-PM.2：00　ヒポクラテスホール4階生物学教員研究室

時間割番号	004675				
科目名	教養基礎セミナー(生物由来の薬と毒)前半 2 講 松本			科目 ID	
担当教員	松本 幸久[MATSUMOTO Yukihisa]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 2 講

・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する。

別表 2-1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る。

別表 2-5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う。

別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける。

別表 4-4)情報についての基本技能を身につける。

授業の目的、概要等

私たちの身の回りには、人体にとって害になる物質(毒)を持つ生物がたくさん存在する。この授業では、特に生物由来の毒(toxin)に注目し、毒に関する基本的な知識と身の回りにいる「毒を持つ生物」について知り、さらに毒を摂取してから症状が起こるまでのメカニズムを器官、細胞、分子レベルで理解することを目的とする。また、基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明する技術を向上させることを目指す。講義、PBL・課題発表により、生物毒を科学的、文化的な側面からとらえ、レポートにまとめる。また授業内で国府台キャンパスを散策し、大学校内に自生している毒草・薬草を実際に観察してみる。

1 回目:ガイダンス、生物毒についての講義
2 回目:校内の薬草・毒草の探索、グループワーク(テーマの決定)
3 回目:グループワーク(調べものと議論)
4 回目:グループワーク(調べものと議論、発表準備)
5 回目:グループ発表と議論
6 回目:グループ発表と議論
7 回目:個人発表
8 回目:個人発表

＊内容、予定に変更があった場合にはその都度告知する。

授業の到達目標

1)生物が持っている毒の種類とその機能を説明することができる。
2)毒を産生する器官、生物がその毒を持つことの生態学的な意義、その毒の文化的な側面などを説明することができる。
3)毒を摂取した生体における症状を説明し、さらに生体の構造・機能と関連させて、毒の作用機序を分子レベルで説明することができる。
4)知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		松本 幸久
3-4	9/30	10:45-12:25		松本 幸久
5-6	10/7	10:45-12:25		松本 幸久
7-8	10/14	10:45-12:25		松本 幸久
9-10	10/21	10:45-12:25		松本 幸久
11-12	10/28	10:45-12:25		松本 幸久
13-14	11/4	10:45-12:25		松本 幸久

15-16	11/11	10:45-12:25		松本 幸久	

授業方法

基本的にセミナー形式で行う。得た知識を論理的にまとめ、発表を通じてわかりやすく説明する。アクティブラーニングとして、疑問点を抽出する能力を向上させるために、毎回、他の人の発表に対して質問をしたり、コメントシートに疑問点などを記述して提出したりする。必要であれば、その場でインターネットにより情報検索を行う。

成績評価の方法

評価:授業への参加度 40%・レポート 30%・発表 30%

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業で扱った事項や発表で出た質問について、参考書やインターネット等により知識の拡充・整理を行い、自分なりの考えをまとめる。

試験の受験資格

2/3 以上出席し、個人発表をしたものにレポートを提出することができる資格を与える。

教科書

必要に応じて参考資料を配布する。

参考書

天然の毒 : 毒草・毒虫・毒魚／山崎幹夫, 中嶋暉躬, 伏谷伸宏著,山崎, 幹夫,中嶋, 暉躬,伏谷, 伸宏,講談社サイエンティフィク,:講談社, 1985

毒物雑学事典 : ヘビ毒から発ガン物質まで／大木幸介 著,大木／幸介,:講談社

毒の科学 : 毒と人間のかかわり : 毒はどのように利用され解明されてきたのか、文化的・歴史的にアプローチする／船山信次著,船山, 信次,:ナツメ社, 2013

連絡先(メールアドレス)

松本 幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

時間割番号	004676				
科目名	教養基礎セミナー(バイオミメティクスの世界)後半 2 講 松本			科目 ID	
担当教員	松本 幸久[MATSUMOTO Yukihisa]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

・曜日・時間:水曜 2 講

・対象学科:全学科

・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する。

別表 2-1)自然現象を科学的に探究するための方法論を知る。

別表 2-5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う。

別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける。

別表 4-4)情報についての基本技能を身につける。

授業の目的、概要等

バイオミメティクス(biomimetics)とは、「規範となる生物の構造・機能や生産過程を解析し、そこから着想を得て新しい技術の開発や物造りに技術転移するもの」の意味で、生物そのものを利用するバイオテクノロジー(biotechnology)と区別されている。この授業では、すでに実用化されているバイオミメティクスの技術を例に挙げ、規範となる生物の特徴ある構造や機能について詳しく調べ、技術開発の背景にある物理・化学の法則を理解することを目的とする。また、基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明する技術を向上させることを目指す。講義、PBL・課題発表により、バイオミメティクスの技術を科学的、文化的側面からとらえ、レポートにまとめる。さらにバイオミメティクスの活用法として、身近な課題に対して解決策となる生物を探し、その規範となる特性のメカニズムを調べ、技術転用への可能性を模索することにも挑戦する。

1 回目:ガイダンスと講義、バイオミメティクスの実例調査とテーマの決定
2 回目:個人発表(実例紹介、2 つの問い)
3 回目:個人発表(実例紹介、2 つの問い)
4 回目:グループワーク(調べものと議論:バイオロジー・プッシュ)
5 回目:グループワーク(調べものと議論:テクノロジー・プル)
6 回目:グループワーク(テーマの決定、調べものと議論、発表準備)
7 回目:グループ発表と議論

＊内容、予定に変更があった場合にはその都度告知する。

授業の到達目標

1)バイオミメティクスの技術の実例を挙げ、規範となる生物の構造や機能について説明できる。
2)バイオミメティクスの技術の背景にある物理・化学の法則を説明できる。
3)知識を活用して論理的に考え、その考えを解り易く説明することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		松本 幸久
3-4	11/25	10:45-12:25		松本 幸久
5-6	12/2	10:45-12:25		松本 幸久
7-8	12/9	10:45-12:25		松本 幸久
9-10	12/16	10:45-12:25		松本 幸久
11-12	1/6	10:45-12:25		松本 幸久
13-14	1/13	10:45-12:25		松本 幸久

授業方法

基本的にセミナー形式で行う。得た知識を論理的にまとめ、発表を通じてわかりやすく説明する。アクティブラーニングとして、疑問点を抽出する能力を向上させるために、毎回、他の人の発表に対して質問をしたり、コメントシートに疑問点などを記述して提出したりする。必要であれば、その場でインターネットにより情報検索を行う。

成績評価の方法

評価:授業への参加度 40%・レポート 30%・発表 30%

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業で扱った事項や発表で出た質問について、参考書やインターネット等により知識の拡充・整理を行い、自分なりの考えをまとめる。

試験の受験資格

2/3 以上出席し、個人発表をしたものにレポートを提出することができる資格を与える。

教科書

必要に応じて参考資料を配布する。

参考書

バイオミメティックスハンドブック／バイオミメティックスハンドブック編集委員会 [編],バイオミメティックスハンドブック編集委員会,長田,義仁(1943-),:エヌ・ティー・エス, 2000-09

昆虫ミメティックス : 昆虫の設計に学ぶ／下澤楯夫, 針山孝彦監修,下澤, 楯夫,針山, 孝彦,:エヌ・ティー・エス, 2008

連絡先(メールアドレス)

松本 幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

時間割番号	004677				
科目名	教養基礎セミナー(生命科学における数理モデリング技法)前半 1講 中林			科目ID	
担当教員	中林 潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1),4-2),4-3),4-4),4-5)					

主な講義場所

千葉国際キャンパス

授業の目的、概要等

自然現象を数式を使って記述したものを数理モデルと呼ぶ。数理モデルには様々な種類のものがあるが、それぞれの数理モデル化の技法を解説したテキストの中から一つ選び、班員で輪読する。並行して自分たちで数理モデル化してみたい現象を選び、実際に数理モデル化して、モデルの解析により元の現象の理解を深める。このような作業を通じて、具体的な現象から抽象的概念を抽出する方法とその理念を身につける。

授業の到達目標

特定の現象を数理モデル化し、そのモデルを数理科学的に解析することで元の現象の理解を深められるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		中林 潤
3-4	9/30	08:50-10:30		中林 潤
5-6	10/7	08:50-10:30		中林 潤
7-8	10/14	08:50-10:30		中林 潤
9-10	10/21	08:50-10:30		中林 潤
11-12	10/28	08:50-10:30		中林 潤
13-14	11/4	08:50-10:30		中林 潤
15-16	11/11	08:50-10:30		中林 潤

授業方法

対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業を行う。7～10 名程度のグループワークを実施する。

授業内容

第 1 回目で輪読する課題テキストを選ぶ。2 回目以後は授業の前半にテキストの輪読、後半に自分たちで数理モデル作成と解析を行う。

成績評価の方法

出席状況＋授業中の態度(40%)、最終レポート(60%)を勘案して総合的に評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

輪読の担当者は自分が読んだ内容を他の班員に説明できるよう準備しておく。様式については特に指定しないので、レジュメを配布する、スライドを使うなどの方法を適宜使い分けて説明する。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

連絡先(メールアドレス)

中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中林 潤:月曜～金曜

A.M.10:00 - P.M. 05:00　　国府台キャンパス 4 階 教官研究室―9

時間割番号	004678				
科目名	教養基礎セミナー(様々な生命現象を記述する数理モデル技法)後半1講 中林			科目ID	
担当教員	中林 潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1),4-2),4-3),4-4),4-5)

主な講義場所

千葉国際キャンパス

授業の目的、概要等

自然現象を数式を使って記述したものを数理モデルと呼ぶ。数理モデルには様々な種類のものがあるが、それぞれの数理モデル化の技法を解説したテキストの中から一つ選び、班員で輪読する。並行して自分たちで数理モデル化してみたい現象を選び、実際に数理モデル化して、モデルの解析により元の現象の理解を深める。このような作業を通じて、具体的な現象から抽象的概念を抽出する方法とその理念を身につける。

授業の到達目標

特定の現象を数理モデル化し、そのモデルを数理科学的に解析することで元の現象の理解を深められるようになる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		中林 潤
3-4	11/25	08:50-10:30		中林 潤
5-6	12/2	08:50-10:30		中林 潤
7-8	12/9	08:50-10:30		中林 潤
9-10	12/16	08:50-10:30		中林 潤
11-12	1/6	08:50-10:30		中林 潤
13-14	1/13	08:50-10:30		中林 潤

授業方法

対面授業を基本とするが、状況に応じて遠隔授業を行う。7～10 名程度のグループワークを実施する。

授業内容

第 1 回目で輪読する課題テキストを選ぶ。2 回目以後は授業の前半にテキストの輪読、後半に自分たちで数理モデル作成と解析を行う。

成績評価の方法

出席状況＋授業中の態度(40%)、最終レポート(60%)を勘案して総合的に評価する。筆記試験は行わない。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

輪読の担当者は自分が読んだ内容を他の班員に説明できるよう準備しておく。様式については特に指定しないので、レジュメを配布する、スライドを使うなどの方法を適宜使い分けて説明する。

試験の受験資格

講義全体の 2/3 以上の出席

連絡先(メールアドレス)

中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中林 潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室―9

時間割番号	004679				
科目名	教養基礎セミナー(離散構造 I)前半 2 講 徳永			科目 ID	
担当教員	徳永 伸一[TOKUNAGA Shinichi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 第 2 講

対象学科・専攻:全科・専攻

コンピテンシー:

2−1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る

2−4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

2−5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う

4−2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

4−5)科学文献を読み、学会発表ができる英語力を身につける

授業の目的、概要等

このセミナーで扱うのは、たとえば以下のような問題です:

「m×nの長方形が単位正方形を4つ張り合わせたL字型のタイルで隙間無く敷き詰められるための、mとnの 必要十分条件を求めよ」
「3×4 の長方形の中に 6 つの点があるとき、それら 6 点のうち距離√5 以下の 2 点が存在することを示せ」
「6 人が参加したパーティにおいて、互いに知り合いである 3 人か、または互いに 2 知り合いでない 3 人のいずれかが存在することを示せ」

「離散」とは「連続」と対立する概念です。主として有限で離散的な世界の現象を解析する数学を「離散数学」といい、離散数学が扱う対象を総称して「離散構造」と呼びます。本セミナーでは離散構造に関する書籍を1つ取り上げ、輪読形式のセミナーを行います。扱われる命題の大部分は直観的に理解可能で高度な知識や数式を必要としませんが、その分、論理を正確に理解し言葉で的確に説明する能力が重視されます。

本年度は
V. Boltyanski & A. Soifer 著「Geometric Etude in Combinatorial Mathematics」
(「組合せ数学における幾何的なエチュード」)
の適当な Chapter を選んで読むことにします。
(ただし他に適当な教材があれば受講者の希望も勘案して変更する可能性あり)

本書の英文は極めて平易であり、扱われる問題も直感的に理解しやすいものであるため、高度な読解力や数学および数学専門用語の知識は必要としません(その都度調べれば充分対応可能)。結果的に、英文を「論理的に読む」ための教材として非常に適しており、医療系の英語論文を読む際にも大いに役立つと思われます。なお、冒頭の問題は本書の例題・演習問題から選びました。

授業の到達目標

英語で書かれた数学の平易なテキストを論理的に解読し、理解したことを整理して解説できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1−2	9/16	10:45−12:25		徳永 伸一
3−4	9/30	10:45−12:25		徳永 伸一
5−6	10/7	10:45−12:25		徳永 伸一
7−8	10/14	10:45−12:25		徳永 伸一
9−10	10/21	10:45−12:25		徳永 伸一
11−12	10/28	10:45−12:25		徳永 伸一
13−14	11/4	10:45−12:25		徳永 伸一

15-16	11/11	10:45-12:25		徳永 伸一	

授業方法

輪読によるセミナー形式を中心とします。

また 8 回中 1 回は、学外で開催される数学関連の展示会・講演会または東京理科大学数学体験館を見学する予定ですが、その際、授業の時間帯が時間割と異なる可能性があります(履修者の都合と希望を考慮して決定します)。

授業内容

毎回1～2名の発表者に、各自の担当範囲(概ね1セクションの半分程度)を解説してもらいます。

また発表者には担当範囲の全訳およびそれを補足するレジュメの提出を義務付けます。

成績評価の方法

発表・レジュメの内容や授業参加への積極性を総合的に評価します。

成績評価の基準

到達目標をある程度達成したと見なせること。

準備学習等についての具体的な指示

テキストを事前に読み、未知の英単語・概念等を調べて、内容を把握しておくこと。

参考書

やさしい幾何学問題ゼミナール／ピーター・フランクル, 前原潤 著,:共立出版, 1992

入門組合せ論／ラスロウ・ロバース 他著,秋山仁, ピーター・フランクル 翻案,:共立出版, 1985

ポール・エルデス:離散数学の魅力 : 伝説の講義／Chvátal, Vašek, 1946-,秋山, 仁, 1946-,小舘, 崇子, 1968-,酒井, 利訓,徳永, 伸一,松井, 泰子,VAŠEK CHVÁTAL 著,秋山仁 監訳,小舘崇子, 酒井利訓, 徳永伸一, 松井泰子 訳:近代科学社, 2023.8

他科目との関連

前期の「数学Ⅱ(β)」と関連する問題を一部扱います。

参照ホームページ

出版社によるテキストの紹介ページ:

https://link.springer.com/book/10.1007/978-0-387-75470-3

(前書きや各節の冒頭 2 ページ程度が閲覧できます)

連絡先(メールアドレス)

徳永 伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

徳永 伸一:前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	004680				
科目名	教養基礎セミナー(離散構造 II)後半 2 講　徳永			科目 ID	
担当教員	徳永　伸一[TOKUNAGA Shinichi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜 第 2 講

対象学科・専攻:全学科・専攻

コンピテンシー:

2–4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける

2–5)自らテーマを見つけて、調べ、発展させ、論文にまとめる能力を養う

4–2)生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

4–5)科学文献を読み、学会発表ができる英語力を身につける

授業の目的、概要等

MIT(マサチューセッツ工科大学) OpenCourseWare としてインターネット上に公開されている教材:

6.042J | Fall 2010 | Undergraduate

Mathematics For Computer Science

https://ocw.mit.edu/courses/6-042j-mathematics-for-computer-science-fall-2010/

を利用して、セミナーを行います。

上記コースでは講義ビデオも公開されていますので、その内容を日本語化し、解説してもらうイメージです。

※学部生向けの基礎的な講義なので、想定されている受講者のレベルは日本の大学の理系の 1 年生とほぼ同じで、高度な数学の知識は不要です。

※ビデオには字幕が出ますので、英語リスニングに自信がなくても大丈夫です。

授業の到達目標

英語による数学講義の内容を理解し、整理してわかりやすく解説できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1–2	11/18	10:45–12:25		徳永　伸一
3–4	11/25	10:45–12:25		徳永　伸一
5–6	12/2	10:45–12:25		徳永　伸一
7–8	12/9	10:45–12:25		徳永　伸一
9–10	12/16	10:45–12:25		徳永　伸一
11–12	1/6	10:45–12:25		徳永　伸一
13–14	1/13	10:45–12:25		徳永　伸一

授業方法

毎回1～2名の発表者に、各自の担当範囲(概ね1回分の MIT 講義の半分程度)を解説してもらう形でセミナーを行います。

発表者には担当範囲の教材の和訳を含むレジュメの提出を義務付けます。

また 7 回中 1 回は、学外で開催される数学関連の展示会・講演会または東京理科大学数学体験館を見学する予定ですが、その際、授業の時間帯が時間割と異なる可能性があります(履修者の都合と希望を考慮して決定します)。

授業内容

題材として利用する Lecture の候補は以下の通りです。

Lecture 1: Introduction and Proofs

Lecture 2: Induction

Lecture 6: Graph Theory and Coloring

Lecture 7: Matching Problems

Lecture 8: Graph Theory II: Minimum Spanning Trees

Lecture 9: Communication Networks

Lecture 10: Graph Theory III

（履修者の希望によって適宜追加します）

成績評価の方法

発表・レジュメの内容や授業参加への積極性を総合的に評価します。

成績評価の基準

到達目標をある程度達成したと見なせること。

準備学習等についての具体的な指示

講義ビデオを視聴し、未知の英単語・概念等を調べて、内容を把握しておくこと。

参考書

やさしい幾何学問題ゼミナール／ピーター・フランクル, 前原潤 著,:共立出版, 1992

入門組合せ論／ラスロウ・ロバース 他著,秋山仁, ピーター・フランクル 翻案,:共立出版, 1985

ポール・エルデス:離散数学の魅力 : 伝説の講義／Chvátal, Vašek, 1946-,秋山, 仁, 1946-,小舘, 崇子, 1968-,酒井, 利訓,徳永, 伸一,松井, 泰子,VAŠEK CHVÁTAL 著,秋山仁 監訳,小舘崇子, 酒井利訓, 徳永伸一, 松井泰子 訳:近代科学社, 2023.8

他科目との関連

数学Ⅱβで扱う内容(グラフ理論)と一部重複する可能性があります。

参照ホームページ

MIT OpenCourseWare

6.042J | Fall 2010 | Undergraduate

Mathematics For Computer Science

https://ocw.mit.edu/courses/6-042j-mathematics-for-computer-science-fall-2010/

連絡先(メールアドレス)

徳永 伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

徳永 伸一:前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前にＥメールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	004683				
科目名	教養基礎セミナー(インターネット動画リテラシー)後半1講 辻			科目ID	
担当教員	辻 泰明[TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

新たなメディアとしてのインターネット動画の台頭に伴い、氾濫する情報を的確に受容することが求められるようになっています。それは医療に関する情報に関しても例外ではありません。このセミナーは、動画の構造や真贋を読み解く方法を実例によって学ぶことにより、インターネット動画に関するリテラシーを身につけます。

授業の到達目標

インターネット上で流布されている動画などの情報について、その意義、構造、真贋を的確に判断できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	08:50-10:30		第1回 ガイダンス 授業の進め方 医療におけるインターネット動画の意義	医療におけるインターネット動画の活用 /インターネット動画による社会とのつながり /インターネット動画を視聴する時の二つの観点	辻 泰明	医療におけるインターネット動画の意義について説明できる。
3-4	11/25	08:50-10:30		第2回 実例研究	医療におけるインターネット動画について実例をプレゼンテーション /プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	医療におけるインターネット動画について分析し、見解を述べることができる。
5-6	12/2	08:50-10:30		第3回 インターネット動画の構造	インターネット動画の構造と各部の機能	辻 泰明	インターネット動画の構造について説明できる。
7-8	12/9	08:50-10:30		第4回 実例研究	インターネット動画の構造について実例をプレゼンテーション /プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	インターネット動画の構造について分析し、見解を述べることができる。
9-10	12/16	08:50-10:30		第5回 インターネット動画の真贋	フェイク動画の見分け方	辻 泰明	フェイク動画について動画のリテラシーに基づいて説明できる。
11-12	1/6	08:50-10:30		第6回 実例研究	フェイク動画について実例をプレゼンテーション /プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	フェイク動画について、動画リテラシーに基づいて的確に分析し、見解を述べることができる。

13-14	1/13	08:50-10:30		第7回 総括 医療関連インターネット動画のリテラシー	医療関連インターネット動画のリテラシーについて実例をプレゼンテーション ／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	医療関連インターネット動画のリテラシーについて分析し、見解を述べることができる。

授業方法

この授業は、アクティブラーニングによるセミナー形式で行います。講師が解説した内容に基づいて、実際の現象を調べた結果について発表をしていただきます。

授業内容

第1回 ガイダンス 授業の進め方 医療におけるインターネット動画の意義
第2回 実例研究
第3回 インターネット動画の構造
第4回 実例研究
第5回 インターネット動画の真贋
第6回 実例研究
第7回 総括 医療関連インターネット動画のリテラシー

成績評価の方法

評価 : レポート 40% ・ その他(プレゼンテーション) 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習では、指定された資料や動画を予めインターネット等で閲覧したり視聴したりしておいてください。

参考書

映像メディア論 : 映画からテレビへ、そして、インターネットへ／辻 泰明:和泉書院, 2016.9
インターネット動画メディア論 : 映像コミュニケーション革命の現状分析／辻 泰明:大学教育出版, 2019.10

備考

三分の二以上の出席が必要です。 出欠管理システムよりも、教員自身が取る出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	004684				
科目名	教養基礎セミナー(インターネット動画リテラシー)後半 2 講 辻			**科目 ID**	
担当教員	辻 泰明[TSUJI Yasuaki]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):

1-2)社会制度や仕組みについての基本を理解する

1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る

2-3)言語活動や社会現象を科学的に分析するための方法論を知る

授業の目的、概要等

新たなメディアとしてのインターネット動画の台頭に伴い、氾濫する情報を的確に受容することが求められるようになっています。それは医療に関する情報に関しても例外ではありません。このセミナーは、動画の構造や真贋を読み解く方法を実例によって学ぶことにより、インターネット動画に関するリテラシーを身につけます。

授業の到達目標

インターネット上で流布されている動画などの情報について、その意義、構造、真贋を的確に判断できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	11/18	10:45-12:25		第 1 回 ガイダンス 授業の進め方 医療におけるインターネット動画の意義	医療におけるインターネット動画の活用 ／インターネット動画による社会とのつながり ／インターネット動画を視聴する時の二つの観点	辻 泰明	医療におけるインターネット動画の意義について説明できる。
3-4	11/25	10:45-12:25		第 2 回 実例研究	医療におけるインターネット動画について実例をプレゼンテーション ／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	医療におけるインターネット動画について分析し、見解を述べることができる。
5-6	12/2	10:45-12:25		第 3 回 インターネット動画の構造	インターネット動画の構造と各部の機能	辻 泰明	インターネット動画の構造について説明できる。
7-8	12/9	10:45-12:25		第 4 回 実例研究	インターネット動画の構造について実例をプレゼンテーション ／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	インターネット動画の構造について分析し、見解を述べることができる。
9-10	12/16	10:45-12:25		第 5 回 インターネット動画の真贋	フェイク動画の見分け方	辻 泰明	フェイク動画について動画のリテラシーに基づいて説明できる。
11-12	1/6	10:45-12:25		第 6 回 実例研究	フェイク動画について実例をプレゼンテーション ／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	フェイク動画について、動画リテラシーに基づいて的確に分析し、見解を述べることができる。

13-14	1/13	10:45-12:25		第 7 回 総括 医療関連インターネット動画のリテラシー	医療関連インターネット動画のリテラシーについて実例をプレゼンテーション ／プレゼンテーションを元にディスカッション	辻 泰明	医療関連インターネット動画のリテラシーについて分析し、見解を述べることができる。

授業方法

この授業は、アクティブラーニングによるセミナー形式で行います。講師が解説した内容に基づいて、実際の現象を調べた結果について発表をしていただきます。

授業内容

第 1 回 ガイダンス 授業の進め方 医療におけるインターネット動画の意義
第 2 回 実例研究
第 3 回 インターネット動画の構造
第 4 回 実例研究
第 5 回 インターネット動画の真贋
第 6 回 実例研究
第 7 回 総括 医療関連インターネット動画のリテラシー

成績評価の方法

評価 ： レポート 40% ・ その他(プレゼンテーション) 60%

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

予習では、指定された資料や動画を予めインターネット等で閲覧したり視聴したりしておいてください。

参考書

映像メディア論 : 映画からテレビへ、そして、インターネットへ／辻 泰明:和泉書院, 2016.9
インターネット動画メディア論 : 映像コミュニケーション革命の現状分析／辻 泰明:大学教育出版, 2019.10

履修上の注意事項

三分の二以上の出席が必要です。 出欠管理システムよりも、教員自身が取る出欠を優先します。

連絡先(メールアドレス)

辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	004685				
科目名	教養基礎セミナー(生命現象をとらえるための数理解析学)前半 1 講 中山			科目 ID	
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3

授業の目的、概要等

微分方程式の基礎など、生命現象をとらえるための数学的基礎を習得する

授業の到達目標

1) 基礎的な微分方程式が理解できる

2) 数理モデルの導出が理解できる

3) 数理モデルの解析手法を会得する

4) 数理モデルの応用が理解できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		中山 まどか
3-4	9/30	08:50-10:30		中山 まどか
5-6	10/7	08:50-10:30		中山 まどか
7-8	10/14	08:50-10:30		中山 まどか
9-10	10/21	08:50-10:30		中山 まどか
11-12	10/28	08:50-10:30		中山 まどか
13-14	11/4	08:50-10:30		中山 まどか
15-16	11/11	08:50-10:30		中山 まどか

授業方法

少人数によるセミナー形式

授業内容

微分方程式の基礎、数理モデルの導出方法、数理モデルの解析手法、数値計算手法など、順を追って学習する。ただし、受講者の関心によってその比重は柔軟に変更する。

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 50% ・ その他(出席・発表・議論) 50%

再評価: 有(再提出レポート等)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内容はしっかり復習し、自身の発表に際しては準備を行うこと

参考書

笠原 晧司「微分方程式の基礎」(1982 年)

デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー、垣田 高夫 (翻訳)、大町 比佐栄 (翻訳)「微分方程式で数学モデルを作ろう」(1990 年)

備考

連絡先(メールアドレス)

中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中山 まどか:水曜日 12:30—13:30

質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	004686				
科目名	教養基礎セミナー(生命現象をとらえるための数理解析学)前半 2講 中山			科目ID	
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3

授業の目的、概要等

微分方程式の基礎など、生命現象をとらえるための数学的基礎を習得する

授業の到達目標

1) 基礎的な微分方程式が理解できる

2) 数理モデルの導出が理解できる

3) 数理モデルの解析手法を会得する

4) 数理モデルの応用が理解できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		中山 まどか
3-4	9/30	10:45-12:25		中山 まどか
5-6	10/7	10:45-12:25		中山 まどか
7-8	10/14	10:45-12:25		中山 まどか
9-10	10/21	10:45-12:25		中山 まどか
11-12	10/28	10:45-12:25		中山 まどか
13-14	11/4	10:45-12:25		中山 まどか
15-16	11/11	10:45-12:25		中山 まどか

授業方法

少人数によるセミナー形式

授業内容

微分方程式の基礎、数理モデルの導出方法、数理モデルの解析手法、数値計算手法など、順を追って学習する。ただし、受講者の関心によってその比重は柔軟に変更する。

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 50% ・ その他(出席・発表・議論) 50%

再評価: 有(再提出レポート等)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内容はしっかり復習し、自身の発表に際しては準備を行うこと

参考書

笠原 晧司「微分方程式の基礎」(1982 年)

デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー、垣田 高夫 (翻訳)、大町 比佐栄 (翻訳)「微分方程式で数学モデルを作ろう」(1990 年)

備考

連絡先(メールアドレス)

中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中山 まどか:水曜日 12:30—13:30

質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	004687				
科目名	教養基礎セミナー(生物学と社会科学の現象数理解析)後半 1 講 中山			科目 ID	
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3

授業の目的、概要等

生命現象を数理モデルによって記述し、数理解析を行う

授業の到達目標

1) 生命現象を数理モデルで記述できる

2) 自ら目的を設定し、数理解析を行うことができる

3) 数理解析結果に基づき、生命現象について議論できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		中山 まどか
3-4	11/25	08:50-10:30		中山 まどか
5-6	12/2	08:50-10:30		中山 まどか
7-8	12/9	08:50-10:30		中山 まどか
9-10	12/16	08:50-10:30		中山 まどか
11-12	1/6	08:50-10:30		中山 まどか
13-14	1/13	08:50-10:30		中山 まどか

授業方法

少人数によるセミナー形式

授業内容

参考書の輪読等を通じて、各自で関心のある生命現象を見つけ、数理モデルで記述する。各自の興味あるいは社会的優先度にしたがって目的を設定し、数理解析を行う。得られた数理解析の結果に基づいて、設定した目的の周辺を議論する。

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 50% ・ その他(出席・発表・議論) 50%

再評価: 有(再提出レポート等)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内容はしっかり復習し、自身の発表に際しては準備を行うこと

参考書

キーナー「数理生理学(上・下)」(2005 年)

連絡先(メールアドレス)

中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中山 まどか:水曜日 12:30—13:30

質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	004688				
科目名	教養基礎セミナー(生物学と社会科学の現象数理解析)後半 2 講 中山			科目 ID	
担当教員	中山 まどか[NAKAYAMA Madoka]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):2-1, 2-2, 2-3

授業の目的、概要等

生命現象を数理モデルによって記述し、数理解析を行う

授業の到達目標

1) 生命現象を数理モデルで記述できる

2) 自ら目的を設定し、数理解析を行うことができる

3) 数理解析結果に基づき、生命現象について議論できる

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		中山 まどか
3-4	11/25	10:45-12:25		中山 まどか
5-6	12/2	10:45-12:25		中山 まどか
7-8	12/9	10:45-12:25		中山 まどか
9-10	12/16	10:45-12:25		中山 まどか
11-12	1/6	10:45-12:25		中山 まどか
13-14	1/13	10:45-12:25		中山 まどか

授業方法

少人数によるセミナー形式

授業内容

参考書の輪読等を通じて、各自で関心のある生命現象を見つけ、数理モデルで記述する。各自の興味あるいは社会的優先度にしたがって目的を設定し、数理解析を行う。得られた数理解析の結果に基づいて、設定した目的の周辺を議論する。

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ レポート 50% ・ その他(出席・発表・議論) 50%

再評価: 有(再提出レポート等)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

授業内容はしっかり復習し、自身の発表に際しては準備を行うこと

参考書

キーナー「数理生理学(上・下)」(2005 年)

連絡先(メールアドレス)

中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

中山 まどか:水曜日 12:30—13:30

質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	004689				
科目名	教養基礎セミナー(社会活動としての科学 - 生命科学研究の実際)前半1講 栗田			科目ID	
担当教員	栗田 武[KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

本ゼミは、少人数ならではのリラックスした雰囲気の中で、対話と質問を中心に進める参加型のセミナーです。常識にとらわれず、新しい知識や視点に積極的に触れる姿勢を持つ学生の参加を期待しています。

「東京医科歯科大学」は 2024 年に「東京科学大学」へと統合されました。その名称に「科学」を掲げる大学に入学した皆さんは、「科学とは何か」と問われたとき、どのように答えるでしょうか。
一般に「科学」とは、観察・分析・論証などの方法に基づき、体系的で再検討可能な知識を構築する営み、と定義して良いでしょう。つまり、科学とは人間が行う活動であり、社会の中で営まれるものです。
では、その「科学」という営みに従事する科学者・研究者の実際の活動とはどのようなものでしょうか。それらは「人々の幸福に寄与する」という公共的価値に合致しているのでしょうか。また、科学の成果は社会規範や世論の形成にどのように影響するのでしょうか。

担当教員は北米で長年研究に従事してきました。本ゼミでは、その経験を踏まえて生命科学研究の現場がどのように機能しているかを紹介するとともに、科学的知見やデータが社会問題とどのように結びつき、政策形成や世論に影響するのか、そして現代社会において「科学的である」とは何を意味するのかを、皆さんと一緒に考察します。

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
1–2 社会制度や仕組みについての基本を理解する
1–10 現代社会における科学の責任を意識できるようになる
2–1 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る
4–2 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

本ゼミでは、指導教員によるプレゼンテーションを基盤として、科学的知見・データが社会問題とどのように関連し、それが政策形成・世論へどのように影響するのか、を検討します。
履修者は提示されたデータに基づいて議論を行い、批判的思考・論理的思考を用いて情報を読み解くプロセスを体験します。これらの活動を通じて、科学の社会的役割と影響力への理解を深め、医療・研究の現場で求められる科学的リテラシーと責任ある判断力の重要性を学びます。

授業の到達目標

1. 批判的思考方法を学ぶ。
2. 科学リテラシーを高める。
3. 「科学的である」とは何を意味するか考察を深める。
4. 討論を通して知識を深める方法を体験する。
5. 論点を整理し、主張を明確に伝える力を養う。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1–2	9/16	08:50–10:30		栗田 武
3–4	9/30	08:50–10:30		栗田 武
5–6	10/7	08:50–10:30		栗田 武
7–8	10/14	08:50–10:30		栗田 武
9–10	10/21	08:50–10:30		栗田 武
11–12	10/28	08:50–10:30		栗田 武
13–14	11/4	08:50–10:30		栗田 武

15-16	11/11	08:50-10:30		栗田 武	

授業方法

・ 指導教員のプレゼンテーションを起点に、全員参加の討論を行います。

・ 最終回には課題発表会を実施し、各自が調べた課題をスライドにまとめ、口頭で発表します。

授業内容

社会情勢をもとに、その時々のテーマを生命科学の視点から検討します。

過去に扱ったテーマの例

・ 米国最高裁がハーバード大学・ノースカロライナ大学に対し、入試における人種考慮を禁じた判決 →「人種」「差別」を生命科学的に考察

・ 日本での「LGBT 理解増進法」施行 →「性とジェンダー」を生物学的に考察

今年度予定しているテーマ(社会情勢によって、変更の可能性あり)

・ 科学的であるとはどういうことか

・ アメリカで大学教授になる方法

・ 科学における再現性の危機

・ 新型コロナウイルスはどこから来たのか

成績評価の方法

配点

・ 出欠:16%

・ 調査課題:16%

・ 参加度(発言回数・内容):24%

・ 課題発表:44%

評価基準

・ 毎回の授業での出席、発言内容(参加度)、調査課題の質

・ 課題発表では情報源の質・量、内容の正確性、論理性、明瞭性、発表態度、他者への質問を総合的に評価

・ 体調不良等により発表できない場合は、レポート提出で代替

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、次回ディスカッションに向けた 調査課題 を提示します。

・ 必ず 複数の情報源 を参照し、英語文献を含めること。

・ 単なる情報収集で終わらせず、深い理解 を伴ったうえで議論に臨むこと。

・ 毎回の授業で 「課題の理解度」「準備の度合い」 を評価し、成績に反映します。

試験の受験資格

2/3 以上、出席すること。

参考書

適宜、指定します。

他科目との関連

生物学実験(科学基礎実験・自然科学実験)で実践する 「疑問を持つ → 調べる → 考察する」 という科学的思考のループは、批判的思考・論理的思考・実証主義的態度の基礎を成します。 本科目でも同様に、 「疑問 → 調査 → 考察 → 更なる疑問」 という思考様式を意識して調査課題に取り組んでください。

履修上の注意事項

単位取得には3 分の2以上の出席が必要です。

連絡先(メールアドレス)

栗田　武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
栗田　武:毎週水曜日 PM.1:30-PM.5:00 ヒポクラテスホール（校舎棟）4階 教官研究室-2

時間割番号	004690				
科目名	教養基礎セミナー(社会活動としての科学 - 生命科学研究の実際)前半 2 講 栗田			**科目 ID**	
担当教員	栗田 武[KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

本ゼミは、少人数ならではのリラックスした雰囲気の中で、対話と質問を中心に進める参加型のセミナーです。常識にとらわれず、新しい知識や視点に積極的に触れる姿勢を持つ学生の参加を期待しています。

「東京医科歯科大学」は 2024 年に「東京科学大学」へと統合されました。その名称に「科学」を掲げる大学に入学した皆さんは、「科学とは何か」と問われたとき、どのように答えるでしょうか。
一般に「科学」とは、観察・分析・論証などの方法に基づき、体系的で再検討可能な知識を構築する営み、と定義して良いでしょう。つまり、科学とは人間が行う活動であり、社会の中で営まれるものです。
では、その「科学」という営みに従事する科学者・研究者の実際の活動とはどのようなものでしょうか。それらは「人々の幸福に寄与する」という公共的価値に合致しているのでしょうか。また、科学の成果は社会規範や世論の形成にどのように影響するのでしょうか。

担当教員は北米で長年研究に従事してきました。本ゼミでは、その経験を踏まえて生命科学研究の現場がどのように機能しているかを紹介するとともに、科学的知見やデータが社会問題とどのように結びつき、政策形成や世論に影響するのか、そして現代社会において「科学的である」とは何を意味するのかを、皆さんと一緒に考察します。

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):
1–2 社会制度や仕組みについての基本を理解する
1–10 現代社会における科学の責任を意識できるようになる
2–1 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る
4–2 生命現象・自然現象について総合的に理解するための基礎学力・思考力を身につける

授業の目的、概要等

本ゼミでは、指導教員によるプレゼンテーションを基盤として、科学的知見・データが社会問題とどのように関連し、それが政策形成・世論へどのように影響するのか、を検討します。
履修者は提示されたデータに基づいて議論を行い、批判的思考・論理的思考を用いて情報を読み解くプロセスを体験します。これらの活動を通じて、科学の社会的役割と影響力への理解を深め、医療・研究の現場で求められる科学的リテラシーと責任ある判断力の重要性を学びます。

授業の到達目標

1. 批判的思考方法を学ぶ。
2. 科学リテラシーを高める。
3. 「科学的である」とは何を意味するか考察を深める。
4. 討論を通して知識を深める方法を体験する。
5. 論点を整理し、主張を明確に伝える力を養う。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1–2	9/16	10:45–12:25		栗田 武
3–4	9/30	10:45–12:25		栗田 武
5–6	10/7	10:45–12:25		栗田 武
7–8	10/14	10:45–12:25		栗田 武
9–10	10/21	10:45–12:25		栗田 武
11–12	10/28	10:45–12:25		栗田 武
13–14	11/4	10:45–12:25		栗田 武

15-16	11/11	10:45-12:25		栗田 武	

授業方法

・ 指導教員のプレゼンテーションを起点に、全員参加の討論を行います。

・ 最終回には課題発表会を実施し、各自が調べた課題をスライドにまとめ、口頭で発表します。

授業内容

社会情勢をもとに、その時々のテーマを生命科学の視点から検討します。

過去に扱ったテーマの例

・ 米国最高裁がハーバード大学・ノースカロライナ大学に対し、入試における人種考慮を禁じた判決 →「人種」「差別」を生命科学的に考察

・ 日本での「LGBT 理解増進法」施行 →「性とジェンダー」を生物学的に考察

今年度予定しているテーマ(社会情勢によって、変更の可能性あり)

・ 科学的であるとはどういうことか

・ アメリカで大学教授になる方法

・ 科学における再現性の危機

・ 新型コロナウイルスはどこから来たのか

成績評価の方法

配点

・ 出欠:16%

・ 調査課題:16%

・ 参加度(発言回数・内容):24%

・ 課題発表:44%

評価基準

・ 毎回の授業での出席、発言内容(参加度)、調査課題の質

・ 課題発表では情報源の質・量、内容の正確性、論理性、明瞭性、発表態度、他者への質問を総合的に評価

・ 体調不良等により発表できない場合は、レポート提出で代替

再評価:有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、次回ディスカッションに向けた 調査課題 を提示します。

・ 必ず 複数の情報源 を参照し、英語文献を含めること。

・ 単なる情報収集で終わらせず、深い理解 を伴ったうえで議論に臨むこと。

・ 毎回の授業で 「課題の理解度」「準備の度合い」 を評価し、成績に反映します。

試験の受験資格

2/3 以上、出席すること。

参考書

適宜、指定します。

他科目との関連

生物学実験(科学基礎実験・自然科学実験)で実践する 「疑問を持つ → 調べる → 考察する」 という科学的思考のループは、批判的思考・論理的思考・実証主義的態度の基礎を成します。 本科目でも同様に、 「疑問 → 調査 → 考察 → 更なる疑問」 という思考様式を意識して調査課題に取り組んでください。

履修上の注意事項

単位取得には3 分の2以上の出席が必要です。

連絡先(メールアドレス)

栗田　武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp
オフィスアワー
栗田　武:毎週水曜日 PM.1:30-PM.5:00 ヒポクラテスホール（校舎棟）4階 教官研究室-2

時間割番号	004691				
科目名	教養基礎セミナー(科学的な正しさとは何か － 生命医科学研究の事例から考える)後半1講 栗田			科目ID	
担当教員	栗田 武[KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

本ゼミは、少人数ならではのリラックスした雰囲気の中で、対話と質問を中心に進める参加型のセミナーです。常識にとらわれず、新しい知識や視点に積極的に触れる姿勢を持つ学生の参加を期待しています。

みなさんは、その名称に「科学」を掲げる大学に在籍しています。では、「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことか」と問われたとき、どのように説明できるでしょうか。本ゼミでは、生命医科学における「科学的に正しい」とされる事例を取り上げ、その正当性を多面的に検討します。

担当教員はこれまでに 50 を超える英文科学誌で計 80 報以上の査読を担当し、在米中は 10 年以上 NIH(米国国立衛生研究所)研究費審査員を務めるなど、「科学の正しさを評価する立場」で豊富な経験を積んできました。その経験を活かし、信頼できるデータとは何か、どのような根拠で「正しい」と判断されるのかを、プレゼンテーションおよび議論を通じて考察します。

履修者は、生命医科学研究の具体的事例を通して、データを多角的に読み解き、批判的・論理的に検討するプロセスを学ぶことで、科学リテラシーの向上を目指します。

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)
・ 1-2 社会制度や仕組みについての基本的理解
・ 1-10 現代社会における科学の責任を理解し意識できるようになる
・ 2-1 自然現象を科学的に探究するための基本的な方法論を知る
・ 4-2 生命・自然現象を総合的に理解するための基礎学力と思考力を身につける

授業の目的、概要等

本ゼミでは、毎回、指導教員が 特定のテーマに基づくプレゼンテーション を行います。
履修者は、提示されるデータや論点に対して質疑応答・討論を行いながら、情報を批判的かつ論理的に読み解くプロセスを体験します。

これらの活動を通じて、
・ 科学的な姿勢とは何か
・「科学的に正しい」とされる根拠とはどの様なものか
・ 実際に科学的に正しいとされている理論は、どの程度正当化できるのか
といった根本的な問題について理解を深めます。

そのうえで、将来の医療・研究分野で求められる 科学的リテラシー と 責任ある判断力 を身につけることを目的とします。

授業の到達目標

1. 認知的柔軟性:異なる意見・価値観を受け入れ、柔軟に考える能力を養う。
2. 主体的学び:自ら問いを立て、能動的に学ぶ姿勢を身につける。
3. 論理的思考:根拠に基づいた論理的推論により矛盾のない結論を導く力を養う。
4. 批判的思考:前提や情報源の妥当性を検証し、多面的に可能性を検討する力を養う。
5. プレゼンテーション能力:論点を整理し、主張を明確に伝える能力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		栗田 武

3-4	11/25	08:50-10:30		栗田 武
5-6	12/2	08:50-10:30		栗田 武
7-8	12/9	08:50-10:30		栗田 武
9-10	12/16	08:50-10:30		栗田 武
11-12	1/6	08:50-10:30		栗田 武
13-14	1/13	08:50-10:30		栗田 武

授業方法

・指導教員のプレゼンテーションを起点とし、全員参加型の討論を行います。

・最終回には 課題発表会 を実施します。各自が調べた内容をスライドにまとめ、口頭で発表します。

授業内容

履修者数に応じて内容を調整しますが、以下のようなテーマを扱います:

・科学とは何か

・現代の科学者はなぜ研究するのか

・新型コロナウイルスと陰謀論

・放射能 X:放射線とモンスター

・多様性とは何か

成績評価の方法

配点

・出欠:14%

・調査課題:14%

・参加度(発言回数・内容):21%

・課題発表:51%

評価基準

・毎回の授業での出席状況

・討論における発言内容と積極性(参加度)

・調査課題の質(情報源の選択、理解度など)

・課題発表では以下を総合評価

1. 情報源の質・量
2. 内容の正確性
3. 論理性
4. 明瞭さ
5. 発表態度
6. 他者への質問

・体調不良等で発表できない場合は レポート提出で代替

再評価

・有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、次回ディスカッションに向けた 調査課題 を提示します。

・必ず 複数の情報源 を参照し、英語文献を含めること。

・単なる情報収集で終わらせず、深い理解 を伴ったうえで議論に臨むこと。

・毎回の授業で「課題の理解度」「準備の度合い」を評価し、成績に反映します。

試験の受験資格

出席率 2/3 以上

参考書

適宜、指定します。
他科目との関連 ・生物学実験(科学基礎実験・自然科学実験)では、「疑問を持つ → 調べる → 考察する」 という科学的思考のループを実践します。 ・本科目でも同様に、「疑問 → 調査 → 考察 → 新たな疑問」 という思考過程を意識しながら調査課題に取り組んでください。これは批判的思考・論理的思考・実証主義的態度を養う上で極めて重要です。
履修上の注意事項 単位取得には3 分の2以上の出席が必要です。
連絡先(メールアドレス) 栗田 武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp
オフィスアワー 栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30–PM.5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室–2

時間割番号	004692				
科目名	教養基礎セミナー(科学的な正しさとは何か － 生命医科学研究の事例から考える)後半 2 講　栗田			科目 ID	
担当教員	栗田　武[KURITA Takeshi]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

本ゼミは、少人数ならではのリラックスした雰囲気の中で、対話と質問を中心に進める参加型のセミナーです。常識にとらわれず、新しい知識や視点に積極的に触れる姿勢を持つ学生の参加を期待しています。

みなさんは、その名称に「科学」を掲げる大学に在籍しています。では、「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことか」と問われたとき、どのように説明できるでしょうか。本ゼミでは、生命医科学における「科学的に正しい」とされる事例を取り上げ、その正当性を多面的に検討します。

担当教員はこれまでに 50 を超える英文科学誌で計 80 報以上の査読を担当し、在米中は 10 年以上 NIH(米国国立衛生研究所)研究費審査員を務めるなど、「科学の正しさを評価する立場」で豊富な経験を積んできました。その経験を活かし、信頼できるデータとは何か、どのような根拠で「正しい」と判断されるのかを、プレゼンテーションおよび議論を通じて考察します。

履修者は、生命医科学研究の具体的事例を通して、データを多角的に読み解き、批判的・論理的に検討するプロセスを学ぶことで、科学リテラシーの向上を目指します。

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー)
- 1-2　社会制度や仕組みについての基本的理解
- 1-10 現代社会における科学の責任を理解し意識できるようになる
- 2-1　自然現象を科学的に探究するための基本的な方法論を知る
- 4-2　生命・自然現象を総合的に理解するための基礎学力と思考力を身につける

授業の目的、概要等

本ゼミでは、毎回、指導教員が 特定のテーマに基づくプレゼンテーション を行います。
履修者は、提示されるデータや論点に対して質疑応答・討論を行いながら、情報を批判的かつ論理的に読み解くプロセスを体験します。

これらの活動を通じて、
- 科学的な姿勢とは何か
- 「科学的に正しい」とされる根拠とはどの様なものか
- 実際に科学的に正しいとされている理論は、どの程度正当化できるのか

といった根本的な問題について理解を深めます。

そのうえで、将来の医療・研究分野で求められる 科学的リテラシー と 責任ある判断力 を身につけることを目的とします。

授業の到達目標

1. 認知的柔軟性:異なる意見・価値観を受け入れ、柔軟に考える能力を養う。
2. 主体的学び:自ら問いを立て、能動的に学ぶ姿勢を身につける。
3. 論理的思考:根拠に基づいた論理的推論により矛盾のない結論を導く力を養う。
4. 批判的思考:前提や情報源の妥当性を検証し、多面的に可能性を検討する力を養う。
5. プレゼンテーション能力:論点を整理し、主張を明確に伝える能力を身につける。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		栗田 武

3-4	11/25	10:45-12:25		栗田 武
5-6	12/2	10:45-12:25		栗田 武
7-8	12/9	10:45-12:25		栗田 武
9-10	12/16	10:45-12:25		栗田 武
11-12	1/6	10:45-12:25		栗田 武
13-14	1/13	10:45-12:25		栗田 武

授業方法

・指導教員のプレゼンテーションを起点とし、全員参加型の討論を行います。

・最終回には 課題発表会 を実施します。各自が調べた内容をスライドにまとめ、口頭で発表します。

授業内容

履修者数に応じて内容を調整しますが、以下のようなテーマを扱います:

・科学とは何か

・現代の科学者はなぜ研究するのか

・新型コロナウイルスと陰謀論

・放射能 X:放射線とモンスター

・多様性とは何か

成績評価の方法

配点

・出欠:14%

・調査課題:14%

・参加度(発言回数・内容):21%

・課題発表:51%

評価基準

・毎回の授業での出席状況

・討論における発言内容と積極性(参加度)

・調査課題の質(情報源の選択、理解度など)

・課題発表では以下を総合評価

1. 情報源の質・量
2. 内容の正確性
3. 論理性
4. 明瞭さ
5. 発表態度
6. 他者への質問

・体調不良等で発表できない場合は レポート提出で代替

再評価

・有

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

毎回、次回ディスカッションに向けた 調査課題 を提示します。

・必ず 複数の情報源 を参照し、英語文献を含めること。

・単なる情報収集で終わらせず、深い理解 を伴ったうえで議論に臨むこと。

・毎回の授業で「課題の理解度」「準備の度合い」を評価し、成績に反映します。

試験の受験資格

出席率 2/3 以上

参考書

適宜、指定します。

他科目との関連

・生物学実験(科学基礎実験・自然科学実験)では、「疑問を持つ → 調べる → 考察する」 という科学的思考のループを実践します。 ・本科目でも同様に、「疑問 → 調査 → 考察 → 新たな疑問」 という思考過程を意識しながら調査課題に取り組んでください。これは批判的思考・論理的思考・実証主義的態度を養う上で極めて重要です。

履修上の注意事項

単位取得には3 分の2以上の出席が必要です。

連絡先(メールアドレス)

栗田 武:kurita.t.382a@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

栗田 武:毎週水曜日 PM.1:30–PM. 5:00 ヒポクラテスホール (校舎棟) 4 階 教官研究室–2

時間割番号	004699				
科目名	教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの歴史」)前半 1 講　高木			**科目 ID**	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度後期	**対象年次**	1		
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:水曜1講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 3-4, 3-5

授業の目的、概要等

ラテンアメリカでは、先住民、ヨーロッパからの植民者、アフリカから強制的に連れてこられた人々、世界各地からの移民など、様々なバックグラウンドを持った人々によって多様な文化が築かれてきた。この授業ではラテンアメリカの歴史、社会と多様な文化について学ぶことを目的とする。

前半は清水透『ラテンアメリカ五百年　歴史のトルソー』(岩波現代文庫、2017 年)を読み、ヨーロッパによる植民地支配から独立後までのラテンアメリカの歴史について、ディスカッションを行う。

また各自が関心のあるテーマを一つ選び、最終回に発表を行う。

授業の到達目標

1. 15～19 世紀までのラテンアメリカの歴史について簡単に説明できるようになる。
2. 植民地主義の問題について自分の意見を述べることが出来る。
3. ラテンアメリカで起こったことを日本や身近な地域と関連付けて議論することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	08:50-10:30		高木　佳奈
3-4	9/30	08:50-10:30		高木　佳奈
5-6	10/7	08:50-10:30		高木　佳奈
7-8	10/14	08:50-10:30		高木　佳奈
9-10	10/21	08:50-10:30		高木　佳奈
11-12	10/28	08:50-10:30		高木　佳奈
13-14	11/4	08:50-10:30		高木　佳奈
15-16	11/11	08:50-10:30		高木　佳奈

授業方法

講義及びディスカッション。受講者は事前に教科書を読み、LMS でコメントシートを提出する。授業では教員が説明を行った後、クラスで討論を行う。

授業内容

◆第 1 回

授業の概要説明、ラテンアメリカの基本情報

◆第 2 回

第 1 話「インディオ世界との出逢い」、第 2 話「『ラテンアメリカ』、そして三つの『場』」

◆第 3 回

第 3 話「『自然空間』としての『新大陸』」、第 4 話「『野蛮』の捏造と『野蛮』への恐怖」

◆第 4 回

第 5 話「植民地の秩序形成」、第 6 話「精神的征服」

◆第 5 回
第 7 話「抵抗の二つのかたち」、「第 8 話　もうひとつの抵抗のかたち」

◆第 6 回
第 9 話「『近代』の実験場アメリカ大陸」、第 10 話「独立と白色国民国家構想」

◆第 7 回
第 11 話「野蛮の精算、そして白色化」、第 12 話「近代化のなかの先住民社会」

◆第 8 回
発表会

成績評価の方法
評価 ： 試験 0% ・ 発表 50% ・ その他(コメントシートなどによる授業参加) 50%
再評価:　有(レポートの提出)

成績評価の基準
「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示
スペイン語や世界史の知識は問わないが、授業前に教科書を読み、わからないところがあれば自分で調べておくこと。

教科書
ラテンアメリカ五〇〇年 ： 歴史のトルソー／清水, 透, 1943-,清水透 著:岩波書店, 2017.12

履修上の注意事項
出欠管理システムではなく、ディスカッションへの参加をもって出席とみなす。原則3分の2以上の出席が必要。

連絡先(メールアドレス)
高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー
高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00-PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	0046991				
科目名	教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの歴史」)前半 2 講　高木			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜1講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 3-4, 3-5

授業の目的、概要等

ラテンアメリカでは、先住民、ヨーロッパからの植民者、アフリカから強制的に連れてこられた人々、世界各地からの移民など、様々なバックグラウンドを持った人々によって多様な文化が築かれてきた。この授業ではラテンアメリカの歴史、社会と多様な文化について学ぶことを目的とする。

前半は清水透『ラテンアメリカ五百年　歴史のトルソー』(岩波現代文庫、2017 年)を読み、ヨーロッパによる植民地支配から独立後までのラテンアメリカの歴史について、ディスカッションを行う。

また各自が関心のあるテーマを一つ選び、最終回に発表を行う。

授業の到達目標

1. 15～19 世紀までのラテンアメリカの歴史について簡単に説明できるようになる。
2. 植民地主義の問題について自分の意見を述べることが出来る。
3. ラテンアメリカで起こったことを日本や身近な地域と関連付けて議論することができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	9/16	10:45-12:25		高木　佳奈
3-4	9/30	10:45-12:25		高木　佳奈
5-6	10/7	10:45-12:25		高木　佳奈
7-8	10/14	10:45-12:25		高木　佳奈
9-10	10/21	10:45-12:25		高木　佳奈
11-12	10/28	10:45-12:25		高木　佳奈
13-14	11/4	10:45-12:25		高木　佳奈
15-16	11/11	10:45-12:25		高木　佳奈

授業方法

講義及びディスカッション。受講者は事前に教科書を読み、LMS でコメントシートを提出する。授業では教員が説明を行った後、クラスで討論を行う。

授業内容

◆第 1 回

授業の概要説明、ラテンアメリカの基本情報

◆第 2 回

第 1 話「インディオ世界との出逢い」、第 2 話「『ラテンアメリカ』、そして三つの『場』」

◆第 3 回

第 3 話「『自然空間』としての『新大陸』」、第 4 話「『野蛮』の捏造と『野蛮』への恐怖」

◆第 4 回

第 5 話「植民地の秩序形成」、第 6 話「精神的征服」

◆第 5 回
第 7 話「抵抗の二つのかたち」、「第 8 話　もうひとつの抵抗のかたち」

◆第 6 回
第 9 話「『近代』の実験場アメリカ大陸」、第 10 話「独立と白色国民国家構想」

◆第 7 回
第 11 話「野蛮の精算、そして白色化」、第 12 話「近代化のなかの先住民社会」

◆第 8 回
発表会

成績評価の方法
評価 ： 試験 0% ・ 発表 50% ・ その他(コメントシートなどによる授業参加) 50%
再評価:　有(レポートの提出)

成績評価の基準
「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示
スペイン語や世界史の知識は問わないが、授業前に教科書を読み、わからないところがあれば自分で調べておくこと。

教科書
ラテンアメリカ五〇〇年 ： 歴史のトルソー／清水, 透, 1943-,清水透 著:岩波書店, 2017.12

履修上の注意事項
出欠管理システムではなく、ディスカッションへの参加をもって出席とみなす。原則3分の2以上の出席が必要。

連絡先(メールアドレス)
高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー
高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00-PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	0046992				
科目名	教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの社会と文化」)後半 1 講　高木			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜1講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 3-4, 3-5

授業の目的、概要等

ラテンアメリカでは、先住民、ヨーロッパからの植民者、アフリカから強制的に連れてこられた人々、世界各地からの移民など、様々なバックグラウンドを持った人々によって多様な文化が築かれてきた。この授業ではラテンアメリカの歴史、社会と多様な文化について学ぶことを目的とする。

後半は「人の移動」をテーマに、ラテンアメリカ史における重要な出来事や日本とのつながりについて学ぶ。また、各自が関心のあるテーマを一つ選び、最終回に発表を行う。

授業の到達目標

1. 15 世紀以降のラテンアメリカの歴史について簡単に説明できるようになる。

2. 現代ラテンアメリカが抱える問題について、日本や身近な地域と関連付けて自分の意見を述べることが出来る。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	08:50-10:30		高木 佳奈
3-4	11/25	08:50-10:30		高木 佳奈
5-6	12/2	08:50-10:30		高木 佳奈
7-8	12/9	08:50-10:30		高木 佳奈
9-10	12/16	08:50-10:30		高木 佳奈
11-12	1/6	08:50-10:30		高木 佳奈
13-14	1/13	08:50-10:30		高木 佳奈

授業方法

講義及びディスカッション。受講者は事前に配付資料を読み、LMS にコメントシートを提出する。授業では教員が説明を行った後、クラスで討論を行う。

授業内容

授業内容

◆第 1 回

授業の概要説明、ラテンアメリカの多様性

◆第 2 回

コロンブスのアメリカ大陸到達と植民地化

◆第 3 回

先住民の文化

◆第 4 回

クーデター、革命、亡命

◆第 5 回

ラテンアメリカの日系人と日本へのデカセギ

◆第 6 回
北米への移民 ヒスパニック、ラティーノの文化

◆第 7 回
発表会

成績評価の方法

評価 : 試験 0% ・ 発表 50% ・ その他(コメントシートなどによる授業参加) 50%
再評価: 有(レポートの提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

スペイン語や世界史の知識は問わないが、授業前に配付資料を読み、わからないところがあれば自分で調べておくこと。

教科書

必要に応じて参考資料を配布する。

履修上の注意事項

出欠管理システムではなく、ディスカッションへの参加をもって出席とみす。原則3分の2以上の出席が必要。

連絡先(メールアドレス)

高木 佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

高木 佳奈:毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	0046993				
科目名	教養基礎セミナー(「ラテンアメリカの社会と文化」)後半 2 講　高木			科目 ID	
担当教員	高木　佳奈[TAKAKI Kana]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:水曜1講

科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 3-4, 3-5

授業の目的、概要等

ラテンアメリカでは、先住民、ヨーロッパからの植民者、アフリカから強制的に連れてこられた人々、世界各地からの移民など、様々なバックグラウンドを持った人々によって多様な文化が築かれてきた。この授業ではラテンアメリカの歴史、社会と多様な文化について学ぶことを目的とする。

後半は「人の移動」をテーマに、ラテンアメリカ史における重要な出来事や日本とのつながりについて学ぶ。また、各自が関心のあるテーマを一つ選び、最終回に発表を行う。

授業の到達目標

1. 15 世紀以降のラテンアメリカの歴史について簡単に説明できるようになる。
2. 現代ラテンアメリカが抱える問題について、日本や身近な地域と関連付けて自分の意見を述べることが出来る。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	11/18	10:45-12:25		高木 佳奈
3-4	11/25	10:45-12:25		高木 佳奈
5-6	12/2	10:45-12:25		高木 佳奈
7-8	12/9	10:45-12:25		高木 佳奈
9-10	12/16	10:45-12:25		高木 佳奈
11-12	1/6	10:45-12:25		高木 佳奈
13-14	1/13	10:45-12:25		高木 佳奈

授業方法

講義及びディスカッション。受講者は事前に配付資料を読み、LMS にコメントシートを提出する。授業では教員が説明を行った後、クラスで討論を行う。

授業内容

授業内容

◆第 1 回

授業の概要説明、ラテンアメリカの多様性

◆第 2 回

コロンブスのアメリカ大陸到達と植民地化

◆第 3 回

先住民の文化

◆第 4 回

クーデター、革命、亡命

◆第 5 回

ラテンアメリカの日系人と日本へのデカセギ

◆第 6 回
北米への移民 ヒスパニック、ラティーノの文化

◆第 7 回
発表会

成績評価の方法

評価 ： 試験 0% ・ 発表 50% ・ その他(コメントシートなどによる授業参加) 50%
再評価: 有(レポートの提出)

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

スペイン語や世界史の知識は問わないが、授業前に配付資料を読み、わからないところがあれば自分で調べておくこと。

教科書

必要に応じて参考資料を配布する。

履修上の注意事項

出欠管理システムではなく、ディスカッションへの参加をもって出席とみす。原則3分の2以上の出席が必要。

連絡先(メールアドレス)

高木 佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

オフィスアワー

高木 佳奈:毎週木曜日 AM.09:00-PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室

時間割番号	00920				
科目名	立志プロジェクト			科目ID	
担当教員	猪熊 恵子, 檜枝 光憲, 中林 潤, 奈良 雅之, 中山 まどか, 松本 幸久, 高木 佳奈, 藤井 俊吾[INOKUMA Keiko, HIEDA Mitsunori, NAKABAYASHI Jun, NARA Masayuki, NAKAYAMA Madoka, MATSUMOTO Yukihisa, TAKAKI Kana, FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

主な講義場所

月曜の対面授業は大岡山キャンパスにて実施する。木曜の講義はオンデマンド講義の視聴となる。月曜の各クラスの講義場所は 4 月のガイダンス時に一覧化して提示する。

授業の目的、概要等

新入生全員の大学生活のスタートとなる科目である。初回は 4 月 9 日木曜日のビデオ講義である。教室での対面授業は 4 月 13 日月曜日から開始する。

東京科学大学の教育は、世界をリードし、変革していく人材を生みだしていくことを目標としている。そのためには自分の専門分野の知識や能力だけではなく、広く世界を知ること、そして深く自分自身を知ることが必要である。

現代世界に存在するいかなる問題にチャレンジし、どのような問題意識を持って、自分の中の隠
された可能性を開花させ、具体的に行動していくのか。科目名にもあるようにひとりひとりがいか
なる「志」を立てて進んでいくのかが問われている。

本講義はオンデマンドのビデオ講義と少人数クラスでの演習を有機的に組み合わせながら、世界が抱える問題を知り、仲間との協働の中で自分も活かし仲間も活かすような場作りを学び、大学での今後の学びにつながる展望を得ていく。ビデオ講義では、各界で活躍するゲストスピーカーの話を聴き、いま社会で何が起きているのか、知的世界で何が問われているのかを知る。

少人数クラスの演習では、グループワークを通じて自発的に考え、問題を発見し、その中での自らの役割、責任、倫理を学び、他者と合意形成するためのスキルを修得する。演習の最終回では、各グループで立てたテーマをめぐってプレゼンテーションをおこなう。また書評執筆のワークショップを通じて、本の読み方を身につけ、本に対する批評眼を涵養する。

授業の到達目標

本講義を履修することによって以下の能力を修得する。

1)与えられた問いに答えることではなく、社会的視野から問題を発見する。

2)問題の中での自らの役割、責任、科学者・技術者としての倫理を知る。

3)グループワークを通じて、他者とともに考え、表現する楽しみを知る。

4)プレゼンテーションを通じて、自分の考えを表現する。

5)書評の執筆を通じて、本の読み方をおぼえ、本に対する批評眼を持つ。

授業方法

オンデマンドのビデオ講義と少人数クラスでの演習を交互におこなう。木曜日のビデオ講義の後に、履修者各自に「ふりかえりノート」の記入を求める。少人数クラスでは、対話を中心とするグループワークをおこなう。最終回には、グループワークの成果としてプレゼンテーションを実施する。

成績評価の方法

講義を踏まえたリアクションペーパー、グループワークへの貢献、プレゼンテーション、書評課題
を総合的に評価し、合／否を判定する。

成績評価の基準

成績評価の方法を参照のこと

準備学習等についての具体的な指示

学修効果を上げるため，教科書や配布資料等の該当箇所を参照し，「毎授業」授業内容に関する予習と復習(課題含む)をそれぞれ概ね 100 分を目安に行うこと。

試験の受験資格

試験は実施せず、少人数グループディスカッションと講義視聴へのサマリー・レスポンス等で合否を判定する。3 回以上欠席した者には原則として単位を認定しない。

教科書

『立志プロジェクトガイドブック』

参考書

授業に使う資料等は授業中に配布する。

履修上の注意事項

特になし

備考

授業の進行および日程明細は、クラスによって変更となる可能性がある。

連絡先(メールアドレス)

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp
中林　潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp
藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp
高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp
奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp
松本　幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp
檜枝　光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp
中山　まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室
中林　潤:月曜～金曜
A.M.10:00 – P.M. 05:00
国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9
藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室
高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00–PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室
奈良　雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6
後期:毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6
松本　幸久:毎週木曜日　PM.4:30–6:00　ヒポクラテスホール 4 階　教員研究室 10
檜枝　光憲:毎週火曜日　12:30～13:00　ヒポ 3F 教員研究室 2
中山　まどか:水曜日 12:30―13:30
質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

時間割番号	009201				
科目名	立志プロジェクト A			科目 ID	
担当教員	猪熊 恵子, 檜枝 光憲, 中林 潤, 奈良 雅之, 中山 まどか, 松本 幸久, 高木 佳奈, 藤井 俊吾[INOKUMA Keiko, HIEDA Mitsunori, NAKABAYASHI Jun, NARA Masayuki, NAKAYAMA Madoka, MATSUMOTO Yukihisa, TAKAKI Kana, FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

主な講義場所

月曜の対面授業は大岡山キャンパスにて実施する。木曜の講義はオンデマンド講義の視聴となる。月曜の各クラスの講義場所は 4 月のガイダンス時に一覧化して提示する。

授業の目的、概要等

新入生全員の大学生活のスタートとなる科目である。初回は 4 月 9 日木曜日のビデオ講義である。教室での対面授業は 4 月 13 日月曜日から開始する。

東京科学大学の教育は、世界をリードし、変革していく人材を生みだしていくことを目標としている。そのためには自分の専門分野の知識や能力だけではなく、広く世界を知ること、そして深く自分自身を知ることが必要である。

現代世界に存在するいかなる問題にチャレンジし、どのような問題意識を持って、自分の中の隠
された可能性を開花させ、具体的に行動していくのか。科目名にもあるようにひとりひとりがいか
なる「志」を立てて進んでいくのかが問われている。

本講義はオンデマンドのビデオ講義と少人数クラスでの演習を有機的に組み合わせながら、世界が抱える問題を知り、仲間との協働の中で自分も活かし仲間も活かすような場作りを学び、大学での今後の学びにつながる展望を得ていく。ビデオ講義では、各界で活躍するゲストスピーカーの話を聴き、いま社会で何が起きているのか、知的世界で何が問われているのかを知る。

少人数クラスの演習では、グループワークを通じて自発的に考え、問題を発見し、その中での自らの役割、責任、倫理を学び、他者と合意形成するためのスキルを修得する。演習の最終回では、各グループで立てたテーマをめぐってプレゼンテーションをおこなう。また書評執筆のワークショップを通じて、本の読み方を身につけ、本に対する批評眼を涵養する。

授業の到達目標

本講義を履修することによって以下の能力を修得する。

1)与えられた問いに答えることではなく、社会的視野から問題を発見する。

2)問題の中での自らの役割、責任、科学者・技術者としての倫理を知る。

3)グループワークを通じて、他者とともに考え、表現する楽しみを知る。

4)プレゼンテーションを通じて、自分の考えを表現する。

5)書評の執筆を通じて、本の読み方をおぼえ、本に対する批評眼を持つ。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	4/9	17:15-18:55		講義(1):【社会的視野】教養・大学での学び(講師:室田真男、中林潤、池上彰)	次回の少人数クラスまでに、講義(1)の「ふりかえりノート」を書いてくる。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
3-4	4/13	10:45-12:25		演習:授業ガイダンス／自己紹介 グループワーク 講義(1)にもとづくダイアローグ	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
5-6	4/16	17:15-18:55		講義(2):【AI】AI 時代の大学の学び(講師:松田雄馬)	次回の少人数クラスまでに、講義(2)の「ふりかえりノート」を書いてくる	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
7-8	4/20	10:45-12:25		演習:グループワーク ― 講義(2)にもとづく	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるよう	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸

				ダイアローグ	にしておく。	久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
9-10	4/23	17:15-18:55		講義(3):【科学者倫理】水俣病について(講師:永野三智)	次回の少人数クラスまでに、講義(3)の「ふりかえりノート」を書いてく る。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
11-12	4/27	10:45-12:25		演習:グループワーク ― 講義(3)にもとづくダイアローグ	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
13-14	4/30	17:15-18:55		講義(4):【書評】「書評を書く/書評を読む」	各自が書評課題図書リストから本を選んで読み、書評の構想を考えておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
15-16	5/7	17:15-18:55		演習:書評の執筆	各自が課題図書リストから選んだ本を読み、書評の第一稿(草稿)を執筆する。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
17-18	5/11	10:45-12:25		演習:書評の発表(ピアレビューとグループワーク)	授業で得たフィードバックを元に草稿を修正し、書評の完成校を執筆する。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
19-20	5/14	17:15-18:55		講義(5):【DE&I】視覚障害者の視点から(講師:宮原志帆、馬場久美子)	次回の少人数クラスまでに、講義(5)の「ふりかえりノート」を書いてく る。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
21-22	5/18	10:45-12:25		演習:グループワーク 講義(5)にもとづくダイアローグ	プレゼンテーションについての印象・考えを述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
23-24	5/21	17:15-18:55		演習:最終プレゼンテーションの準備	各自がプレゼンテーション(またはグループプレゼンテーション)の内容について必要な調査 と検討を進める。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
25-26	5/25	10:45-12:25		演習: グループプレゼンテーションの実施、または各自のプレゼンテーションの練習と改善	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
27-28	6/1	10:45-12:25		演習: 最終プレゼンテーション	自分のプレゼンテーションについてのフィードバック、および他の学生のプレゼンテーション について、自分の印象・考えを述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
29-30	6/8	10:45-12:25		補講日	やむを得ない事情で授業が休講になった場合、この日に授業を実施する可能性あり。スケジュールはあけておくこと。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾

授業方法

オンデマンドのビデオ講義と少人数クラスでの演習を交互におこなう。木曜日のビデオ講義の後に、履修者各自に「ふりかえりノート」の記入を求める。少人数クラスでは、対話を中心とするグループワークをおこなう。最終回には、グループワークの成果としてプレゼンテーションを実施する。

成績評価の方法

講義を踏まえたリアクションペーパー、グループワークへの貢献、プレゼンテーション、書評課題
を総合的に評価し、合／否を判定する。

成績評価の基準

成績評価の方法を参照のこと

準備学習等についての具体的な指示

学修効果を上げるため，教科書や配布資料等の該当箇所を参照し，「毎授業」授業内容に関する予習と復習（課題含む）をそれぞれ概ね 100 分を目安に行うこと。

試験の受験資格

試験は実施せず、少人数グループディスカッションと講義視聴へのサマリー・レスポンス等で合否を判定する。3 回以上欠席した者には原則として単位を認定しない。

教科書

『立志プロジェクトガイドブック』

参考書

授業に使う資料等は授業中に配布する。

履修上の注意事項

特になし

備考

授業の進行および日程明細は、クラスによって変更となる可能性がある。

連絡先（メールアドレス）

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

中林　潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

松本　幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

檜枝　光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

中山　まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室—9

藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00–PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

奈良　雅之:前期：毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期：毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

松本　幸久:毎週木曜日　PM.4:30–6:00　ヒポクラテスホール 4 階　教員研究室 10

檜枝　光憲:毎週火曜日　12:30～13:00　ヒポ 3F 教員研究室 2

中山　まどか:水曜日 12:30—13:30

質問等随時メールで受け付けています。（nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp）

時間割番号	009202				
科目名	立志プロジェクト B			科目 ID	
担当教員	猪熊 恵子, 檜枝 光憲, 中林 潤, 奈良 雅之, 中山 まどか, 松本 幸久, 高木 佳奈, 藤井 俊吾[INOKUMA Keiko, HIEDA Mitsunori, NAKABAYASHI Jun, NARA Masayuki, NAKAYAMA Madoka, MATSUMOTO Yukihisa, TAKAKI Kana, FUJII Shungo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

主な講義場所

月曜の対面授業は大岡山キャンパスにて実施する。木曜の講義はオンデマンド講義の視聴となる。月曜の各クラスの講義場所は 4 月のガイダンス時に一覧化して提示する。

授業の目的、概要等

新入生全員の大学生活のスタートとなる科目である。初回は 4 月 9 日木曜日のビデオ講義である。教室での対面授業は 4 月 13 日月曜日から開始する。

東京科学大学の教育は、世界をリードし、変革していく人材を生みだしていくことを目標としている。そのためには自分の専門分野の知識や能力だけではなく、広く世界を知ること、そして深く自分自身を知ることが必要である。

現代世界に存在するいかなる問題にチャレンジし、どのような問題意識を持って、自分の中の隠
された可能性を開花させ、具体的に行動していくのか。科目名にもあるようにひとりひとりがいか
なる「志」を立てて進んでいくのかが問われている。

本講義はオンデマンドのビデオ講義と少人数クラスでの演習を有機的に組み合わせながら、世界が抱える問題を知り、仲間との協働の中で自分も活かし仲間も活かすような場作りを学び、大学での今後の学びにつながる展望を得ていく。ビデオ講義では、各界で活躍するゲストスピーカーの話を聴き、いま社会で何が起きているのか、知的世界で何が問われているのかを知る。

少人数クラスの演習では、グループワークを通じて自発的に考え、問題を発見し、その中での自らの役割、責任、倫理を学び、他者と合意形成するためのスキルを修得する。演習の最終回では、各グループで立てたテーマをめぐってプレゼンテーションをおこなう。また書評執筆のワークショップを通じて、本の読み方を身につけ、本に対する批評眼を涵養する。

授業の到達目標

本講義を履修することによって以下の能力を修得する。

1)与えられた問いに答えることではなく、社会的視野から問題を発見する。

2)問題の中での自らの役割、責任、科学者・技術者としての倫理を知る。

3)グループワークを通じて、他者とともに考え、表現する楽しみを知る。

4)プレゼンテーションを通じて、自分の考えを表現する。

5)書評の執筆を通じて、本の読み方をおぼえ、本に対する批評眼を持つ。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	4/9	17:15-18:55		講義(1):【社会的視野】教養・大学での学び(講師:室田真男、中林潤、池上彰)	次回の少人数クラスまでに、講義(1)の「ふりかえりノート」を書いてくる。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
3-4	4/13	13:30-15:10		演習:授業ガイダンス／自己紹介 グループワーク 講義(1)にもとづくダイアローグ	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
5-6	4/16	17:15-18:55		講義(2):【AI】AI 時代の大学の学び(講師:松田雄馬)	次回の少人数クラスまでに、講義(2)の「ふりかえりノート」を書いてくる	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
7-8	4/20	13:30-15:10		演習:グループワーク ― 講義(2)にもとづく	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるよう	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸

				ダイアローグ	にしておく。	久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
9-10	4/23	17:15-18:55		講義(3):【科学者倫理】水俣病について(講師:永野三智)	次回の少人数クラスまでに、講義(3)の「ふりかえりノート」を書いてく る。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
11-12	4/27	10:45-12:25		演習:グループワーク ― 講義(3)にもとづくダイアローグ	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
13-14	4/30	17:15-18:55		講義(4):【書評】「書評を書く/書評を読む」	各自が書評課題図書リストから本を選んで読み、書評の構想を考えておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
15-16	5/7	17:15-18:55		演習:書評の執筆	各自が課題図書リストから選んだ本を読み、書評の第一稿(草稿)を執筆する。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
17-18	5/11	13:30-15:10		演習:書評の発表(ピアレビューとグループワーク)	授業で得たフィードバックを元に草稿を修正し、書評の完成校を執筆する。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
19-20	5/14	17:15-18:55		講義(5):【DE&I】視覚障害者の視点から(講師:宮原志帆、馬場久美子)	次回の少人数クラスまでに、講義(5)の「ふりかえりノート」を書いてく る。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
21-22	5/18	13:30-15:10		演習:グループワーク 講義(5)にもとづくダイアローグ	プレゼンテーションについての印象・考えを述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
23-24	5/21	17:15-18:55		演習:最終プレゼンテーションの準備	各自がプレゼンテーション(またはグループプレゼンテーション)の内容について必要な調査 と検討を進める。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
25-26	5/25	13:30-15:10		演習: グループプレゼンテーションの実施、または各自のプレゼンテーションの練習と改善	授業後、その内容をまとめたうえで、自分の印象を述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
27-28	6/1	13:30-15:10		演習: 最終プレゼンテーション	自分のプレゼンテーションについてのフィードバック、および他の学生のプレゼンテーション について、自分の印象・考えを述べられるようにしておく。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾
29-30	6/8	13:30-15:10		補講日	やむを得ない事情で授業が休講になった場合、この日に授業を実施する可能性あり。スケジュールはあけておくこと。	中林 潤, 奈良 雅之, 檜枝 光憲, 高木 佳奈, 猪熊 恵子, 松本 幸久, 中山 まどか, 藤井 俊吾

授業方法

オンデマンドのビデオ講義と少人数クラスでの演習を交互におこなう。木曜日のビデオ講義の後に、履修者各自に「ふりかえりノート」の記入を求める。少人数クラスでは、対話を中心とするグループワークをおこなう。最終回には、グループワークの成果としてプレゼンテーションを実施する。

成績評価の方法

講義を踏まえたリアクションペーパー、グループワークへの貢献、プレゼンテーション、書評課題
を総合的に評価し、合／否を判定する。

成績評価の基準

成績評価の方法を参照のこと

準備学習等についての具体的な指示

学修効果を上げるため，教科書や配布資料等の該当箇所を参照し，「毎授業」授業内容に関する予習と復習（課題含む）をそれぞれ概ね 100 分を目安に行うこと。

試験の受験資格

試験は実施せず、少人数グループディスカッションと講義視聴へのサマリー・レスポンス等で合否を判定する。3 回以上欠席した者には原則として単位を認定しない。

教科書

『立志プロジェクトガイドブック』

参考書

授業に使う資料等は授業中に配布する。

履修上の注意事項

特になし

備考

授業の進行および日程明細は、クラスによって変更となる可能性がある。

連絡先（メールアドレス）

猪熊　恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp

中林　潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp

藤井　俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp

高木　佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp

奈良　雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp

松本　幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp

檜枝　光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp

中山　まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

猪熊　恵子:水・木曜日　12時30分～13時　管理研究棟　3階　猪熊研究室

中林　潤:月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階　教官研究室―9

藤井　俊吾:木曜日　12:30～13:00　管理研究棟 2 階　研究室

高木　佳奈:毎週木曜日　AM.09:00–PM.13:00　管理研究棟 3 階スペイン語研究室

奈良　雅之:前期：毎週火曜日 PM.0:30–PM.1:20,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期：毎週木曜日 PM.0:30–PM.1:30,　ヒポクラテス 4 階教員研究室6

松本　幸久:毎週木曜日　PM.4:30–6:00　ヒポクラテスホール 4 階　教員研究室 10

檜枝　光憲:毎週火曜日　12:30～13:00　ヒポ 3F 教員研究室 2

中山　まどか:水曜日 12:30―13:30

質問等随時メールで受け付けています。（nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp）

時間割番号	005101				
科目名	情報科学(α)			科目ID	
担当教員	徳永 伸一, 水島 涼[TOKUNAGA Shinichi, MIZUSHIMA Ryo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:火曜第 4 講(7-8 限)

対象学科・専攻:保健衛生学科 看護学専攻

コンピテンシー:

4-4)情報についての基本技能を身につける

主な講義場所

計算機実習室

授業の目的、概要等

情報科学技術に関する知識と, 情報処理能力, 論理的思考力を養成するために、以下の項目について学ぶ。

(1)情報処理:電子情報を活用するための基本的な技術。

(2)プログラミング:論理的な思考法およびコンピュータを用いた計算法、アルゴリズムの基礎。

授業の到達目標

(1)情報処理:E メール、テキストエディタ、タイピング等の基本的な知識および技術を習得する。

(2)プログラミング:Python を用いて数列の計算、順列・組合せの計算、スロットマシン、数当てゲーム、三角関数を用いた図形の描画など、基本的なプログラムを作成できる。またそれらのプログラムを解読して実行結果を予測できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
3-4	4/28	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
5-6	5/12	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
7-8	5/19	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
9-10	5/26	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
11-12	6/2	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
13-14	6/9	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
15-16	6/16	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
17-18	6/23	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
19-20	6/30	15:25-17:05	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼

授業方法

パソコンを用いた実習を中心とする。

授業内容

第 1 回:E メール(Web メール)・LMS 利用法、パソコン・インターネットの基礎

第 2 回:キーボード操作とタイピング

第 3 回:日本語入力・テキストエディタ演習

第 4 回:Python 概要と環境構築

第 5 回:Python プログラムの入力と実行、変数と演算、代入

第 6 回:Python 制御構造1(for 文、while 文等)

第 7 回:Python 制御構造2(if 文、関数等)

第 8 回:Python グラフィクス1

第 9 回:Python グラフィクス2

第 10 回:Python 応用演習

成績評価の方法

分野ごとに以下の通り評価し、得点を合計する。ただし原則として毎回授業に出席し、指示されたすべての課題を提出し合格すること、筆記試験で一定(6割を目安とする)以上得点すること、およびタイピング試験で指定された合格基準をクリアすることを必須とする。

(1)プログラミング: 課題提出および学期末の試験による(約 70%)

(2)情報処理: タイピング試験、課題提出および試験による(約 30%)

なお本科目の再評価は、後期に実施する再試験により行う。

【試験の日程について】

7 月 21 日(火)または 7 月 28 日(火)第 3～4 講に試験(タイピング試験およびプログラミング予備試験)を実施予定。プログラミング予備試験で合格した学生は、9 月の定期試験期間内に実施するプログラミング試験が免除される。

【再評価について】

プログラミング試験、タイピング試験、および指定された課題のうち、1つでも不合格となった学生は再評価の対象となる。また試験および課題の不合格者に対しては、後期に再試験を行う他、再評価の一環として演習やレポートを課すことがある。

なお再評価の上限は 70 点とする。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

高校までの数学、特に二進法、多項式、三角関数、順列・組合せ等の基本的な知識を前提として行うので、事前に復習しておくこと。

また、授業は段階的に進むので、各回の授業で疑問点を残さないように、質問と復習をしっかり行うこと。

試験の受験資格

原則としてすべての授業に出席し、指定された課題をすべて提出すること。

(やむを得ぬ事情で欠席する場合は、E メールまたは slack の DM により連絡し指示を仰ぐこと)

教科書

主に Web 上の教材を利用する。

他科目との関連

Python によるプログラミングは後期の「医療と AI・データサイエンス」で扱われる応用的なプログラミングの基礎となります。

履修上の注意事項

実習を中心として段階的に授業を行うので、欠席は履修上の大きな障害となります。やむを得ぬ事情で欠席する場合も含め、必ず E メールにより担当教員に直接連絡し、指示を仰ぐこと。

参照ホームページ

情報処理テキスト:http://www.tmd.ac.jp/artsci/math/lec/tokunaga/infolit_text.htm

連絡先(メールアドレス)

徳永 伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

徳永 伸一:前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	005102				
科目名	情報科学(β)			科目ID	
担当教員	徳永 伸一, 水島 涼[TOKUNAGA Shinichi, MIZUSHIMA Ryo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1		
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面

曜日・時間:火曜第 3 講(5-6 限)

対象学科・専攻:保健衛生学科 口腔保健学科

コンピテンシー:

4-4)情報についての基本技能を身につける

主な講義場所

計算機実習室

授業の目的、概要等

情報科学技術に関する知識と, 情報処理能力, 論理的思考力を養成するために、以下の項目について学ぶ。

(1)情報処理:電子情報を活用するための基本的な技術。

(2)プログラミング:論理的な思考法およびコンピュータを用いた計算法、アルゴリズムの基礎。

授業の到達目標

(1)情報処理:E メール、テキストエディタ、タイピング等の基本的な知識および技術を習得する。

(2)プログラミング:Python を用いて数列の計算、順列・組合せの計算、スロットマシン、数当てゲーム、三角関数を用いた図形の描画など、基本的なプログラムを作成できる。またそれらのプログラムを解読して実行結果を予測できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	担当教員
1-2	4/21	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
3-4	4/28	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
5-6	5/12	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一 ,水島 涼
7-8	5/19	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
9-10	5/26	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
11-12	6/2	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
13-14	6/9	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
15-16	6/16	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
17-18	6/23	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼
19-20	6/30	13:30-15:10	計算機実習室	徳永 伸一, 水島 涼

授業方法

パソコンを用いた実習を中心とする。

授業内容

第 1 回:E メール(Web メール)・LMS 利用法、パソコン・インターネットの基礎

第 2 回:キーボード操作とタイピング

第 3 回:日本語入力・テキストエディタ演習

第 4 回:Python 概要と環境構築

第 5 回:Python プログラムの入力と実行、変数と演算、代入

第 6 回:Python 制御構造1(for 文、while 文等)

第 7 回:Python 制御構造2(if 文、関数等)

第 8 回:Python グラフィクス1

第 9 回:Python グラフィクス2

第 10 回:Python 応用演習

成績評価の方法

分野ごとに以下の通り評価し、得点を合計する。ただし原則として毎回授業に出席し、指示されたすべての課題を提出し合格すること、筆記試験で一定(6割を目安とする)以上得点すること、およびタイピング試験で指定された合格基準をクリアすることを必須とする。

(1)プログラミング: 課題提出および学期末の試験による(約 70%)

(2)情報処理: タイピング試験、課題提出および試験による(約 30%)

なお本科目の再評価は、後期に実施する再試験により行う。

【試験の日程について】

7 月 21 日(火)または 7 月 28 日(火)第 3～4 講に試験(タイピング試験およびプログラミング予備試験)を実施予定。プログラミング予備試験で合格した学生は、9 月の定期試験期間内に実施するプログラミング試験が免除される。

【再評価について】

プログラミング試験、タイピング試験、および指定された課題のうち、1つでも不合格となった学生は再評価の対象となる。また試験および課題の不合格者に対しては、後期に再試験を行う他、再評価の一環として演習やレポートを課すことがある。

なお再評価の上限は 70 点とする。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

高校までの数学、特に二進法、多項式、三角関数、順列・組合せ等の基本的な知識を前提として行うので、事前に復習しておくこと。

また、授業は段階的に進むので、各回の授業で疑問点を残さないように、質問と復習をしっかり行うこと。

試験の受験資格

原則としてすべての授業に出席し、指定された課題をすべて提出すること。

(やむを得ぬ事情で欠席する場合は、E メールまたは slack の DM により連絡し指示を仰ぐこと)

教科書

主に Web 上の教材を利用する。

他科目との関連

Python によるプログラミングは後期の「医療と AI・データサイエンス」で扱われる応用的なプログラミングの基礎となります。

履修上の注意事項

実習を中心として段階的に授業を行うので、欠席は履修上の大きな障害となります。やむを得ぬ事情で欠席する場合も含め、必ず E メールにより担当教員に直接連絡し、指示を仰ぐこと。

参照ホームページ

情報処理テキスト:http://www.tmd.ac.jp/artsci/math/lec/tokunaga/infolit_text.htm

連絡先(メールアドレス)

徳永 伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

徳永 伸一:前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	005203				
科目名	情報処理α			**科目ID**	
担当教員	徳永 伸一, 水島 涼[TOKUNAGA Shinichi, MIZUSHIMA Ryo]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**			
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:木曜第 1 講(1-2 限)
対象学科・専攻:医学科および歯学科

コンピテンシー:
4-4)情報についての基本技能を身につける

主な講義場所

8 番教室および 9 番教室

授業の目的、概要等

医療情報教育や情報科学教育の基礎となるコンピュータ・リテラシーを学ぶ。
単に使用法を覚えるだけでなく、パソコンやインターネットのおおまかな仕組みを理解し、応用力を身につけることを目指す。

授業の到達目標

・E メール、テキストエディタ、タイピング等の基本的な技術を習得する。
・表計算ソフト(Excel)によるデータ処理の基礎を習得する。
・プログラミング言語(Python)の概要と基本的な利用法を習得する。
・セキュリティや著作権に配慮したパソコン、インターネットの使用法を習得する。

授業内容

第 1 回:E メール(Web メール)・LMS 利用法、パソコン・インターネットの基礎
第 2 回:キーボード操作とタイピング
第 3 回:日本語入力・テキストエディタ演習
第 4 回 Excel 基礎
第 5 回 Excel 演習(1)
第 6 回 Excel 演習(2)
第 7 回 Excel 演習(3)
第 8 回 Python 導入1
第 9 回 Python 導入2
第 10 回 総合演習

成績評価の方法

出席および提出課題, タイピング試験による。実習の比重が高いので、出席は特に重視する。
習熟度や達成度に応じて一部出席を免除することもあるが、原則として、毎回出席の上、すべての課題を規定通り提出して合格し、かつタイピング試験にて合格基準をクリアすることを、単位取得のための必須条件とする。
★やむを得ぬ事情で欠席で欠席する場合も場合はただちに担当教員に連絡し、指示を仰ぐこと。

★提出課題に不備が見られた場合、試験を行うことがある。また再評価も試験によって行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

パソコンに触れる機会を日常的に持ち、操作に慣れること。特に、タイピング練習を日常的に行うこと。

教科書

Web 上の教材を利用する。

履修上の注意事項

授業はパソコンを用いた実習を伴って段階的に行うため、欠席は履修上の大きな障害となります。やむを得ぬ事情で欠席する場合も含め、必ず E メールにより直接連絡し、指示を仰ぐこと。

参照ホームページ

情報処理テキスト:http://www.tmd.ac.jp/artsci/math/lec/tokunaga/infolit_text.htm

連絡先(メールアドレス)

徳永　伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

徳永　伸一:前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

時間割番号	005204				
科目名	情報処理β			**科目ID**	
担当教員	徳永 伸一, 水島 涼[TOKUNAGA Shinichi, MIZUSHIMA Ryo]				
開講時期	2026 年度前期	**対象年次**			
実務経験のある教員による授業				**授業形態**	対面

曜日・時間:木曜 3-4 限(第 2 講)

対象学科・専攻:医学科および歯学科

コンピテンシー:

4−4)情報についての基本技能を身につける

主な講義場所

8 番教室および 9 番教室

授業の目的、概要等

医療情報教育や情報科学教育の基礎となるコンピュータ・リテラシーを学ぶ。

単に使用法を覚えるだけでなく、パソコンやインターネットのおおまかな仕組みを理解し、応用力を身につけることを目指す。

授業の到達目標

・E メール、テキストエディタ、タイピング等の基本的な技術を習得する。

・表計算ソフト(Excel)によるデータ処理の基礎を習得する。

・プログラミング言語(Python)の概要と基本的な利用法を習得する。

・セキュリティや著作権に配慮したパソコン、インターネットの使用法を習得する。

授業内容

第 1 回:E メール(Web メール)・LMS 利用法、パソコン・インターネットの基礎

第 2 回:キーボード操作とタイピング

第 3 回:日本語入力・テキストエディタ演習

第 4 回 Excel 基礎

第 5 回 Excel 演習(1)

第 6 回 Excel 演習(2)

第 7 回 Excel 演習(3)

第 8 回 Python 導入1

第 9 回 Python 導入2

第 10 回 総合演習

成績評価の方法

出席および提出課題, タイピング試験による。実習の比重が高いので、出席は特に重視する。

習熟度や達成度に応じて一部出席を免除することもあるが、原則として、毎回出席の上、すべての課題を規定通り提出して合格し、かつタイピング試験にて合格基準をクリアすることを、単位取得のための必須条件とする。

★やむを得ぬ事情で欠席で欠席する場合も場合はただちに担当教員に連絡し、指示を仰ぐこと。

★提出課題に不備が見られた場合、試験を行うことがある。また再評価も試験によって行う。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

パソコンに触れる機会を日常的に持ち、操作に慣れること。特に、タイピング練習を日常的に行うこと。

教科書

Web 上の教材を利用する。

履修上の注意事項

授業はパソコンを用いた実習を伴って段階的に行うため、欠席は履修上の大きな障害となります。やむを得ぬ事情で欠席する場合も含め、必ず E メールにより直接連絡し、指示を仰ぐこと。

参照ホームページ

情報処理テキスト:http://www.tmd.ac.jp/artsci/math/lec/tokunaga/infolit_text.htm

連絡先(メールアドレス)

徳永　伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp

オフィスアワー

徳永　伸一:前期:

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

＊いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。

上記以外の時間帯でも、事前に E メールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。